

途滞在期間ヲ延期セラルト記載スルガ如シ)

一、(或ハ)何校在學ノ爲兵役法第四十一條ニ依リ徵集ヲ延期セラレ居ル者ナルトコロ今同ノ渡航ニ關シ何月何日何縣隊區徵兵官ノ承認ヲ得タリト記載スルガ如シ)

渡航

一、(何年何月何日何府縣ヨリ旅券ノ下付ヲ受ケ何々ノ爲何國何地ニ渡航何年何月何日歸國ト記載スルガ如シ)

賞罰

一、(曾テ刑罰ヲ受ケタルコトナシト記載スルガ如シ)

一、(或ハ)何年何月何日何裁判所ニ於テ何罪ニ因リ罰金何圓ニ處セラレト記載スルガ如シ)

資産

一、自己所有分

(イ) 地所家屋價格

(ロ) 商品價格

(ハ) 貸金 圓、預金 圓、債券 圓、現金 圓

(ニ) 其ノ他動産價格

合計

一、戸主所有分(本人ガ戸主ナル場合ハ不要)

(記載方前同様)

納税(前年度ニ於ケル納税年額ヲ記載ス)

一、自己ノ分

(イ) 所得税(年度)

(ロ) 其ノ他ノ國稅(年度)

(ハ) 府縣稅(年度)

(ニ) 市町村稅(年度)

合計

一、戸主ノ分(本人ガ戸主ナル場合ハ不要)

(記載方前同様)

右ノ通相違無之候也

年月日

地方長官(警視總監)宛

(又ハ關東州廳長官)宛

右兵役、賞罰及納稅ニ關シ認證ス

年月日

何市區町村長 氏

備考

一、在外公館長ニ差出ス身許申告書ノ様式ハ右ニ準ズルコト

二、再渡航者ニ在リテハ兵役、渡航及賞罰以外ノ事項ハ省略スルコトヲ得

(附錄第三號)

保證書(用紙美濃紙型)

氏

生年月日

右者當會社(銀行、商店、協會等)ノ事務員(職名ヲ記載スルコト)ニシテ今般何用ノ爲(何支店勤務ノ爲等)何國(特定ノ地ニ派遣スル場合ハ其ノ

地名ヲモ記載スルコト)ニ派遣スル者ニ相違無之同人ノ往復旅費及滞在費全部(或ハ往復旅費何程滞在費何程)當方ニ於テ支出シ且同人ノ身上ニ關シテハ一切當方ニ於テ責任ヲ以テ引受可致此段保證候也

年月日

所在地

何會社(銀行、商店、協會等)

社長(代表者ノ職名ヲ)

(記載スルコト) 氏

名

地方長官(警視總監)宛

(又ハ關東州廳長官)宛

備考

一、追書トシテ派遣責任者ノ業務(種目詳細記載ノコト)及資産(法人ナルトキハ其ノ資本金拂込額及創立年月)等記載ノコト

二、在外公館長ニ差出ス保證書ノ様式ハ本様式ニ準ズルコト

(附錄第四號)

目的國及渡航目的ノ如何ニ依リ特ニ必要トスル書類

一、亞米利加合衆國及布哇

(一) 布教ノ爲渡航スル者ハ其ノ屬スル宗派ノ首長ヨリ既往直前二年以上正式ノ僧侶、牧師又ハ布教師トシテ布教ノ職ニ從事シ居ル者ナル旨ノ證明書ヲ要ス

(二) 修學ノ爲渡航スル者ハ米國勞働長官ノ移民收容學校トシテ認定シタル學校ノ入學許可證ヲ要ス

(三) 演藝ノ爲渡航スル者ハ興行地駐在帝國領事官ノ呼寄證明書ヲ要ス

二、「カナダ」

(一) 家内使用人及農業勞働者トシテ渡航スル者並ニ「カナダ」在在本邦人

四、「パナマ」共和國

定住ノ目的ヲ以テ渡航スル者ハ移民非移民共ニ所轄警察署長發給ノ證

證明書

本籍地 何府縣何郡市何町村字何番地

現住所 何府縣何郡市何町村字何番地

氏

生年月日

右者犯罪ニ因リ處刑セラレタルコトナク品行善良ナル者ナルコトヲ證明ス

年月日

何府縣何警察署長 氏

名

行證明書(様式ハ「ヘル」國渡航者ニ發給スル善行證明書ニ同シ)ヲ要ス但シ再渡航者ニシテ再入國許可證ヲ有スル者ヲ除ク
五、「ウエネズエラ」國
移民非移民共ニ所轄警察署長發給ノ善行證明書(様式ハ「メキシコ」國渡航者ニ發給スル善行證明書ニ同シ)ヲ要ス
六、「アラジル」國
移民非移民共ニ所轄警察署長發給ノ左記(イ)及(ロ)様式ノ證明書ヲ要ス

(イ)證明書

本籍地 何府縣何都市何町村字何何番地
現住所 何府縣何都市何町村字何何番地

氏 名

生年月日

右者何年何月ヨリ當府(又ハ縣)ニ居住シ常ニ品行善良ナル者ナルコトヲ證明ス
年 月 日

何府縣何警察署長 氏

名 印

備考

一、夫ニ同伴セラレル妻及十六歳未満ノ同伴者並ニ一等船客(單獨渡航ノ婦人ヲ除ク)ハ本證明書ヲ省略スルコトヲ得
二、伯國在住本邦人ノ夫ノ呼寄ニ依リ渡航スル妻ニシテ在伯帝國領事官發給ノ呼寄證明書ヲ有スル者以外ノ單獨婦人(一等船客ヲモ含ム)ニ發給スル本證明書ニハ「品行善良」ノ下ニ「ニシテ正當ノ生活ヲ爲セル者」ト記入スルコト

(ロ)證明書

現住所 何府縣何都市何町村字何何番地

職 業 氏

名

生年月日

右者本證明書交付ノ日附前五年間體刑ニ相當スル一般犯罪ニ因リ處刑セラレタルコトナク又社會ノ秩序紊亂ノ罪ニ因リ訴追セラレタルコトナキ者ナルコトヲ證明ス
年 月 日

何府縣何警察署長 氏

名 印

(イ)證明書

本籍地 何府縣何都市何町村字何何番地
現住所 何府縣何都市何町村字何何番地

職 業 氏

名

生年月日

右者精神ニ異狀ヲ呈シ又ハ乞巧ヲ爲シタルコトナキ者ナルコトヲ證明ス
年 月 日

何府縣何警察署長 氏

名 印

備考

八、「コロンビア」共和國
汽車又ハ汽船ノ一等客ハ右(ロ)證明書ヲ要セズ
移民非移民共ニ所轄警察署長發給ノ善行證明書(様式ハ「メキシコ」國渡航者ニ發給スル善行證明書ニ同シ)ヲ要ス但シ右證明書ハ各旅券毎ニ一通ヲ要スルモ同伴ノ妻及子女(男兒ハ十五歳未満女兒ハ制限ナシ)ハ之ヲ要セズ

本籍地 何府縣何都市何町村字何何番地
現住所 何府縣何都市何町村字何何番地

氏 名

生年月日

右者當國ノ刑法ニ依リ犯罪ノ爲處罰セラレタル者ニ非ザルコトヲ證明ス
年 月 日

何府縣何警察署長 氏

名 印

備考

夫ニ同伴セラレル妻及十六歳未満ノ同伴者ハ本證明書ヲ省略スルコトヲ得
七、「アルゼンティン」共和國
(一)亞國在住本邦人ノ呼寄ニ依リ配偶者、子(養子ヲ含ム)、父母(養父母ヲ含ム)、祖父母、孫、兄弟姉妹(配偶者ノ兄弟姉妹ヲ含ム)、血縁ノ甥姪、婚約者及雇傭契約ヲ有スル特殊技能者ハ在亞帝國領事官發給ノ呼寄證明書及亞國官憲發給ノ入國許可證ヲ要ス但シ汽車又ハ汽船ノ一等客、再渡航者、亞貨壹千五百「メソ」以上ヲ所持スル農業従事者、旅商及通過客ハ入國許可證ヲ要セズ
(二)移民非移民共ニ再渡航者ハ在亞帝國領事官發給ノ再渡航證明書並ニ亞國官憲發給ノ身分證明書及善行證明書ヲ要ス但シ再渡航者ニ同伴セラレル妻子ハ此ノ限ニ在ラズ
(三)移民非移民共ニ所轄警察署長發給ノ左記(イ)及(ロ)様式ノ證明書ヲ要ス

(イ)證明書

本籍地 何府縣何都市何町村字何何番地

九、「ヘル」國

(一)移民非移民共ニ「ヘル」國在住本邦人ノ呼寄ニ依リ渡航スル者ハ在亞帝國領事官發給ノ呼寄證明書ヲ又再渡航者ハ在亞帝國領事官發給ノ再渡航證明書ヲ要ス
(二)移民非移民共ニ所轄警察署長發給ノ左記様式ノ證明書ヲ要ス

證明書

本籍地 何府縣何都市何町村字何何番地
現住所 何府縣何都市何町村字何何番地

職 業 氏

名

生年月日

右者本證明書交付ノ日附前二年間體刑ニ相當スル犯罪ニ因リ處刑セラレタルコトナク品行善良ナル者ナルコトヲ證明ス
年 月 日

何府縣何警察署長 氏

名 印

十、「チリ」國

移民非移民共ニ所轄警察署長發給ノ左記様式ノ證明書ヲ要ス

證明書

本籍地 何府縣何都市何町村字何何番地
現住所 何府縣何都市何町村字何何番地

職 業 氏

名

生年月日

右者本證明書交付ノ日附前五年間體刑ニ相當スル一般犯罪ニ因リ處刑セラレタルコトナク品行善良ナル者ナルコトヲ證明ス
年 月 日

何府縣何警察署長 氏

名 印

十一、「カレドニア」國

移民非移民共ニ所轄警察署長發給ノ左記様式ノ證明書ヲ要ス

本籍地 何府縣何郡市何町村字何何番地
現住所 何府縣何郡市何町村字何何番地

職業 氏 名

生年月日

右者本證明書交付ノ日附前五年間體刑ニ相當スル一般犯罪ニ因リ處刑セラレタルコトナク又社會ノ秩序紊亂ノ罪ニ因リ訴追セラレタルコトナク尙乞巧ヲ爲シタルコトナキ者ナルコトヲ證明ス

何府縣何警察署長 氏

名 印

十二、暹羅國

(一)再渡航者ニシテ昭和六年十一月十五日前ニ入國シタル者ハ暹羅國地方官憲發給ノ歸還許可證ヲ又同日以後ニ入國シタル者ハ同國移民官憲發給ノ居住證書ヲ要ス

(二)二十歳未満ノ者ニシテ其ノ父又ハ母ニ同伴セラレザル渡航者ハ暹羅國內務大臣ノ入國許可アリタルコトヲ立證スル書類ヲ要ス

十三、佛領印度支那

移民非移民ヲ問ハズ業務又ハ産業ヲ營マントスル者、商業、工業、農業若ハ鑛業上ノ支配人、傭人、監督若ハ職工トシテ勞務ニ從事セントスル者、家内勞働ニ從事セントスル者及勞働者其ノ他滞在期間三箇月ヲ超ユル者ハ所轄警察署長發給ノ刑罰ヲ受ケタルコトナキ旨ノ證明書(様式ハ「アラジ」國渡航者ニ發給スル)ノ證明書ニ同シ)ヲ要ス

十四、「オーストラリア」聯邦

(一)移民非移民共ニ左記ノ者ハ澳洲聯邦官憲ノ入國許可アリタルコトヲ立證スル書類ヲ要ス

イ 呼寄ニ依リ渡航スル妻子、下婢又ハ家庭女教師

ロ 同伴ニ依リ渡航スル下婢又ハ家庭女教師

ハ 一九〇一年以前ニ入國シタル者(所謂永住權者)ノ再渡航ニ際シ同伴スル妻子

(二)一九〇一年以前ニ入國シタル者(所謂永住權者)ノ再渡航ニ際シテハ澳洲聯邦官憲ノ發給セル書取試驗免除ヲ立證スル有効期間内ノ書類ヲ要ス

十五、佛領「ニュー、カレドニア」

移民非移民ヲ問ハズ各種職業及家内勞働ニ從事スル者其ノ他滞在期間三箇月ヲ超ユル者ハ左記ノ書類ヲ要ス

イ 同領總督ノ入國許可アリタルコトヲ立證スル書類

ロ 所轄警察署長發給ノ刑罰ヲ受ケタルコトナキ旨ノ證明書(様式ハ「アラジ」國渡航者ニ發給スル)ノ證明書ニ同シ)

十六、英國

(一)在英支店(出張所及代理店ヲ含ム)勤務ノ爲渡航スル店員(支店長、出張所長及代理店主任ヲ除ク)ハ英國勞働者ノ入國許可アリタルコトヲ立證スル書類ヲ要ス

(二)英國在住本邦人ノ呼寄ニ依リ渡航スル下婢ハ英國勞働者ノ入國許可アリタルコトヲ立證スル書類ヲ要ス

(附錄第五號) 公用旅券請求書

年月日

外務大臣宛

公用旅券請求ノ件

何大臣(何大學總長)印

官 職

氏 名

生年月日

同 伴 妻

氏 名

生年月日

同 伴 何 男(又ハ何女)

氏 名

生年月日

右者官命ニ依リ左記ノ通外國ニ出張致シ候ニ付公用旅券發給相成度寫眞各二葉添附此段及請求候也

一、渡航目的

一、渡航目的地名

一、經由地名

一、身長(メートル法ニ依ル)

一、特徴(外部ニ現ハレタル身體ノ特徴一箇所ヲ記載スベシ、特徴ナキ者ハ「ナシ」ト記載スベシ)

備考

一、氏名ノ右傍ニ「ローマ」字綴ヲ記載スルコト

二、官職名ノ英佛譯文ガ一定シ居ルモノハ該譯文ヲ官職名ノ傍ニ記載スルコト

三、妻子ヲ同伴スル場合ハ其ノ身長及特徴ヲ人別ニ記載スルコト

四、妻ヲ夫ノ旅券ニ併記方希望ノ向ハ其ノ旨ヲ追書ニ記載スルコト、子女ヲ父又ハ母ノ旅券ニ併記方希望スル場合亦同シ

五、囑託ニ對シ公用旅券ヲ請求スル場合ハ當該官廳ヨリ支給スル費用額ヲ追書ニ記載スルコト

● 同一旅券ヲ以テ數次往復シ得ヘキ地指定

昭和十年七月二十二日 外務省告示第五十三號

昭和十年外務省令第八號外國旅券規則第十條ニ依リ同一旅券ヲ以テ數次往復シ得ヘキ地ヲ左ノ通定ム

一、「ソグイェト」聯邦極東地方

一、中華民國(同國ヘノ渡航ニハ旅券ノ必要ナキモ本國ノ希望ニ依リテハ之カ下付ヲ妨グズ)

一、香港

一、佛領印度支那

一、暹羅國

一、海峽殖民地

一、馬來聯邦及非聯邦諸邦

一、英領印度(緬甸ヲ含ム)

一、「セイロン」

一、英領「ホルネオ」

一、比律賓群島

一、關領東印度

一、亞米利加合衆國及布哇

一、「カナダ」

一、中南米諸國及西印度諸島

●移民保護法

明治二十九年四月八日
法律第七十號

改正 明治三十四年四月法律第二三號、三十五年二月第四號、四〇年四月第三三號
朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル移民保護法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

移民保護法

第一章 移民

第一條 本法ニ於テ移民ト稱スルハ勞働ニ從事スルノ目的ヲ以テ〔滿洲〕兩國以外ノ外國ニ渡航スル者及其ノ家族ニシテ之ト同行シ又ハ其ノ所在地ニ渡航スル者ヲ謂フ
前項勞働ノ種類ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第二條 移民ハ行政廳ノ許可ヲ受クルニ非サレハ外國ニ渡航スルコトヲ得ス
渡航ノ許可ハ其ノ許可ノ日ヨリ六箇月以内ニ出發セサルトキハ效力ヲ失フモノトス

第三條 行政廳ハ渡航スヘキ地ノ情況ニ因リ移民取扱人ニ依ラサル移民ヲシテ適當ト認ムル二人以上ノ保證人ヲ定メシムルコトヲ得
保證人ハ移民ノ疾病其ノ他困難ノ場合ニ於テ之ヲ救助シ若ハ歸國セシムヘシ又行政廳ニ於テ移民ヲ救助シ若ハ歸國セシメタルトキハ其ノ費用ヲ辨償スヘシ

第四條 行政廳ハ移民保護ノ爲若ハ公安保持ノ爲又ハ外交上必要ト認ムルトキハ移民ノ渡航ヲ差止め又ハ其ノ許可ヲ取消スコトヲ得
渡航差止中ノ日數ハ第二條第二項ノ期間ニ算入セス

〔山梨警〕

第二章 移民取扱人

第五條 本法ニ於テ移民取扱人ト稱スルハ何等ノ名義ヲ以テスルニ拘ラス移民ヲ募集シ又ハ其ノ渡航ヲ周旋スルヲ以テ營業ト爲ス者ヲ謂フ
移民取扱人ハ行政廳ノ許可ヲ得テ移民ト直接ノ關係ヲ有スル業務ヲ營ムコトヲ得

第六條 移民取扱人タラムト欲スル者ハ行政廳ノ許可ヲ受クヘシ
移民取扱人ノ許可ハ其ノ許可ノ日ヨリ六箇月以内ニ營業ヲ開始セサルトキハ效力ヲ失フモノトス

第七條 一 帝國臣民又ハ帝國臣民ノミヲ社員若ハ株主トスル商會社ニシテ帝國ニ於テ主タル營業所ヲ有スルモノニ非サレハ移民取扱人タルコトヲ得ス
前項ノ外移民取扱人ニ要スル資格ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第七條ノ二 移民取扱人ハ渡航ノ周旋ヲ爲シタル移民ニ對シ渡航ノ日ヨリ滿十箇年間第三條第二項ニ規定シタル保證人ノ義務ヲ負フ

第八條 行政廳ハ移民取扱人ノ行爲法律命令ニ違反シタルトキ若ハ公安ヲ害スルモノト認ムルトキ又ハ移民取扱人保證金ノ納付ヲ遲滞シタルトキハ其ノ營業ヲ停止シ又ハ營業ノ許可ヲ取消スコトヲ得

第九條 移民取扱人ハ營業ヲ停止セラレ又ハ休業シタルトキト雖既ニ渡航セシメタル移民ニ對シ契約ノ履行ヲ中止スルコトヲ得ス

第十條 移民取扱人代理人ヲ定メ其ノ業務ヲ行ハシムルトキハ命令ノ定ムル所ニ依リ行政廳ノ許可ヲ受クヘシ
第十一條 移民取扱人ハ業務擔當社員若ハ取締役又ハ代理人ヲ在留セシメサル地ニ移民ヲ渡航セシムルコトヲ得ス

〔山梨警〕

第十二條 移民取扱人ハ移民トシテ渡航スル者ニ非サレハ其ノ周旋又ハ募集ヲ爲スコトヲ得ス

第十三條 移民取扱人ハ勞働契約ニ因リ渡航スル移民ノ周旋又ハ募集ヲ爲ストキハ移民ト書面契約ヲ爲シ行政廳ノ許可ヲ受クヘシ
前項契約ニ必要ナル條件ハ命令ノ定ムル所ニ依ル

第十四條 移民取扱人ハ手數料ノ外何等ノ名義ヲ以テスルヲ問ハス移民ヨリ金錢又ハ物品ヲ受クルコトヲ得ス但シ其ノ手數料ハ豫メ行政廳ノ認可ヲ受クヘシ

第十五條 一 移民取扱人移民ヲ募集スルトキハ出發セシムヘキ期日ヲ豫定シテ之ヲ示スヘシ移民取扱人正當ノ理由ナクシテ豫定ノ期日內ニ移民ヲ出發セシメサルトキハ其ノ出發延期ノ爲ニ生スル移民ノ費用ヲ負擔スヘシ

第十五條ノ二 行政廳ハ必要ト認ムルトキハ移民取扱人ニ同業組合ノ設立ヲ命スルコトヲ得
同業組合ハ法人トス

同業組合ニ關スル規程ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム
第三章 保證金
第十六條 移民取扱人ハ行政廳ニ保證金ヲ納付シタル後ニ非サレハ其ノ營業ヲ開始スルコトヲ得ス

保證金額ハ一萬圓以上トシ行政廳之ヲ定ム
第十七條 行政廳ハ必要ト認ムルトキハ保證金額ヲ増減スルコトヲ得但シ前條ノ金額以下ニ下スコトヲ得ス

第十八條 行政廳ニ於テ移民取扱人移民ニ對シ契約ヲ履行セス又ハ第七條第四編 保安 第八章 外國渡航

ノニニ規定シタル保證人ノ義務ヲ履行セスト認メタルトキハ保證金ヨリ其ノ費用ヲ支出シテ移民ヲ救助シ又ハ歸國セシムルコトヲ得

第十九條 移民取扱人死亡、解散、營業許可ヲ取消又ハ其ノ他ノ理由ニ依リ營業ヲ廢止スルモ保證金ハ行政廳ニ於テ領置ノ必要アリト認ムル間ハ其ノ全部又ハ一部ヲ還付セサルコトヲ得

第二十條 一 移民取扱人營業中及前條行政廳ニ於テ保證金領置ノ必要アリト認ムル間ハ移民又ハ其ノ相續人カ本法ニ從ヒタル契約ニ基キ權利ヲ執行スル場合ノ外何人ト雖保證金ニ對シテ債權取立ヲ爲スコトヲ得ス

第四章 移民運送船
第二十條ノ二 本法ニ於テ移民運送船ト稱スルハ命令ヲ以テ定ムル地方ニ渡航スル五十人以上ノ移民ヲ搭載スル船舶ヲ謂フ

第二十條ノ三 移民運送船ニ依ル移民ノ運送ハ行政廳ノ許可ヲ受クルニ非サレハ之ヲ爲スコトヲ得ス
前項ノ許可ヲ受ケタル者ハ行政廳ノ定ムル所ニ依リ保證金ヲ納付スヘシ

第二十條ノ四 行政廳ハ前條ノ許可ヲ受ケタル者ノ行爲ニシテ法令若ハ許可ノ條件ニ違反シタルトキ又ハ移民ノ利益ヲ害スルモノト認ムルトキハ其ノ許可ヲ取消スコトヲ得

第二十條ノ五 移民運送船ニ依リ移民ノ運送ヲ爲サムトスル者ハ其ノ運送貨ニ關シ豫メ行政廳ノ認可ヲ受クヘシ

第二十條ノ六 行政廳ハ移民運送船ノ發着港ヲ指定スルコトヲ得
第二十條ノ七 行政廳ハ移民運送船ノ船長ヲシテ運送移民ニ關スル諸般ノ報告ヲ爲サシムルコトヲ得

第五章 雜則

第二十條ノ八 金錢貸付ヲ業トスル者ニシテ移民ニ對シ渡航費其ノ他渡航ノ準備ニ必要ナル金錢ヲ貸與スルトキハ其ノ條件ニ付豫メ行政廳ノ認可ヲ受クヘシ

第二十一條ノ九 移民出發港ニ於テ移民宿泊業ヲ營マムトスル者ハ行政廳ノ許可ヲ受クヘシ

前項ノ許可ヲ受ケタル者ハ移民宿泊所ノ設備、移民ノ給養並宿泊料其ノ他移民ノ負擔ト爲ルヘキ事項ニ付豫メ行政廳ノ認可ヲ受クヘシ

第二十二條ノ十 移民取扱人ニ非スシテ移民乗船ニ關スル周旋ヲ爲サムトスル者ハ行政廳ノ許可ヲ受クヘシ

前項ノ許可ヲ受ケタル者ハ移民乗船ニ關スル周旋ノ方法及移民ノ負擔ト爲ルヘキ事項ニ付豫メ行政廳ノ認可ヲ受クヘシ

第二十三條ノ十一 行政廳ハ前二條ノ許可ヲ受ケタル者ノ行爲ニシテ法令ニ違反シタルトキ又ハ移民ノ利益ヲ害スルモノト認ムルトキハ其ノ營業ヲ停止シ又ハ營業ノ許可ヲ取消スコトヲ得

第六章 罰則
第二十一條 渡航ノ許可ヲ受ケス又ハ渡航地ヲ許リテ許可ヲ受ケ又ハ渡航差止命令ニ違反シテ渡航シタル移民ハ五十圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十二條 法律命令ニ違反シタル移民ノ渡航ヲ周旋シ又ハ渡航差止中ニ移民ヲ渡航セシメタル移民取扱人及代理人ハ五十圓以上五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十三條 行政廳ノ許可ヲ受ケスシテ移民取扱人ノ行爲ヲ爲シタル者又

〔山梨警署〕

第七章 附則

第二十八條 本法施行以前ヨリ當該官廳ノ許可ヲ受ケ營業スル移民取扱人ハ本法施行ノ際別ニ許可ヲ受ケルヲ要セス本法ノ規程ニ依リ其ノ營業ヲ繼續スルコトヲ得但シ其ノ營業ヲ繼續セザルトキト雖其ノ既ニ納付シタル保證金ニ對シテハ仍本法ノ規程ヲ適用ス

第二十九條 本法ハ帝國ト締結シタル特別ノ條約ニ基キ渡航スル移民及其ノ取扱人ニ適用セス

第三十條 本法施行ノ爲ニ必要ナル細則ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第三十一條 本法ハ明治二十九年六月一日ヨリ施行ス

明治二十七年勅令第四十二號移民保護規則ハ本法施行ノ日ヨリ廢止ス

●移民運送船ノ規定ヲ適用スル地

ニ關スル件 明治四十年六月十一日 外務省告示第十五號

改正 明治四〇年八月外務省告示第一九號、四四年二月第二號、昭和二年五月第三號、移民保護法第二十條ノ二ニ依リ命令ヲ以テ定メシムヘキ地ヲ左ノ通相定メ本年七月一日ヨリ施行ス

- 一 米 領 布 哇
- 一 伯 刺 西 爾 國
- 一 秘 露 國
- 一 英 領 加 奈 陀
- 一 太 洋 洲 諸 島
- 一 墨 西 哥 國
- 一 智 利 國
- 一 亞 爾 然 丁 國
- 一 比 律 賓 群 島
- 一 「パラグアイ」國

●移民保護法施行細則

明治四十年六月八日 外務省令第三號

改正 明治四二年五月外務省令第四號、大正三年一月第三號、九年一月第九號、昭和三年一月第二號、四年五月第六號、八年七月第九號、一〇年七月第九號、一一年二月第五號

移民保護法施行細則左ノ通相定ム

移民保護法施行細則

第四編 保安 第八章 外國渡航

ハ營業停止中ニ移民ヲ募集シ又ハ其ノ渡航ノ周旋ヲ爲シタル移民取扱人及代理人ハ二百圓以上千圓以下ノ罰金ニ處ス

行政廳ノ許可ヲ受ケスシテ第五條第二項ノ營業ヲ爲シタル移民取扱人亦前項ニ同シ

第二十四條 移民取扱人行政廳ノ認可ヲ受ケサル代理人ヲシテ其ノ行爲ヲ爲サシメタルトキハ二十圓以上二百圓以下ノ罰金ニ處ス其ノ行爲ヲ爲シタル代理人亦同シ

第二十五條 第十一條、第十二條、第十三條、第十四條及第十六條第一項ニ違反シタル移民取扱人及代理人ハ五十圓以上五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十六條ノ一 誘惑ノ手段ヲ以テ移民ヲ募集シ若ハ渡航ノ周旋ヲナシタル移民取扱人及代理人ハ一月以上一年以下ノ「重禁錮」ニ處ス

第二十六條ノ二 第二十條ノ三ニ違反シタル者ハ五百圓以上一萬圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十六條ノ三 第二十條ノ五ニ違反シタル者ハ二百圓以上三千圓以下ノ罰金ニ處ス行政廳カ移民運送船ノ發着港ヲ指定シタル場合ニ於テ其ノ指定ニ違反シタル者亦同シ

第二十六條ノ四 第二十條ノ七ニ依リ行政廳ノ命シタル報告ヲ爲ササル者ハ五十圓以上三百圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十六條ノ五 第二十條ノ八、第二十條ノ九及第二十條ノ十ニ違反シタル者ハ百圓以上千圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十七條 本法ノ罰則ハ商會社ニ在テハ其ノ各條ニ掲ケル行爲ヲ爲シタル業務擔當社員又ハ取締役ニ之ヲ適用ス

第一章 移民

第一條 移民保護法第一條ノ勞働ハ農業、林業、水産、鑛業、土石採取、工業、染色、洗濯、土木、建築、印刷、製本、旅館、料理、娯樂、理髮、交通及運輸ニ關スル勞働並ニ行商其ノ他肉體の勞務ヲ主トスル勞働トス

第二條 移民渡航ノ許可ヲ受ケントスルトキハ本籍地、寄留地、身分、職業、氏名、生年月日ト共ニ渡航地及渡航目的ヲ記載シ本籍地又ハ寄留地ノ地方長官ニ出願スベシ

前項ノ出願書ニハ移民取扱人ニ依ル者ニ在リテハ移民取扱人之ニ連署シ移民保護法第三條ニ依リ保證人ヲ要スル地ニ渡航スル者ニ在リテハ保證人之ニ連署スヘシ但シ契約移民ニ在リテハ出願ノ際移民保護法第十三條第一項ノ契約書ヲ添付スヘシ

第三條 移民保護法第三條ニ依リ保證人ヲ定メシムヘキ地ハ外務大臣之ヲ告示ス

第四條 移民保護法第三條ノ保證人ハ本籍地又ハ寄留地ノ地方長官ニ於テ適當ト認ムル者ニ限ル

第二章 移民取扱人

第五條 移民取扱人タラムトスル者ハ左ノ事項ヲ詳記シ外務大臣ニ出願シテ許可ヲ受クヘシ但シ商會社ノ場合ニ於テ合名會社ニ在リテハ總社員、合資會社ニ在リテハ無限責任社員、株式會社ニ在リテハ發起人又ハ取締役、株式合資會社ニ在リテハ無限責任社員ヨリ出願シ且定款ヲ添付スルコトヲ要ス

一 商號アルモノハ其ノ商號

二 營業所

三 營業資本金額

四 營業年限ヲ定ムルモノハ其ノ年限

五 移民ヲ渡航セシムヘキ地

六 移民募集ノ方法及其ノ渡航前後ニ於ケル周旋方法

七 出願者ノ履歷

八 出願者ノ財産但シ合名會社及合資會社ニ在リテハ各社員ノ出資額及財産、株式會社ニ在リテハ發起人又ハ取締役ノ株式引受又ハ所有額

及財産法株式ノ總數及一株ノ金額、株式合資會社ニ在リテハ無限責任社員ノ出資額、株式引受額及財産法株式總數及一株ノ金額、移民取扱人ノ相續人ニシテ其ノ營業ヲ繼續セムトスル者又ハ移民取扱人ノ營業ヲ讓受ケムトスル者ニ關シテハ前項ノ規定ヲ準用ス

第六條 移民取扱人前條ニ依リ許可ヲ受ケタル後左ノ場合ニ於テハ外務大臣ノ許可ヲ受ケヘシ

- 一 前條第一項第二號乃至第六號ニ掲ケタル事項ヲ變更セムトスルトキ
 - 二 合名會社及合資會社ニ在リテ社員及其ノ出資額ヲ變更セムトスルトキ又ハ新ニ社員ヲ加入セシメムトスルトキ但シ新ニ社員ト爲リタル者ニ關シテハ其ノ履歴書及財産調書、出資額ヲ變更セムトスル者ニ關シテハ其ノ財産調書ヲ添附スルヲ要ス
 - 三 株式會社ニ在リテ取締役ヲ選任セムトスルトキ並シテ資本金、株式ノ總數及一株ノ金額ヲ變更セムトスルトキ
 - 四 株式合資會社ニ在リテ無限責任社員及其ノ出資額又ハ株式引受額ヲ變更セムトスルトキ又ハ株式ノ總數及一株ノ金額ヲ變更セムトスルトキ
- 第七條 左ノ事項ハ移民取扱人ニ於テ一週間以内ニ外務大臣ニ届出ツヘシ
- 一 商號ノ新設、取得、變更又ハ廢止
 - 二 開業ノ年月日
 - 三 業務執行社員ノ選任及業務執行社員又ハ取締役ノ解任又ハ死亡
 - 四 同一廳府縣内ニ於ケル主ナル營業所ノ移轉
 - 五 支店又ハ出張所ノ廢置移轉
 - 六 前數條ニ掲ケタルモノノ外法令ノ規定ニ依リ登記シタル事項

七 商事會社ニ在リテハ前條第二號乃至第四號ニ掲ケタルモノノ外定款ヲ變更シタルトキ

移民取扱人死亡シタルトキハ其ノ相續人ヨリ届出ヲ爲スヘシ

主ナル營業所ヲ置ク廳府縣以外ノ地ニ於ケル支店又ハ出張所ノ廢置移轉ハ一週間以内ニ其ノ地ノ地方長官ニ届出ツヘシ

第八條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者及外務大臣ニ於テ不適當ト認ムル者ハ移民取扱人又ハ代理人タルコトヲ得ス

- 一 禁治產者及準禁治產者
 - 二 剝奪公權者及停止公權者
 - 三 家資分散又ハ破産ノ宣告ヲ受ケ其ノ確定シタル時ヨリ復權ノ決定確定スルニ至ル迄ノ者
 - 四 禁錮以上ノ刑ノ宣告ヲ受ケタル時ヨリ其ノ裁判確定スルニ至ル迄ノ者
- 第九條 移民取扱人移民保護法第五條第二項ノ業務ヲ兼營セムトスルトキハ左ノ事項ヲ詳記シ外務大臣ニ出願シテ許可ヲ受ケヘシ
- 一 兼營スヘキ業務ノ種類及其ノ業務ヲ經營セムトスル地方
 - 二 兼營スヘキ業務ト移民トノ關係
 - 三 兼營スヘキ業務ニ充當スヘキ資本金額
 - 四 兼營スヘキ業務經營ノ方法
- 移民取扱人移民渡航地ニ於テ業務ヲ兼營セムトスル場合ニ於テハ前項ノ出願書ニ該地方ノ狀況書ヲ添附スルヲ要ス
- 第十條 移民取扱人前條ニ依リ許可ヲ受ケタル後其ノ業務ノ兼營ヲ廢止セムトスルトキ又ハ前條第一項各號ニ掲ケタル事項ヲ變更セムトスルトキハ其ノ事情ヲ詳記シ外務大臣ニ出願シテ許可ヲ受ケヘシ
- 第十一條 移民保護法第十條ニ依リ移民取扱人ニ於テ代理人ヲ定メムトス

ルトキハ左ノ事項ヲ詳記シタル書類ヲ添附シ外務大臣ニ出願シテ許可ヲ受ケヘシ

- 一 内地代理人ト海外代理人ノ別
 - 二 代理人ノ履歴
 - 三 代理人ノ財産
- 外務大臣前項ノ許可ヲ與ヘタルトキハ附屬第一號書式ノ許可證ヲ移民取扱人ニ下付ス但シ移民取扱人ハ該許可證ヲ代理人ニ交付スヘシ
- 代理人ノ解任又ハ死亡ハ移民取扱人ニ於テ解任ノ日又ハ死亡ノ通知ヲ受ケタル日ヨリ一週間以内ニ外務大臣ニ届出ツヘシ
- 第十二條 外務大臣ハ代理人ノ行為法令ニ違反シタルトキ又ハ公益ヲ害スルモノト認メタルトキハ其ノ許可ヲ取消スコトアルヘシ
- 第十三條 移民取扱人又ハ代理人カ本店支店又ハ出張所ニ於テ使用スル事務員ノ選任ハ所在地地方長官ノ定ムル所ニ依リ局長官ニ出願シテ許可ヲ受ケヘシ
- 地方長官ハ前項事務員ノ行為法令ニ違反シタルトキ又ハ公益ヲ害スルモノト認メタルトキハ之ヲ解任シ移民取扱人又ハ代理人ニ命スルコトアルヘシ
- 第十四條 代理人其ノ業務ヲ行フトキハ許可證ヲ、移民取扱人又ハ代理人ノ使用スル事務員其ノ業務ヲ行フトキハ認可證ヲ携帯スヘシ
- 代理人死亡シタルトキ、解任セラレタルトキ又ハ其ノ許可ヲ取消サレタルトキハ移民取扱人ハ遲滞ナク許可證ヲ外務大臣ニ返納スヘシ
- 移民取扱人又ハ代理人ノ使用スル事務員死亡シタルトキ又ハ解任セラレタルトキハ移民取扱人又ハ代理人ハ遲滞ナク其認可證ヲ當該地方長官ニ返納スヘシ
- 第十五條 業務執行社員取締役又ハ代理人ニシテ移民渡航地ニ渡航スルト

キ又ハ渡航地ヨリ歸國シタルトキハ移民取扱人ハ遲滞ナク其ノ旨ヲ外務大臣ニ届出ツヘシ

- 一 業務執行社員、取締役又ハ代理人ニシテ移民渡航地ニ到着シタルトキハ遲滞ナク其ノ旨ヲ所轄在外帝國官廳ニ届出ツヘシ
- 第十六條 移民渡航地ニ在留スル業務執行社員、取締役又ハ代理人ニシテ歸國ノ爲出發セムトスルトキ又ハ一時其ノ地ヲ立去ラムトスルトキハ所轄在外帝國官廳ニ出願シテ許可ヲ受ケヘシ
- 在外帝國官廳カ前項歸國ノ許可ヲ與フル場合ハ他ノ業務執行社員、取締役又ハ代理人カ其ノ地ニ在留スルトキニ限ル
- 第十七條 外務大臣必要ト認ムルトキハ移民取扱人カ移民渡航地内ニ於テ業務執行社員、取締役又ハ代理人ヲ在留セシムヘキ場所ヲ指定スルコトアルヘシ
- 第十八條 移民渡航地ニ在留スル業務執行社員、取締役又ハ代理人ハ移民名簿ヲ備ヘ移民ノ就業地、職業及雇主ノ氏名ヲ明記シ且契約移民ニ付テハ貸金支拂簿ヲ備ヘ官廳ノ命アル時ハ何時ニテモ之ヲ示スヘシ
- 第十九條 移民ニシテ渡航地外ニ轉住シタルトキハ其ノ渡航地ニ在留スル業務執行社員、取締役又ハ代理人ハ遲滞ナク其ノ氏名及轉住地ヲ在留地及轉住地ノ在外帝國官廳ニ届出ツヘシ
- 前項ノ場合ニ於テ移民取扱人ハ遲滞ナク其ノ旨ヲ外務大臣ニ届出ツヘシ
- 第二十條 移民取扱人移民ヲ募集セントスルトキハ左ノ事項ヲ具シ毎年豫メ外務大臣ノ認可ヲ受ケヘシ
- 一 移民ヲ渡航セシムヘキ地及該地方ノ狀況
- 二 移民取扱ニ關シ外國官憲又ハ外國若ハ内國ノ會社個人等ト契約アルトキハ該契約書寫

三 募集移民ノ資格條件
 四 移民ノ業務及其ノ收入又ハ所得ノ豫定額
 五 移民ノ負擔トナルベキ金額
 六 移民トノ契約書案
 七 其ノ年四月一日ヨリ翌年三月末日ニ至ル間ノ移民募集豫定數及之ガ地方別募集配當表但シ「オーストラリア」聯邦渡航者ニ付テハ其ノ年十二月一日ヨリ翌年十一月末日ニ至ル間トス
 八 募集ノ方法
 移民取扱人前項ノ認可ヲ受ケタル後前項第三號及第五號乃至第八號ノ事項ヲ變更セントスルトキハ豫メ外務大臣ノ認可ヲ受ケベシ但シ地方別募集配當表ヲ變更スル場合ニ限リ之ヲ外務大臣及關係地方長官ニ届出ヅベシ
 移民取扱人前項ノ認可ヲ受ケタルトキハ該認可書ノ寫及之ガ出願書類ノ寫ヲ添ヘ其ノ旨豫メ移民募集地ノ地方長官ニ届出ヅベシ但シ第一項第二號ノ書類ハ之ガ添附ヲ省略スルコトヲ得
 第二十一條 移民取扱人又ハ代理人移民募集ノ目的ヲ以テ新聞紙ニ廣告文ヲ掲載シ又ハ印刷物ヲ配付セムトスルトキハ豫メ外務大臣ニ出願シテ認可ヲ受ケベシ
 第二十二條 移民取扱人移民ノ募集ヲ爲スニ當リテハ自己所在ノ地又ハ業務執行社員若ハ取締役ノ在留スル地方ヲ除クノ外代理人ヲシテ募集ノ期間其ノ募集ノ地ニ在留セシムルコトヲ要ス
 第二十三條 移民保護法第十三條ノ契約書ニハ左ノ事項ヲ記載スルコトヲ要ス
 一 契約期限
 二 手数料
 三 渡航及歸航費用ノ支辨方法

四 賃金及賃金ノ支拂方法
 五 渡航地ニ於ケル周旋方法
 六 移民ノ疾病其ノ他困難ノ場合ニ於ケル救助又ハ歸國ノ方法
 移民取扱人ハ前項契約書ノ全文ニ移民渡航地ノ狀況書ヲ添附シ移民本籍地又ハ寄留地ノ地方長官ニ出願シテ認可ヲ受ケベシ
 第二十四條 移民取扱人移民ニ關シテ別ニ他人ト契約ヲ爲シタルトキハ該契約書ヲ添附シ其ノ旨ヲ主タル營業所ヲ置ケル地方長官ニ届出テ且其ノ移民ノ渡航地ヲ管轄スル在外帝國官廳ニモ届出ツベシ
 移民取扱人前項ノ契約ニ基キ移民ヲ募集セムトスルトキハ前條ノ手續ヲ爲スニ當リ該契約書ヲ添附スベシ
 主タル營業所ヲ置ケル地方長官必要ト認ムルトキハ第一項契約書ノ原本ノ提示ヲ命スルコトアルヘシ
 第二十五條 當該官廳ニ於テ移民保護法第十三條ニ掲ケタル契約書ヲ示スヘキコトヲ命シタルトキハ移民取扱人及移民ハ之ヲ拒ムコトヲ得ス
 第二十六條 移民保護法第十四條ニ依リ手数料ノ認可ヲ受ケムトスルトキハ移民取扱人ハ移民ノ渡航地及手数料ノ額ヲ記載シ移民本籍地又ハ寄留地ノ地方長官ニ出願スベシ
 第二十七條 移民取扱人移民保護法第十五條ノ一ニ依リ豫定シタル移民ノ出發期日ヲ移民ニ通知スルニハ書面ヲ以テスルコトヲ要ス
 移民取扱人前項ノ通知ヲ爲シタルトキハ其ノ旨ヲ主タル營業所ヲ置ケル地方長官ニ出願シテ地方長官ニ届出ツベシ
 第二十八條 移民出發港所在地ノ地方長官必要ト認ムルトキハ其ノ地ニ代理人ヲ在留セシムヘキ旨ヲ移民取扱人ニ命スルコトアルヘシ
 第二十九條 移民取扱人移民ヲ渡航セシムルトキハ移民ノ出發ト同時ニ移民ノ氏名ヲ其ノ渡航地ヲ管轄スル在外帝國官廳ニ届出ツベシ但シ契約移

民ニ保ルトキハ移民保護法第十三條第一項ノ契約書寫ヲ添附スベシ
 第三十條 移民ノ身上ニ關スル異變其ノ他移民ニ關スル重要ナル事件ハ移民取扱人直ニ之ヲ外務大臣ニ届出ツベシ
 前項ノ場合ニ於テ移民渡航地ニ在留スル義務執行社員、取締役又ハ代理人ハ運滞ナク其ノ旨ヲ所轄在外帝國官廳ニ届出ツベシ
 第三十一條 移民取扱人ハ附屬第二號書式ニ依リ毎月末日渡航者名簿ヲ調製シ翌月五日迄ニ又附屬第三號及第四號書式ニ依リ毎年末日歸國者名簿及死亡者名簿ヲ調製シ翌年三月三十一日迄ニ外務大臣ニ提出スベシ
 第三十二條 外務大臣必要ト認ムルトキハ別ニ定ムル移民取扱人同業組合規程ニ準據シ該組合ヲ設立スヘキコトヲ移民取扱人ニ命令ス
 第三十三條 本章中移民取扱人ヨリ外務大臣ニ出願又ハ届出ヲ爲スヘキ場合及第三十一條ニ依リ名簿ヲ提出スヘキ場合ニ於テハ其ノ主タル營業所ヲ置ケル地方長官ヲ經由スベシ
 前項ノ場合ニ於テハ提出書類ノ原本一通ヲ添ヘ原本ト共ニ之ヲ地方長官ニ差出スベシ
 第三章 保證金
 第三十四條 移民保護法第十六條ニ掲ケタル保證金ハ之ヲ主タル營業所ヲ置ケル地方長官ニ納付スベシ
 第三十五條 移民取扱人ノ納付スヘキ保證金ノ額及其ノ増減ハ外務大臣之ヲ定ム
 第三十六條 移民取扱人ノ納付スヘキ保證金ハ國債證券ヲ以テ之ニ代用スルコトヲ得
 前項國債證券ノ價格ハ其ノ納付ヲ受ケヘキ地方長官ノ定ムル所ニ依リ本條證券ノ價格ニ異動アリタルトキハ地方長官ハ移民取扱人ヲシテ之ニ依リ生シタル不足額ヲ追納セシムヘシ

第三十七條 主タル營業所ヲ置ケル地方長官ハ移民取扱人ノ保證金ノ増額ヲ追納セシメ又ハ其ノ缺損ヲ填補セシムル場合ニ於テ一箇月以内ノ猶豫ヲ與フルコトヲ得
 第四章 移民運送船
 第三十八條 移民保護法第二十條ノ二ニ依リ命令ヲ以テ定ムル地方ハ外務大臣之ヲ告示ス
 第三十九條 移民保護法第二十條ノ二ニ依リ移民ノ員數ヲ算定スル場合ニ於テ十二年未滿ノ者ハ二人ヲ以テ一人ニ積算シ一年以下ノ者ハ之ヲ算入セス
 第四十條 移民運送船ニ依リ移民ノ運送ヲ爲サムトスルトキハ左ノ事項ヲ詳記シ帝國運送業者ニ在リテハ其ノ本店所在地ノ地方長官ヲ經由シ外國運送業者ニ在リテハ帝國國內ニ在ル其ノ代表者所在地ノ地方長官ヲ經由シ外務大臣ニ出願シテ許可ヲ受ケベシ但シ船籍證書寫並移民運送船備船ナルトキハ備船契約書寫ヲ添附スルコトヲ要ス
 一 商號アルモノハ其ノ商號
 二 本店所在地
 三 移民運送船
 四 船長ノ國籍、住所、氏名
 五 移民乗船港、到着港並寄航港
 六 移民乗船港ヨリ到着港ニ至ル迄ノ航海豫定日數
 七 營業資本金額
 八 運送スヘキ移民ノ豫定人員
 九 當該移民運送船ノ乘組衛生職員ノ各職名及其ノ員數
 同一運送業者方同一航路ニ使用スル移民運送船ハ二隻以上ヲ同一ノ願書ニ併記スルコトヲ得
 外務大臣必要ト認ムルトキハ出願者ノ履歷書、商事會社ニ在リテハ其ノ

定款ヲ提出セシムルコトアルヘシ

第四十一條 第三十八條ニ依リ外務大臣ノ告示シタル地方ニ於ケル一定ノ港ヘ一箇年二回以上航海ヲ爲ス移民運送船ニ關シテハ二回以上ノ運送ニ付同時ニ前條ノ出願ヲ爲スコトヲ得但シ一箇年ヲ超ユル期間ニ互ルコトヲ得ス

第四十二條 外務大臣移民運送船ニ依リ移民ノ運送ヲ許可シタルトキハ附屬第五號書式ニ依リ移民運送許可證ヲ下付ス

第四十三條 第四十條ノ許可ヲ受ケタル運送業者ニシテ同條第一項第三號及第五號ニ掲ケタル事項ヲ變更セムトスルトキハ同條ノ手續ニ準シ外務大臣ニ出願シテ許可ヲ受クヘシ

前項ノ運送業者第四十條第一項第一號、第二號、第四號、第七號及第八號ニ掲ケタル事項ヲ變更シタルトキハ運送ナク同條ノ手續ニ準シ之ヲ外務大臣ニ届出ツヘシ

第四十四條 移民運送船ニ依リ移民ノ運送ヲ爲サムトスル者第四十二條ノ許可證ヲ下付セラレタルトキハ該許可證ヲ移民運送船船長ニ交付スヘシ

移民運送船船長ハ官廳ノ命アルトキハ何時ニテモ前項ノ許可證ヲ提示スヘシ

第四十五條 移民運送業者移民到着港ニ移民ノ運送ヲ了シタルトキハ運送ナク第四十條ノ手續ニ依リ運送許可證ヲ外務大臣ニ返納スヘシ第四十一條ノ出願ニ基キ下付セラレタル許可證ノ期間満了シタルトキ亦同シ

第四十六條 移民保護法第二十條ノ三第二項ニ依リ納付スヘキ保證金ノ額ハ外務大臣隨時之ヲ定ム

前項ノ保證金ハ第四十二條ノ許可證ヲ下付セラレタルトキ出願者ヨリ即時ニ之ヲ當該地方長官ニ納付スヘシ

本條ノ保證金ニ關シテハ第三十六條及第三十七條ノ規定ヲ準用ス

第四十七條 移民運送船ニ依リ移民ノ運送費ニ關シテハ移民運送業者ハ第四十條ノ出願ト同時ニ同條ノ手續ニ準シ豫メ外務大臣ニ出願シテ認可ヲ受クヘシ

第四十八條 運送業者第四十一條ノ出願ヲ爲ス場合ニ於テハ一定ノ期間ニ對スル運送貨ノ最高額ヲ定メ其ノ認可ヲ出願スルコトヲ得

運送業者前項ノ認可ヲ受ケタル後所定ノ期間内ニ運送貨最高額ノ増額ヲ爲サムトスルトキハ外務大臣ニ出願シテ増額ノ認可ヲ受クルコトヲ要ス

第四十九條 前條ニ依リ運送貨最高額ノ認可ヲ受ケタル運送業者ハ運送貨ノ額ヲ定メ發航前五日迄ニ之ヲ移民乘船港所在地ノ地方長官ニ届出ツヘシ但シ運送貨ニ變更ナキ時ハ本條ノ届出ヲ要セス

第五十條 移民運送業者ハ移民運送船發航ノ日時ヲ豫メ移民乘船港所在地ノ地方長官ニ届出ツヘシ

第五章 雜則

第五十條ノ二 植民地ヲ經營スルコトヲ以テ主タル目的トスル者ガ自己ノ經營スル植民地ニ入植セシムル爲メ移民ヲ募集セントスルトキハ左ノ事項ヲ具シ毎年豫メ外務大臣ノ許可ヲ受クヘシ

- 一 植民地ノ所在及植民地ノ狀況
- 二 植民地ノ經營方法
- 三 植民地經營ニ關シ植民地所在國官憲トノ間ニ契約アルモノ又ハ該官憲ノ許可又ハ承認ヲ得タルモノニ在リテハ該契約書、許可書又ハ承認書ノ寫
- 四 募集移民ノ資格條件
- 五 入植移民ノ業務及其ノ收入又ハ所得ノ豫定額
- 六 移民ノ負擔トナルベキ金額

七 入植移民ノ疾病其ノ他困難ノ場合ニ於ケル救助方法

八 移民トノ契約書案

九 其ノ年四月一日ヨリ翌年三月末日ニ至ル間ノ移民募集豫定數及之ガ地方別募集配當表

十 募集ノ方法及び募集ニ關シ廣告ヲ爲シ又ハ印刷物ヲ配付セントスルトキハ該廣告又ハ印刷物ノ文案

十一 經營者ノ資産、經營者ガ法人ナルトキハ該法人ノ定款又ハ寄附行爲及登記簿謄本

植民地經營者ガ前項ノ許可ヲ受ケタル後前項第四號及第六號乃至第十號ノ事項ヲ變更セントスルトキハ豫メ外務大臣ノ認可ヲ受クヘシ但シ地方別募集配當表ヲ變更スル場合ニ限リ之ヲ外務大臣及關係地方長官ニ届出ツヘシ

植民地經營者ガ前二項ノ許可又ハ認可ヲ受ケタルトキハ該許可書又ハ認可書ノ寫及之ガ出願書類ノ寫ヲ添ヘ其ノ旨豫メ移民募集地ノ地方長官ニ届出ツヘシ但シ第一項第三號ノ書類ハ之ガ添附ヲ省略スルコトヲ得

第五十條ノ三 植民地經營者ガ自己ノ總營スル植民地ニ入植セシムル爲メ移民ヲ募集スルニ當リ代理人ヲ定メ又ハ事務員ヲ使用シ及該代理人ガ事務員ヲ使用スル場合ハ移民取扱人ノ代理人又ハ事務員ニ關スル規定ヲ準用ス

第五十一條 金錢貸付ヲ業トスル者ニシテ移民ニ對シ渡航費其ノ他渡航ノ準備ニ必要ナル金錢ヲ貸與セムトスルトキハ利率償還ノ方法其ノ他契約條件ノ要領ヲ記載シ其ノ所轄地方長官ニ出願シテ認可ヲ受クヘシ

第五十二條 前條ノ認可ヲ受ケタル金錢貸付業者ハ移民貸付金ニ付別ニ帳簿ヲ備ヘ置クコトヲ要ス

當該官吏ハ前項帳簿ノ検査ヲ行フコトアルヘシ此場合ニ於テ金錢貸付業

者ハ其ノ検査ヲ拒ムコトヲ得ス

第五十三條 移民出發港ニ於テ移民宿泊業ヲ營ムトスル者ハ其ノ地ノ地方長官ニ出願シテ許可ヲ受クヘシ

第五十四條 移民取扱人ニ非スシテ移民乘船ニ關スル周旋ヲ爲サムトスル者ハ移民乘船地ノ地方長官ニ出願シテ許可ヲ受クヘシ

第五十五條 前二條ノ許可及第五十一條ノ認可ノ出願手續ニ關スル規程並前二條ノ許可ヲ受ケタル者及第五十一條金錢貸付業者ノ取締ニ關スル規程ハ地方長官之ヲ定ム

第六章 罰則

第五十六條 第六條、第十條、第十三條第一項、第十四條、第十六條第一項、第十八條、第二十條第一項及第二項、第二十一條、第二十二條、第二十四條第一項第二項、第二十五條、第二十七條、第三十條、第三十一條、第四十三條、第四十四條、第五十條ノ二第一項及第二項、第五十條ノ三又ハ第五十二條ニ違反シタル者ハ二十圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

第五十七條 第七條、第十一條第三項、第十五條、第十九條、第二十條第三項、第二十九條、第四十五條、第四十九條又ハ第五十條及第五十條ノ二第三項ニ違反シタル者ハ十圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處ス

第五十七條ノ二 法人ノ代表者又ハ其ノ雇人其ノ他ノ從業者法人ノ業務ニ關シ本令ニ違反シタルトキハ本令ニ規定シタル罰則ヲ法人ノ代表者ニ適用ス

附則

第五十八條 本令中地方長官トアルハ東京府ニ在リテハ警視總監トス

第五十九條 本令ニ於テ在外帝國官廳ト稱スルハ帝國總領事館、領事館又ハ貿易事務館ヲ謂ヒ總領事館、領事館、貿易事務館ナキ地ニ於テハ帝國大使館及公使館ヲ謂フ

第四編 保安 第八章 外國渡航

第六十條 本令ハ明治四十年七月一日ヨリ之ヲ施行ス
 明治二十九年外務省令第三號ハ本令施行ノ日ヨリ之ヲ廢止ス

第一號書式

移民取扱人業務代理人許可證

移民取扱人 氏 名

移民保護法第十條ニ依リ 府 市 縣 郡 町 區
 業務代理ヲ爲サシムルノ件許可ス
 〔明治〕年 月 日

番地何某チシテ 海内某地ニ於テ

外務大臣 氏 名

名

第二號書式

渡航者名簿

名

外務大臣 氏 名

名

旅券番號	渡航許可ノ官廳及年月日	氏名	族籍及職業	年	齡	勞働ノ種類	渡航地	本年邦出發年月日	契約期限
渡航者總數									

第三號書式

歸國者名簿

旅券番號	渡航許可ノ官廳及年月日	氏名	族籍	籍在留地	本年邦出發年月日	歸著ノ年月日
歸國者總數						

第四號書式

死亡者名簿

旅券番號	渡航許可ノ官廳及年月日	氏名	族籍	籍在留地	本年邦出發年月日	死亡ノ年月日	死亡ノ年齡
死亡者總數							

〔山梨警〕

第五號書式

移民運送許可證

移民運送業者住所 氏 名

名

船名	船舶所有者住所氏名	船長氏名	移民乗船港	移民乗船港到着港間ノ寄航港	移民到着港	移民乗船港ヨリ到着港ニ至ル航海豫定日數	運送スヘキ移民豫定人員	許可期間
右移民保護法第二十條ノ三ニ依リ許可ス								

〔明治〕年 月 日

外務大臣 氏 名

名

●外國在留帝國臣民登錄規則

明治四十二年五月七日

外務省令第五號

改正 明治四十二年八月外務省令第六號、四三年三月第三號

外國在留帝國臣民登錄規則左ノ通定ム

第四編 保安 第八章 外國渡航

外國在留帝國臣民登錄規則

第一條 外國ニ在留スル帝國臣民ハ其ノ在留地到着後七日以内ニ左ノ事項ヲ所轄在外公館ニ届出ツルコトヲ要ス

一 氏名及生年月日

但シ氏名ニ付テハ其ノ讀方ヲ明示スヘシ

二 本籍、族籍及職業
 三 在留地
 但シ本人ニ對スル郵便物ノ配達セラルヘキ宛名ヲ明示スヘシ
 四 在留地到着ノ年月日
 第二條 削除
 第三條 本令ノ規定ニ依リ届出ヲ爲シタル者所轄在外公館ノ管轄區域外ニ轉住シ又ハ歸國スルトキハ其ノ出發前之ヲ該在外公館ニ届出ツルコトヲ要ス
 前項ノ場合ニ於テ滿一年以内ニ再ヒ前在留地ニ歸著スルトキハ先ニ本令ノ規定ニ依リ同地所轄在外公館ニ届出タル事項ニ異動ナキ限リ届出ヲ省略スルコトヲ得但シ其ノ歸著ノ事實ハ七日以内ニ之ヲ該在外公館ニ届出ツルコトヲ要ス
 届出人他ノ在外公館ノ管轄内ニ轉住スルトキハ第一條ノ規定ニ依リ該在外公館ニ届出ヲ爲スコトヲ要ス
 第四條 妻又ハ未成年ノ子ニシテ夫又ハ親ト同居スルトキハ夫又ハ親ヨリ前數條ノ規定ニ依リ届出ヲ爲スコトヲ要ス
 第五條 在外公館ニ於テ本令規定ノ届出ヲ受理シタルトキハ在留帝國臣民登錄簿ニ其ノ届出事項ヲ登錄ス在外公館長ハ之ヲ登錄スルニ付證明ノ爲必要ト認ムルトキハ届出人ヲシテ旅券、戶籍謄本又ハ其ノ他ノ文書ヲ提出セシメ且一名又ハ數名ノ證人ヲ立テシムルコトヲ得
 在外公館長ハ其ノ適當ト認ムル帝國臣民ノ團體ヲシテ前項ノ證人タラシムルコトヲ得
 第六條 前條ノ登錄ニ付テハ手数料ヲ徵收セス但シ在外公館長ハ本令規定ノ届出期間經過ノ後届出ヲ爲シタル者ニ對シ登錄手数料ヲ徵收スルコトヲ得

〔山梨縣〕

第七條 在外公館長ハ本令規定ノ届出ヲ怠リタル者ニ對シ在留證明其ノ他一切ノ證明ヲ拒否スルコトヲ得虛偽ノ届出ヲ爲シタル者及之カ證人タル者ニ對シテ亦同シ
 第八條 在外公館長ハ利害關係人ノ申請ニ依リ手数料ヲ徵收シテ在留帝國臣民登錄簿ノ謄本ヲ付與スルコトヲ得
 第九條 本令ハ條約又ハ慣例ニ依リ領事裁判權ヲ行フコトヲ得ル領事官ノ駐在スル地方ニ適用セス
 第十條 本令ニ於テ在外公館ト稱スルハ帝國總領事館又ハ領事館ヲ謂ヒ帝國總領事館又ハ領事館ノ管轄區域ニ屬セサル地方ニ於テハ帝國大使館又ハ公使館ヲ謂フ
 附則
 第十一條 本令ハ明治四十三年四月一日ヨリ之ヲ施行ス
 本令施行前外國ニ在留スル帝國臣民ハ明治四十三年九月三十日迄ニ本令ノ規定ニ準シ届出ヲ爲スコトヲ要ス

●兵役法(抄録)

昭和二年四月一日 法律第四十七號

改正略ス
 第三章 徵集
 第二十三條 戶籍法ノ適用ヲ受クル者ニシテ前年十二月一日ヨリ其ノ年十一月三十日迄ノ間ニ於テ年齢二十年ニ達スル者ハ本法中別段ノ規定アルモノヲ除クノ外徵兵検査ヲ受クルコトヲ要ス
 前項ニ規定スル年齢ハ之ヲ徵兵適齡ト稱ス
 第四十一條 中學校又ハ中學校ノ學科程度ト同等以上ト認ムル學校ニ在學スル者ニ對シテハ本人ノ願ニ依リ學校ノ修業年限ニ應ジ年齢二十七年ニ至ル迄徵集ヲ延期ス

〔山梨縣〕

前項ニ規定スル認定及年齢ノ区分ニ關シテハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム
 第一項ノ規定ニ依リ徵集ヲ延期セラレタル者ハ在學ノ事由止ム年又ハ其ノ翌年ニ於テ徵兵検査ヲ行フ但シ一ノ學校卒業ノ日ヨリ六月以内ニ他ノ學校ニ入學スル者ニ付テハ徵集延期ノ事由尙繼續スルモノト看做ス
 第二項ノ年齢ノ区分ニ其ノ最高年齢ニ達スルモ在學ノ事由尙止マザル者ハ最高年齢ニ達シタル年又ハ其ノ翌年ニ於テ徵兵検査ヲ行フ
 第四十二條 徵兵適齡及其ノ前ヨリ帝國外ノ地ニ在ル者(勅令ヲ以テ定ムル者ヲ除ク)ニ對シテハ本人ノ願ニ依リ徵集ヲ延期ス
 前項ノ規定ニ依リ徵集ヲ延期セラレタル者ハ其ノ事由止ム年又ハ其ノ翌年ニ於テ徵兵検査ヲ行フ
 第四十三條 前條第一項ノ規定ニ依リ徵集ヲ延期セラレタル者ニシテ直系尊屬若ハ妻子ノ死亡若ハ重傷ノ爲又ハ官廳ノ命ニ依リ一時帝國内ニ歸還スル者ハ徵集延期ノ事由尙繼續スルモノト看做ス但シ歸還後ノ滞在期間九十日ヲ超ユルトキハ此ノ限ニ在ラズ
 前項ニ規定スル場合ヲ除ク外前條第一項ノ規定ニ依リ徵集ヲ延期セラレタル者ニシテ一時帝國内ニ歸還スル者ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ在留地ノ遠近ニ應ジ一年間一回滞在期間九十日ヲ超エザル場合ニ限リ徵集延期ノ事由尙繼續スルモノト看做ス
 前二項ノ規定ニ該當スル者ニシテ歸還後ノ滞在間ニ於テ疾病其ノ他避ケベカラザル事故生ジ前二項ノ規定スル期間内ニ出發シ難キ者アルトキハ其ノ滞在期間ヲ延長スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ其ノ延長シタル期間徵集延期ノ事由尙繼續スルモノト看做ス
 第五十三條 (上略)第四十一條第三項若ハ第四項、第四十二條第二項(中略)又ハ第六十七條ノ規定ニ依リ徵兵検査ヲ受クベキ者年齢三十七年ヲ過ギタルトキハ徵集ヲ免除ス

●兵役法施行令(抄録)

昭和二年十一月三十日 勅令第三百三十號

改正略ス
 第三章 徵集
 第五款 徵兵検査

前項ノ年齢ハ第十七條第一項又ハ第二項ニ規定スル現役又ハ補充兵役ノ起算ノ日ニ於ケル年齢トス
 第四章 召集
 第六十一條 歸休兵、豫備兵、後備兵又ハ補充兵ニシテ左ノ各號ノ一ニ該當スル者ニ對シテハ勤務演習召集又ハ簡閱點呼ヲ免除スルコトヲ得
 (中略)
 四 帝國外ノ地ニ旅行又ハ在留スル者
 (下略)
 第六十七條 短期現役兵トシテ現役ヲ終リタル者年齢二十八年迄ノ間ニ於テ左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ更ニ徵兵検査ヲ行フ(中略)
 一 小學校ノ教職ニ就クノ資格ヲ失ヒタルトキ
 二 現役ヲ終リタル日ヨリ六月ヲ經過シタル日及其ノ後ニ於テ小學校ノ教職ニ在ラザルトキ
 前項ノ規定ハ短期現役兵トシテ現役中小學校ノ教職ニ就クノ資格ヲ失ヒタル者ニ之ヲ準用ス
 第七十三條 本法ニ規定スル學校中ニハ帝國外ノ地ニ在リテ帝國臣民ノ爲ニ設置シタル學校ニシテ勅令ノ定ムル所ニ依リ指定シタルモノヲ包含ス

第七十九條 本籍所在ノ徵募區ノ爲設ケタル聯隊區徵兵署閉鎖後ニ於テ身體検査ヲ要スル者アルトキハ他ノ徵募區ノ爲設ケタル聯隊區徵兵署ニ於テ身體検査ヲ行フコトヲ得

第八十條 (上略)滿洲國、支那、香港、澳門若ハ沿海州其ノ他當該地域ノ附近ニ在留スル者ニシテ徵集ヲ延期セラレザル者ハ陸軍大臣ノ定ムル所ニ依リ本人ノ在留地附近ノ軍隊、地方廳、領事館(明治三十二年法律第七十號第十九條ニ規定スル領事館ヲ謂フ以下之ニ同シ)内又ハ各其ノ所在地ニ於テ身體検査ヲ受ケルコトヲ得

第八款 徵集延期

第二百二條 兵役法第四十二條第一項ノ規定ニ依リ徵集ヲ延期セザルモノトシテ除外スベキ者左ノ如シ

- 一 關東州又ハ南滿洲鐵道附屬地ニ在ル者
二 徵兵検査ヲ受ケ現役兵ト爲ルベキ順位ニ在ル者
三 第三百三條第一號ニ掲グル地域ニ在ル者ニシテ陸軍大臣ノ定ムル徵集延期願出ノ期日ニ於テ當該地域其ノ他帝國外ノ地ニ引續キ在留スル期間一年ニ滿チザル者
四 第三百三條各號ニ掲グル地域ヨリ一時關東州又ハ南滿洲鐵道附屬地ニ到リ其ノ地域ニ滞在スル者但シ兵役法第四十三條第一項ニ規定スル事由ニ因リ九十日以内當該地域ニ滞在スル者又ハ同法第四十三條第二項ノ規定ニ依リ帝國内ノ滞在ヲ通シ一年間一回ヲ限リ第三百三條各號ニ規定スル區分ニ應ジ當該地域ニ滞在スル者ヲ除ク
五 短期現役兵トシテ服役スベキ者ニシテ第三百三條第一號ニ掲グル地域

〔山梨警〕

ニ在ル者

第三百三條 兵役法第四十三條第二項ノ規定ニ依リ滞在期間左ノ如シ
一 滿洲國(南滿洲鐵道附屬地ヲ除ク)、河北省、山東省、江蘇省、浙江省、安徽省、福建省、廣東省、廣西省、香港、澳門又ハ沿海州ニ在留スル者ニシテ徵集延期中ノ者 四十日
二 「サガレン」州、「ザバイカル」州以東「シベリア」(沿海州ヲ除ク)、内蒙古、山西省、河南省、湖北省、湖南省又ハ江西省ニ在留スル者ニシテ徵集延期中ノ者 六十日
三 其ノ他ノ地方ニ在留スル者ニシテ徵集延期中ノ者 九十日

第九款 短期現役兵ニ關スル特例

第九條 短期現役兵トシテ服役スベキ者ニシテ(中略)第三百三條第一號ニ掲グル地域ニ在ル者ノ調査ハ(中略)領事官(明治三十二年法律第七十號第十九條ニ規定スル領事官ヲ謂フ以下之ニ同シ)ヲシテ之ヲ爲サシムルコトヲ得

第十款 樺太ニ關スル特例

第一百一條 沿海州又ハ「サガレン」州ニ在留スル者ニシテ徵集ヲ延期セラレザル者ハ第八十條ノ規定ニ依リノ外本人ノ願ニ依リ樺太ニ於ケル聯隊區徵兵署ニ於テ身體検査ヲ受ケルコトヲ得

第四章 召集

第二百二十七條 (第一項略)
關東州又ハ滿洲國ニ旅行又ハ在留スル者ニ對シテハ勤務演習召集又ハ簡閱點呼ヲ免除セズ
前二項ノ規定ニ該當スル者ヲ除クノ外兵役法第六十一條ノ規定ニ依リ勤務演習召集又ハ簡閱點呼ヲ免除ハ主務大臣ノ定ムル所ニ依リ聯隊區司令官又ハ海軍人事部長之ヲ爲ス

〔山梨警〕

第五章 雜則

第四百三條 第八十條ノ規定ニ依リ身體検査並ニ(中略)滿洲國ニ在ル陸軍人ノ服役及召集ニ關シテハ陸軍大臣ハ(中略)滿洲國(南滿洲鐵道附屬地ヲ除ク)其ノ他ノ地ニ在リテハ領事官ヲシテ其ノ事務ノ一部ヲ擔任セシムルコトヲ得
帝國外ノ地ニ在ル者ノ徵集延期ニ關シテハ陸軍大臣ハ關東州及南滿洲鐵道附屬地ニ在リテハ民政署長及警察署長、南洋羣島ニ在リテハ南洋廳支廳長、其ノ他ノ地ニ在リテハ大使公使及領事官ヲシテ其ノ事務ノ一部ヲ擔任セシムルコトヲ得 (下略)

兵役法施行規則(抄錄)

昭和二年十一月三十日 陸軍省令第二十四號

改正略ス

第三編 服役

第五章 在軍人ノ異動

第六十四條 歸休兵、豫備兵、後備兵又ハ第一補充兵ニシテ内地ヨリ帝國外ノ地(關東州及滿洲國ヲ除ク)ニ旅行又ハ在留セントスル者ハ出發前左ノ様式ニ依リ書面ヲ以テ本籍地ノ市町村長ヲ經テ本籍地ノ聯隊區司令官ニ届出ヅベシ

(用紙適宜)

Table with 2 columns: 一 本籍地, 府縣都市區町村字番地; 二 現住地, 何々

Table with 3 columns: 徵集年、役種、兵種、等級; 氏名; 何々(官廳ノ命ニ依ルモノハ其ノ官廳名ヲ記スベシ)

前項ノ規定ニ依リ届出ヲ爲シタル者出發豫定期日後十四日以内ニ出發セザルトキ又ハ歸朝シタルトキハ前項ノ規定ニ準ジ其ノ後十四日以内ニ届出ヅベシ
前二項ノ規定ハ歸休兵、豫備兵、後備兵又ハ第一補充兵ニシテ本籍地ヨリ旅行日數七日以上ヲ要スル帝國内ノ地(關東州及滿洲國ヲ含ム)又ハ航海ニ七日以上ヲ要スル水域ニ赴カントスル者ニ之ヲ準用ス
第六十五條 歸休兵、豫備兵、後備兵又ハ第一補充兵ニシテ内地又ハ帝國外ノ地(關東州及滿洲國ヲ除ク)ヨリ朝鮮、臺灣、關東州又ハ滿洲國ニ到リ當該地域ニ在留スル者ハ在留地到着後十四日以内ニ陸軍召集規則ノ定ムル當該地域ノ市町村長ニ該當スル者ヲ經由シ在留地ヲ管轄スル師團長又ハ軍司令官(朝鮮軍司令官ヲ除ク以下同シ)ニ届出ヅベシ其ノ届書ノ様式ハ前條第一項ニ掲グルモノニ準ズ
前項ニ掲グル者ニシテ朝鮮、臺灣、關東州又ハ滿洲國ニ在留シタル者其ノ在留地ヲ變更シ又ハ内地ニ歸還シタルトキハ前項ノ規定ニ準ジ届出ヲ爲スベシ

第一項ニ掲グル者ニシテ朝鮮、臺灣、關東州又ハ滿洲國ニ在留シタル者當該地域ヨリ帝國外ノ地(關東州及滿洲國ヲ除ク)ニ赴キ又ハ在留地ヨリ旅行日數七日以上ヲ要スル帝國内ノ地(關東州及滿洲國ヲ含ム)若ハ航海ニ七日以上ヲ要スル水域ニ赴カントスルトキハ前條ノ規定ニ準ジ届出ヲ爲スベシ

第四編 徵集

第十二章 寄留地検査及特別検査

第二款 特別検査

第四百七十六條 令第七十九條第二項ノ規定ニ依ル身體検査ハ其ノ年徵兵検査ヲ受ケルコトヲ要スル者ニシテ已ムヲ得ザル事由ニ因リ第三百三條第一項ニ規定スル徵兵検査開始期日ニ先チ帝國外ノ地ニ赴カントスル者又ハ徵兵検査ヲ受ケル爲帝國外ノ地ヨリ歸還シタル者ニ限リ本人ノ願ニ依リ之ヲ行フ但シ必要アルトキハ其ノ他ノ者ニ付テモ之ヲ行フコトアルベシ前項ノ規定ニ依リ願出ハ本籍地ノ聯隊區徵兵官ニ宛テ之ヲ爲スベシ本籍地ノ聯隊區徵兵官前項ノ願出ニ對シ之ヲ許可セントスルトキハ師管徵兵官ノ認可ヲ受ケベシ師管徵兵官認可ヲ爲シタル場合ニ於テハ總理徵兵官ニ報告スベシ

第一項ノ規定ニ依ル身體検査ハ本人現住地師管内最寄ノ陸軍部隊ニ於テ最寄ノ聯隊區徵兵官立會ノ上師團長ノ指名スル陸軍醫官ヲシテ之ヲ行ハシム但シ兵營ニ於テ身體検査ヲ行ヒ難キトキハ軍隊所在地ニ於ケル他ノ家屋ヲ検査場ニ充ツルコトヲ得

第十三章 在留地検査

〔山梨縣〕

已ムヲ得ザル事由ニ因リ第八十二條ニ規定スル期日迄ニ在留地検査願ヲ差出スコト能ハザリシ者ハ本人本籍地ニ於ケル徵兵検査期日一月前迄ニ在留地検査ヲ在留地徵兵事務官ニ願出ブルコトヲ得

第八十二條及前條ノ規定ハ前項ノ願出ニ付之ヲ準用ス

第九十條 在留地ノ身體検査ハ概ネ五月中旬ヨリ六月三十日迄ノ間ニ於テ之ヲ行フヲ例トス

第二百三條

本章ノ規定ニ依リ行フ身體検査ヲ受ケルコトヲ願出デタル者身體検査ヲ受ケザルトキハ其ノ年更ニ徵兵検査ヲ受ケベキモノトス

第二十章 徵集延期

第一款 通則

第二百九十一條 法第四十一條ノ規定ニ依ル徵集延期ト法第三十九條、第四十條、第四十二條又ハ法第四十四條ノ規定ニ依ル徵集延期トノ關係左ノ如シ

- 一 法第四十一條ノ規定ニ依ル徵集延期ニ引續キ法第四十二條又ハ法第四十四條ノ規定ニ依ル徵集延期ヲ爲スコトヲ得ズ但シ徵兵適齡前ヨリ法第七十三條及令第三百三十九條ノ規定ニ依リ指定セラレタル法第四十一條及令第三百條ニ規定スル學校ニ在學スル者ニシテ法第四十二條ノ規定ニ依リ徵集ヲ延期シ得ベキ者ハ此ノ限ニ在ラズ
- 二 法第三十九條、第四十條、第四十二條又ハ法第四十四條ノ規定ニ依

第八十條 本章中在留地徵兵事務官トハ(中略)滿洲國、天津、濟南、芝罘、青島、上海、漢口又ハ廈門在勤ノ帝國領事官ヲ謂フ

第八十二條 令第八十條ノ規定ニ依リ在留地ニ於テ身體検査ヲ受ケントスル者ハ在留地検査願ヲ三月三十一日迄ニ到着スル如ク在留地ヲ管轄スル在留地徵兵事務官ニ差出スベシ但シ在留地徵兵事務官ノ管轄ナキ場合又ハ管轄分明ナラザル場合ニ於テハ最寄在留地徵兵事務官ニ差出スモノトス

第八十三條 前條ニ規定スル願書ノ様式左ノ如シ

(用紙適宜)

在留地検査願
本籍地 府縣郡市區町村字番地
在留地 何々(詳細ニ記入スルコト)
戸主「長(二)男」「兄(弟)」本人戸主ナルトキハ
戸主ト記入スベシ
氏 名
年月日生
右在留地ニ於テ徵兵身體検査受檢致度候ニ付御許可相成度候也
年月日
在留地徵兵事務官何官(職)殿
本人 氏 名印

願書差出後検査開始前迄ニ轉籍シタル者又ハ在留地ヲ變更シタル者ハ直ニ其ノ旨ヲ最初願出デタル在留地徵兵事務官ニ届出ヅベシ検査願ノ取消ヲ爲サントスルトキ亦同シ

徵集延期ニ引續キ法第四十一條ノ規定ニ依ル徵集延期ヲ爲スコトハ之ヲ妨ケズ

第六款 帝國外ノ地ニ在ル爲ノ徵集延期

第三百二十六條 法第四十二條第一項ノ規定ニ依リ帝國外ノ地ニ在ルノ故ヲ以テ初メテ徵集ノ延期ヲ願ハントスル者ハ本籍地ノ聯隊區徵兵官ニ宛テタル願書ヲ左ノ各號ノ區分ニ依リ差出スベシ

- 一 領事官ヲ置キタル地ニ在ル者ニ在リテハ一月三十一日迄ニ在留地最寄ノ領事館ニ差出スベシ
- 二 領事官ヲ置カザル外國ニ在ル者ニ在リテハ一月三十一日迄ニ在留地最寄ノ帝國在外公館ニ差出スベシ
- 三 割除
- 四 南洋群島ニ在ル者ニ在リテハ一月三十一日迄ニ南洋廳支廳ニ差出スベシ

(用紙適宜)

在帝國外徵集延期願
一 本 人 氏名及出生年月日
二 本 籍 地 府縣郡市區町村字番地
三 在 留 地 何々
四 帝國内出發年月日 何年何月何日何港出發
右ノ通帝國外ノ地ニ在留中ニ付兵役法第四十二條ニ依リ徵集延期相成度候也
年月日 本人 氏 名印
何聯隊區徵兵官殿

第三百二十九條 帝國內出發ノ時期ノ關係上第三百二十六條ニ規定スル手續ヲ爲スコト能ハザル者ハ四月十五日迄ニ外國旅券ノ下付ヲ受ケタル官廳ノ承認書ヲ差出シ置キ在留地到着後十四日以内ニ第三百二十六條ニ規定スル官衙ノ長ヨリ在留證明書ノ交付ヲ受ケ之ヲ本籍地聯隊區徵兵官宛發送スベシ

第三百三十條 法第四十二條第一項ノ規定ニ依リ既ニ徵集延期ノ許可ヲ受ケタル者引續キ帝國外ノ地ニ在留スルトキハ毎年一月三十一日迄ニ在留申告書ヲ第三百二十六條ノ規定ニ準ジ差出スベシ
在留申告書ノ様式左ノ如シ

(用紙適宜)

在留申告書
一 本人 氏名及出生年月日
二 本籍地 府縣郡市區町村字番地
三 現在留地 何々
四 初メテ徵集ヲ延期セラレタル年 右及申告候也
年月日
本人氏
名印

(下略)

第三百三十一條 前條第一項ノ在留申告書ヲ差出サザル者又ハ第三百三十七條又ハ第三百三十八條ニ規定スル届出ヲ爲サザル者ハ徵集延期願出ノ意思ナキ者ト看做シ取扱フ

第三百三十二條 外國旅券ノ下付ヲ受ケタル官廳ノ承認書ヲ添ヘ徵集延期ヲ願出ズルモ帝國內ヲ離レザル前ニ於テハ其ノ徵集ヲ延期セザルモノト

〔山梨警〕

第三百三十四條 法第四十二條ノ規定ニ依リ徵集ヲ延期セラレタル者徵集延期ノ事由止ミタルトキハ十四日以内ニ徵集延期事故止届ヲ本籍地ノ市町村長ニ差出スベシ其ノ届書ノ様式左ノ如シ
(用紙適宜)

在帝國外徵集延期事故止届

何年何月何日ヲ以テ兵役法第四十二條ニ依ル徵集延期ノ事由止ミタルニ付及届出候也

何年何月何日
本籍地 府縣郡市區町村字番地
本人氏
年月日生
名印

(下略)

第三百三十六條 法第四十三條ノ規定ニ依リ一時帝國內ニ歸還シタル者又ハ令第四百二條第四號但書ニ掲グル者ハ上陸地、國境又ハ歸還地ニ於ケル警察官吏又ハ憲兵ノ與書證印ヲ受ケタル届書ヲ歸還地到着後十四日以内ニ本籍地ノ市町村長ニ差出スベシ其ノ届書ノ様式左ノ如シ
(用紙適宜)

(用紙適宜)

在帝國外徵集延期者一時歸朝届
一 出生年月日
二 在留地 何々
三 歸還年月日 何年何月何日
四 歸還後ノ滞在在 何々

〔山梨警〕

五 歸還ノ事由 何々
右一時歸朝シタルニ付及届出候也

年月日
本籍地 府縣郡市區町村字番地
本人氏
名印

(下略)

第三百三十七條 前條ノ規定ニ依ル届出ヲ爲シタル者令第三百三條ニ規定スル滞在期間内ニ出發シタルトキハ船長又ハ國境ニ於ケル警察官吏、憲兵ノ證明ヲ受ケ帝國ヲ離レタル後十四日以内ニ左ノ様式ニ依ル届書ヲ本籍地ノ市町村長ニ發送スベシ
(用紙適宜)

(用紙適宜)

一時歸朝再出發届
一出 發 何年何月何日
二 在留スベキ地 何々
右一時歸朝ノ所再出發シタルニ付及届出候也
本籍地 府縣郡市區町村字番地
年月日
本人氏
名印

(下略)

第三百三十八條 第三百三十六條ニ規定スル届書ヲ差出シタル者左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ事實ヲ證明スベキ書類ヲ添附シ事故發生後七日以内ニ本籍地ノ市町村長ニ届出グベシ
一 所定ノ期間内ニ滞在在地ヲ出發スルモ水路ノ障礙ニ因リ港灣ヲ出發シ

能ハザルトキ

二 所定ノ期間内ニ滞在在地ヲ出發スルモ陸路ノ障礙ニ因リ徵集ヲ延期セラルル地ニ到ルコト能ハザルトキ
三 所定ノ期間内ニ徵集ヲ延期セラルル地ニ到ル船舶ナキトキ
四 疾病其ノ他身體又ハ精神ノ異常ニ因リ所定ノ期間内ニ滞在在地ヲ出發シ能ハザルトキ
五 法第四十三條第一項ニ規定スル事故生シ所定ノ期間内ニ出發シ能ハザルトキ

書面ヲ以テ爲ス場合ニ於ケル届書ノ様式ハ適宜トス

第五編 補則及罰則

第四百一條 徵集ヲ延期セラレタル者、更ニ徵兵検査ヲ受ケベキ者又ハ徵兵處分未済ノ者徵集セラレベキ身分ト爲リタル場合ニ於テハ其ノ年徵兵検査開始前又ハ徵兵検査期間内ナルトキハ其ノ年徵兵検査ヲ爲シ其ノ年徵兵検査期間ヲ過ギタル後ナルトキハ其ノ翌年徵兵検査ヲ爲スベシ

第四百八條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ拘留又ハ科料ニ處ス

一 正當ノ事由ナクシテ(中略)第三百三條第二項(中略)第三百三十六條(中略)ニ規定スル届出ヲ爲サザル者(下略)

第四百九條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ五十圓以下ノ罰金又ハ拘留若ハ科料ニ處ス
(中略)

二 正當ノ事由ナクシテ第六十四條乃至第六十五條ノ二(中略)ニ規定スル届出ヲ爲サザル者
(下略)

第四百十條 正當ノ事由ナクシテ(中略)第三百三十四條(中略)ニ規定スル届出ヲ爲サザル者(中略)ハ百圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

陸軍召集規則(抄録)

昭和二年十一月三十日
陸軍省令第二十五號

改正略ス

第五章 演習召集、教育召集

第四款 免除及延期

第一百四十四條 在郷軍人ニシテ演習召集ニ召集セラルベキ者左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ演習召集ヲ免除ス

(中略)

三、帝國外ノ地(關東州及滿洲國ヲ除ク)ニ旅行又ハ在留スル者但シ將校及准士官ニシテ陸軍武官服役令第十四條第二項ノ規定ニ該當スル者、下士官兵ニシテ演習召集令狀ヲ受領シ又ハ其ノ傳達ヲ受ケタル後官廳ノ命ニ依ラズ出發シタル者ヲ除ク

(中略)

第一項第三號ニ該當スル者ニシテ陸軍武官服役令第十四條ノ定ムル所ニ依リ申告ヲ爲サザル者ハ之ヲ演習召集ニ召集スルコトアルベシ

第七章 簡閱點呼

第三款 免除、延期及參會期日ノ變更

第一百五十四條 (上略)第一百四十四條第一項(中略)ノ規定ハ簡閱點呼ノ免除ニ關シ之ヲ準用ス

改正略ス

陸軍武官服役令(抄録)

昭和二年十一月三十日
勅令第三百三十二號

(山梨警)

第二章 將校及准士官ノ服役

第十四條 待命、休職、停職、豫備役又ハ後備役ノ將校帝國外ノ地(關東州及滿洲國ヲ除ク)ニ旅行シ又ハ在留セントスルトキハ目的、國名及期間ヲ具シ陸軍大臣ニ申告スベシ之ヲ變更セントスルトキ亦同シ但シ官廳ノ命ニ依リ旅行シ又ハ在留スル者ハ此ノ限ニ在ラズ
前項ニ掲グル者前項ニ規定スル申告ヲ爲サズ又ハ虛偽ノ申告ヲ爲シタルトキハ陸軍大臣之ヲ召還スルコトヲ得
前二項ノ規定ハ准士官ニ之ヲ準用ス

陸軍武官服役令施行規則(抄録)

昭和二年十一月三十日
陸軍省令第二十八號

改正略ス

第一章 總則

第三條 兵役法施行規則第三編(中略)第五章ノ規定ハ武官ニ之ヲ準用ス但シ將校同相當官准士官ニシテ陸軍武官服役令第十四條ニ規定スル申告ヲ書面ヲ以テ爲ス者ハ該申告ヲ以テ兵役法施行規則第六十四條第一項ニ規定スル外國旅行(在留)届ニ代フルコトヲ得

外國人入國ニ關スル件

大正七年一月二十四日
內務省令第一號

改正 大正一〇年四月內務省令第一二號、一三年四月第一〇號
外國人入國ニ關スル件左ノ通定ム

(山梨警)

第一條 本邦ニ渡來スル外國人ニシテ左記各號ノ一ニ該當スト認ムル者ハ地方長官(東京府ニ於テハ警視)ニ於テ其ノ上陸ヲ禁止スルコトヲ得

一、旅券又ハ國籍證明書ヲ所持セザル者
二、帝國ノ利益ニ背反スル行動ヲ爲シ又ハ敵國ノ利便ヲ圖ル虞アル者
三、公安ヲ害シ又ハ風俗ヲ紊ル虞アル者
四、浮浪又ハ乞丐ノ常習アル者
五、各種傳染病患者其ノ他公衆衛生上危險ナル疾患アル者
六、心神喪失者心神耗弱者貧困者其ノ他救助ヲ要スヘキ虞アル者

前項第一號ノ旅券又ハ國籍證明書ハ本人ノ寫眞ヲ添附シタルモノニシテ本國官憲ノ發給ニ係リ且本邦上陸前一箇年以内ニ在外帝國大使又ハ在外帝國領事官ノ查證ヲ經タルモノニ限ル

第二條 帝國臣民ノ入國ニ關シ旅券又ハ國籍證明書ノ提示ヲ必要トセザル國ノ臣民又ハ人民ニ付テハ特ニ前條第一項第一號ノ規定ヲ其ノ旅券又ハ國籍證明書ニ當該國官憲ノ查證ヲ必要トセザル國ノ臣民又ハ人民ニ付テハ同條第二項中查證ニ關スル規定ヲ適用セザルコトヲ得

第三條 本邦ニ渡來スル外國人ハ當該警察官吏ノ請求ニ應ジ旅券又ハ國籍證明書ヲ提示シ及第一條第一項各號其ノ他必要ナル事項ノ調査ニ關スル推問ニ對シ眞實ナル陳述ヲ爲スヘシ

第四條 前條ニ違背シ又ハ他人ノ氏名ヲ記載シタル旅券又ハ國籍證明書ヲ使用シ若ハ虛偽ノ方法ニ依リ旅券又ハ國籍證明書ノ查證ヲ受ケタル者ハ地方長官ニ於テ上陸ヲ禁止シ又ハ帝國領土外ニ退去ヲ命スルコトヲ得

第五條 本令ノ規定ハ帝國ニ駐在スル外國大使大公使館員外國領事官領事館員並其ノ家族及外國政府ノ公務ヲ帶フル者ニ之ヲ適用セス帝國港灣ニ寄港スル外國船舶ノ乗組員ニ付亦同シ

附則

第四編 保安 第八章 外國渡航

第九章 銃砲火藥類及壓縮瓦斯液化

〔山梨警〕

瓦斯

●銃砲火藥類取締法

明治四十三年四月十三日
法律第五十三號

改正 大正六年七月法律第二號、一二年三月第二號
朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル銃砲火藥類取締法改正法律ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

銃砲火藥類取締法

第一條 銃砲ノ製造又ハ火藥類ノ製造、變形若ハ修理ハ其ノ營業者又ハ行政官廳ノ許可若ハ委託ヲ受ケタル者ニ非サレハ之ヲ爲スコトヲ得ス但シ理化學上ノ實驗、鳥獸ノ捕獲及驅除、射的練習等ノ用ニ供スル火藥類ニ付命令ヲ以テ別段ノ規定ヲ設ケタル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第二條 火藥、爆藥ノ製造ハ帝國臣民又ハ帝國臣民ノミヲ社員若ハ株主トスル會社ニ非サレハ之ヲ爲スコトヲ得ス但シ行政官廳ノ委託ヲ受ケタル場合、行政官廳ノ許可ヲ受ケ新規發明ニ係ル火藥、爆藥ヲ一定ノ期間試驗ノ爲製造スル場合又ハ前條但書ノ規定ニ該當スル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第三條 銃砲、火藥類ノ製造又ハ販賣ノ業ヲ營ムトスル者ハ行政官廳ノ許可ヲ受ケヘシ但シ製造業者カ其ノ製造シ又ハ加工シタル銃砲、火藥類ノ卸賣ヲ爲ス場合ハ此ノ限ニ在ラス

相續ニ依リ前項ノ營業ヲ繼續スル場合ハ許可ヲ受ケタルモノト看做ス

銃砲ノ修繕又ハ改造ノ業ヲ營ム者ハ銃砲製造業者ト看做シ火藥類ノ變形又ハ修理ノ業ヲ營ム者ハ火藥類製造業者ト看做ス

第四編 保安 第九章 銃砲火藥類及壓縮瓦斯液化瓦斯

第四條 行政官廳ハ銃砲販賣業者及火藥類販賣業者ノ道府縣ニ於ケル定員ヲ設ケルコトヲ得

製造業者及行政官廳ノ許可ヲ受ケ其ノ委託額以上ノ同種類ノ火藥類ヲ製造スル者ニシテ其ノ製造シ又ハ加工シタル銃砲、火藥類ノ販賣業ヲ兼ムルモノハ前項ノ定員ニ算入セス

第五條 銃砲、火藥類ノ製造、變形、修理又ハ販賣ニ關シ許可ヲ受ケタル者行政官廳ニ於テ指定シタル期間内ニ其ノ事業ヲ開始セス若ハ事業開始後一年以上其ノ事業ヲ休止シタルトキ又ハ法令ニ違反シタルトキ又ハ安寧秩序ヲ害スルノ虞アリト認ムルトキハ行政官廳ハ其ノ許可ヲ取消シ又ハ其ノ事業ヲ停止若ハ制限スルコトヲ得

第六條 軍用銃砲、火藥類ノ讓渡又ハ讓受ハ法令ニ特別ノ規定アル場合ヲ除クノ外其ノ製造若ハ販賣ノ業ヲ營ム者又ハ特ニ行政官廳ノ許可ヲ受ケタル者ニ非サレハ之ヲ爲スコトヲ得ス

第七條 銃砲、火藥類ハ之ヲ行商シ又ハ市場若ハ露店其ノ他屋外ニ於テ之ヲ販賣スルコトヲ得ス

第八條 銃砲、火藥類ノ輸出ハ其ノ製造若ハ販賣ノ業ヲ營ム者又ハ特ニ行政官廳ノ許可ヲ受ケタル者ニ非サレハ之ヲ爲スコトヲ得ス

第九條 銃砲、火藥類ノ輸入ハ行政官廳ノ委託ヲ受ケタル者若ハ其ノ販賣ノ業ヲ營ム者又ハ特ニ行政官廳ノ許可ヲ受ケタル者ニ非サレハ之ヲ爲スコトヲ得ス

第十條 行政官廳ハ何時ニテモ當該官吏ヲシテ銃砲、火藥類ノ製造所、貯藏所其ノ他銃砲、火藥類ヲ收蔵スルノ場所ニ臨檢シ又ハ銃砲、火藥類及之ヲ收蔵アルノ疑アル物件若ハ營業上ノ帳簿其ノ他ノ書類ヲ檢査モシムルコトヲ得

行政官廳ハ危害豫防ノ爲銃砲、火藥類ノ製造所若ハ火藥類ノ貯藏所ノ改築若ハ修繕ヲ命シ又ハ火藥類ニ關シ若ハ其ノ貯藏、運搬其ノ他ノ取扱ニ關シ取締上必要ナル處分ヲ爲スコトヲ得

第十一條 行政官廳ハ保安上、軍事上又ハ外交上必要アリト認ムル場合ニ

於テ銃砲、火藥類ノ輸出若ハ輸入ヲ禁止シ又ハ制限スルコトヲ得
第十二條 行政官廳ハ安事秩序ヲ保持スル爲必要アリト認ムルトキハ銃砲、火藥類ノ授受、運搬、携帶ヲ禁止シ又ハ制限スルコトヲ得
第十三條 前二條ノ場合ニ於テ行政官廳ハ銃砲、火藥類ノ假領置ヲ爲スコトヲ得

第十四條 左ノ事項ニ關シ必要ナル規定ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

- 一 本法ノ適用ヲ受ケヘキ銃砲、火藥類ノ範圍及新規發明ニ係ル火藥類ヲ一定ノ期間試驗ノ爲製造スル場合ヲ除クノ外行政官廳ノ許可ヲ受ケ又ハ營業トシテ製造、變形又ハ修理シ得ル普通火藥類ノ範圍
- 二 銃砲、火藥類ノ取引、授受、使用、運搬、貯藏其ノ他ノ取扱
- 三 銃砲、火藥類ノ取扱人及火藥類ノ作業主任者ニ關スル事項
- 四 銃砲、火藥類製造所及火藥類貯藏所ニ關スル事項
- 五 火藥類ヲ要スル工事又ハ工業ニ關スル事項
- 第十五條 本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ノ全部又ハ一部ハ命令ノ定ムル所ニ依リ銃砲、火藥類ニ非サル他ノ武器又ハ爆發發物物品ニ關シ之ヲ準用スルコトヲ得

本法ノ一部ヲ適用スルノ必要ナシト認ムル銃砲、火藥類ニ關シテハ命令ヲ以テ特別ノ規定ヲ設ケルコトヲ得

第十六條 第一條、第八條若ハ第九條ノ規定ニ違反シ、許可ヲ受ケスシテ第三條ノ營業ヲ爲シ又ハ第五條若ハ第十一條ノ規定ニ依ル命令ニ違反シタル者ハ二年以下ノ懲役若ハ禁錮又ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

第十七條 第九條ノ規定ニ違反シ又ハ第十一條ノ規定ニ依ル命令ニ違反シタル場合ニ於テハ未遂罪ヲ罰ス

第十八條 第十二條ノ規定ニ依ル命令ニ違反シタル者ハ一年以下ノ懲役若ハ禁錮又ハ三百圓以下ノ罰金ニ處ス

第十九條 第十條第二項ノ規定ニ依ル命令ニ違反シ又ハ第十條第一項若ハ

改正 大正六年勅令第一八四號、一二年第一七六號

朕權密顧問ノ諮詢ヲ經テ銃砲火藥類取締法施行規則ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

銃砲火藥類取締法施行規則

第一條 銃砲火藥類取締法ニ於テ銃砲ト稱スルハ軍用銃砲及非軍用銃砲ヲ謂フ

軍用銃砲トハ陸軍大臣又ハ海軍大臣ニ於テ軍用銃砲トシテ指定シタル銃砲及千米突以上ノ距離ニ有效ニ彈著スヘキ裝置ヲ有シ陸軍又ハ海軍ノ用ニ供シ得ヘキ銃砲ヲ謂ヒ非軍用銃砲トハ其ノ他ノ銃砲ヲ謂フ

第二條 銃砲火藥類取締法ニ於テ火藥類ト稱スルハ左ニ掲グル火藥、爆藥及火工品ヲ謂フ

- 一 火藥 硝酸鹽類ヲ主トスル有煙火藥、硝化纖維素ヲ主トスル無煙火藥又ハ硝化纖維素トナイトログリセリントノ結合物ヲ主トスル無煙火藥ノ類
 - 二 爆藥 雷酸鹽ノ類起爆ノ用途ニ供スル窒化物ノ類其ノ他ノ起爆劑、ナイトログリセリン及之ヲ主トスル爆發藥各種ダイナミト硝酸鹽、疊素酸鹽若ハ過鹽素酸鹽ヲ主トスル爆發藥又ハ爆發ノ用途ニ供スル棉火藥、芳香系列ノ硝化物 ナイトロベンジン、ナイトロナフサリン、トラナイトロメチル及之ヲ主トスル混和物ノ類
 - 三 火工品 實包、空包、藥筒、藥包、彈藥筒、火藥若ハ爆藥ヲ裝填シタル彈丸若ハ水雷、雷管、信管、爆管、門管、緩燃導火線一尺ノ燃秒以上ヲ要、速燃導火線又ハ煙火其ノ他火藥若ハ爆藥ヲ使用シタル火工品但シ玩具用普通火工品ヲ除ク
- 雷管又ハ信管ヲ裝置シタル導火線ハ雷管又ハ信管ト看做ス
- 第二條ノ二 新規發明ニ係ル火藥類ヲ一定ノ期間試驗ノ爲製造スル場合ヲ

第十三條ノ規定ニ依ル當該官吏ノ職務ノ執行ヲ拒ミ若ハ之ヲ妨ケタル者又ハ其ノ執行ニ際シ當該官吏ノ尋問ニ對シ答辯ヲ爲サス若ハ虛偽ノ陳述ヲ爲シタル者ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第十九條 第六條又ハ第七條ノ規定ニ違反シタル者ハ三百圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

第二十條 營業者又ハ行政官廳ノ許可ヲ受ケ銃砲、火藥類ニ關スル事業ヲ行フ者未成年者又ハ禁治產者ナルトキハ本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ依リ之ニ適用スヘキ罰則ハ之ヲ法定代理人ニ適用ス但シ營業ニ關シ成年者ト同一ノ能力ヲ有スル未成年者ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第二十一條 營業者又ハ行政官廳ノ許可ヲ受ケ銃砲、火藥類ニ關スル事業ヲ行フ者ハ其ノ代理人、戶主、家族、同居者、雇人其ノ他ノ從業者ニシテ其ノ營業又ハ事業ニ關シ本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ違反シタルトキハ自己ノ指揮ニ出テサルノ故ヲ以テ處罰ヲ免ルルコトヲ得ス

第二十二條 前二條ノ場合ニ於テハ罰金、科料又ハ沒收以外ノ刑ニ處スルコトヲ得ス

第二十三條 明治三十三年法律第五十二號ハ本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ依ル犯罪ニ之ヲ準用ス

附則 本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム(明治四十四年三月勅令第十五號ヲ以テ同年五月一日ヨリ施行)

刑法施行法第二十五條第一項中第一號ヲ削リ以下各號順次繰上ケ爆發物取締罰則ハ本法ノ爲其ノ效力ヲ妨ケラレルコトナシ

銃砲火藥類取締法施行規則

明治四十四年三月十一日(總務、陸、海、內、司法、農、林、商、工、務、省) 勅令第十六號

除クノ外行政官廳ノ許可ヲ受ケ又ハ營業トシテ製造、變形又ハ修理シ得ル普通火藥類ハ左ニ掲グルモノニ限ル

- 一 火藥 硝酸鹽類ヲ主トスル有煙火藥又ハ硝化纖維素ヲ主トスル無煙火藥
 - 二 爆藥 雷酸鹽ノ類 ナイトログリセリン及之ヲ主トスル爆發藥各種ダイナミト硝酸鹽、疊素酸鹽ヲ主トスル爆發藥、爆發ノ用途ニ供スル棉火藥、芳香系列ノ硝化物 ナイトロベンジン、ナイトロメチル、ヒクリン酸及ナフサリン、ナイトロトリニール、ナイトロメチル、アニリンノ類 及之ヲ主トスル混和物又ハ煙火原料用爆藥
 - 三 火工品全部
- 第二條ノ三 左ニ掲グル場合ニ於テハ行政官廳ノ許可ハ之ヲ受クルコトヲ要セス
- 一 理化學上ノ實驗トシテ少量ノ火藥類ヲ製造、變形又ハ修理スル場合
 - 二 乙種狩獵免許ノ下付ヲ受ケタル者又ハ學術研究若ハ有害鳥獸驅除ノ爲銃器ヲ使用シテ鳥獸ヲ捕獲スルノ許可ヲ受ケタル者其ノ所要ノ銃用實包一日百箇以內ヲ製造スル場合
 - 三 有害鳥獸驅除ノ爲銃用空包發射ノ許可ヲ受ケタル者其ノ所要ノ銃用空包一日百箇以內ヲ製造スル場合
 - 四 射的ノ練習又ハ競技ノ爲成年者タル練習者、競技者又ハ射的場ノ職員力射の場内ニ於テ練習者又ハ競技者一人ニ付其ノ所要ノ非軍用銃用實包又ハ狹窄射擊用銃用實包一日三十箇以內ヲ製造スル場合
 - 五 學校ノ發火演習ニ際シ其ノ職員力校内ニ於テ學生又ハ生徒一人ニ付其ノ所要ノ銃用空包三十箇以內ヲ製造スル場合
 - 六 學校ノ運動會又ハ競技會ニ際シ其ノ職員力校内ニ於テ其ノ所要ノ銃用空包二百箇以內ヲ製造スル場合

第三條 銃砲火藥類取締法又ハ本令ニ於テ軍用火藥類ト稱スルハ專ラ陸軍又ハ海軍ノ用ニ供スル火藥類ヲ謂ヒ普通火藥類ト稱スルハ其ノ他ノ用ニ供スル火藥類ヲ謂フ

第四條 銃砲ノ製造又ハ火藥類ノ製造、變形若ハ修理ニ付行政官廳ノ委託ヲ受ケタル者ハ事業開始前製造スヘキ銃砲又ハ製造若ハ變形修理スヘキ火藥類ノ種類、數量、委託ノ年月日、委託ノ條件及委託官廳名ヲ其ノ官廳ノ證明書ヲ添付シテ作業地廳府縣長官ニ届出シヘシ

第五條 軍用銃砲又ハ火藥若ハ爆藥ノ製造ノ許可ハ作業地廳府縣長官ヲ經由シ陸軍ノ用ニ供スル銃砲火藥類ニ付テハ内務大臣及陸軍大臣ニ、海軍ノ用ニ供スル銃砲火藥類ニ付テハ内務大臣及海軍大臣ニ、其ノ他ノ火藥類ニ付テハ内務大臣ニ之ヲ申請スヘシ

第六條 非軍用銃砲ノ製造、煙火原料用火藥若ハ爆藥ノ製造、火藥若ハ爆藥ノ變形修理又ハ火工品ノ製造若ハ變形修理ノ許可ハ作業地廳府縣長官ニ、銃砲火藥類ノ販賣營業ノ許可ハ作業地廳府縣長官ニ之ヲ申請スヘシ

第七條 行政官廳ノ許可ヲ受ケ又ハ營業トシテ銃砲火藥類ヲ製造又ハ變形修理スル者ハ其ノ事業ニ要スル設備ニ付許可ヲ爲シタル行政官廳又ハ其ノ委任ヲ受ケタル廳府縣長官ノ検査ヲ受ケルニ非サレハ之ヲ使用スルコトヲ得ス其ノ變更ニ付亦同シ

第八條 銃砲火藥類ノ製造又ハ變形修理ヲ委託スル場合ニ於テハ委託行政官廳ハ本令又ハ本令ニ基キテ發スル命令ニ定ムルモノノ外取締上必要ナル設備又ハ事項ヲ命スルコトヲ得

第九條 前二條ノ規定ハ危害豫防ニ關スル警察官ノ職權ヲ行使スルコトヲ妨ケス

第十條 第七條又ハ第八條ノ規定ニ依リ検査ヲ受ケタル設備又ハ許可ノ條件トシテ若ハ第八條ノ規定ニ依リ命令セラレタル事項ヲ變更セムトスル

ハ所轄廳府縣長官ニ之ヲ申請スヘシ

第十七條 左ノ各號ノ火藥類ノ讓渡及讓受ニ付テハ内務大臣ノ定メタル場合ニ限リ前條ノ區分ニ依リ警察官署ニ之ヲ申請スルコトヲ得

- 一 火藥 三貫以内
- 二 爆藥 一貫三百匁以内
- 三 工業用雷管 二千箇以内
- 四 信管 千箇以内
- 五 爆管 千箇以内
- 六 門管 千箇以内
- 七 導火線 五百間以内

第十八條 軍用銃砲又ハ左ノ各號ノ火藥類ノ讓渡及讓受ノ許可ハ所轄警察官署ニ之ヲ申請スヘシ

- 一 火藥 一貫三百匁以内
- 二 銃用實包 千箇以内
- 三 銃用空包 千箇以内
- 四 銃用實包又ハ銃用空包ニ要スル雷管又ハ雷管附藥莖 二千箇以内

第十九條 前條ノ許可ハ二月間其ノ效力ヲ有ス

第二十條 軍用銃砲又ハ火藥類ノ讓渡ハ公賣又ハ競賣法若ハ民事訴訟法ニ依リ競賣ノ場合ニ於テハ許可ヲ要セサルモノトス

第二十一條 鑛業法ニ依リ鑛物ノ試掘若ハ探掘ヲ爲ス者又ハ内務大臣ノ定ムル所ニ依リ工事若ハ工業ノ爲火藥類消費ノ許可ヲ受ケタル者カ其ノ消

者ハ許可又ハ委託ヲ爲シタル行政官廳ノ許可ヲ受ケヘシ

前項ノ許可申請ハ第五條ノ主務大臣ニ之ヲ爲ス場合ニ於テハ作業地廳府縣長官ヲ經由スヘシ

第十一條 銃砲火藥類取締法第三條ノ規定ニ依リ火藥類販賣業者ニ與フル許可ヲ分テテ甲乙ノ二種トス

甲種ノ許可ヲ受ケタル火藥類販賣業者ハ火藥類ニ關スル各種ノ商行爲ヲ爲スコトヲ得

乙種ノ許可ヲ受ケタル火藥類販賣業者ハ火藥類ヲ輸入シ之ヲ官廳又ハ火藥類販賣業者ニ賣渡スノ外火藥類ニ關スル他ノ商行爲ヲ爲スコトヲ得

第十二條 銃砲販賣業者及前條ノ火藥類販賣業者ノ道府縣ニ於ケル定員ハ内務大臣ニ之ヲ定ム

第十三條 火藥類販賣業者ハ火藥庫ヲ備フルコトヲ要ス

第十四條 火藥類販賣業者ノ火藥類取扱ハ火藥類取扱免狀ヲ有スル者ニ任スルコトヲ要ス一年間二千貫以上ノ火藥又ハ千貫以上ノ爆藥ヲ消費スル者ニ付亦同シ

前項ノ規定ハ火藥及爆藥ヲ共ニ消費スル場合ニ於テハ爆藥一貫ヲ火藥二貫ト看做シ合算シタル數量ニ付之ヲ適用シ消費ノ場所二箇以上アル場合ニ於テハ各消費場所ニ付之ヲ適用ス

第十五條 火藥類取扱免狀ニ關スル規定ハ内務大臣ニ之ヲ定ム

第十六條 火藥類ノ製造又ハ變形修理ヲ爲ス作業所ニハ火藥類ノ作業主任者ヲ置クコトヲ要ス

第十七條 火藥類讓渡ノ許可ハ所轄廳府縣長官ニ之ヲ申請スヘシ

第十八條 火藥類讓受ノ許可ハ消費地廳府縣長官ニ之ヲ申請スヘシ但シ消費地定マラス若ハ二箇所以上ニ互リ又ハ銃砲火藥類取締法施行區域外ニ係ル場合

費スル火藥類ヲ讓受ケル場合ニ於テハ第十七條各號ノ火藥類ニ限リ、許

獲免許ヲ受ケタル者カ其ノ消費スル火藥類ヲ讓受ケル場合ニ於テハ第十八條各號ノ火藥類ニ限リ行政官廳ノ許可ヲ要セサルモノトス

第二十二條 火藥類ハ左ニ掲ケル者カ其ノ火藥類ヲ所持スル場合ノ外之ヲ所持スルコトヲ得ス

- 一 火藥類販賣業者
- 二 火藥類製造業者又ハ委託若ハ許可ヲ受ケ火藥類ノ製造若ハ變形修理ヲ爲ス者
- 三 第十六條及第十七條ノ規定ニ依リ火藥類讓受ノ許可ヲ受ケタル者
- 四 前條ノ規定ニ依リ許可ヲ受ケスシテ火藥類ヲ讓受ケタル者
- 五 第二十三條ノ規定ニ依リ火藥類ノ輸入又ハ輸出ノ許可ヲ受ケタル者
- 六 運送業者
- 七 相續又ハ遺贈ニ因リ火藥類ノ所有權ヲ取得シタル者
- 八 法人ノ合併ニ因リ火藥類ノ所有權ヲ取得シタル者
- 九 前各號ニ掲ケル者ノ家族又ハ從業者

火藥類ヲ所持スル者廢業、許可ノ取消其ノ他ノ事由ニ因リ前項各號ニ該當セサルニ至リタルトキハ所轄警察官署ノ認可ヲ受ケ讓渡其ノ他必要ナル處分ヲ爲スヘシ

前二項ノ規定ハ第十八條各號ノ火藥類ニ之ヲ適用セス

第二十三條 銃砲火藥類取締法第八條ノ許可ハ輸出港、同法第九條ノ許可ハ輸入港ヲ管轄スル廳府縣長官ニ之ヲ申請スヘシ

前項ノ許可ハ軍用銃砲及軍用火藥類ニ付テハ輸出港又ハ輸入港ヲ管轄スル廳府縣長官ヲ經由シ陸軍ノ用ニ供スルモノニ付テハ内務大臣及陸軍大臣ニ、海軍ノ用ニ供スルモノニ付テハ内務大臣及海軍大臣ニ之ヲ申請スヘシ

第二十四條 前條ノ許可ハ一年間其ノ效力ヲ有ス但シ許可ヲ爲シタル行政

官廳取締上必要ト認ムルトキハ何時ニテモ之ヲ取消スコトヲ得

第二十五條 輸入又ハ譲受ノ許可ヲ受ケタル火藥類ハ其ノ許可ヲ爲シタル行政官廳、第二十一條ノ規定ニ依リ許可ヲ受ケスシテ譲受ケタル火藥類ハ所轄警察官署ノ許可ヲ受ケルニ非サレハ之ヲ他ノ用途ニ充ツルコトヲ得ス

第二十六條 銃砲火藥類取締法第十一條ノ規定ニ依リ銃砲火藥類ノ輸出若ハ輸入ノ禁止又ハ制限ハ内務大臣之ヲ行フ但シ陸軍ノ用ニ供スルモノニ付テハ内務大臣及陸軍大臣、海軍ノ用ニ供スルモノニ付テハ内務大臣及海軍大臣之ヲ行フ

第二十七條 火藥類ハ第十八條各號ノ一ニ該當スルモノ及左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ヲ除ク外火藥庫又ハ倉庫以外ノ場所ニ貯藏スルコトヲ得ス

一 土工其ノ他一時ノ事業ニ要スル火藥類ヲ其ノ事業中假貯藏所ニ貯藏スル場合
二 一月以内ニ完了スヘキ土工其ノ他ノ事業ニ要スル火藥類ニシテ第七條各號ノ一ニ該當スルモノヲ其ノ事業中十日以内ヲ限リ所轄警察官署ノ許可ヲ受ケ其ノ指定シタル安全ノ場所ニ貯藏スル場合
三 火藥ヲ裝填セサル雷管附藥莖ヲ安全ナル場所ニ貯藏スル場合

第二十八條 火藥類貯藏所ニ貯藏スル火藥類ハ左ノ數量ヲ超過スルコトヲ得ス

火藥類ノ種類	貯藏所ノ種類	
	火藥庫	倉庫
火藥	一萬貫	十二貫
爆藥	五千貫	二千五百貫
銃用實包	二千萬箇	三萬箇
		千萬箇

前項ニ掲ケサル火工品ハ其ノ原料タル火藥又ハ爆藥ノ數量ニ依リ前項ノ規定ヲ適用ス但シ雷管附藥莖及導火線ハ此ノ限ニ在ラス

第二十九條 内務大臣ハ安全ナル位置ニ於テ特別ノ設備ヲ爲シタル火藥庫ニ付危險ノ虞ナシト認ムル程度ニ於テ前條ノ數量ヲ超過スル火藥類ノ貯藏ヲ許可スルコトヲ得

第三十條 火藥類ノ製造又ハ變形修理ヲ爲ス作業所ニ存置シ得ヘキ火藥類ノ數量ハ其ノ設備ニ應ジ製造若ハ變形修理ヲ委託若ハ許可シ又ハ其ノ營業ヲ許可シタル行政官廳之ヲ指定ス

第三十一條 火藥類ハ内務大臣ノ定ムル區別ニ依リ各別棟ノ火藥類貯藏所ニ貯藏スヘシ但シ倉庫ニ在リテハ不燃質物ヲ以テ造リタル隔壁ニ依リ遮斷スル場合ニ於テハ此ノ限ニ在ラス

第三十二條 火藥類貯藏所ノ新設ハ所在地廳府縣長官ノ許可ヲ受ケヘシ其ノ増築、改築、修繕又ハ模様若ノ工事ヲ爲ストキ亦同シ

工事ヲ竣リタル火藥類貯藏所ハ警察官ノ検査ヲ受ケルニ非サレハ之ヲ使用スルコトヲ得ス

第三十三條 第二十八條ノ規定ニ依リ火藥類貯藏所ニ貯藏スルコトヲ得ヘキ最大數量ノ火藥類ノ貯藏ニ付テハ倉庫ヲ除ク外其ノ外壁ヨリ左ノ距離ヲ保有スヘシ

一 宮城、離宮、御用邸又ハ神宮ハ二十町以上

銃用空包	二千萬箇	三萬箇	千萬箇
銃用雷管	五千萬箇	十萬箇	五百萬箇
工業用雷管	三百萬箇	一萬箇	三十萬箇
信管、爆管、門管	無制限	三萬箇	無制限

二 皇陵、社寺、學校、公園、電氣瓦斯若ハ石油ノ工場、電力若ハ火力ヲ使用スル工場、發火質物ヲ蓄積スル場所、鐵道、軌道、汽船ノ常航路若ハ繫留所又ハ市街地ハ四町以上

三 宅地、國道、縣道、電線、瓦斯ノ傳導管、火ヲ取扱フ場所、蓄積シタル燃焼物其ノ他内務大臣ノ指定シタル箇所ハ五十間以上

前項ノ距離ハ貯藏數量ノ増減ニ從ヒ貯藏數量ノ平方根ニ比例シテ之ヲ増減ス但シ各距離ノ五分ノ一ヲ下ルコトヲ得ス

倉庫ハ其ノ外壁ノ周圍ニ一間以上ノ空地ヲ保有スヘシ但シ貯藏數量ヲ減少シ特ニ廳府縣長官ノ許可ヲ受ケタル場合ハ此ノ限ニ在ラス

廳府縣長官ハ必要ト認ムルトキハ假貯藏所ニ付第一項及第二項ノ規定ニ依リ距離以上ニ於テ特ニ其ノ距離ヲ指定スルコトヲ得

火藥類貯藏所相互ノ距離ニ付テハ本條ノ規定ヲ適用セス

第三十四條 内務大臣ハ天然又ハ人造ノ掩體ノ狀態其ノ他土地又ハ設備ノ狀況ニ依リ危險ノ虞ナシト認ムル程度ニ於テ前條ニ定ムル距離ノ減少ヲ許可スルコトヲ得

第三十五條 第二十九條及前條ノ許可ハ狀況ノ變更ニ依リ何時ニテモ之ヲ取消スコトヲ得

第三十六條 第二十八條ノ規定ニ依リ倉庫ニ貯藏スルコトヲ得ヘキ數量ヲ超過スル火藥類ノ所轄警察官署ノ許可ヲ受ケルニ非サレハ同時ニ之ヲ運搬スルコトヲ得ス

第三十七條 火藥類ハ他ノ物件ト混包シ又ハ變裝若ハ假裝シテ之ヲ所持、運搬又ハ託送スルコトヲ得ス

前項ノ物件ヲ發見シタル者ハ直ニ警察官ニ之ヲ届出ツヘシ

第三十八條 地盤又ハ物件ヲ破碎スルノ目的ヲ以テ火藥又ハ爆藥ヲ使用セムトスル者ハ使用地警察官署ノ許可ヲ受ケヘシ但シ内務大臣カ特ニ定ムル場合又ハ鑛業法ニ依リ鑛物ノ試掘若ハ探掘ニ關シテハ此ノ限ニ在ラス

第三十九條 拳銃、短銃又ハ仕込銃ハ職務又ハ銃砲ニ關スル營業ノ爲ニスル場合ヲ除ク外所轄警察官署ノ許可ヲ受ケルニ非サレハ之ヲ授受、運搬又ハ携帶スルコトヲ得ス

前項ノ規定ハ仕込刀劊其ノ他變裝シタル武器ニ之ヲ準用ス

第四十條 拳銃、短銃又ハ仕込銃ハ業務又ハ修學ノ爲ニスル場合ヲ除ク外未成年者之ヲ所持シ又ハ未成年者ヲシテ之ヲ所持セシムルコトヲ得ス

前項ノ規定ハ仕込刀劊其ノ他ノ武器ニ之ヲ準用ス

第四十一條 火藥類ノ運搬、所持其ノ他ノ取扱ハ未成年者之ヲ爲シ又ハ未成年者、白痴者若ハ瘋癲者ヲシテ之ヲ爲サシムルコトヲ得ス但シ第十八條各號ノ火藥類ニ付テハ十五歳以上ノ者ニ限リ之ヲ爲シ又ハ之ヲ爲サシムルコトヲ得

第四十二條 營業者ハ許可ヲ受ケサル者ニ銃砲火藥類又ハ第三十九條ノ武器ヲ讓渡スコトヲ得ス但シ讓受ニ付許可ヲ要セサル場合及銃砲火藥類取締法施行區域外ニ居住スル者ニシテ當該行政官廳ニ依リ移入ノ許可ヲ受ケタルモノニ對シ銃砲火藥類ヲ移出讓渡スル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第四十三條 試驗ノ結果不良品ト認定セラレタル火藥類ハ内務大臣ノ定ムル所ニ依リ其ノ所持者ニ於テ直ニ必要ナル處置ヲ爲スヘシ

第四十四條 第十一條乃至第十五條、第二十二條、第二十七條、第二十九條及第三十一條乃至第三十六條ノ規定ハ緩燃導火線ニ之ヲ適用セス

銃砲火藥類取締法第六條、第八條及第九條並本令第十一條乃至第十五條、第二十二條、第二十七條乃至第二十九條及第三十一條乃至第三十六條ノ規定ハ煙火及通信大臣カ船舶備付用ノ爲テ指定シタル煙火類似ノ火工品ニ之ヲ適用セス

緩燃導火線及煙火ニ付必要ナル規定ハ廳府縣長官之ヲ定ム

第二項ノ船舶備付用火工品ニ付必要ナル規定ハ通信大臣之ヲ定ム

第四十五條 第七條、第八條第二項、第十條第一項、第十三條、第十四條、第十五條ノ二第一項、第二十二條、第二十五條、第二十七條、第二十八條、第三十一條、第三十二條、第三十六條、第三十七條第一項、第三十八條、第四十二條及第四十三條ノ規定ニ違反シタル者、第三十三條ノ規定ニ違反シ又ハ本令ニ依リ許可若ハ指定ノ範圍ヲ超テテ火藥類ヲ貯藏シタル者並本令ニ基キテ發スル内務大臣ノ命令ノ規定ニ適合セザル火藥類貯藏所ニ火藥類ヲ貯藏シタル者ハ一年以下ノ懲役又ハ二百圓以下ノ罰金ニ處ス

第四十六條 第三十九條乃至第四十一條ノ規定ニ違反シタル者ハ三月以下ノ懲役若ハ五十圓以下ノ罰金又ハ拘留若ハ科料ニ處ス

第四十七條 第四條又ハ第三十七條第二項ノ規定ニ違反シタル者ハ五十圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

第四十八條 銃砲火藥類取締法第十條乃至第十三條及第十六條乃至第十八條ノ規定ハ銃砲火藥類ニ非サル他ノ武器及爆發物ニ之ヲ準用ス

第四十九條 公賣又ハ競賣法若ハ民事訴訟法ニ依リ競賣ヲ爲ス者ハ銃砲火藥類取締法及本令ノ適用ニ付テハ之ヲ讓渡人ト看做ス

第五十條 左ノ事項ハ内務大臣之ヲ定ム但シ鐵道ニ依リ輸送ニ關スル事項ハ鐵道大臣、郵便及船舶ニ依リ輸送及船舶ニ於ケル常用火藥類ノ貯藏ニ關スル事項ハ通信大臣之ヲ定ム

一 火藥類ノ貯藏、收納、荷造其ノ他ノ取扱ノ方法及制限

二 第四十三條ノ規定ニ依リ火藥類試驗及不良品處置方法

三 火藥類運搬ノ方法及制限

四 火藥類作業所及火藥類貯藏所ノ設備

五 火藥類作業所及火藥類貯藏所ニ於テ遵守スヘキ事項

第五十一條 前條ノ規定ニ依リ命令ハ鑛業法第七十一條ノ規定ニ依リ農商

務大臣ノ發スル命令ノ效力ヲ妨クルコトナシ

附則 本令ハ明治四十四年五月一日ヨリ之ヲ施行ス但シ第十三條及第十四條ノ規定ハ仍二年前之ヲ適用セス

本令施行前火藥商又ハ甲種火藥商ノ許可ヲ受ケタル者ハ甲種火藥類販賣業者、輸入及卸賣ノ營業ニ限リ許可ヲ受ケタル者又ハ乙種火藥商ノ許可ヲ受ケタル者ハ乙種火藥類販賣業者トシテ各其ノ許可ヲ受ケタルモノト看做ス

本令施行ノ際本令又ハ本令ニ基キテ發スル命令ノ規定ニ適合セザル火藥類貯藏所ハ所在地廳府縣長官ノ指定シタル期間ニ於テ之ヲ改造スヘシ

銃砲火藥類取締法施行細則

明治四十四年三月十一日 內務省令第二號

改正 大正三年內務省令第二六號、六年第一六號、一二年第一一號

銃砲火藥類取締法施行細則

第一條 銃砲ノ製造又ハ其ノ營業ノ許可申請書ニハ住所、氏名、年齢、職業、住所、氏名、定款、社員若ハ株主ノ名簿、製作ノ目的、製品ノ種類、其ノ細密圖及説明、一定ノ期間内ニ製作スヘキ豫定數量、製作ノ方法及手續、作業所ノ位置、設備、職工其ノ地ノ勞務者ノ取締ニ關スル規定、試驗射撃ヲ爲ス場合ニ於ケル危害豫防ノ爲メニ設備スヘキ事項、所要火藥類ノ調達及貯藏ノ方法ヲ具スルコトヲ要ス

銃砲販賣營業ノ許可申請書ニハ住所、氏名、年齢、職業、住所、氏名、定款、社員若ハ株主ノ名簿、販賣所及貯藏所ノ位置ヲ具スルコトヲ要ス

第二條 火藥類ノ製造若ハ變形修理又ハ其ノ營業ノ許可申請書ニハ住所、氏名、年齢、職業、住所、氏名、定款、社員若ハ株主ノ名簿、製作ノ目的、製品ノ種類及説明、一定ノ期間内ニ製作スヘキ豫定數量、作業主任者ノ氏名及履歷、製作ノ方法及手續、作業所ノ位置、設備及其ノ附近ノ狀況、職工其ノ他ノ勞務者ノ最大員數及其ノ取締ニ關スル規定、試驗爆發ヲ爲ス場合ニ於ケル危害豫防ノ爲メニ設備スヘキ事項、所要火藥類ノ調達及貯藏ノ方法、作業所ニ同時ニ置クヘキ火藥類又ハ其ノ原料若ハ半成品ノ種類、員數ノ最大限、其ノ他危害豫防ノ爲メニ規定スヘキ事項ヲ具スルコトヲ要ス

火藥類販賣營業ノ許可申請書ニハ住所、氏名、年齢、職業、住所、氏名、定款、社員若ハ株主ノ名簿、販賣所ノ位置、設備ヲ具スルコトヲ要ス

第二條ノ二 銃砲ノ製造又ハ火藥類ノ製造若ハ變形修理又ハ其ノ營業ノ許可申請書ニハ住所、氏名、年齢、職業、住所、氏名、定款、社員若ハ株主ノ名簿、製作ノ目的、製品ノ種類及説明、一定ノ期間内ニ製作スヘキ豫定數量、製品ノ種類、其ノ細密圖及説明、一定ノ期間内ニ製作スヘキ豫定數量、製作ノ方法及手續、作業所ノ位置、設備、職工其ノ地ノ勞務者ノ取締ニ關スル規定、試驗射撃ヲ爲ス場合ニ於ケル危害豫防ノ爲メニ設備スヘキ事項、所要火藥類ノ調達及貯藏ノ方法、作業所ニ同時ニ置クヘキ火藥類又ハ其ノ原料若ハ半成品ノ種類、員數ノ最大限、其ノ他危害豫防ノ爲メニ規定スヘキ事項ヲ具スルコトヲ要ス

第三條 銃砲火藥類製造業者其ノ製造シ又ハ加工シタル銃砲火藥類ノ卸賣ヲ爲ストキハ其ノ事業開始前販賣所ノ位置、設備ヲ營業地ノ廳府縣長官ニ届出ツヘシ

相續ニ依リ銃砲火藥類ノ製造又ハ販賣ノ營業ヲ承繼シタル者ハ十日以内ニ其ノ營業ノ許可ヲ爲シタル行政官廳ニ之ヲ届出ツヘシ

第四條 火藥類取扱免狀ハ甲乙ノ二種トシ左ノ資格ヲ有スル者ニ限リ本人ノ申請ニ依リ廳府縣長官銜ノ上之ヲ交付ス

甲種 一 實業學校令ニ依リ甲種實業學校又ハ之ト同等以上ノ學校其ノ他内務

大臣ノ指定シタル學校ニ於テ火藥類ニ關スル學科ヲ修得シ五月以上直接火藥類ノ取扱ニ干與シタルノ履歷ヲ有スル者

二 陸軍工科學校ニ於テ火工術ヲ專修シタル者

三 陸軍又ハ海軍ニ於テ火藥類ノ取扱ヲ爲スニ充分ナル技能ヲ有スルノ證明書ヲ付與シタル者

四 別ニ定ムル規定ニ依リ試驗ヲ受ケ合格シタル者

乙種 一 五月以上直接火藥類ノ取扱ニ干與シタルノ履歷ヲ有スル者

第五條 一年間五千貫以上ノ火藥又ハ二千五百貫以上ノ爆發物ヲ取扱フ場合ニ於テハ甲種火藥類取扱免狀ヲ有スル者其ノ取扱ニ任スルコトヲ要ス

火藥及爆發物共ニ取扱フ場合ニ於テ前項ノ規定ノ適用ニ付テハ爆發物一貫ヲ火藥二貫ト看做ス

第六條 火藥類取扱人ヲ定メタルトキハ其ノ氏名、履歷及火藥類取扱免狀ノ種別ヲ具シ火藥類販賣業者ニ在テハ營業地、其ノ消費者ニ在テハ消費地警察官署ニ之ヲ届出ツヘシ但シ消費地定マラス若ハ二箇所以上ニ互リ又ハ銃砲火藥類取締法施行區域外ニ係ル場合ハ所轄警察官署ニ之ヲ届出ツヘシ

第六條ノ二 火藥類作業主任者免狀ハ甲乙丙ノ三種トシ左ノ資格ヲ有スル者ニ限リ本人ノ申請ニ依リ甲種及乙種火藥類作業主任者免狀ハ内務大臣、丙種火藥類作業主任者免狀ハ廳府縣長官銜ノ上之ヲ交付ス

甲種 一 火藥學ニ關シ工學博士ノ學位ヲ有シ又ハ帝國大學ニ於ケル火藥學科專修ノ卒業證書ヲ有シ火藥類製造ノ經驗アル者

二 陸軍又ハ海軍ノ火藥類製造所ニ於テ三年以上火藥類製造ノ實務ニ從事シ當該製造所長又ハ技術上ノ首長ノ地位ニ在リタル者

三 高等工業學校又ハ之ト同等以上ノ學校ニ於ケル化學ニ關スル學科專

一 修ノ卒業證書ヲ有シ乙種火藥類作業主任者免狀ヲ受ケタル後火藥類製造所ニ於テ三年以上火藥類製造ノ實務ニ從事シタル者

二 高等工業學校又ハ之ト同等以上ノ學校ニ於ケル化學ニ關スル學科專修ノ卒業證書ヲ有シ火藥類製造ノ經驗アル者

三 陸軍又ハ海軍ノ火藥類製造所ニ於テ三年以上火藥類製造ノ實務ニ從事シ所屬長官ニ於テ火藥類製造ニ充分ナル技能ヲ有スルノ證明書ヲ付與シタル者

四 實業學校令ニ依ル甲種實業學校其ノ他内務大臣ノ指定シタル學校ニ於ケル化學ニ關スル學科專修ノ卒業證書ヲ有シ三年以上火藥類製造ノ實務ニ從事シタル者

五 別ニ定ムル規定ニ依リ試驗ヲ受ケ合格シタル者

六 實業學校令ニ依ル甲種實業學校又ハ之ト同等以上ノ學校其ノ他内務大臣ノ指定シタル學校ニ於ケル化學ニ關スル學科ヲ修得シ一年以上火工品ノ製造ノ實務ニ從事シタル者

七 陸軍又ハ海軍ニ於テ火工品製造ニ充分ナル技能ヲ有スルノ證明書ヲ付與シタル者

八 別ニ定ムル規定ニ依リ試驗ヲ受ケ合格シタル者

九 本令公布ノ際現ニ作業主任者タル者ニシテ相當ノ技能ヲ有スル者

十 火藥類ノ製造又ハ變形修理ヲ爲ス作業所ニハ左ノ免狀ヲ有スル火藥類作業主任者ヲ置クコトヲ要ス

十一 火藥、爆藥ノ製造數量一日二十五貫以上ノ作業所ニハ甲種火藥、爆藥ノ製造數量一日二十五貫未滿ノ作業所及火藥、爆藥ノ變形修理ノ數量又ハ火工品ノ製造若ハ變形修理ノ爲火藥、爆藥ヲ使用

十二 許可申請書ニ具スヘキ火藥類ノ數量ハ一年ヨリ長カラサル一定ノ期間ニ於ケル需用ノ數量ヲ以テスルコトヲ得

十三 銃砲火藥類取締法施行規則第二十二條第二項ノ規定ニ依リ認可申請書ニハ處分スヘキ火藥類ノ種類、數量、處分ノ方法及事由ヲ具スルコトヲ要ス

十四 工、農、漁業用、船内銃砲用又ハ煙火製造用其ノ他工業用ニ充ツル火藥類ニ付テハ銃砲火藥類取締法施行規則第十七條ニ適用ス

十五 銃砲火藥類取締法施行規則第二十一條ノ規定ニ依リ工事若ハ工業ノ爲火藥類ヲ消費スルノ許可ハ所轄府縣長官ニ之ヲ申請スヘシ

十六 前項ノ許可申請書ニハ工事又ハ工業ノ種類、所要火藥類ノ種類、數量及其ノ使用ノ方法ヲ具スルコトヲ要ス

十七 行政官廳軍用銃砲火藥類ノ讓渡、讓受又ハ運搬ノ許可若ハ銃砲火藥類取締法施行規則第二十二條第二項ノ規定ニ依リ火藥類讓渡ノ認可又ハ拳銃、短銃、仕込銃ノ授受、運搬、携帯ノ許可ヲ爲ストキハ許可證又ハ認可證ヲ交付スルモノトス

十八 銃砲火藥類取締法施行規則第十六條及第十七條ノ規定ニ依リ火藥類讓受許可證ハ第二十一條第二項ニ定メタル記入ノ餘白ナキニ至リタルトキハ之ヲ返納シテ新許可證ノ交付ヲ申請スルコトヲ得

十九 本條ノ許可證又ハ認可證ハ甲號乃至己號樣式ニ依ルモノトス

二十 前條ノ許可證ハ許可力取消サレ又ハ其ノ效力ヲ失ヒタルトキハ十日以内ニ所轄警察官署ニ之ヲ返納スヘシ

二十一 軍用銃砲、拳銃、短銃、仕込銃、火藥類又ハ第十七條ノ許可證、認可證ヲ喪失シ、盜取セラレ又ハ其ノ所在不明トナリタルトキハ本人又ハ其ノ事實ヲ知りタル者ニ於テ其ノ事實ヲ知りタル時ヨリ二十四時間以内ニ銃砲火藥類ノ種類、數量又ハ許可證、認可證ノ種類、之ヲ下付シタ

二十二 消費スル數量一日二十五貫未滿ニ在リ、以上ノ作業所ニハ乙種煙火原料用火藥、爆藥ノ製造數量一日二貫未滿ノ作業所及火藥、爆藥ノ變形修理ノ數量又ハ火工品ノ製造若ハ變形修理ノ爲火藥、爆藥ヲ使用消費スル數量一日二十五貫未滿ニ在リテノ作業所ニハ丙種

二十三 第六條ノ四 内務大臣ハ保安上必要ト認ムル場合ニ於テハ甲種及乙種火藥類作業主任者ノ變更ヲ命ジ若ハ其ノ免狀ノ返納ヲ命スルコトアルヘシ

二十四 府縣長官ハ火藥類取扱人及丙種火藥類作業主任者ニ付亦同シ

二十五 第七條 銃砲火藥類製造業者又ハ販賣業者ハ其ノ製造又ハ取引シタル銃砲火藥類ノ種類、數量、製造又ハ取引ノ年月日及讓渡人並注文人、讓受人ノ住所氏名、法人ニ在テハ其ノ商號、事務所所在地其ノ他必要ノ事項ヲ帳簿ニ記載スヘシ

二十六 軍用銃砲、拳銃、短銃及仕込銃ヲ讓渡シ若ハ讓受ケ又ハ火藥類ヲ銃砲火藥類取締法施行規則第十六條及第十七條ノ規定ニ依リ讓受ノ許可ヲ受ケタル者又ハ同施行規則第二十一條ノ規定ニ依リ讓受ノ許可ヲ受ケタル者ニ讓渡シ又ハ同施行規則第十六條及第十七條ノ規定ニ依リ讓渡ノ許可ヲ受ケタル者又ハ同施行規則第二十條ノ規定ニ依リ讓渡ノ許可ヲ受ケタル者ヨリ讓受ケタルトキハ前項ニ掲ケタル事項ノ外讓受人又ハ讓渡人ノ讓受又ハ讓渡ノ事由ヲ記載スヘシ

一 許可申請書ニ具スヘキ火藥類ノ數量ハ一年ヨリ長カラサル一定ノ期間ニ於ケル需用ノ數量ヲ以テスルコトヲ得

二 銃砲火藥類取締法施行規則第二十二條第二項ノ規定ニ依リ認可申請書ニハ處分スヘキ火藥類ノ種類、數量、處分ノ方法及事由ヲ具スルコトヲ要ス

三 工、農、漁業用、船内銃砲用又ハ煙火製造用其ノ他工業用ニ充ツル火藥類ニ付テハ銃砲火藥類取締法施行規則第十七條ニ適用ス

四 銃砲火藥類取締法施行規則第二十一條ノ規定ニ依リ工事若ハ工業ノ爲火藥類ヲ消費スルノ許可ハ所轄府縣長官ニ之ヲ申請スヘシ

五 前項ノ許可申請書ニハ工事又ハ工業ノ種類、所要火藥類ノ種類、數量及其ノ使用ノ方法ヲ具スルコトヲ要ス

六 行政官廳軍用銃砲火藥類ノ讓渡、讓受又ハ運搬ノ許可若ハ銃砲火藥類取締法施行規則第二十二條第二項ノ規定ニ依リ火藥類讓渡ノ認可又ハ拳銃、短銃、仕込銃ノ授受、運搬、携帯ノ許可ヲ爲ストキハ許可證又ハ認可證ヲ交付スルモノトス

七 銃砲火藥類取締法施行規則第十六條及第十七條ノ規定ニ依リ火藥類讓受許可證ハ第二十一條第二項ニ定メタル記入ノ餘白ナキニ至リタルトキハ之ヲ返納シテ新許可證ノ交付ヲ申請スルコトヲ得

八 本條ノ許可證又ハ認可證ハ甲號乃至己號樣式ニ依ルモノトス

九 前條ノ許可證ハ許可力取消サレ又ハ其ノ效力ヲ失ヒタルトキハ十日以内ニ所轄警察官署ニ之ヲ返納スヘシ

十 軍用銃砲、拳銃、短銃、仕込銃、火藥類又ハ第十七條ノ許可證、認可證ヲ喪失シ、盜取セラレ又ハ其ノ所在不明トナリタルトキハ本人又ハ其ノ事實ヲ知りタル者ニ於テ其ノ事實ヲ知りタル時ヨリ二十四時間以内ニ銃砲火藥類ノ種類、數量又ハ許可證、認可證ノ種類、之ヲ下付シタ

十一 消費スル數量一日二十五貫未滿ニ在リ、以上ノ作業所ニハ乙種煙火原料用火藥、爆藥ノ製造數量一日二貫未滿ノ作業所及火藥、爆藥ノ變形修理ノ數量又ハ火工品ノ製造若ハ變形修理ノ爲火藥、爆藥ヲ使用消費スル數量一日二十五貫未滿ニ在リテノ作業所ニハ丙種

十二 第六條ノ四 内務大臣ハ保安上必要ト認ムル場合ニ於テハ甲種及乙種火藥類作業主任者ノ變更ヲ命ジ若ハ其ノ免狀ノ返納ヲ命スルコトアルヘシ

十三 府縣長官ハ火藥類取扱人及丙種火藥類作業主任者ニ付亦同シ

十四 第七條 銃砲火藥類製造業者又ハ販賣業者ハ其ノ製造又ハ取引シタル銃砲火藥類ノ種類、數量、製造又ハ取引ノ年月日及讓渡人並注文人、讓受人ノ住所氏名、法人ニ在テハ其ノ商號、事務所所在地其ノ他必要ノ事項ヲ帳簿ニ記載スヘシ

十五 軍用銃砲、拳銃、短銃及仕込銃ヲ讓渡シ若ハ讓受ケ又ハ火藥類ヲ銃砲火藥類取締法施行規則第十六條及第十七條ノ規定ニ依リ讓受ノ許可ヲ受ケタル者又ハ同施行規則第二十一條ノ規定ニ依リ讓受ノ許可ヲ受ケタル者ニ讓渡シ又ハ同施行規則第十六條及第十七條ノ規定ニ依リ讓渡ノ許可ヲ受ケタル者又ハ同施行規則第二十條ノ規定ニ依リ讓渡ノ許可ヲ受ケタル者ヨリ讓受ケタルトキハ前項ニ掲ケタル事項ノ外讓受人又ハ讓渡人ノ讓受又ハ讓渡ノ事由ヲ記載スヘシ

十六 許可申請書ニ具スヘキ火藥類ノ數量ハ一年ヨリ長カラサル一定ノ期間ニ於ケル需用ノ數量ヲ以テスルコトヲ得

十七 銃砲火藥類取締法施行規則第二十二條第二項ノ規定ニ依リ認可申請書ニハ處分スヘキ火藥類ノ種類、數量、處分ノ方法及事由ヲ具スルコトヲ要ス

十八 工、農、漁業用、船内銃砲用又ハ煙火製造用其ノ他工業用ニ充ツル火藥類ニ付テハ銃砲火藥類取締法施行規則第十七條ニ適用ス

十九 銃砲火藥類取締法施行規則第二十一條ノ規定ニ依リ工事若ハ工業ノ爲火藥類ヲ消費スルノ許可ハ所轄府縣長官ニ之ヲ申請スヘシ

二十 前項ノ許可申請書ニハ工事又ハ工業ノ種類、所要火藥類ノ種類、數量及其ノ使用ノ方法ヲ具スルコトヲ要ス

二十一 行政官廳軍用銃砲火藥類ノ讓渡、讓受又ハ運搬ノ許可若ハ銃砲火藥類取締法施行規則第二十二條第二項ノ規定ニ依リ火藥類讓渡ノ認可又ハ拳銃、短銃、仕込銃ノ授受、運搬、携帯ノ許可ヲ爲ストキハ許可證又ハ認可證ヲ交付スルモノトス

二十二 銃砲火藥類取締法施行規則第十六條及第十七條ノ規定ニ依リ火藥類讓受許可證ハ第二十一條第二項ニ定メタル記入ノ餘白ナキニ至リタルトキハ之ヲ返納シテ新許可證ノ交付ヲ申請スルコトヲ得

二十三 本條ノ許可證又ハ認可證ハ甲號乃至己號樣式ニ依ルモノトス

二十四 前條ノ許可證ハ許可力取消サレ又ハ其ノ效力ヲ失ヒタルトキハ十日以内ニ所轄警察官署ニ之ヲ返納スヘシ

二十五 軍用銃砲、拳銃、短銃、仕込銃、火藥類又ハ第十七條ノ許可證、認可證ヲ喪失シ、盜取セラレ又ハ其ノ所在不明トナリタルトキハ本人又ハ其ノ事實ヲ知りタル者ニ於テ其ノ事實ヲ知りタル時ヨリ二十四時間以内ニ銃砲火藥類ノ種類、數量又ハ許可證、認可證ノ種類、之ヲ下付シタ

二十六 消費スル數量一日二十五貫未滿ニ在リ、以上ノ作業所ニハ乙種煙火原料用火藥、爆藥ノ製造數量一日二貫未滿ノ作業所及火藥、爆藥ノ變形修理ノ數量又ハ火工品ノ製造若ハ變形修理ノ爲火藥、爆藥ヲ使用消費スル數量一日二十五貫未滿ニ在リテノ作業所ニハ丙種

ル官廳名ヲ最寄警察官ニ届出ツヘシ

第二十条 前條ノ届出ヲ爲シタル場合ニ於テハ許可又ハ認可ヲ爲シタル官廳ニ事由ヲ説明シテ許可證又ハ認可證ノ再下付ヲ申請スルコトヲ得

第二十一条 軍用銃砲、拳銃、短銃、仕込銃、火藥類讓受ノ許可證ハ銃砲火藥類ヲ讓受クルノ際ニ讓渡人ニ、其ノ讓渡ノ許可證又ハ認可證ハ銃砲火藥類ヲ讓渡スノ際ニ讓受人ニ交付スヘシ

銃砲火藥類取締法施行規則第十六條及第十七條ノ規定ニ依ル火藥類讓受ノ許可證ヲ有スル者ニ火藥類ヲ讓渡ス者ハ火藥類ノ種類、數量及讓渡ノ年月日ヲ許可證ニ記入シ署名捺印ノ上讓渡シタル數量カ許可數量ニ達セサルトキハ其ノ許可證ヲ讓受人ニ返付スヘシ

第二十二条 銃砲火藥類取締法施行規則第二十一條ノ規定ニ依リ許可ヲ受ケスシテ火藥類ヲ讓受クル者ハ行政官廳ノ與ヘタル許可ノ文書其ノ他資格ヲ證明スルコトヲ得ヘキ文書ヲ讓渡人ニ提示シ且該業法ニ依リ該物ノ試掘若ハ探掘ヲ爲ス者又ハ第十六條ニ依リ工事若ハ工業ノ爲火藥類消費ノ許可ヲ受ケタル者ニ在リテハ讓受ケヘキ火藥類ノ種類、數量、讓受ノ事由、用途、消費ノ時、場所、職業、工事若ハ工事ノ種類、試掘又ハ探掘登錄番號若ハ消費許可證番號ヲ具シタル讓受證書ヲ交付スヘシ

第二十三条 銃砲火藥類製造業者又ハ販賣業者ニ非サル者相續、遺贈又ハ法人ノ合併ニ因リテ軍用銃砲、拳銃、短銃、仕込銃又ハ銃砲火藥類取締法施行規則第十八條各號以外ノ火藥類ノ所有權ヲ取得シタルトキハ取得ノ日ヨリ十日以内ニ所轄警察官署ニ之ヲ届出ツヘシ

第二十四条 銃砲製造業者又ハ販賣業者ニ非サル者軍用銃砲、拳銃、短銃、仕込銃ヲ廢棄シタルトキハ十日以内ニ所轄警察官署ニ之ヲ届出ツヘシ

第二十五条 第七條乃至第九條、第十七條乃至第二十一條、第二十三條、

十一 爆發ノ危険アル工場ノ内面ハ土砂類ノ剥落飛散ヲ防キ且鐵類ヲ露ハササル措置ヲ爲スヘシ

十二 火藥類粉末飛散ノ虞アル工場ノ天井、内壁、罅隙ヲ存スルコトナク且水洗ニ耐ユル塗料ヲ塗布スヘシ

十三 爆發又ハ發火ノ危険アル工場ノ床ハ適當ノ材料ヲ用井テ密ニ張り詰メ火藥類ノ滲透又ハ其ノ粉末ノ介入ヲ避クヘキ適當ノ方法ヲ講スヘシ

十四 發火性又ハ引火性瓦斯若ハ有毒瓦斯發散ノ虞アル工場ニハ瓦斯ノ排氣裝置ヲ爲スヘシ

十五 爆發又ハ發火ノ危険アル工場ニ接近セル作業所内ノ木造建物ニハ耐火性塗料ヲ塗布スヘシ

十六 爆發又ハ發火ノ危険アル工場内ニハ原動機ヲ据付クルコトヲ得ス但シ火藥類粉末又ハ爆發性、引火性瓦斯ノ侵入ヲ防止スヘキ裝置アル區劃内ニ据付クルハ此ノ限ニ在ラス

十七 爆發又ハ發火ノ危険アル工場内ニ据付又ハ備付クル機械器具類ハ作業上已ムヲ得サル部分ノ外鐵ト鐵トノ摩擦部ナキモノヲ用井總テノ摩擦部ニハ充分ナル滑劑ヲ塗布シ且火藥類粉末ノ附著ヲ避クヘキ適當ノ方法ヲ講スヘシ

十八 火藥類ノ作業用機械ニシテ原動力トシテ水車又ハ汽機ヲ使用スルモノニ在リテハ速度調整機ヲ裝置スヘシ但シ之ヲ裝置スルコトヲ得サルモノニ在リテハ手力ヲ以テ容易ニ調整シ得ヘキ裝置ヲ爲スヘシ

十九 爆發又ハ發火ノ危険アル工場内ニ於ケル暖房裝置ニハ蒸氣、熱氣又ハ温水ノ外使用スルコトヲ得ス

暖房裝置ハ燃焼シ易キ物件ト隔離シ且塵埃又ハ火藥類粉末ノ附著ヲ避クヘキ適當ノ方法ヲ講スヘシ

第二十四條及其ノ罰則ノ規定ハ仕込刀劍其ノ他變裝シタル武器ニ之ヲ準用ス

第二十六条 火藥類作業所ニ於テハ左ノ各號ノ規定ヲ遵守スヘシ

一 工場又ハ火藥類溜置場ハ相當ノ距離ヲ保有スヘシ

二 作業所ノ境界ニハ適當ナル圍牆ヲ構設シ且見易キ場所ニ警戒札ヲ建ツヘシ

三 森林内ニ設置スル作業所ニ在リテハ其ノ圍牆ニ沿ヒ幅一間以上ノ防火線ヲ設ケヘシ

四 作業所内ハ危險區域ト無危險區域トチ明瞭ニ區分シ作業上已ムヲ得サル建築物ヲ除クノ外危險区域内ニ築造スヘカラス

五 汽罐室及煙突ハ無危險区域内ニ之ヲ築造シ爆發又ハ發火ノ危険アル工場若ハ火藥類溜置場ニ對シ相當ノ距離ヲ保有スヘシ

六 爆發ノ危険アル工場ノ建築材料ニハ火焰ニ對シ抵抗性チ有シ且爆發ニ當リ輕量ノ飛散物トナルヘキモノヲ用ウヘシ

七 爆發ノ危険アル工場又ハ火藥類溜置場ニハ必要ニ應ジ避雷裝置及土堤ヲ設ケヘシ第三十二條第一項第六號乃至第八號ノ規定ハ本號ノ避雷裝置及土堤ニ之ヲ準用ス

八 發火ノ危険アル工場ニハ避雷裝置ヲ爲スヘシ第三十二條第一項第六號ノ規定ハ本號ノ避雷裝置ニ之ヲ準用ス

九 爆發又ハ發火ノ危険アル工場附近ニハ貯水池又ハ貯水槽ヲ設ケ強風ノ際砂塵ノ飛揚ヲ防止スル爲撒水ヲ爲スヘシ但シ作業上已ムヲ得サルモノニ在リテハ此ノ限ニ在ラス

十 爆發又ハ發火ノ危険アル工場ニハ適當箇數ノ窓及非常ノ際從業者ノ避難上便利ナル場所ニ出口ヲ設ケ扉ハ外開トシ其ノ金具ハ直接鐵ト摩擦スル部分ニハ銅、黃銅又ハ青銅ノ類ヲ用キ日光ノ直射ヲ受ケル部分ノ窓硝子ニハ不透明ノモノヲ用ウヘシ

二十 火藥、爆發乾燥室内ノ暖房裝置ハ火藥、爆發乾燥スル場所ヨリ隔離スヘシ但シ温水暖房裝置ニシテ其ノ溫度乾燥溫度ト略同一ナルモノニ在リテハ此ノ限ニ在ラス

二十一 工場又ハ火藥類溜置場ニハ内部又ハ外部見易キ場所ニ揭示板ヲ設ケ其ノ場内ニ存置セシメ得ヘキ原料及製作品ノ種類、數量及其ノ取扱心得其ノ他必要ナル事項ヲ明記スヘシ

二十二 工場又ハ火藥類溜置場ハ常ニ清潔ニ掃除シ鐵又ハ砂石ノ類ヲ火藥、爆發内ニ混入セシメサルノ措置ヲ爲スヘシ

二十三 火藥類製造機械ノ掃除ニ使用スル布類ハ特定ノ容器ニ收容シ置キ終業ノ際之ヲ工場外適當ノ場所ニ搬出スヘシ

二十四 爆發又ハ發火ノ危険アル工場内及其ノ附近ニハ發火又ハ燃焼シ易キモノヲ堆積スヘカラス

二十五 工場又ハ火藥類溜置場ニ出入スル勞務者ニ對シテハ携帶品ノ檢査ヲ行フヘシ

二十六 爆發又ハ發火ノ危険アル工場内ニ於テハ各工場所定ノ履物ノ外使用スヘカラス

二十七 爆發又ハ發火ノ危険アル工場内ニハ定員外ノ勞務者ヲ立入ラシムルコトヲ得ス

二十八 危險区域内ニハ作業ニ必要ナル從業者又ハ警察官署ノ許可ヲ受ケタル者ノ外立入ラシムルコトヲ得ス

二十九 作業所内ニ於テ飲酒シ又ハ工場若ハ火藥類溜置場以外ニ於テ特ニ設ケタル室内ニ非サレハ喫煙スヘカラス

三十 爆發又ハ發火ノ危険アル工場若ハ火藥類溜置場内ヲ照明スル設備ニハ種子油類ヲ燃料トシ硝子壁ヲ以テ完全ニ隔離シタル安全燈又ハ電燈ノ外使用スヘカラス

三十一 爆發又ハ發火ノ危険アル工場若ハ火藥類溜置場ニハ携帶電燈ノ

- 三十二 外燈火ヲ携フルコトヲ得ス
火藥、爆藥及其ノ原料ハ作業ニ要スル最少量ニ非サレハ工場内ニ之ヲ置クコトヲ得ス作業中避クヘカラサル停滯品ヲ生シタル場合ニ於テハ工場附近ニ於テ相當ノ距離ヲ保有スル場所ニ築造シタル火藥類溜置場ニ一時之ヲ入レ置クヘシ
- 三十三 作業所内ニ於テ生シタル火藥類ノ廢棄及不良品ハ一定ノ廢棄容器ニ收容シ毎日一回一定ノ場所ニ於テ廢棄其ノ他危險豫防上必要ナル措置ヲ爲スヘシ
- 三十四 火藥、爆藥又ハ其ノ原料ヲ運搬スル容器ハ適當ノ材料ヲ以テ之ヲ作り且確實ニ之ヲ閉塞スヘシ
- 三十五 火藥類運搬ノ通路ハ暴露シタル火氣使用ノ場所ヲ回避シ路面ハ之ヲ平坦ナラシメ勾配ヲ附スル必要アル場合ニ於テハ地形上已ムヲ得サル場合ノ外六十分ノ一以下ト爲スヘシ
- 三十六 爆發又ハ發火ノ危險アル工場又ハ火藥類溜置場ニ於テ改築、修繕等ノ工事ヲ爲サムトスル場合ニ於テハ著手前危險豫防上必要ナル措置ヲ爲スヘシ
- 三十七 爆發其ノ他ノ災害ヲ生シタルトキハ直ニ警察官吏ニ之ヲ届出ツヘシ警察官署ノ指揮ヲ受ケタル後ニ非サレハ現状ヲ變更スルコトヲ得ス
- 三十八 製造又ハ變形修理シタル火藥、爆藥ノ容器及其ノ外箱ニハ火藥、爆藥ノ種類、數量、作業所名及製造又ハ變形修理ノ年月日ヲ明記スヘシ
- 第二十六條ノ二 硝化鹽類ヲ主トスル有煙火藥ノ作業所ニ於テハ第二十六條ノ規定ニ依ルノ外左ノ各號ノ規定ヲ遵守スヘシ
一 爆發ノ危險アル工場ニハ各箇ニ避雷裝置及土堤ヲ設クヘシ但シ同時ニ二十五貫以上ノ火藥ヲ取扱ハサル工場ニ於テハ土堤ヲ省略シ不燃

工場ノ種類	火藥類又ハ其ノ原料ノ最大數量	勞務者定員
三昧混和工場	混和機一回ノ仕込量	二人
壓磨又ハ搗磨工場	壓磨機又ハ搗磨機一回ノ仕込量	二人
水壓工場	水壓機一回半ノ仕込量	四人
破碎工場	七十貫	三人
成形工場	成形機一回ノ仕込量又ハ八十貫	三人
篩分工場	八十貫	二人
乾燥工場	千貫	十人
掃粉工場	八十貫	二人
光澤工場	光澤機一回ノ仕込量	二人
混同工場	二百五十貫	三人
收函工場	二百五十貫	三人

本條ニ於テ爆發ノ危險アル工場ト稱スルハ三昧混和工場、壓磨又ハ搗磨工場、水壓工場、破碎工場、成形工場、篩分工場、乾燥工場、掃粉工場、光澤工場、混同工場及收函工場ヲ謂フ

- 二 質物ヲ以テ築造セル塔壁 高さ工場ノ屋頂ト同ク厚サ頂部ニ於テヲ以テ之ヲ代用スルコトヲ得 同時ニ百五十貫以上ノ火藥ヲ取扱フ工場ハ其ノ構造ヲ放爆式ト爲スコトヲ得ス
- 三 放爆式構造ニ在リテハ厚サ二尺五寸以上ノ堅固ナル三側壁トシ放爆面ニ出入口及窓ヲ設ケ屋根ハ奥壁ノ頂部ヨリ前方ニ傾斜セシメ輕量不燃質物ヲ以テ覆葺スヘシ
- 四 火藥乾燥工場ハ作業所内ノ他ノ建築物ニ對シ二十八間以上ノ距離ニ至ル以下ノ外壁ニテ保スヘシ
- 五 爆發ノ危險アル工場ニシテ成形機、壓搾機若ハ搗磨機等ノ機械類ヲ使用スルモノニ在リテハ其ノ作業ノ目的ヲ異ニスル毎ニ各別棟ニ之ヲ築造スヘシ但シ放爆式構造ナルトキ又ハ一工場内ノ勞務者定員四名以下ニシテ厚サ二尺五寸以上ノ防火壁ヲ以テ區劃セルトキハ三工場以内ヲ連接シテ築造スルコトヲ得
- 六 同一工場内ニハ二箇以上ノ爆發ノ危險ナル作業用機械ヲ据付クルコトヲ得ス但シ勞務者ノ定員二人ヲ超エサルトキ又ハ勞務者ノ定員四人ヲ超エサル工場ニ於テ同一種類ノモノ若ハ作業上分離シ難キモノヲ据付クルトキハ此ノ限ニ在ラス
- 七 火藥又ハ其ノ原料ヲ取扱フ工場内ニ在リテハ鐵製篩ヲ使用スルコトヲ得ス
- 八 火藥原料ハ混和前篩分シ砂石類ヲ除去スヘシ
- 九 木炭ハ炭化後七日以上ヲ經過スルニ非サレハ粉末ト爲スコトヲ得ス 硫黃、木炭ノ二味ヲ鐵製混和機ニ依リ粉碎混和スル場合ニ於テハ青銅球ヲ使用スヘシ
- 十 混和機ヲ使用シ混和シタル硫黃、木炭ノ二味混和物ハ更ニ篩分スルニ非サレハ硝石ヲ混和スルコトヲ得ス

- 第二十六條ノ三 硝化纖維素ヲ主トスル無煙火藥、爆發ノ用途ニ供スル棉火藥ノ作業所ニ於テハ第二十六條ノ規定ニ依ルノ外左ノ各號ノ規定ヲ遵守スヘシ
- 一 棉火藥乾燥工場ニハ各箇ニ避雷裝置及土堤ヲ設クヘシ
- 二 棉火藥乾燥工場ハ作業所内ノ他ノ建築物ニ對シ二十八間以上ノ距離ヲ保有スヘシ但シ乾燥工場相互間ノ距離ハ此ノ限ニ在ラス
- 三 火藥類粉末飛散ノ虞アル工場ハ作業所内ノ他ノ建築物ニ對シ二十間以上五十貫以上ノ火藥類ヲ停滯セシメザルモノニ在リテハ十間以上ノ距離ヲ保有スヘシ但シ土堤又ハ屋頂ヲ超ユルコト二尺以上ノ防火壁ヲ以テ隔離シタル場合ハ此ノ限ニ在ラス
- 四 火藥類粉末飛散ノ虞アル工場ニシテ放爆式構造ニ依ルモノニ在リテハ三側壁ノ厚サ一尺以上トシ放爆面ニ出入口及窓ヲ設ケ屋根ハ奥壁ノ頂部ヨリ前方ニ傾斜セシメ輕量不燃質物ヲ以テ覆葺スヘシ放爆面ノ防火壁又ハ其ノ保有距離ニ付テハ前號ノ規定ヲ準用ス
- 五 無煙火藥乾燥工場ハ其ノ周圍ニ防火壁又ハ土堤ヲ設ケ若ハ作業所内ノ他ノ建築物ニ對シ二十八間以上ノ距離ヲ保有スヘシ
- 六 アルコール、エーテル、アセトン類ノ貯藏所ノ建築材料ニハ火焰ニ對シ抵抗性ヲ有スルモノヲ用井作業所内ノ他ノ建築物ニ對シ十間以上ノ距離ヲ保有スヘシ但シ防火壁ヲ以テ完全ニ隔離シタル場合ニ在リテハ五工場以内ヲ連接シテ築造スルコトヲ得
- 七 發火ノ危險アル工場ノ建築材料ニハ火焰ニ對シ抵抗性ヲ有スルモノヲ用井作業所内ノ他ノ建築物ニ對シ十間以上ノ距離ヲ保有スヘシ但シ防火壁ヲ以テ完全ニ隔離シタル場合ニ在リテハ五工場以内ヲ連接シテ築造スルコトヲ得
- 八 發火ノ危險アル工場ニハ自動注水消防設備ヲ爲スヘシ但シ特ニ廳府廳長官ノ許可ヲ受ケ之ニ代ルヘキ消防設備ヲ爲スコトヲ得
- 九 工場内ニ於テハアルコール、エーテル、アセトン類ノ容器ハ硝子製

- ノモノヲ使用スヘカラス
- 十 棉火藥ハ作業上必要ナル場合ノ外之ヲ乾燥スルコトヲ得ス
- 十一 乾燥工場ニ於ケル乾燥温度ハ攝氏五十度ヲ超ユルコトヲ得ス
- 十二 乾燥セル無煙火藥又ハ棉火藥ハ攝氏三十五度以下ニ放冷シタル後ニ非サレハ之ヲ運搬容器ニ收容スルコトヲ得ス
- 十三 左ノ工場内ニハ左ノ數量ヲ超ユル火藥類ヲ存置シ又ハ定員ヲ超ユル勞務者ヲ立入ラシムルコトヲ得ス

工場ノ種類	火藥類ノ最大數量	勞務者定員
除水工場	除水機二同ノ仕込量	一機二人
担和工場	担和機二同ノ仕込量	同 三人
成形(壓伸、壓延、裁斷等)工場	一機ニ付 四十八貫	同 三人
溶劑捕集又ハ風乾工場	四百五十貫	六人
光澤工場	光澤機二同ノ仕込量	三人
篩分工場	百三十五貫	五人
乾燥工場	千五百貫	六人
風晒工場	四千貫	五人
收函工場	八百貫	十人

第二十六條ノ四 雷酸鹽ノ作業所ニ於テハ第二十六條ノ規定ニ依ルノ外左ノ各號ノ規定ヲ遵守スヘシ

一 化成洗滌工場、乾燥工場及其ノ他ノ雷酸鹽又ハ其ノ混和物ノ取扱工場ハ各別棟ニ之ヲ築造スヘシ

工場ノ種類	火藥類ノ最大數量	勞務者定員
乾燥工場	十四貫	一人
混和工場	雷酸鹽六百貫	五人
造粒工場	同 二百七十貫	一人
篩分工場	同 五十四貫	一人
同	同 十四貫	一人
同	同 四百貫	一人

第二十六條ノ五 芳香系列ノ三硝基以上ノ硝化物ヲ用ルル又ハクレソノ作業所ニ於テハ第二十六條ノ規定ニ依ルノ外左ノ各號ノ規定ヲ遵守スヘシ

一 硝化工場、洗滌工場、精製工場及溶解母液回收工場ハ火焔ニ對シ抵抗性ヲ有スル建築材料ヲ用キ火氣ニ對シ特ニ安全ナル場所ヲ選定シ作業所内ノ他ノ建築物ニ對シ高キモノノ高サノ二倍以上ノ距離ヲ保シ各別棟ニ之ヲ築造スヘシ但シ防火壁ヲ以テ隔離スルトキハ三工場以内ヲ連接シテ築造スルコトヲ得

二 乾燥工場及收函工場ハ避雷裝置ヲ設ケ作業所内ノ他ノ建築物ニ對シ乾燥工場ハ二十間以上、收函工場ハ十二間以上ノ距離ヲ保有スヘシ但シ土堤ヲ設ケタル場合ニ在リテハ其ノ距離ヲ二分ノ一ニ短縮スルコトヲ得

三 硝化工場、洗滌工場、精製工場及溶解母液回收工場ニハ作業中發生スル瓦斯及蒸氣ノ排氣裝置ヲ爲スヘシ

四 引火性ノ原料及溶劑ハ完全ナル容器ニ收納シテ倉庫ニ貯藏シ又ハ堅牢ナル鐵製貯槽ニ收納シテ屋外安全ナル場所ニ貯藏スヘシ

五 地上倉庫ニ貯藏スル場合ニ在リテハ其ノ倉庫ハ作業所内ノ他ノ建築物ニ對シ十二間以上ノ距離ヲ保有シ且火災豫防上特別ノ設備ヲ爲ス

- 二 乾燥工場ハ作業所内ノ他ノ建築物ニ對シ二十八間以上、混和工場、造粒工場及填壓工場ハ作業所内ノ他ノ建築物ニ對シ十二間以上ノ距離ヲ保有スヘシ
- 三 乾燥工場ニハ各箇ニ避雷裝置及土堤ヲ設ケヘシ
- 四 乾燥セル雷酸鹽又ハ其ノ混和物ヲ取扱フ混和工場、造粒工場及填壓工場ハ三側壁ノ厚サヲ一尺以上トシ抗力微弱ナルモノヲ以テ他ノ側壁及屋根ヲ築造シ連接シテ之ヲ築造スル場合ニ於テハ各工場間ノ防火壁ヲ厚サ一尺以上ノ煉瓦造ト爲スヘシ
- 五 混和工場ニハ混和機二箇以上ヲ摺付クルコトヲ得ス
- 六 潤滑セル雷酸鹽ハ水ト共ニ硝子製容器ニ收納スヘシ但シ一容器ニ二貫七百貫以上ヲ收納スルコトヲ得ス
- 七 乾燥セル雷酸鹽及其ノ混和物ハ紙又ハ護謨製容器ニ收納スヘシ
- 八 乾燥セル雷酸鹽又ハ其ノ混和物ヲ運搬スル際ニハ百三十貫以内ヲ紙又ハ護謨製容器ニ收納シ總量二百六十貫以内ヲ限リ携行スヘシ
- 九 乾燥セル雷酸鹽又ハ其ノ混和物ノ取扱ヲ爲ス勞務者ニハ胸當ヲ使用セシメ且其ノ粉末飛散ノ虞アル工場内ノ勞務者ニハ口覆又ハ覆面ヲ使用セシムヘシ
- 十 雷酸鹽又ハ其ノ混和物ノ乾燥温度ハ攝氏五十度以下トシ乾燥ヲ了リタルモノハ乾燥室外ノ温度ト大差ナキ温度ニ放冷シタル後ニ非サレハ之ヲ他ノ容器ニ移入スヘカラス
- 十一 洗滌作業中水ト共ニ流出スル微量ノ雷酸鹽又ハ他ノ作業中床上等ニ落下シ若ハ器具類ニ附著セル藥粉及廢藥等ハ次亞硫酸曹達液ヲ以テ處理シ無危險物ト爲スヘシ
- 十二 左ノ工場内ニハ左ノ數量ヲ超ユル火藥類ヲ存置シ又ハ定員ヲ超ユル勞務者ヲ立入ラシムルコトヲ得ス

工場ノ種類	火藥類最大數量	勞務者定員
乾燥工場	千五百貫	六人
收函工場	八百貫	十人

第二十六條ノ六 ナイトロケリセリン及之ヲ主トスル爆藥各種ダイナミトノ業所ニ於テハ第二十六條ノ規定ニ依ルノ外左ノ各號ノ規定ヲ遵守スヘシ

一 爆發ノ危險アル工場ハ汽機汽罐室、添加劑製造工場、硝化工場、鉛工場等爆藥製造ニ直接關係セル工場並從業者ノ洗面室、休憩室等ニ對シ一町以上、鍛工場、木工場、酸工場、棉火藥製造工場、乾燥工場、除等ダイナミト製造ニ直接關係ナキ建築物、事務所、住宅等ニ對シ二町以上ノ距離ヲ保有スヘシ但シ工場ニ直接必要ナル小動力室、混酸室、秤量室、ダイナミト包裝用紙又ハ容器準備室等ヲ所要工場附近ニ築造スル場合ハ此ノ限ニ在ラス

二 爆發ノ危險アル工場ハ棉火藥乾燥工場、同篩分工場、配合工場、壓伸工場、壓榨工場、包裝工場、收函工場及古酸分離工場ヲ除クノ外之ヲ系統的ニ配置スヘシ

三 一系統内ニ築造スルケリセリン硝化工場ハ豫備工場ヲ除クノ外二工場以上ヲ築造スルコトヲ得ス

- 四 系統相互間ニ於テハ四十四間以上ノ距離ヲ保有スヘシ
- 五 アリセリシ硝化工場ハ作業所内ノ他ノ建築物ヲ除クニ對シ作業中停滯スヘキ爆藥ノ數量百六十貫以內ノモノニ在リテハ十四間以上、三百二十貫以內ノモノニ在リテハ二十間以上、五百三十貫以內ノモノニ在リテハ二十八間以上ノ距離ヲ保有スヘシ
- 六 ナイトログリセリン洗滌工場ハ作業所内ノ他ノ建築物ニ對シ作業中停滯スヘキ爆藥ノ數量前號規定ノ二倍以內ニ於テ各前號規定ノ距離ヲ保有スヘシ
- 七 濾過工場、配合工場、攪和工場、壓伸工場、壓伸工場、壓伸工場及包裝工場ハ作業所内ノ他ノ建築物ニ對シ作業中停滯スヘキ爆藥ノ數量第五號規定ノ限度ニ於テ各第五號規定ノ距離ヲ保有スヘシ
- 八 古酸分離工場ハ作業所内ノ他ノ建築物ニ對シ八間以上ノ距離ヲ保有スヘシ
- 九 收函工場、棉火藥乾燥工場及同節分工場ハ作業所内ノ他ノ建築物ニ對シ二十八間以上ノ距離ヲ保有スヘシ
- 十 一箇ノ土堤ヲ以テ二箇ノ工場ヲ隔離スル場合ニ於テハ酸、グリセリン又ハナイトログリセリン等ノ濾過機又ハ導管ヲ通スル隧道ノ外其ノ土堤ニ穿孔又ハ通路ヲ設ケルコトヲ得ス
- 十一 爆發ノ危険アル工場ニハ各箇ニ避雷裝置及土堤ヲ設ケ土堤ノ外側ニシテ通路ニ接近セル位置ニ爆發ノ際飛散物ニ對シ避難ノ設備ヲ爲スヘシ
- 十二 ナイトログリセリンノ濾過機ハ爆發ノ傳播ヲ防止スル爲メ工場ヨリ隔離シ常ニ清潔ナラシメ隨時故障ノ有無ヲ検査スヘシ
- 十三 ナイトログリセリン又ハ之ヲ含有スル古酸若ハ水ノ濾過機ニハ鉛、護膜又ハ粘藥ヲ施シタル陶器製ノモノヲ用キ暴露セル部分ニハ覆蓋ヲ設ケ且凍結豫防ノ爲メ加温ノ設備ヲ爲スヘシ

- 十四 爆發ノ危険アル工場ノ窓ハ外開キトシ且硝子戸ニ在リテハ其ノ内面ニ硝子破損ノ際破片ヲ防止スルニ足ルヘキ金網ヲ張ルヘシ
- 十五 グリセリンノ硝化器及分離器ニハ硝化又ハ分離作業中外部ヨリ内容物ヲ檢温シ得ヘキ裝置ヲ爲スヘシ
- 十六 グリセリンノ硝化器及分離器ニハ爆發ノ虞アリト認めタル場合ニ於テ直ニ其ノ内容物ヲ安全槽ニ導入シ得ヘキ裝置ヲ爲シ安全槽ニハ常ニ必要ナル程度ニ於テ貯水スヘシ
- 十七 グリセリン硝化器及分離器ノ内容物ヲ壓迫空氣ニ依リ攪拌スルモノニ在リテハ完全ナル備置ヲ爲スヘシ
- 十八 左ノ工場内ニハ左ノ數量ヲ超ルル火藥類又ハ其ノ原料ヲ存置シ又ハ定員ヲ超ユル勞務者ヲ立入ラシムルコトヲ得ス

工場ノ種類	火藥類又ハ其ノ原料ノ最大數量	硝化ニ四分	勞務者定員
洗滌工場 (又ハ洗滌濾過工場)	千百貫		二人
濾過工場	百八十七貫		二人
配合工場	ナイトログリセリン 棉火藥其ノ他 二十七貫		四人
攪和工場	百六十貫		三人
機械攪和工場	百三十四貫		三人
手攪和工場	八貫		五人
壓伸工場	百三十四貫		五人

第二十六條ノ七 硝酸アンモニア主トスル爆藥ノ作業所ニ於テハ第二十

- 一 乙種硝安爆藥ノ混和工場、乾燥工場 攝氏四十五度以上ノ、填藥工場、完成爆藥ノ收函工場ハ各別棟ニ之ヲ築造スヘシ
- 二 甲種硝安爆藥ノ製造工場、鹽素酸鹽又ハ過鹽素酸鹽ノ粉碎工場、乾燥及篩分工場ノ建築材料ニハ火焰ニ對シ抵抗性ヲ有スルモノヲ用ウヘシ
- 三 乙種硝安爆藥ノ混和工場、乾燥工場 攝氏四十五度以上ノ、及完成爆藥ノ收函工場ニハ各箇ニ避雷裝置及土堤ヲ設ケ作業所内ノ他ノ建築物ニ對シ作業中停滯スヘキ爆藥ノ數量百六十貫以內ノモノニ在リテハ十二間以上、三百二十貫以內ノモノニ在リテハ二十間以上、五百三十貫以內ノモノニ在リテハ二十五間以上ノ距離ヲ保有スヘシ但シ四

種類	貫	人数
歴樟工場	八貫	五人
包裝工場	百三十四貫	十人
收函工場	百三十四貫	四人
古酸分離工場	二貫	二人
棉火藥乾燥工場	二十七貫	二人
同節分工場	三十二貫	四人

第二十六條ノ八 フエノール又ハクレゾールノ二硝基以上ノ硝化物ノ作業

- 一 乾燥工場、收函工場、其ノ他乾燥セル硝化物ヲ取扱フ工場ハ各箇ニ避雷裝置及土堤ヲ設ケ作業所内ノ他ノ建築物ニ對シ乾燥工場ハ二十間以上、收函工場其ノ他乾燥セル硝化物ヲ取扱フ工場ハ作業中停滯スヘキ數量百六十貫以內ノモノニ在リテハ二十間以上、三百二十貫以內ノモノニ在リテハ二十五間以上、五百三十貫以內ノモノニ在リテハ二十五間以上ノ距離ヲ保有スヘシ
- 二 硝化工場、洗滌及精製工場ハ火焰ニ對シ抵抗性ヲ有スル建築材料ヲ用キ火氣ニ對シ安全ナル場所ヲ選定シ作業所内ノ他ノ建築物ニ對シ高キモノノ高サノ二倍以上ノ距離ヲ保有シ各別棟ニ之ヲ築造スヘシ但シ防火壁ヲ以テ隔離スルトキハ三工場以內ヲ連接シテ築造スルコトヲ得

- 三 硝化物ヲ取扱フ工場ニ於テハ硝化物ノ接觸ニ依リ危險ナル鹽類ノ成生ヲ防クヘキ適當ノ措置ヲ爲スヘシ
- 四 硝化物ニ接觸セル從業者ニハ食事前洗面ヲ爲サシメ且終業後入浴セシムヘシ
- 五 硝化物ノ粉末飛散ノ虞アル工場内ノ從業者ニハマスクヲ使用セシムヘシ
- 六 左ノ工場内ニハ左ノ數量ヲ超ユル火藥類ヲ存置シ又ハ定員ヲ超ユル勞務者ヲ立入ラシムルコトヲ得ス

工場ノ種類	火藥類ノ最大數量	勞務者定員
乾燥工場	千貫	六人
收函工場	五百三十貫	六人

第二十六條ノ九 硝化纖維素トナイトログリセリントノ結合物質ト主トスル無煙火藥ノ作業所ニ於テハ第二十六條ノ規定ニ依ルノ外左ノ各號ノ規定ヲ遵守スヘシ

- 一 爆發ノ危險アル工場及無煙火藥乾燥工場ハ汽機汽罐室、鉛工場等無煙火藥製造ニ直接關聯セル工場並從業者ノ洗面室、休憩室等ニ對シ一町以上、鍛工場、木工場、酸工場、棉火藥製造工場、乾燥工場及乾除ク等無煙火藥製造ニ直接關係ナキ建築物、事務所、住宅等ニ對シ二町以上ノ距離ヲ保有スヘシ但シ工場ニ直接必要ナル小動力室、混酸室、秤量室又ハ容器準備室等ヲ所要工場附近ニ築造スル場合ハ此ノ限ニ在ラス
- 二 グリセリン硝化工場及ナイトログリセリン洗滌及濾過工場ハ系統的ニ配置シ系統相互間ニ於テハ四十四間以上ノ距離ヲ保有スヘシ

- 三 一系統内ニ築造スルグリセリン硝化工場ハ豫備工場ヲ除クノ外ニ工場以上ヲ築造スルコトヲ得ス
- 四 グリセリン硝化工場ハ作業所内ノ他ノ建築物硝化豫備工ニ對シ作業中停滯スヘキナイトログリセリンノ數量百六十貫以内ノモノニ在リテハ四十間以上、三百二十貫以内ノモノニ在リテハ二十間以上、五百三十貫以内ノモノニ在リテハ二十八間以上ノ距離ヲ保有スヘシ
- 五 ナイトログリセリン洗滌及濾過工場ハ作業所内ノ他ノ建築物ニ對シ作業中停滯スヘキ爆藥ノ數量前號規定ノ二倍以内ニ於テ各前號規定ノ距離ヲ保有スヘシ
- 六 棉火藥乾燥工場ハ作業所内ノ他ノ建築物ニ對シ二十八間以上、乾燥棉火藥取扱工場及混和工場ハ作業所内ノ他ノ建築物ニ對シ十四間以上ノ距離ヲ保有スヘシ
- 七 熔劑回收工場及無煙火藥乾燥工場ハ作業所内ノ他ノ建築物ニ對シ二十八間以上ノ距離ヲ保有スヘシ但シ其ノ周圍ニ防火壁又ハ土堤ヲ設ケタル場合ニ在リテハ同種類ノ工場ニ對シ五間迄、異種類ノ工場ニ對シ十四間迄距離スルコトヲ得
- 八 混和工場及壓伸工場ハ作業所内ノ他ノ建築物ニ對シ二十八間以上ノ距離ヲ保有スヘシ但シ土堤ヲ設ケタル場合ニ在リテハ其ノ距離ヲ二分ノ一ニ短縮スルコトヲ得
- 九 前號ノ工場ハ防火壁ヲ以テ隔離スルトキハ同種類ノモノニ限リ三工場以内ヲ連接シテ築造スルコトヲ得
- 十 風晒工場、混同工場及收函工場ハ作業所内ノ他ノ建築物ニ對シ二十八間以上ノ距離ヲ保有スヘシ但シ周圍ニ防火壁又ハ土堤ヲ設ケタル場合ニ在リテハ十四間迄短縮スルコトヲ得
- 十一 アセトン其ノ他ノ引火性熔劑ノ貯藏所ハ火焔ニ對シ抵抗性ヲ有スル建築材料ヲ用キ作業所内ノ他ノ建築物ニ對シ十二間以上ノ距離

ヲ保有スヘシ

- 十二 發火ノ危險アル工場ハ火焔ニ對シ抵抗性ヲ有スル建築材料ヲ用キ注水消火設備ヲ爲スヘシ
- 十三 一箇ノ土堤ヲ以テ二箇ノ工場ヲ隔離スル場合ニ於テハ酸、グリセリン、ナイトログリセリン等ノ流通過又ハ導管ヲ通スル隧道ノ外其ノ土堤ニ穿孔又ハ通路ヲ設ケルコトヲ得ス
- 十四 爆發ノ危險アル工場ニハ各箇ニ避雷裝置及土堤ヲ設ケグリセリン硝化工場ノ土堤ノ外側ニシテ通路ニ接近セル位置ニハ爆發ノ際ニ於ケル飛散物ニ對スル避難ノ設備ヲ爲スヘシ
- 十五 ナイトログリセリンノ流通過ハ常に清潔ナラシメ隨時故障ノ有無ヲ検査スヘシ
- 十六 ナイトログリセリン又ハ之ヲ含有スル古酸若ハ水ノ流通過ニハ鉛、護膜又ハ釉藥ヲ施シタル陶器製ノモノヲ用キ暴露セル部分ニハ覆蓋ヲ設ケ且凍結豫防ノ爲加温ノ設備ヲ爲スヘシ
- 十七 爆發ノ危險アル工場ノ硝子戸ニハ内面ニ硝子破損ノ際ニ於ケル破片ヲ防止スルニ足ルヘキ金網ヲ張ルヘシ
- 十八 グリセリン硝化器及分離器ニハ硝化又ハ分離作業中外部ヨリ内容物ヲ檢温シ且發散瓦斯ヲ窺見シ得ヘキ裝置ヲ爲スヘシ
- 十九 グリセリン硝化器及分離器ニハ爆發ノ虞アリト認メタル場合ニ於テ直ニ其ノ内容物ヲ安全槽ニ導入シ得ヘキ裝置ヲ爲シ安全槽ニハ常に必要ナル程度ニ於テ貯水スヘシ
- 二十 グリセリン硝化器及分離器ノ内容物ヲ壓縮空氣ニ依リ攪拌スルモノニアリテハ完全ナル豫備攪拌裝置ヲ爲スヘシ
- 二十一 工場内ニ於テアセトン其ノ他ノ溶劑ノ容器ハ硝子製ノモノヲ使用スヘカラス
- 二十二 乾燥工場内ノ溫度ハ攝氏五十度ヲ、溶劑回收工場内ノ溫度ハ攝

工場ノ種類	火藥類又ハ其ノ原料ノ最大數量	勞務者定員
グリセリン硝化工場	硝化二回分	四人
ナイトログリセリン洗滌及濾過工場	千五百貫	三人
棉火藥乾燥工場	千五百貫	四人
乾燥棉火藥取扱工場	百十貫	二人
混和工場	八十貫	五人
捏和工場	捏和機二回ノ仕込量	三人
壓伸工場	四十八貫	六人
溶劑回收工場	四百五十貫	六人
無煙火藥乾燥工場	千五百貫	四人
混同工場	二千貫	十五人
風晒工場	四千貫	五人
收函工場	八百貫	十人

本條ニ於テ爆發ノ危險アル工場ト稱スルハ棉火藥乾燥工場、乾燥棉火藥取扱工場、グリセリン硝化工場、ナイトログリセリン洗滌及濾過工場及混和工場ヲ謂ヒ發火ノ危險アル工場ト稱スルハ捏和工場、壓伸工場、溶解劑取扱工場、無煙火藥乾燥工場、風晒工場、混和工場及取扱工場ヲ謂フ

- 第二十六條ノ十 過鹽素酸鹽ヲ主トスル爆藥ノ作業所ニ於テハ第二十六條ノ規定ニ依ルノ外左ノ各號ノ規定ヲ遵守スヘシ
一 過鹽素酸鹽ノ粉碎及篩分工場及乾燥工場ハ別棟ニ之ヲ築造シ火焔ニ對シ抵抗性ヲ有スル建築材料ヲ用ウヘシ
二 混和工場、填藥工場、包裝及取扱工場ニハ各箇ニ避雷裝置及土堤ヲ設ケ作業所内ノ他ノ建築物ニ對シ作業中停滯スヘキ爆藥ノ數量八十貫以內ノモノニ在リテハ八間以上、六十貫以內ノモノニ在リテハ十二間以上、三百二十貫以內ノモノニ在リテハ二十間以上ノ距離ヲ保有スヘシ但シ填藥工場、包裝及取扱工場ハ厚サ一尺五寸以上ノ防火壁ヲ以テ隔離シタル場合ニ在リテハ同種類ノモノニ限リ二工場ヲ連接シテ築造スルコトヲ得

Table with 4 columns: 工場ノ種類 (Factory Type), 火藥類又ハ其ノ原料ノ最大數量 (Explosive or max quantity of raw material), 勞務者定員 (Number of workers), 備考 (Remarks). Rows include 混和工場 (Mixing), 填藥工場 (Filling), 包裝及取扱工場 (Packaging and handling).

第二十六條ノ十一 無煙火藥ヲ原料トスル爆藥ノ作業所ニ於テ第二十六條ノ規定ニ依ルノ外左ノ各號ノ規定ヲ遵守スヘシ

コトアルヘシ 應府縣長官ハ第二十六條乃至第二十六條ノ十一ニ規定セル事項ノ外作業所内ニ於ケル防火ノ設備其ノ他取締上必要ナル事項ヲ命ズルコトヲ得
第二十七條 緩燃導火線及煙火ヲ除クノ外火藥類ハ左ノ各號ノ規定ニ從ヒ之ヲ收納又ハ貯藏スヘシ
一 火藥及導火線ハ木器、亞鉛器、銅器ニ收納スルコトヲ要ス但シ硝化纖維素ヲ主トスル無煙火藥ニシテ火藥類保存上有害ナル酸類又ハ鹽基類ヲ含マサル紙若ハ布ヲ以テ包ミタルモノニ在リテハ錫引又ハ亞鉛引鐵器ニ、少量ノ火藥ニ在リテハ白鐵器ニ收納スルコトヲ得
二 火工品(導火線ヲ除ク)ハ木器、亞鉛器、銅器、白鐵器、厚紙製鐵器ニ收納スルコトヲ要ス但シ其ノ形狀巨大ニシテ收納ニ適セサルモノハ此ノ限ニ在ラス
三 ヒクリン酸ハ陶器、磁器、純錫器、純アルミニウム器、硝子器又ハ木器ニ、其ノ他ノ爆藥ハ其ノ種類ニ應ジ木器、紙器、亞鉛器、鐵器又ハ硝子器ニ收納スルコトヲ要ス但シ硝化纖維素ヲ主トスル爆藥ニシテ火工品ニシテハ白鐵器ニ收納スルコトヲ得
四 雷汞ハ清水ニ滿タセル硝子器ニ收納シテ貯藏スルコトヲ要ス
五 火藥、爆藥ハ容器ト火藥類ト直接ニ接觸セサル爲火藥類保存上有害ナル酸類又ハ鹽基類ヲ含マサル紙若ハ布ヲ以テ隔離スヘシ但シ容器ノ内面ニ漆又ハセルラックノ類ヲ塗布シタル場合若ハ少量ノ火藥ヲ收納スル場合ハ此ノ限ニ在ラス
(削除)
六 火藥類ハ乾燥性油紙、桐油、荏油又ハテ之ヲ包裝スルコトヲ得ス
七 各種火工品又ハ硝子器ニ收納スル容器ハ常ニ其ノ内部ノ藥包ヲ横置セシムルコトヲ要ス
八 各種火工品又ハ硝子器ニ收納スル容器ハ常ニ其ノ内部ノ藥包ヲ横置セシムルコトヲ要ス
九 各種火工品又ハ硝子器ニ收納スル容器ハ常ニ其ノ内部ノ藥包ヲ横置セシムルコトヲ要ス
十 各種火工品又ハ硝子器ニ收納スル容器ハ常ニ其ノ内部ノ藥包ヲ横置セシムルコトヲ要ス

ノ規定ニ依ルノ外左ノ各號ノ規定ヲ遵守スヘシ
一 無煙火藥風乾工場ハ避雷裝置ヲ設ケ作業所内ノ他ノ建築物ニ對シ二十間以上ノ距離ヲ保有スヘシ但シ無煙火藥ノ水蓄場ヲ其ノ附近ニ設置スルハ此ノ限ニ在ラス
二 截斷工場、粉碎工場、篩分及混和工場、填藥及包裝工場及取扱工場ハ火焔ニ對シ抵抗性ヲ有スル建築材料ヲ用キテ各別棟ニ之ヲ築造シ各箇ニ注水消火設備、避雷裝置及土堤ヲ設ケ作業所内ノ他ノ建築物ニ對シ十四間以上ノ距離ヲ保有スヘシ但シ粉碎工場ハ防火壁ヲ以テ隔離シタル場合ニ在リテハ同種類ノ工場ニ限リ十工場以內ヲ連接シテ築造スルコトヲ得
三 粉碎工場ニハ二箇ノ粉碎機ヲ据付ケ其ノ中間ニ避雷裝置ヲ設ケ粉碎機ハ交互ニ之ヲ使用スヘシ
四 左ノ工場内ニハ左ノ數量ヲ超ユル火藥類又ハ其ノ原料ヲ存置シ又ハ定員ヲ超ユル勞務者ヲ立入ラシムルコトヲ得ス

Table with 4 columns: 工場ノ種類 (Factory Type), 火藥類又ハ其ノ原料ノ最大數量 (Explosive or max quantity of raw material), 勞務者定員 (Number of workers), 備考 (Remarks). Rows include 工場ノ種類 (Factory Type), 截斷工場 (Cutting), 粉碎工場 (Crushing), 篩分及混和工場 (Sifting and mixing), 填藥及包裝工場 (Filling and packaging), 取扱工場 (Handling).

第二十六條ノ十二 内務大臣ハ第二十六條乃至第二十六條ノ十一ニ規定セル事項ノ外必要ナル設備ヲ命ジ又ハ其ノ規定セル事項ニ付土地ノ狀況其ノ他ノ關係ニ依リ危險ノ虞ナシト認ムルトキハ特ニ其ノ變更ヲ許可スル

分テ藥包ニ觸接セシメサルノ裝置ヲ爲シタル容器ニ之ヲ收容シ温濕ニ浸シテ間接ニ融解セシムヘシ
十一 火藥類ハ第二十八條ノ區別ニ依リ五ニ隔離スヘシ
十二 火藥類ヲ收納シタル容器ヲ外箱ニ入ルルニハ容器ト外箱トノ間ニ空隙又ハ火藥類粉末ノ殘留ナキヲ要ス
十三 掃淨機ノ使用ニ非サルハ再ヒ火藥類ヲ收納スルコトヲ得ス
十四 掃淨機ノ容器ノ外箱ハ鐵類ヲ露スコトヲ得ス
第二十八條 銃砲火藥類取扱法施行規則第三十一條ノ規定ニ依リ火藥類ヲ各別棟ノ火藥類貯藏所ニ貯藏スルハ左ノ各號ノ區別ニ依ル
一 有煙火藥、有煙火藥ヲ裝填シタル銃用實包、銃用空包及有煙火藥ノミヲ裝填シタル其ノ他ノ火工品硝化鹽、鹽素酸鹽若ハ過鹽素酸鹽ヲ主トスル爆藥ニシテ有機硝化物ヲ含有セサルモノ
二 無煙火藥、無煙火藥ヲ裝填シタル銃用實包、銃用空包及無煙火藥ノミヲ裝填シタル其ノ他ノ火工品
三 爆藥
四 火工品
前項第三號ヲ除クノ外各號中ノ二種類以上ヲ同棟ニ貯藏スルニハ各種類毎ニ銃砲火藥類取扱法施行規則第二十八條ニ掲ケタル數量ヲ以テ貯藏セムトスル數量ヲ除クシ其ノ商標加ヘ其ノ和一ヲ超ユルコトヲ得ス
第二十九條 火藥類貯藏所ニハ火藥類貯藏スルニハ内壁ヨリ一尺以上ヲ隔テ下部ニハ高サ約三寸ノ枕木ヲ置キテ容器ヲ積上ケヘシ
火藥類貯藏所ニ於テハ警察官署ノ指示ニ從ヒ換氣ニ注意スヘシ
火藥類貯藏所内ノ溫度ハ無煙火藥ヲ貯藏スル場合ニ於テ攝氏三十一度以下爆藥ヲ貯藏スル場合ニ於テ攝氏九度以上三十六度以下ヲ保ツコトニ注意スヘシ
火藥類貯藏所ニ於テハ携帶電燈ノ外燈火ヲ携フルコトヲ得ス
火藥類貯藏所ニ於テハ荷造、荷解ヲ爲シ又ハ鐵類若ハ鐵類ノ附屬シタル器具ヲ帶ヒ又ハ靴若ハ土足ノ儘入ルコトヲ得ス戶外ニ於テ先ツ塵埃ヲ拂ヒ且上草履ヲ穿ツヘシ
火藥庫及假貯藏所ニハ他ノ物品ヲ貯藏スルコトヲ得ス
第二十六條第一項第二號、第二十一號、第二十二號、第二十四號、第二十五號、第二十九號及其ノ副則ノ規定ハ火藥庫及假貯藏所ニ之ヲ準用シ

同條第一項第二十二號、第二十四號、第二十九號及其ノ罰則ノ規定ハ倉庫ニ之ヲ準用ス

第三十條 火藥類ヲ消費スル者ハ消費地警察官署ノ指示ニ從ヒ火藥類ノ收支ヲ明ニスヘシ但シ一年間ニ於テ銃砲火藥類取締法施行規則第十八條各號以內ノ火藥類ヲ消費スル者ハ此ノ限ニ在ラス

第三十一條 銃砲火藥類取締法施行規則第三十二條第一項ノ許可申請書ニハ位置、設備又ハ増築、改築、修繕若ハ模様替ノ仕様並貯藏スヘキ火藥類ノ種類、數量ヲ具スルコトヲ要ス

假貯藏所ニ在テハ前項ノ外火藥類ヲ要スル事業及期間ヲ具スルコトヲ要ス

第三十二條 火藥庫ノ設備ハ左ノ各號ノ制限ニ從フヘシ但シ地下又ハ水上ニ設ケル火藥庫ニ關シテハ廳府縣長官ノ許可ヲ得テ特別ノ設備ヲ爲スコトヲ得

一 火藥庫ハ土藏造、鐵筋コンクリート造、煉瓦造又ハ石造ノ平屋建ナルコト

二 火藥庫ノ屋根ノ外面ハ薄キ金屬板、石盤板又ハ瓦若ハ輕量ノ不燃質物ヲ用キテ覆葺シ且盜難ヲ防キ得ヘキ構造ヲ爲スコト

三 庫壁ハ土造、鐵筋コンクリート造ノ部分ニ於テ厚サ五寸以上、煉瓦造、石造ノ部分ニ於テ厚サ七寸以上トシ窓ニハ透明ノ硝子ヲ用ヒルコトナク且扉ニハ防火ノ設備ヲ爲スコト

四 庫ノ内面ハ石、瓦、ベトン、土砂ノ剝落飛散ヲ防クノ裝置ヲ爲シ鐵類ヲ露ハササルコト

五 床ハ密ニ張詰メ鐵類ヲ露ハササルコト

六 火藥庫ニハ避雷針ヲ設ケルコト但シ避雷針ニ代ルヘキ裝置アルトキハ之ヲ省略スルコトヲ得

七 無煙銃用實包又ハ無煙銃用空包ヲ貯藏スル火藥庫ノ周圍ニハ土堤又ハ鐵筋コンクリート造、煉瓦造若ハ石造ノ圍壁ヲ、其ノ他ノ火藥庫ヲ貯藏スル火藥庫ノ周圍ニハ土堤ヲ庫壁ノ外側面ヨリ堤脚又ハ壁脚迄三尺乃至六間ノ距離ニ於テ可成庫壁ニ接近シテ設ケルコト但シ廳

府縣長官ハ天然又ハ人造ノ掩體ノ狀態其ノ他土地ノ狀況ニ依リ危險ノ虞ナシト認ムルトキハ土堤又ハ圍壁ノ全部又ハ一部ノ省略ヲ許可スルコトヲ得

火藥庫ニ以上相接スル場合ニ於テ各庫ノ土堤又ハ圍壁ハ相兼ヌルコトヲ得

土堤又ハ圍壁ハ堤外ヨリ火藥庫ヲ通視シ能ハサラシムルカ爲其ノ一端ヲ屈折延長スルカ又ハ通路ノ入口ノ前面ニ更ニ土堤又ハ圍壁ヲ設ケ若ハ土堤ノ入口ヲ隧道ト爲シ其ノ兩端ニ堅固ナル扉ヲ設ケルコト

無煙銃用實包又ハ無煙銃用空包ヲ貯藏スル火藥庫ノ土堤又ハ圍壁ノ高サハ火藥庫ノ軒桁ノ高サト、其ノ他ノ火藥庫ヲ貯藏スル火藥庫ノ土堤ハ高サハ火藥庫ノ屋頂ノ高サト同一以上、圍壁ノ厚サハ一尺五寸以上、土堤ノ頂部ノ厚サハ三尺以上トシ堤面ハ芝草類ヲ以テ被覆スルコト但シ堤脚ハ火藥庫ノ屋頂ノ高サノ三分ノ一ニ至ル迄土留ヲ石積、煉瓦積又ハコンクリート造ト爲スコトヲ得

八 土堤ノ外部ニ於テ餘地アルトキハ常盤木ヲ栽植スルコト

第三十三條 倉庫ノ設備ハ前條ノ規定ヲ準用ス但シ避雷針及土堤ニ關シテハ前條ノ規定ニ拘ラス左ノ各號ノ規定ニ依ルコトヲ得

一 避雷針及之ニ代ルヘキ裝置ヲ省略スルコト

二 庫壁ノ外側面ニ觸接シ高サハ倉庫ト同シクシ厚サハ頂部ニ於テ二尺以上トシ有シ磔ノ混入セサル土ヲ以テ積上ケタル外層ニ依リ圍壁ノ部分)シ土堤ヲ省略スルコト但シ庫壁ニシテ其ノ厚サ二尺以上若ハ之ト同一ノ抵抗力有スルトキハ外層ヲ省略スルコトヲ得

第三十四條 假貯藏所ノ設備ニ付テハ廳府縣長官ノ命令ニ從フヘシ

第三十五條 繫留船又ハ倉庫船ハ火藥類ノ船積、船卸又ハ陸揚ノ場合ニ限リ一時倉庫ニ代用スルコトヲ得

第三十六條 繫留船又ハ倉庫船ニ火藥類ヲ貯藏セムトスル者ハ船舶ノ設備、繫留ノ位置及貯藏スヘキ火藥類ノ種類、數量ヲ具シ船舶所在地警察官署ノ許可ヲ受クヘシ

港務部ノ設置ナキ地ニ於テハ警察官ハ危害豫防ノ爲繫留船又ハ倉庫船ノ

位置ヲ指定シ又ハ之ヲ變更セシメ其ノ他必要ナル事項ヲ命スルコトヲ得

第三十七條 銃砲火藥類取締法施行規則第十八條各號以外ノ火藥類ハ警察官署ノ許可ヲ受ケルニ非サレハ日出前又ハ日没後ニ於テ荷造、荷解、荷積、荷卸又ハ授受スルコトヲ得ス

第三十八條 銃砲火藥類取締法施行規則第三十六條ノ規定ニ依リ許可申請書ニハ運搬スヘキ火藥類ノ種類、數量、運搬ノ日時、方法、通路及發着ノ場所ヲ具スルコトヲ要ス

第三十九條 所轄警察官署ノ許可ヲ受ケ火藥類ヲ運搬スルニハ許可證ヲ携帶スル外左ノ各號ノ制限ニ從フヘシ

一 運搬具又ハ牛馬ノ類ヲ用ヒテ運搬スルニハ看守人ヲ附シ晝間ハ赤地ヲ携フヘシ

ニ 火藥ノ二字ヲ白書シタル小旗(陸路ニハ曲尺標)夜間ハ赤色安全燈ヲ携フヘシ

三 看守人及運搬人ハ前號安全燈ノ外燐寸其ノ他發火ノ虞アル物件ヲ携帶シ又ハ荷造、荷解、荷積及荷卸ニ際シ若ハ荷物ニ接近シテ喫煙シ又ハ火氣ヲ取扱フコトヲ得ス

四 燐寸其ノ他發火ノ虞アル物件ハ火藥類ト共ニ積載スルコトヲ得ス

五 荷牛馬車ニ在テハ牛馬取付ノ儘荷積又ハ荷卸ヲ爲スコトヲ得ス

六 容器ハ密閉シ堅固ニ積載シ日光ノ直射セサル様適當ノ被覆ヲ爲シ摩擦、動搖、衝突、轉倒及墜落ノ虞ナカラシムヘシ

七 運搬中ハ徐行シ他ノ通路ナキ場合ノ外人家稠密ノ場所又ハ火氣ヲ取扱ヒ若ハ發火質物品ヲ蓄積スル等危險ノ虞アル場所ヲ通過スルコトヲ得ス

八 運搬具又ハ牛馬ニ積載スル火藥類ハ普通積載量ノ二分ノ一ヲ超過スルコトヲ得ス

九 二以上ノ運搬具又ハ牛馬ヲ連行スルトキハ其ノ距離各五間以上ヲ保

八 運搬中停留又ハ休泊ヲ爲ストキハ人家ヲ遠隔セル安全ノ位置ヲ撰ミ且看守人ヲ附スヘシ

第三十九條ノ二 索道ヲ火藥類運搬ノ用ニ供セムトスルトキハ索道直下ノ地點ヨリ六十間以內ニ在ル社寺、學校、官公衙、病院、公園、工場、鐵道、軌道、國道、府縣道等ヲ明ニスル平面圖、索道下地面トノ距離、索道ノ方式及獨子並運搬具ノ構造、運搬具ニ積載シ得ヘキ重量、運搬具ニ積載スヘキ火藥類ノ種類、數量、積込ノ方法、發着ノ場所及火藥類運搬中看守人ヲ配置スヘキ場所ヲ具シ所轄廳府縣長官ニ申請シ許可ヲ受クヘシ

第三十九條ノ三 火藥類ヲ自動車ニ依リ運搬セムトスルトキハ危害豫防上特別ノ設備ヲ爲シ且其ノ運搬用トシテ所轄廳府縣長官ノ許可ヲ受ケタルモノナルコトヲ要ス但シ左ニ掲ケル火藥類ヲ客ノ乘用ニ供セサル自動車ニ依リ運搬スル場合及少量ノ銃用火藥類ヲ其ノ携帶者ト共ニ運搬スル場合ハ此ノ限ニ在ラス

一 緩燃導火線、煙火、信號焰管、星火ヲ發スル榴彈十二箇以下ヲ木製動搖又ハ衝突ヲ豫防シ得ル様各箇ノ間、火筒六箇以下ヲ木製容器ニ二層層、紙層ノ類ヲ充シタルモノ、火筒六箇以下ヲ木製容器ニ衝突ヲ豫防シ得ル様各箇ノ間ニ麻屑、紙屑ノ類ヲ充シタルモノ

二 銃用火藥包、銃用火藥包、火藥ヲ裝填セサル雷管附若ハ爆管附藥莖、雷管ヲ除ク信管、爆管、門管

三 管箱內ノ火藥又ハ爆藥ヲ爆發ノ危險ナキニ至ル迄充分濕潤ノ上箱ヲ密閉シ該箱ノ上ニ濕潤ト明記シタルモノ

四 芳香系列ノ硝化物若ハ之ヲ主トスル混和物ニシテ起爆劑ヲ附セサルモノ

五 硝酸アンモニア又ハ過鹽素酸アンモニアヲ主トスル爆藥中ナイトロケリセリン若ハ硝化纖維素ヲ含有セサルモノニシテ起爆劑ヲ附セサルモノ

ルモノ

六 六貫以下ノ火藥

七 一貫三百以下ノ火藥

第三十九條ノ四 索道又ハ自動車ニ據リ火藥類ヲ運搬スル者ハ第三十九條ノ制限ニ從フ外所轄廳府縣長官又ハ警察官署ノ指示スル事項ヲ遵守スヘシ

第四十條 銃砲火藥類取締法施行規則第十八條各號以外ノ火藥類ノ運搬ニ付テハ第二十七條及其ノ罰則ノ規定ヲ準用ス

第四十一條 無煙火藥又ハ爆藥ヲ主トシテロケリセリ又ハ貯藏スル火藥庫又ハ假貯藏所ニハ夏季、ナイトログリセリン又ハ之ヲ主トスル爆藥ヲ貯藏スル火藥庫又ハ假貯藏所ニハ夏季及冬季示差暖計ヲ備ヘ毎週一回之ヲ檢シ其ノ溫度ヲ明記シ置クヘシ

示差暖計ヲ備フルハ夏季之ヲ最高溫度ノ位置ニ於テシ冬季之ヲ最低溫度ノ位置ニ於テスヘシ

本條ニ於テ夏季ト稱スルハ毎年七月ヨリ九月ニ至リ冬季ト稱スルハ毎年十二月ヨリ二月ニ至ル期間ヲ謂フ但シ土地ノ氣候ニ應ジ廳府縣長官特別ノ規定ヲ設クルコトヲ得

第四十二條 無煙火藥、棉火藥又ハナイトログリセリン若ハ硝化纖維素ヲ含有スル爆藥ニ在リテハ其ノ容器ノ内箱ニ藥粒又ハ藥包ト共ニ青色リトマス試験紙ヲ入レ置キ三月毎ニ之ヲ交換スヘシ但シ製造所及製造年月ヲ同クスル同種類ノ火藥類ニシテ製造後二年ヲ經過セザルモノハ其ノ外箱ニ二十五箱ニ切上クニ付、製造後二年以上ヲ經過シタルモノハ十箱ニ切上クニ付各一箱以上ノ割合ヲ以テ青色リトマス試験紙ヲ入レ置キ他ハ之ヲ省略スルコトヲ得

前項ノ試験紙全面ニ赤色ニ變シタルトキハ收納セル火藥、爆藥及同一貯藏所内ニ貯藏セル同種類ノ火藥、爆藥ニシテ其ノ製造所及製造年月ヲ同クスルモノハ之ヲ注意品トス

第四十三條 火藥、爆藥ニシテ盛ニ赤色瓦斯ヲ發生シ又ハ變質ノ爲刺戟性ノ臭氣ヲ放ツモノハ之ヲ不良品トス

第四十四條 第四十二條ノ注意品硝化アンモニア主トスル爆藥ニシテナスルモノ及硝酸アンモニア主トスル爆藥ニシテナスルモノハ其ノ外箱ニ二十五箱ニ切上クニ付、製造後二年以上ヲ經過シタルモノハ十箱ニ切上クニ付各一箱以上ノ割合ヲ以テ青色リトマス試験紙ヲ入レ置キ他ハ之ヲ省略スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ無煙火藥及棉火藥ハ六時間内、其ノ他ノ火藥類ハ四時間内ニ試験紙ヲ其ノ全面ニ赤色ニ變シタルモノハ不良品トス

第四十五條 左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ニ於テハ耐熱試験ヲ行フヘシ

一 遊離酸試験ノ結果前條ノ不良品ニ該當セザルトキ

二 注意品タル火藥類ヲ汽車又ハ汽船等ニ依リ輸送セムトスルトキ及輸送ヲ終リタルトキ

三 硝化アンモニア主トスル爆藥ニシテナイトログリセリン又ハ硝化纖維素ヲ含有スルモノ若ハ硝酸アンモニア主トスル爆藥ニシテナイトログリセリン又ハ硝化纖維素ヲ含有スルモノニ該當スルトキ

第四十六條 耐熱試験ハ左ノ方法ニ依リ之ヲ行フヘシ

湯煎器ノ口際迄水又ハ微温湯ヲ滿シテ鋼網上ニ之ヲ熱スルノ裝置ヲ爲シ蓋孔ヨリ寒暖計ヲ挿入シ木栓若ハ護膜栓ヲ以テ之ヲ保持スヘシ

試驗スヘキ火藥類ハ左ノ各號ノ區別ニ從ヒ試料ヲ作り之ヲ試験管ニ中徑約六十約百ニ入ルヘシ

一 硅藻土質ダイナマイトハ其ノ二十五乃至三十五ヲ採リ靜ニ壓シ細粒ト爲シ之ヲ口徑約五釐ノ硝子製漏斗ノ底部ニ精製無水石綿若ハ精製

用ウヘシ

第四十七條 火藥類ノ耐熱時間八分以下ナルトキハ之ヲ不良品トス

第四十七條ノ二 硝酸アンモニア主トスル爆藥ニシテナイトログリセリン又ハ硝化纖維素ヲ含有セザルモノニ在リテハ製造後二年ヲ經過セザルモノハ毎年一回、製造後二年以上ヲ經過シタルモノ又ハ製造年月不明ノモノハ六月毎ニ一回第四十四條第二項ノ方法ニ依リ遊離酸試験ヲ行フヘシ

前項ノ場合ニ於テ四時間内ニ試験紙ヲ其ノ全面ニ赤色ニ變シタルトキハ更ニ加熱試験ヲ行フヘシ

第四十七條ノ三 加熱試験ハ左ノ方法ニ依リ之ヲ行フヘシ

經約三十五ミリメートル高サ約五十ミリメートルノ秤量壺ヲ乾燥器内ニ於テ乾燥スヘシ

試驗スヘキ爆藥中ヨリ試料十グラムヲ採リ之ヲ前項ノ秤量壺ニ入レ密栓シ秤量シタル後栓ヲ除キ攝氏七十五度乃至八十度ニ熱シタル乾燥器内ニ四十八時間靜置スヘシ

前項ノ試験中盛ニ赤色瓦斯ヲ發生スルトキハ之ヲ不良品トス此ノ作用ヲ起ササルトキハ再ヒ之ヲ密栓シ其ノ重量ヲ秤ルヘシ其ノ減耗量百分ノ一以上ナルトキハ之ヲ不良品トス

試驗スヘキ爆藥ニシテ濕氣ヲ吸收シタル疑アルトキハ先少其ノ試料ヲ攝氏七十五度乃至八十度ニ熱シタル乾燥器内ニ於テ約五時間乾燥シタル後秤量シ第二項及第三項ノ方法ニ依リ試驗ヲ行ヒ試驗中盛ニ赤色瓦斯ヲ發生スルカ又ハ前項ノ方法ニ依リ秤量シタル減耗量百分ノ〇・一以上ナルトキハ之ヲ不良品トス

第四十八條 耐熱試験又ハ加熱試験ノ結果ハ警察官署ノ指示ニ從ヒ之ヲ帳簿ニ記載シ置クヘシ

第四十九條 無煙火藥、棉火藥又ハナイトログリセリン若ハ硝化纖維素ヲ

ルモノ

六 六貫以下ノ火藥

七 一貫三百以下ノ火藥

第三十九條ノ四 索道又ハ自動車ニ據リ火藥類ヲ運搬スル者ハ第三十九條ノ制限ニ從フ外所轄廳府縣長官又ハ警察官署ノ指示スル事項ヲ遵守スヘシ

第四十條 銃砲火藥類取締法施行規則第十八條各號以外ノ火藥類ノ運搬ニ付テハ第二十七條及其ノ罰則ノ規定ヲ準用ス

第四十一條 無煙火藥又ハ爆藥ヲ主トシテロケリセリ又ハ貯藏スル火藥庫又ハ假貯藏所ニハ夏季、ナイトログリセリン又ハ之ヲ主トスル爆藥ヲ貯藏スル火藥庫又ハ假貯藏所ニハ夏季及冬季示差暖計ヲ備ヘ毎週一回之ヲ檢シ其ノ溫度ヲ明記シ置クヘシ

示差暖計ヲ備フルハ夏季之ヲ最高溫度ノ位置ニ於テシ冬季之ヲ最低溫度ノ位置ニ於テスヘシ

本條ニ於テ夏季ト稱スルハ毎年七月ヨリ九月ニ至リ冬季ト稱スルハ毎年十二月ヨリ二月ニ至ル期間ヲ謂フ但シ土地ノ氣候ニ應ジ廳府縣長官特別ノ規定ヲ設クルコトヲ得

第四十二條 無煙火藥、棉火藥又ハナイトログリセリン若ハ硝化纖維素ヲ含有スル爆藥ニ在リテハ其ノ容器ノ内箱ニ藥粒又ハ藥包ト共ニ青色リトマス試験紙ヲ入レ置キ三月毎ニ之ヲ交換スヘシ但シ製造所及製造年月ヲ同クスル同種類ノ火藥類ニシテ製造後二年ヲ經過セザルモノハ其ノ外箱ニ二十五箱ニ切上クニ付、製造後二年以上ヲ經過シタルモノハ十箱ニ切上クニ付各一箱以上ノ割合ヲ以テ青色リトマス試験紙ヲ入レ置キ他ハ之ヲ省略スルコトヲ得

前項ノ試験紙全面ニ赤色ニ變シタルトキハ收納セル火藥、爆藥及同一貯藏所内ニ貯藏セル同種類ノ火藥、爆藥ニシテ其ノ製造所及製造年月ヲ同クスルモノハ之ヲ注意品トス

脫脂綿ノ小片ヲ置キタル上ニ入レ硝子樽ニテ其ノ表面ヲ平ニシ尙其ノ上部ヲ三耗ノ厚サニ精製硅藻土又ハ精製石綿粉ヲ以テ覆ヒ徐々ニ上面ヨリ蒸溜水ヲ滴下シ漏斗ノ下端ヨリ流出スルナイトログリセリン三瓦乃至三瓦半ヲ採リ之ヲ一試験管ニ入ルヘキ試料トス

二 膠質ダイナマイトハ其ノ三瓦半ヲ採リ硝子板上ニ於テ米粒大ニ細截シ乳鉢ニ入レ精製滑石粉七瓦ヲ加ヘ木製乳鉢ヲ以テ靜ニ輕ク完全ニ攪リ混セ之ヲ一試験管ニ入ルヘキ試料トス

三 硅藻土質及膠質以外ノダイナマイトニシテ乾燥セルモノハ其ノ儘、吸濕ノ疑アルモノハ攝氏四十五度ニテ約五時間乾燥シタル後三瓦半ヲ採リ之ヲ一試験管ニ入ルヘキ試料トス

四 無煙火藥ニシテ粒狀ノモノハ其ノ儘、方形、帶狀又ハ紐狀ノモノハ鉋、小刀又ハ鉄子以テ細粒狀ニ削截シ試験管ノ高サノ五分ノ三ニ應スル量ヲ採リ之ヲ一試験管ニ入ルヘキ試料トス

五 棉火藥及其ノ他ノ爆藥ニシテ乾燥セルモノハ其ノ儘、濕潤セルモノハ攝氏六十度ノ溫度ニテ約五時間乾燥シタル後試験管ノ高サノ三分ノ一ニ應スル量ヲ採リ之ヲ一試験管ニ入ルヘキ試料トス

沃度加里澱粉紙ノ下部ヲ蒸溜水及グリセリンノ等分混液ヲ用ヒ玻璃棒ニテ潤シ之ヲ玻璃桿ヨリ懸吊シ桿ヲ保持セル木栓ヲ以テ試験管口ヲ掩ヒ沃度加里澱粉紙ノ下縁ヲシテ火藥類上面ヨリ稍上方ニ在ラシムヘシ

前各項ノ準備ヲ爲シタル後湯煎器ヲ熱シ攝氏六十五度ノ溫度ヲ保持スルニ至ラハ試験管ヲ寒暖計ト同シ深サニ蓋孔ヨリ挿入シ沃度加里澱粉紙ノ乾濕分界部ヲ注視シ試験管挿入ノ時ヨリ其ノ淡褐色ニ變スルニ至ルノ時間ヲ以テ火藥類ノ耐熱時間ト定ムヘシ

沃度加里澱粉紙ニ現ハル褐色線ノ濃度ハ標準色紙ト對照シテ之ヲ定ムヘシ

標準色紙及沃度加里澱粉紙並精製滑石粉ハ官廳ニ於テ製造シタルモノヲ

含有スル爆藥ニシテ製造後二年ヲ經過セサルモノハ毎年一回、製造後二年以上ヲ經過シ又ハ製造年月不明ノモノハ三月毎ニ一回第四十六條ニ定ムル試驗ヲ行フヘシ三月以内ニ於テ異狀ヲ認メタルトキ亦同シ

第四十九條ノ二 硝酸鹽、鹽素酸鹽又ハ過鹽素酸鹽ヲ主トスル爆藥ニシテ硝基化合物ヲ含有スルモノハ硝酸アンモニアヲ主トスルモノ及ナイトログクニ在リテハ製造後二年ヲ經過セサルモノハ毎年一回、製造後二年以上ヲ經過シタルモノ若ハ製造年月不明ノモノハ六月毎ニ一回第四十六條ニ定ムル試驗ヲ行フヘシ六月以内ニ於テ異狀ヲ認メタルトキ亦同シ

第四十九條ノ三 廳府縣長官ハ前條爆藥中種類ヲ限リ第四十七條ノ三第二項、第三項ノ方法ニ依リ加熱試驗ヲ行ハシムルコトヲ得

第四十九條ノ四 第四十七條ノ二、第四十九條、第四十九條ノ二及前條ニ依リ試驗ヲ行フヘキ火藥類ノ箱數ハ製造所及製造年月同クスル同種類ノ火藥類ニシテ製造後二年ヲ經過セサルモノニ在リテハ外箱二十五箱箱ニ切上クニ付、製造後二年以上ヲ經過シタルモノニ在リテハ外箱十箱ニ切上クニ付各一箱以上、其ノ他ノモノニ在リテハ外箱ノ各箇トス

第五十條 一年間ニ於テ無煙火藥五千貫以上爆藥二千五百貫以上ヲ取扱フ者ハ何時ニテモ耐熱試驗又ハ加熱試驗ヲ行フコトヲ得ヘキ準備ヲ爲スコトヲ要ス

第五十一條 耐熱試驗又ハ加熱試驗ノ施行ハ所轄警察官署ニ之ヲ申請スルコトヲ得

第五十二條 前項ノ場合ニ於テ試驗ニ關スル費用ハ申請者之ヲ負擔スヘシ

第五十二條 不良品タル火藥類ハ警察官署ノ指示ニ從ヒ硝酸鹽類ヲ主トスル有煙火藥ニ在リテハ之ヲ水中ニ放流シ其ノ他ノ火藥類ニ在リテハ屋外廣闊ナル場所ニ於テ風ヲ除ク少量宛之ヲ燃燒スヘシ但シ警察官署ノ認可ヲ受ケ膠質ニアラサルダイナマイト類ハ海岸ヲ距ルコト二十哩以上ノ海中ニ、ダイナマイト以外ノ火藥類ハ海岸ヲ距ルコト十哩以上ノ海水中又ハ他ニ危險若ハ損害ヲ及ボサル適當ナル水中ニ之ヲ沈下スルコトヲ得

不良ノ程度極メテ輕微ナル火藥類ハ警察官署ニ於テ危險ノ虞ナシト認メタルトキハ期間ヲ指定シテ其ノ貯藏ヲ許可スルコトアルヘシ此ノ場合ニ

於テハ之ヲ良品ト隔離スルヲ要ス

第五十三條 火藥類貯藏所危險ノ狀態ト爲リ又ハ火藥類異狀ヲ呈シタルコトヲ發見シタル者ハ直ニ警察官ニ之ヲ届出ツヘシ

前項ノ場合ニ於テ火藥類貯藏所又ハ火藥類ノ所有者又ハ管理者ハ直ニ應急ノ措置ヲ行フヘシ

第五十四條 第二條ノ二、第五條、第六條ノ三、第十九條第二十六條第一項第一號乃至第三號、第九號、第十九號、第二十一號乃至第三十四號、第三十六號乃至第三十八號、第二十六條ノ二第一項第七號乃至第十四號、第二十六條ノ三第一項第九號乃至第十三號、第二十六條ノ四第一項第六號乃至第十二號、第二十六條ノ五第一項第四號乃至第七號、第二十六條ノ六第一項第十二號、第十六號、第十八號、第二十六條ノ八第一項第四號乃至第六號、第二十六條ノ九第一項第十五號、第十九號、第二十一號乃至第二十三號、第二十六號、第二十六條ノ十第一項第四號、第二十六條ノ十一第一項第三號、第四號、第二十七條第二十九條第一項乃至第六項、第三十六條第一項第三十七條第三十九條、第三十九條ノ二、第三十九條ノ三、第三十九條ノ四、第四十一條第一項第二項第四十二條第一項第四十四條第一項第四十五條第四十七條ノ二第四十九條第五十條第五十二條第五十三條ニ違反シ又ハ第六條ノ四、第二十六條ノ八、第三十六條第二項ニ依リ命令ニ違反シ又ハ第六條第七項ノ標準色紙及沃度加里澱粉紙並精製滑石粉ヲ偽造シタル者又ハ本令又ハ本令ニ基キテ發スル命令若ハ許可條件ニ適合セサル火藥類作業所ニ於テ火藥類ヲ製造シ又ハ變形修理シタル者又ハ本令ニ基キテ發スル廳府縣長官ノ命令若ハ許可條件ニ適合セサル火藥類貯藏所ニ火藥類ヲ貯藏シタル者ハ三月以下ノ懲役若ハ拘留又ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス

第五十五條 第三條、第六條、第七條乃至第九條第十一條乃至第十三條第十八條第二十一條乃至第二十四條第三十條第四十六條第七項第四十八條ニ違反シ又ハ交付若ハ提示ヲ受ケヘキ許可證、認可證又ハ文書ノ受領若ハ檢閲セスシテ銃砲火藥類ヲ讓受又ハ讓受クタル者ハ五十圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

附則

本令ハ明治四十四年五月一日ヨリ之ヲ施行ス但シ第五十條ハ二年間其ノ施行ヲ延期ス

甲號(銃砲火藥類取締法施行規則第十八條)用紙美濃牛切

第 號	軍用銃砲讓(受)許可證	[明治] 年 月 日	住所	氏 名	警察官署名 印
讓(渡)許可者	讓(渡)許可				
種 類					
數 量					
讓(渡)ノ事由					
效證期間有	自(明治) 年 月 日	至(明治) 年 月 日			

乙號(銃砲火藥類取締法施行規則第十六條第十七條第十八條)用紙美濃牛切

第 號	火藥類讓渡許可(又ハ認可)證	[明治] 年 月 日	住所	氏 名	廳府縣(又ハ警察官署)署名 印
讓(渡)許可者	讓(渡)許可				
種 類					
數 量					
讓(渡)ノ事由					
效證期間有	自(明治) 年 月 日	至(明治) 年 月 日			

丙號(銃砲火藥類取締法施行規則第十八條)用紙美濃牛切

第 號	火藥類讓受許可證	(明治) 年 月 日	讓受許可ヲ受ケタル者	種 類	數 量	讓受ノ事由、目的	用 途	消費ノ場所	消費ノ日時	效證書 間有
			住 所 氏 名							至自 (明治) 年 月 日 年 月 日

警察署 名印

丁號(銃砲火藥類取締法施行規則第十六條第十七條銃砲)用紙美濃四ツ折

紙 表

第 號	火藥類讓受許可證	(明治) 年 月 日	讓受許可ヲ受ケタル者	種 類	數 量	讓受ノ事由、目的	用 途	消費ノ場所	消費ノ日時	效證書 間有
			住 所 氏 名							至自 (明治) 年 月 日 年 月 日

(本許可證 表紙共 枚)

廳府縣(又ハ警 察官署)名印

部 内

讓渡人記入ノ欄	種 類	數 量	年 月 日 渡	署 名 捺 印

戊號(銃砲火藥類取締法施行規則第三十六條銃砲)用紙美濃牛切

第 號	火藥類運搬許可證	(明治) 年 月 日	運搬許可ヲ受ケタル者	種 類	數 量	運搬ノ日時	運搬ノ方法	通 路	發著ノ場所
			住 所 氏 名						

警察官署名印

- 三 讀受ノ事由
 - 四 用途
 - 五 消費ノ時
 - 六 消費ノ場所
 - 七 鑛業、工事若ハ工業ノ種類
 - 八 試掘又ハ探掘權登錄番號若ハ消費許可證番號
- 第十五條** 規則第三十八條ノ規定ニ依ル地盤若ハ物件ノ破碎ヲ目的トスル火藥又ハ爆藥ノ使用許可申請書ニハ左ノ事項ヲ具スルコトヲ要ス
- 一 住所、職業、氏名及生年月日
 - 二 使用ノ日時及場所
 - 三 使用ノ目的及方法
 - 四 從業者ノ監督方法
 - 五 火藥類ノ種類、數量及貯藏ノ方法
 - 六 使用場所周圍ノ見取圖(二百メートル以内)
- 第十六條** 煙火ノ打揚ヲ爲サントスル者ハ左ノ事項ヲ具シ打揚地所轄警察署ニ申請シ許可ヲ受クヘシ
- 一 申請者、依頼者並ニ從事者ノ住所、職業、氏名及生年月日
 - 二 打揚ノ日時及場所
 - 三 打揚場所周圍ノ見取圖(二百メートル以内)
 - 四 打揚ノ目的
 - 五 打揚煙火ノ種類(寸法)數量及打揚火藥ノ調達方法
 - 六 危險防止ニ關スル設備方法
- 警察署ニ於テ危險豫防其ノ他保安上必要アリト認ムルトキハ煙火ノ打揚ヲ制限シ又ハ禁止スルコトアルヘシ
- 第十七條** 威銃ヲ爲サントスル者ハ左ノ事項ヲ具シ實施地所轄警察署ニ申

〔山梨管〕

- 一 本籍、住所、職業、氏名及生年月日
 - 二 實施ノ日時、場所及面積
 - 三 被害作物ノ種類
 - 四 有害鳥獸ノ種類
- 實施ニ當リテハ許可證ヲ携帶シ警察官吏ノ請求アリタルトキハ之ヲ提示スヘシ
- 第十八條** 規則第十八條各號以外ノ火藥類消費者ハ毎月十日迄ニ左ノ事項ヲ具シ消費地所轄警察署ニ届出ツヘシ
- 一 前月中消費シタル火藥類ノ種類及數量
 - 二 火藥類讓受許可官廳
- 第十九條** 規則第二十二條第二項ノ規定ニ依ル火藥類處分認可申請ハ處分ヲ要スル事由ヲ生シタルトキヨリ十日以内ニ之ヲ爲スヘシ
- 第二十條** 規則第三十二條第一項ノ規定ニ依ル火藥類貯藏所ノ新設、増築、改築、修繕又ハ模様替ノ許可申請書ニハ細則第三十一條ニ規定スル事項ノ外左ノ事項ヲ具スルコトヲ要ス
- 一 本籍、住所、職業、氏名及生年月日
 - 二 敷地坪數
 - 三 貯藏所周圍ノ見取圖(五百メートル以内)
 - 四 建物ノ配置圖
 - 五 建物ノ正面圖、平面圖及斷面圖
 - 六 竣功ノ豫定期日
- 第二十一條** 火藥類假貯藏所ノ設備ハ左ノ各號ノ制限ニ從フヘシ但シ火藥類ノ貯藏期間、種類、數量及附近ノ狀況ニ依リ斟酌ヲ加フルコトアルヘシ

〔山梨管〕

- 一 假貯藏所ハ木造又ハ土藏造リノ平屋建ナルコト
 - 二 屋根ニ付テハ細則第三十二條第二號ヲ準用ス
 - 三 壁ノ厚サハ三寸以上トシ扉ハ之ヲ設クルコト
 - 四 内面ニ付テハ細則第三十二條第四號ヲ準用ス
 - 五 床ニ付テハ細則第三十二條第五號ヲ準用ス
 - 六 避雷針若ハ之ニ代ルベキ裝置ヲ爲スヲ要ス但シ假貯藏所ノ使用期間雷鳴期ニ在ラサル場合ハ之ヲ省略スルコトヲ得
 - 七 假貯藏所ノ周圍ニハ土堤ヲ設クルコト但シ土地ノ狀況等ニ依リ其ノ全部又ハ一部ヲ省略スルコトヲ得
 - 八 假貯藏所ハ丘陵ノ斜面又ハ隧道ノ側壁ニ洞穴ヲ穿テ之ヲ設クルコトヲ得
 - 九 前號ノ假貯藏所ニ對シテハ第一號乃至第三號第六號及第七號ノ設備ヲ斟酌スルコトヲ得但シ扉ハ之ヲ設クルコト
- 第二十二條** 火藥類貯藏所ノ使用ヲ廢止シタルトキハ七日以内ニ知事ニ届出ツヘシ
- 第二十三條** 緩燃導火線又ハ煙火及其ノ半成品ハ左ノ各號ノ容器ニ收納シ安全ナル場所ニ貯藏スヘシ
- 一 緩燃導火線 一千メートル以内ヲ收納スル木製容器
 - 二 煙火及其ノ半成品 幅四十五センチメートル、深サ四十五センチメートル、長サ七十五センチメートル以内ノ(直径三十一センチメートル以上ノ煙火ニ在リテハ各一箇宛ヲ收納スル)木製容器
- 第二十四條** 細則第五十一條ノ規定ニ依ル火藥類ノ耐熱又ハ加熱試驗ノ申請書ニハ左ノ事項ヲ具スルコトヲ要ス
- 一 住所、職業、氏名及生年月日
 - 二 試驗ヲ受クル事由

- 三 火藥類ノ種類及數量
 - 四 製造所名及製造年月日
- 第三章 銃砲及變裝武器**
- 第二十五條** 仕込刀劍其ノ他變裝シタル武器ノ製造又ハ販賣ヲ業ト爲サントスル者ハ左ノ事項ヲ具シ作業地又ハ營業地所轄警察署ニ申請シ許可ヲ受クヘシ
- 一 本籍、住所、職業、氏名及生年月日
 - 二 製作品又ハ販賣品ノ種類
 - 三 販賣ノ種類(卸賣、小賣ノ別)
 - 四 作業所又ハ販賣所ノ位置
- 前項第一號ノ事項ヲ變更シタルトキハ七日以内ニ之ヲ届出ツヘシ
相續ニ依リ第一項ノ營業ヲ承繼シタル者ハ十日以内ニ之ヲ届出ツヘシ
第一項ノ營業ヲ爲ス者廢業シタルトキハ七日以内ニ之ヲ届出ツヘシ營業者死亡シタルトキハ七日以内ニ戶籍法ニ定ムル届出義務者ヨリ之ヲ届出ツヘシ
- 第二十六條** 規則第三十九條ノ規定ニ依リ拳銃、短銃、仕込銃、仕込刀劍其ノ他變裝シタル武器ノ授受又ハ携帶ノ許可申請書ニハ左ノ事項ヲ具スルコトヲ要ス
- 一 本籍、住所、職業、氏名及生年月日
 - 二 武器ノ種類、數量及特徵(記號、番號、形體ノ類)
 - 三 授受又ハ携帶ノ必要トスル理由
 - 四 携帶期間
- 前項物件ノ運搬許可申請書ニハ前項第一號及第二號ノ事項ノ外運搬ノ目的、方法及發着ノ日時、場所ヲ具スルコトヲ要ス

第二十七條 規則第三十九條ノ規定ニ依リ許可ヲ受ケタル者拳銃、短銃、仕込銃、仕込刀劍其ノ他變裝シタル或器ヲ携帯又ハ運搬スルトキハ其ノ許可證ヲ携帯シ警察官吏ノ請求アリタルトキハ之ヲ提示スヘシ

第二十八條 軍用銃砲、拳銃、短銃、仕込銃、仕込刀劍其ノ他變裝シタル或器ヲ所持スル者(製造又ハ販賣ヲ業ト爲ス者ヲ除ク)其ノ住所、職業、氏名ヲ變更シタルトキハ七日以内ニ左ノ事項ヲ具シ所轄警察署ニ届出ツヘシ管外ヨリ轉入シタルトキ亦同シ

一 本籍、住所、職業、氏名及生年月日
二 變更又ハ轉入ノ年月日
三 或器ノ種類、數量及特徵(記號、番號、形態ノ類)
四 實包及空包ノ各數量
第二十九條 規則第二十四條及第二十五條ノ規定ニ依ル軍用銃砲、拳銃、短銃、仕込銃、仕込刀劍其ノ他變裝シタル或器ノ廢棄届ニハ左ノ事項ヲ具スルコトヲ要ス

〔山梨警〕

第四章 罰則

第三十二條 第三條、第四條、第十二條第二項、第十三條、第十四條、第十五條、第十七條乃至第十九條、第二十二條、第二十三條、第二十五條、第二十七條、第二十八條ノ規定ニ違反シ又ハ第十二條第一項、第三項、第十六條第二項ノ命令ニ違背シタル者ハ拘留又ハ科料ニ處ス

附則

第三十三條 本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス
第三十四條 明治四十四年十月縣令第五十三號銃砲火藥類取締法令施行手續、大正十五年六月縣令第二十七號煙火原料用火藥爆藥及煙火製造作業主任者資格試驗手續、昭和五年九月縣令第三十九號短刀、匕首其ノ他ノ或器携帯禁止ニ關スル件ハ之ヲ廢止ス
第三十五條 本令施行ノ際仕込刀劍其ノ他變裝シタル或器ノ製造又ハ販賣ヲ業ト爲ス者ハ第二十五條ノ事項ヲ具シ本令施行ノ日ヨリ三十日以内ニ作業地又ハ營業地所轄警察署ニ届出ツヘシ
前項ニ依リ届出ヲ爲シタル者ハ本令ニ依ル許可ヲ受ケタル者ト看做ス

銃砲(火藥類)製造明細簿

Table with columns: 年月日, 種類, 製造別, 數量, 備考

一 銃砲又ハ火藥類ノ種類(軍用銃砲、獵銃、拳銃、短銃、仕込銃)ニ依リ帳簿ヲ別ニスヘシ

〔山梨警〕

第二號樣式

銃砲(火藥類)讓渡明細簿

Table with columns: 讓渡年月日, 種類, 數量, 讓受人, 住所, 備考

一 種類欄ニハ製品ノ名稱ヲ記載スヘシ
一 製造別トハ銃砲ニ在リテハ製造、改造、修繕ニ火藥類ニ在リテハ製造變形、修理ニ區分シ帳簿ノ口座ヲ別ニスヘシ
一 備考欄ニハ其ノ記號番號アルモノハ之ヲ記入スヘシ
一 帳簿ハ各口座別ニ毎月末其ノ月計ヲ朱記スヘシ

〔山梨警〕

第四號樣式

銃砲(火藥類)取引明細簿

Table with columns: 年月日, 數量, 讓渡人, 住所, 備考

一 本簿ハ煙火原料用火藥、爆藥ノ製造業者ニ限り備付クヘキモノトス
一 原料藥品ノ種類(鹽素酸加里、硝石、硫黃、鷄冠石等)ニ依リ帳簿ノ口座ヲ別ニスヘシ

第三號樣式

火藥類原料藥品明細簿

Table with columns: 年月日, 種類, 買入數量, 使用量, 現在高, 備考

一 銃砲又ハ火藥類ノ種類(軍用銃砲、獵銃、拳銃、短銃、仕込銃)ニ依リ帳簿ノ口座ヲ別ニスヘシ
一 種類欄ニハ讓渡品ノ名稱ヲ記載スヘシ
一 備考欄ニハ記號、番號、讓渡許可官署名並ニ指令番號ヲ記載スヘシ
一 帳簿ニハ口座別ニ毎月末其ノ月計ヲ朱記スヘシ

第五號樣式

年中銃砲(火藥類)製造届

一 銃砲又ハ火藥類ノ種類(軍用銃砲、獵銃、拳銃、短銃、仕込銃)ニ依リ帳簿ノ口座ヲ別ニスヘシ
一 備考欄ニハ取引品ノ名稱、記號、番號及讓渡許可官署名並ニ指令番號ヲ記載スヘシ
一 帳簿ハ口座別ニ毎月末其ノ月計ヲ朱記スヘシ

種別	越 高	製造高	讓渡高	在月末現 高	備 考

一 讓受許可證 通
 一 讓受證書 通
 一 委任狀 通
 右及御届候也

銃砲(火藥類)製造(修繕)業者

氏 名

警察署長殿

備考

- 一 種類欄ニハ製品ノ名稱ヲ記載スベシ
- 一 製造業者ニシテ自己製品ノ販賣ヲ兼ムル者ハ讓渡高欄ニ其ノ卸賣高ヲ黒書シ小賣高ヲ朱書スベシ
- 一 銃砲ノ改造、修繕又ハ火藥類ノ變形、修理ヲ爲シタルトキハ其ノ數量ヲ備考欄ニ記載スベシ

第六號様式
 年中銃砲(火藥類)取引届

種 類	受 入	計 高	讓渡高	月 末 現 在 高
	越 高			

〔山梨警〕

一 讓受(渡)許可證 通
 一 讓受證書 通
 一 委任狀 通
 右及御届候也

銃砲(火藥類)販賣業

氏 名

警察署長殿

備考

- 一 本屆ニハ自己製造以外ノ取引ヲ記載スベシ
- 一 種類欄ニハ取引品ノ名稱ヲ記載スベシ

●銃砲火藥類取締法令執行心得

昭和七年八月 山梨縣訓令乙第一四四號

改正 昭和八年八月訓令乙第一四一號

- 第一條 本心得ニ於テ法ト稱スルハ銃砲火藥類取締法ヲ、規則ト稱スルハ銃砲火藥類取締法施行規則ヲ、細則ト稱スルハ銃砲火藥類取締法施行細則ヲ、手續ト稱スルハ銃砲火藥類取締法施行手續ヲ謂フ
- 第二條 主務大臣又ハ知事ニ差出スベキ書類ヲ受理シタルトキハ所定ノ事項ヲ具備スルヤ否ヤヲ調査シ速ニ進達スベシ
- 第三條 規則第五條又ハ第六條ノ規定ニ依ル申請書ヲ受理シタルトキハ左ノ事項ヲ調査シ速ニ進達スベシ
 - 一 申請者ノ性行、經歷、職業、資産、信用ノ程度及前科ノ有無
 - 二 作業所附近ノ狀況、設備其ノ他ノ適否
 - 三 火藥類販賣營業ニ在リテハ火藥類取扱免狀ヲ有スル者其ノ取扱ニ從事スルヤ

〔山梨警〕

細則第二條ノ二又ハ手續第三條ノ規定ニ依ル申請書ヲ受理シタルトキハ關係事項ヲ調査シ速ニ進達スベシ

- 第四條 細則第三條第二項ノ規定ニ依ル届書ヲ受理シタルトキハ前條第一項第一號ノ事項ヲ調査シ速ニ進達スベシ
- 前項ノ場合ニ於テ火藥類作業主任者又ハ火藥類取扱人ヲ缺キタルトキハ規則第十四條又ハ細則第六條ノ三ノ規定ニ依リ速ニ之ヲ設置セシムベシ
- 第五條 細則第八條第二項第九條又ハ第十八條ノ規定ニ依リ差出シ又ハ返納シタル許可證又ハ認可證ハ速ニ之ヲ交付シタル官廳ニ送付スベシ
- 第六條 手續第七條ノ規定ニ依ル申請書ヲ受理シタルトキハ申請者ニ就キ左ノ事項ヲ調査シ意見ヲ附シ速ニ進達スベシ
 - 一 性 行
 - 二 經 歴
 - 三 職 業
 - 四 前科ノ有無

資格證明書寫ヲ提出シタルトキハ本證書ト照合シ其ノ旨朱記ノ上主任者捺印スベシ

第七條 手續第九條ノ規定ニ依ル申請書ヲ受理シタルトキハ同條各號ノ事項ヲ具備シ居ルヤ否及同第八條第二項各號ニ該當スル者ニ非ザルヤ否ヲ調査シ速ニ進達スベシ

第八條 手續第十二條第一項ノ規定ニ依ル火藥係員ハ左ノ場合之ヲ置カシムベシ

- 一 一箇月以上火藥類ヲ使用スル場合
- 二 火藥類ヲ使用スル事業ニ常時十人以上ノ従業者ヲ使用スル場合
- 三 火藥類ノ讓受人直接火藥類ノ取扱ニ從事セザル場合

第九條 規則第十八條各號以外ノ火藥類消費者及火藥係員ニ對シテハ左ノ

第四編 保安 第九章 銃砲火藥類及壓縮瓦斯液化瓦斯

事項ヲ遵守セシムベシ

- 一 火藥類ハ一日ノ使用高積高ヨリ多量ニ工夫(鑛業、工事等ニ從事スル勞役者ヲ謂フ以下之ニ同ジ)ニ渡サザルコト
- 二 工夫ノ使用シタル火藥類ニシテ殘餘アルトキハ直ニ之ヲ返還セシムルコト
- 三 火藥類ヲ消費場ニ置ク場合ハ嚴重ナル鎖鑰ヲ施シタル小出箱ニ各區分シ收納セシムルコト
- 四 火藥類ノ使用者ヲ特定シ特定者以外ノ者ニ火藥類ヲ取扱ハシメサルコト
- 五 其ノ他火藥類ノ散逸ヲ防止スルニ必要ナル措置ヲ爲サシムルコト
- 第十條 細則第三十條ノ規定ニ依ル火藥類ノ收支ヲ明カニスヘキ帳簿ハ別記第一號様式ニ依ラシムベシ
- 第十一條 規則第十六條乃至第十八條ノ規定ニ依ル申請書ヲ受理シタルトキハ左ノ事項ヲ調査シ處分スベシ但シ其ノ知事ノ所管ニ係ルモノニ在リテハ意見ヲ附シ速ニ進達スベシ
 - 一 粗暴、過激ノ言動アル者ニ非サルヤ
 - 二 未成年者、白痴者、瘋癲者ニ非サルヤ
 - 三 一定ノ住所又ハ生業ナキ者ニ非サルヤ
 - 四 思想上注意ヲ要スル者ニ非サルヤ
 - 五 用途、數量及貯藏方法ノ適否
- 第十二條 規則第三十八條ノ規定ニ依ル申請書ヲ受理シタルトキハ左ノ事項ヲ調査シ處分スベシ
 - 一 危險防止ノ設備ノ適否
 - 二 使用方法ノ適否
 - 三 使用場所ノ適否

第十三條 手續第十六條ノ規定ニ依ル申請書ヲ受理シタルトキハ左ノ事項ヲ調査シ處分スヘシ
一 打揚從事者ノ適否
二 打揚火藥ノ出所
三 打揚場所及危險防止ニ關スル設備ノ適否
第十四條 手續第十七條ノ規定ニ依ル申請書ヲ受理シタルトキハ左ノ事項ヲ調査シ處分スヘシ
一 未成年者、白痴者、瘋癲者ニ非サルヤ
二 實施場所ニシテ危險ノ虞ナキヤ
三 許可證ヲ他人ニ貸與スルノ虞ナキヤ
團體又ハ組合等ニ於テ多數ノ從事者ヲ使用スル場合ハ從事者連名ニテ願出テシメ各人ニ許可證ヲ交付スヘシ
第十五條 規則第三十六條ノ規定ニ依ル申請書ヲ受理シタルトキハ運搬ノ通路運搬方法ノ適否及運搬ノ事由等ヲ調査シ處分スヘシ
許可ヲ與フルニ際シ規則第三十九條各號ノ事項ヲ遵守セシムヘシ
第十六條 規則第三十二條第一項ノ規定ニ依ル申請書ヲ受理シタルトキハ左ノ事項ヲ調査シ意見ヲ附シ速ニ進達スヘシ
一 規則第三十三條ニ規定セル場所及建造物等ノ距離
二 周圍ノ狀況
三 設備ハ規定ニ適合スルヤ
四 附近住民ノ意圖
第十七條 規則第三十二條第一項ノ工事竣功ノ届出アリタルトキハ警察部員ノ立會ヲ求メ實査ヲ遂ケ支障ナキトキハ別記第二號様式ノ使用認可證ヲ交付スヘシ
第十八條 規則第五十三條ノ規定ニ依ル届出アリタルトキハ應急ノ措置ヲ

爲シ速ニ其ノ旨報告スヘシ
第十九條 手續第二十五條ノ規定ニ依ル申請書ヲ受理シタルトキハ左ノ事項ヲ調査シ處分スヘシ
一 申請者ノ性行、經歷、職業、資産、信用ノ程度及前科ノ有無
二 取扱武器ニ關スル盜難豫防上適當ナル設備ノ有無
同條第三項ノ届書ヲ受理シタルトキハ前項第一號ノ事項ヲ調査シ處分スヘシ
第二十條 規則第三十九條及手續第三十條ノ規定ニ依ル申請書ヲ受理シタルトキハ授受、運搬、又ハ攜帶ノ事由及第十一條各號ノ事項ヲ調査シ處分スヘシ
他廳府縣ノ官廳ニ於テ許可シタル者ニ對シテハ攜帶ノ必要ヲ調査ノ上必要ナシト認ムルトキハ攜帶ヲ禁止スヘシ
第二十一條 左ノ場合ニ於テハ速ニ之ヲ關係警察署長ニ通報スヘシ
一 規則第三十六條ノ規定ニ依ル火藥類ノ運搬ヲ許可シタルトキ
二 規則第十九條ノ規定ニ依ル届出アリタルトキ
三 手續第十四條ノ規定ニ依ル届出アリタルトキ
四 手續第十八條ノ規定ニ依ル届出アリタルトキ
五 手續第二十八條ノ規定ニ依ル届出アリタルトキ
六 其ノ他取締上重要ト認ムル事項アリタルトキ
第二十二條 左ノ場合ニ於テハ關係事項及意見ヲ具シ指揮ヲ受ケヘシ
一 規則第三十九條ノ規定ニ依リ拳銃、短銃、仕込銃、仕込刀劍其ノ他變裝シタル武器ノ授受及攜帶ノ許可ヲ爲サントスルトキ
二 規則第五十二條ノ規定ニ依リ不良火藥類ノ廢棄方法ヲ指示シ又ハ一定ノ期間ヲ指定シ其ノ貯藏ヲ許可セントスルトキ
三 手續第二十五條第一項ノ規定ニ依リ許可ヲ爲サントスルトキ

〔山梨警〕

〔山梨警〕

有スル片及及雙刃若ハ銳利ナル尖端ヲ有スル刃物
第二十五條 警察署ニハ左ノ簿冊ヲ備付ケ異動アル毎ニ之ヲ整理スベシ
一 火藥貯藏所名簿(第三號様式)
二 軍用銃砲所持者名簿(第四號様式)
三 拳銃、短銃、仕込銃、仕込刀劍其ノ他變裝武器所持者名簿(第五號様式)
四 銃砲火藥類讓渡許可臺帳(第六號様式)
五 火藥類讓渡許可臺帳(第七號様式)
銃砲火藥類(仕込刀劍其ノ他變裝武器)製造販賣業者ハ諸營業名簿ニ登錄スベシ
第二十六條 第十二條又ハ第十四條ノ規定ニ依リ許可證ヲ下付セントスルトキハ別記第八號様式又ハ第九號様式ニ依ルベシ
第一號様式
火藥類收支明細簿

四 其ノ他取締上必要ト認ムル事項アリタルトキ
第二十三條 左ノ場合ニハ其ノ事實ヲ具シ速ニ報告スヘシ但シ緊急ヲ要スルトキハ處分後報告スヘシ
一 第二十一條第二號及第五號ノ届出アリタルトキ
二 法第五條又ハ規則第三十五條ノ規定ニ依リ處分ヲ爲スノ必要アリト認メタルトキ
三 法第十條第二項ノ規定ニ依リ命令又ハ處分ヲ爲スノ必要アリト認メタルトキ
四 法第十二條ノ規定ニ依リ禁止又ハ制限ヲ爲スノ必要アリト認メタルトキ
五 法第十三條ノ規定ニ依リ假領置ヲ爲シタルトキ
六 規則第十六條ノ規定ニ依リ許可ヲ取消スノ必要アリト認メタルトキ
七 火藥類貯藏所ニシテ規則第三十三條ノ規定ニ依ル距離ヲ保有セサルニ至リタルトキ
八 規則第二十三條又ハ第二十四條ノ規定ニ依ル届出アリタルトキ
九 取締法令ニ違反スル行爲アリタルトキ
十 其ノ他取締上重要ト認ムル事項アリタルトキ
前項第五號ノ假領置ヲ爲シタルトキハ假領置證ヲ交付シ第八號ノ廢棄届出アリタルトキハ廢棄物件ヲ警察部ニ送付スヘシ
第二十四條 手續第三十一條ノ短刀、匕首其ノ他之等ニ類似スル武器トハ左ノ各號ニ該當スルモノヲ云フ
一 短刀トハ太刀ノ形式ニシテ刃渡凡ソ〇、三〇三米(約一尺)以内ニ製作セラレタル鋸アルモノ
二 匕首トハ短刀ト同形ノ鋸ナキモノ
三 之等ニ類似スル武器トハ刃渡凡ソ〇、一〇六米(約三寸五分)以上ヲ

Table with 6 columns: 年月日, 受入高, 拂出高, 返還高, 現在高, 授受者氏名, 摘要. Includes a section for '備考' (Remarks) regarding fire types and recording methods.

- 一 拂出高欄ニハ工夫等ニ交付シタル高又ハ自己使用ノ高ヲ記入スルコト
- 二 返還高欄ニハ工夫等ヨリ使用殘ノ返還アリタル高ヲ記入スルコト
- 三 授受者氏名欄ニハ火藥商又ハ工事請負人等交付ヲ受ケタル者ノ氏名及交付又ハ返還シタル工夫等ノ氏名ヲ記入スルコト
- 四 摘要欄ニハ讓受交付、自己使用又ハ返還等火藥類收支ノ事由ヲ摘記スルコト

第二號樣式

本籍
住所

年月 日付竣工届出
所在火藥庫(倉庫又ハ火藥類假貯藏所)新設(増築、改築、修繕又ハ模様替)工事ノ件共ノ使用ヲ認可ス
年月 日

第三號樣式

火藥類貯藏所臺帳

種別	許可年月日	指令番号	所有者		住所	
			氏名	生年月日	住所	本籍

〔山梨管〕

第四號樣式

軍用銃砲所持者名簿

使用認可年月日	指令番号	位置	面積	棟數	貯藏	
					最大量	貯得

第五號樣式

拳銃、短銃、仕込銃、仕込刀劍其ノ他變裝或器所持携帯者名簿

種別	員數	住所		職業	氏名
		住	所		

〔山梨管〕

銃砲火藥類讓受渡許可臺帳

許可年月日	許可證番號	種類數量	讓受渡ノ事由目的	用途	讓受渡人ノ住所氏名	
					證書	有効期間

- 一 許可證ヲ返納シタル場合、盜難、紛失、又ハ遺失ノ場合共ノ事項ヲ備考欄ニ記入スルコト
- 二 銃砲、火藥類(仕込刀劍其ノ他變裝或器ヲ含ム)ヲ讓渡ス場合ハ讓渡先ヲ備考欄ニ記入スルコト

第七號樣式

火藥類讓受許可臺帳

許可證番號	許可年月日	火藥種類	數量	住所氏名備考	
				住	所

第六號樣式

讓受許可年月日	携帶				種別			
	許可期間	許可事由	許可證番號	許可年月日	名稱又ハ製造所(國)名	番號	口徑	特徵

第八號樣式

火藥類使用許可證 (用紙半紙四ツ切)

第 號	火藥類使用許可證	警察署	昭和	年	月	日
			至	昭和	年	月
住 所	職業氏名	使用 種類	火藥類 量數	使用 目的	使用 場所	使用 日時
						自昭和 至昭和 年 年 月 月 日 日 每日 自 至

(山梨警)

●火藥類取扱免狀書式

明治四十四年六月二十日
内務省告示第四十八號

銃砲火藥類取締法施行細則第四條ニ依リ交付スベキ火藥類取扱免狀書式左ノ通定ム

(用紙美濃四ツ切)

(甲種) 火藥類取扱免狀	第 號	住 所	氏 名	生 年 月 日
(乙種) 火藥類取扱免狀	第 號	住 所	氏 名	生 年 月 日
銃砲火藥類取締法施行細則第 四條ニ依リ本免狀ヲ附與ス				
年月日	廳府縣	名		

(山梨警)

●火藥類作業主任免狀書式

大正七年一月九日
内務省告示第一號

銃砲火藥類取締法施行細則第六條ノ二ニ依リ交付スヘキ火藥類作業主任者免狀書式左ノ通定ム

第四編 保安 第九章 銃砲火藥類及壓縮瓦斯液化瓦斯

第九號樣式

威銃許可證

第 號	期間	自昭和	年	月	日
	威銃許可證	至昭和	年	月	日
警察署					

裏

住 所	氏 名	生 年 月 日	區 域	摘 要

備考 許可證ハ縱八十「ミリメートル」横六十「ミリメートル」トス

(用紙美濃半切)

(甲種) 火藥類作業主任者免狀	第 號	住 所	氏 名	生 年 月 日
(乙種) 火藥類作業主任者免狀	第 號	住 所	氏 名	生 年 月 日
(丙種) 火藥類作業主任者免狀	第 號	住 所	氏 名	生 年 月 日
銃砲火藥類取締法施行細則第 六條ノ二ニ依リ本免狀ヲ付與 ス				
年月日	内務省	名		
(又ハ廳府縣名)				

●煙火原料用火藥爆藥及煙火製造
作業主任者資格試験ニ關スル件

大正十三年十月三十日
内務省令第二十三號

煙火原料用火藥、爆藥及煙火製造作業主任者資格試験ニ關スル件左ノ通之ヲ定ム

第一條 煙火原料用火藥、爆藥ノ製造數量一日二貫未滿ノ作業所及煙火製造ノ爲火藥、爆藥ヲ使用消費スル數量一日十二貫未滿ノ作業所ニ於ケル丙種火藥類作業主任者ノ資格試験ハ廳府縣長官(東京府ニ在リテハニ於テ之ヲ行フ)警視總監以下倣之

第二條 試験ハ火藥類製造、取扱及銃砲火藥類取締法令ノ大意ニ就キ之ヲ

行フ

第三條 試驗ヲ受ケムトスル者ハ收入印紙ヲ以テ試驗手数料二圓ヲ納付ス

ベシ

既納ノ手数料ハ試驗ヲ受ケザル場合ト雖之ヲ還付セズ

第四條 試驗ニ合格シタル者ニハ左記様式ノ合格證書ヲ交付ス

第五條 本令ニ規定スルモノノ外必要ナル事項ハ廳府縣長官之ヲ定ム

丙種火藥類作業主任者資格試驗合格證書

本籍 住所

氏名 生年月日

右大正十三年十月三十日內務省令第二十三號ニ依ル丙種火藥類作業主任者資格試驗ニ合格シタルコトヲ證ス

廳府縣長官圖

銃砲販賣業者、火藥類販賣業者

明治四十四年三月十一日 內務省告示第十七號

定員

改正 大正元年一〇月內務省告示第二四號、五年六月第三六號、六年九月第六三號、一〇年二月第一五號、昭和三年六月第一六〇號

銃砲販賣業者、火藥類販賣業者定員左ノ通り之ヲ定ム

銃砲販賣業者定員ハ北海道二十六人、東京府京都府大阪府長崎縣各二十人、神奈川縣兵庫縣各三十人其ノ他ノ縣各十二人

〔山梨警〕

甲種火藥類販賣業者定員ハ北海道四十六人、東京府二十四人、京都府大阪府兵庫縣長崎縣各二十三人、神奈川縣二十八人、福島縣二十人、福岡縣二十五人、岡山縣佐賀縣各十九人、其ノ他ノ縣各十八人

乙種火藥類販賣業者定員ハ神奈川縣二十三人、兵庫縣二十五人、長崎縣五人

煙火取締ニ關スル件

大正八年五月 保發第五九號

硝石四、硫黃二、炭墨二、ヲ混合シ製造シタル玩具用火工品ハ硝酸鹽類ヲ主トスル有煙火藥ニ該當スルモノナルモ一日ノ製造量三百匁ヲ超過スルコトナク且ツ其ノ貯藏量一貫三百匁以內ニ於テハ其ノ製造ヲ默許シ差支ナキモ鹽素酸鹽類ヲ主劑トスル爆藥ヲ填實セル玩具用普通火工品例ハ龍星、噴火、一聲ノ如キハ煙火ノ一種ト解シ其ノ原料火藥爆藥ノ製造ヲ許可スベキモノニ有之又煙火原料用火藥爆藥ノ作業所ノ設備ニ關シテハ一日ノ製造量三百匁ヲ超過セザル工場ニ於テハ單ニ銃砲火藥類取締法施行細則第二十六條ノ規定ヲ參照スルニ止メ同第二十六條ノ二ノ規定ヲ遵守セシムルニ及バザルニ付取締上心得ラレベシ

空氣銃取締ニ關スル件

大正十年四月 警訓第五三號

爾今空氣銃ヲ五間ノ距離ニ於テ杉四分板(仕上厚二分五厘)ニ向ケ彈丸五發ヲ發射シ内一發以上貫通スル威力アルモノニ付テハ總テ非軍用銃砲トシテ銃砲火藥類取締法ヲ適用シ取締ヲ爲スベシ

〔山梨警〕

變裝空氣銃取締ニ關スル件

大正十二年一月 保收第七九號

本件ニ關スル甲號警視總監照會ニ對シ乙號ノ通り回答ノ旨內務省警保局長ヨリ通牒アリタルニ付取締上心得フヘシ

(甲號) 警保局長宛警視總監照會

(大正十一年十二月 保第二八二號)

東京府下荏原郡大井町元芝九二九番地

都花空氣銃研究所 祖 千 博 次

右ノ者製造ニ係ル左記空氣銃ハ其ノ構造精巧ヲ極メ「ステツキ」形ニ之ヲ變裝シ市内各玩具店ニ於テ販賣シ居ルニ付其ノ威力ヲ試驗セシニ結果左記ノ通りニ有之比較的威力ニシテ非軍用銃ノ範圍ニ屬セサルモ其ノ構造變裝ニ係リ普通一般ノ空氣銃ト同一ニ單ニ其ノ威力ノ強弱ニ依リ之ヲ取締ノ要否ヲ決定スヘキモノニアラスト思料セラレ候ニ付御意見承知致度此段及照會候也

左記

- 一、銃器ノ名稱 ステツキ形空氣銃
- 一、製造所 東京府荏原郡大井町元芝九二九都花空氣銃研究所
- 一、銃ノ全長 二尺七寸六分
- 一、銃身 二尺六寸三分
- 一、彈丸 圓錐彈
- 一、威力 五間ノ距離ニ於テ松四分板仕上二分五厘ニ五發發射スルニ最大威力深サ約一分五厘ノ彈痕ヲ認ム

(乙號) 警視總監宛內務省警保局長回答

(大正十一年十二月 警親第四四三號)

大正十一年十二月十九日保第二八二號ヲ以テ御照會相成候變裝空氣銃ノ件

第四編 保安 第九章 銃砲火藥類及壓縮瓦斯液化瓦斯

銃砲火藥類取締法令ノ官公署ニ適用ノ限ニ非サル件

明治三十二年八月十二日 內務省訓第七六二號

銃砲火藥類取締ニ關スル法令ハ官公署ニ適用スルノ限ニ無之候得共右ハ危險物ナルト一方ニハ人民ヘ對シ制裁モ有之儀ニ付官公署ニ於ケル火藥類ノ授受、運搬、貯藏ノ方法等モ該法令ノ規定ニ準據取扱フ儀ト心得ラレヘシ右訓令ス

硝安火藥ニ關スル件

大正十二年六月 警訓第二五號

宇治火藥製造所ニ於テ製造販賣シツ、アル硝安火藥ハ硝酸「アンモニア」ヲ主劑トシ之ニ若干量ノ「ナイトロナフサリン」並ニ不燃性無機鹽類ヲ混和セルモノニシテ其ノ性狀從來ノ硝安火藥ト同様ノモノニ付之ヲ授受運搬貯藏ニ就テハ爆藥トシテ取扱フ儀ト承知スヘシ

カーリット貯藏ニ關スル件

大正十三年五月 警訓第一九號

爆藥「カーリット」ハ其ノ組成ニ於テ過鹽素酸「アンモニア」ヲ主劑トスル爆藥ナルヲ以テ銃砲火藥類取締法施行細則第二十八條ニ依リ有煙火藥ト同一貯藏庫ニ格納セシムヘシ

●火藥類鐵道運送規程

大正四年十月八日
閣令第一號

改正 大正一二年四月鐵道省令第一號、昭和五年三月第二號、七年一月第一號
火藥類鐵道運送規程左ノ通改正ス

火藥類鐵道運送規程

- 第一條 鐵道ニ依リ火藥類ヲ運送スル場合ハ本規程ニ依ル
- 本規程ニ於テ火藥類トハ銃砲火藥類取締ニ關スル法令ニ規定スルモノヲ謂フ
- 第二條 火藥類ノ荷送人ハ少クトモ三十六時間前ニ發送停車場ニ託送ヲ申込ミ其ノ承諾ヲ求ムヘシ
- 第三條 火藥類ノ荷送人ハ銃砲火藥類取締ニ關スル法令ノ規定ニ依リ當該官廳ノ運搬許可證ヲ受ケヘキ場合ニ於テハ鐵道係員ハ其ノ許可證ヲ檢閱スヘシ
- 第四條 火藥類ハ銃砲火藥類取締ニ關スル法令ノ規定ニ依リ容器ニ收納スヘシ但シ軍需ノ託送ニ係ルモノハ當該軍需所定ノ容器ニ收納スルコトヲ得
- 火藥類ハ其ノ容器又ハ包裝ノ外部見易キ所ニ火藥、爆藥若ハ火工品ト朱記シ又ハ朱記シタル標札ヲ附シ且轉帳セシムヘカラサルモノニ在リテハ其ノ旨ヲ明記スヘシ
- 第五條 火藥類ノ受授ハ貨物掛又ハ驛長ノ外之ヲ爲スコトヲ得ス

〔山梨警〕

火藥類搬入ノ日時、場所及方法ニ關シテハ前項ノ係員ノ指示ニ從フヘシ其ノ搬出ノ日時及方法ニ付亦同シ

- 第六條 一車以上ノ火藥類ノ運送ヲ引受ケタルトキハ鐵道ハ荷受人ニ對シ附添人ヲ要求スルコトヲ得
- 附添人ハ火藥類積載ノ貨車ニ乗込ムコトヲ得ス
- 附添人ノ乘車賃ハ三等旅客運賃ノ定額ヲ超過スルコトヲ得ス
- 第七條 火藥類ハ木製有蓋貨車ヲ以テ運送スヘシ但シ貨車ノ内部ニ鐵釘、鐵具等ノ突起シタルモノアルトキハ木板、革、布又ハ藁ノ類ヲ以テ之ヲ覆フヘシ
- 第八條 銃砲火藥類取締ニ關スル法令ノ規定ニ依リ各別棟ノ火藥類貯藏所ニ貯藏スヘキ火藥類ハ之ヲ同一車中ニ積載スルコトヲ得ス但シ火藥類ヲ裝填セサル雷管附又ハ爆管附藥莖ニ付テハ此ノ限ニ在ラス
- 第九條 火藥類積載ノ重量ハ貨車積載定量ノ三分ノ二ヲ超過スルコトヲ得ス
- 第十條 火藥類ハ之ヲ他ノ貨物ト同一車中ニ混載スルコトヲ得ス但シ銃用實包、銃用空包、火藥類ヲ裝填セサル雷管附若ハ爆管附藥莖、雷管、信管、爆管、門管、緩燃導火線、電氣導火線、導爆線、爆藥（箱内ノ火藥爆發ノ危險ナキニ至ル迄十分濕潤ノ上箱ヲ）、芳香系列ノ硝化物若ハ之ヲ密閉シ該箱ノ上ニ濕藥ト明記シタルモノ）、硝酸アンモン若ハ過鹽素主トスル混和物ニシテ起爆劑ヲ附セサルモノ、硝酸アンモン若ハ過鹽素酸アンモンヲ主トスル爆藥中ニトログリセリン又ハニトロセルロースヲ含有セサルモノニシテ起爆劑ヲ附セサルモノ、硝酸アンモンヲ主トスル爆藥中ニトログリセリン又ハニトロセルロースヲ含有スルモノ其ノ含有總量百分ノ四以下ニシテ起爆劑ヲ附セサルモノ、煙火、信號焰管、發雷信號、星火ヲ發スル榴彈（十二箇以下ヲ木製容器ニ收納シ摩擦、動搖又ハ衝突ヲ豫防シ得ル様各箇ノ間ニ麻屑、紙屑ノ類

〔山梨警〕

- ヲ填充シ）、火筒（六箇以下ヲ木製容器ニ收納シ摩擦、動搖又ハ衝突ヲ豫タルモノ）、火筒（防シ得ル様各箇ノ間ニ麻屑、紙屑ノ類ヲ填充シタルモノ）又ハ三十箇以下ノ火藥若ハ六箇以下ノ爆藥（起爆劑ヲ除ク）ニシテ左ノ條件ヲ具備スル場合ハ此ノ限ニ在ラス
- 一 容器又ハ包裝ヲ安全堅牢ナラシメ且其ノ外部見易キ所ニ品名ヲ明記シタルトキ
- 二 他ノ貨物ノ容量ニ燃燒シ又ハ爆發ノ誘因トナルヘキ虞ナキモノナルトキ
- 三 火藥類及混載貨物ノ重量ヲ合シテ貨車積載定量ノ三分ノ二ヲ超過セサルトキ
- 第十一條 前條ノ規定ニ依リ火藥類ヲ他ノ貨物ト混載シタルトキハ他ノ貨物ト相當間隔ヲ保タシメ又ハ墜落ノ虞ナキ箇所ニ於テ他ノ貨物ノ上積ト爲スヘシ
- 第十二條 火藥類ハ摩擦、動搖、衝突又ハ轉帳セサル様緊密ニ積載スヘシ
- 第十三條 火藥類ノ積卸等ヲ爲スコトキハ手鉤類ヲ用キ若ハ投下スルコトヲ得ス又衝動ヲ豫防シ得ル様革、麻布若ハ毛布ノ類ヲ以テ其ノ經過スヘキ場所ヲ覆ヒタルトキノ外之ヲ轉帳スルコトヲ得ス
- 火藥類ノ積卸ヲ爲ス場所又ハ火藥類積載ノ貨車内ニ於テハ安全燈以外ノ燈火ヲ使用シ、燐寸其ノ他發火シ易キ物品ヲ携帯シ又ハ喫煙スルコトヲ得ス
- 火藥類ヲ取扱フ者ハ鐵釘等ヲ附シタル靴類ヲ穿ツコトヲ得ス
- 火藥類ノ積卸ヲ爲スニ當リテハ仕業ノ前後其ノ場所及車内ヲ清掃スヘシ
- 第十四條 火藥類ノ積卸ハ第十條但書ニ掲ケタル火藥類ヲ除クノ外旅客乘降場ニ於テ之ヲ爲スコトヲ得ス但シ旅客ヲ搭載シタル客車方場内ニ在ラサルトキハ此ノ限ニ在ラス

- 第十五條 火藥類ハ銃砲火藥類取締法施行規則第十八條各號ノ規定ニ該當スルモノヲ除クノ外日出前及日没後ニ於テ受授、積卸、荷造又ハ荷解ヲ爲スコトヲ得ス
- 第十六條 火藥類積載貨車ノ兩側面ニハ見易キ位置ニ白地ニ火藥ト朱記シタル標札ヲ附スヘシ
- 第十七條 火藥類積載貨車ノ前後ニハ各二輛以上ノ空車ヲ聯結スヘシ但シ不燃質物ヲ積載シタル無蓋貨車又ハ發火ノ虞ナク且燒燃シ易カラサル貨物ヲ積載シタル有蓋貨車ヲ以テ空車ニ代フルコトヲ得
- 前項ノ適用ニ付テハ「ボギー」車一輛ハ之ヲ二輛ト看做ス
- 第十八條 火藥類積載ノ貨車ハ七輛以下ニ限リ他貨物積載ノ貨車ト同一列車ニ之ヲ聯結スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ前條第二項ノ規定ヲ準用ス
- 第十九條 火藥類積載ノ貨車ハ旅客列車又ハ混合列車ニ之ヲ聯結スルコトヲ得ス但シ鐵道ノ自用ニ供スル信號用雷管及第十條但書ニ掲ケタル火藥類ノ積載貨車並ニ他ノ貨物ト混載シタル貨車ハ此ノ限ニ在ラス
- 第二十條 火藥類積載ノ貨車ニ在リテハ制動機ヲ使用スルコトヲ得ス但シ車側制動機ハ此ノ限ニ在ラス
- 第二十一條 火藥類ハ成ルヘク到達停車場迄直通スル列車ヲ以テ運送スヘシ且已ムコトヲ得サル場合ヲ除クノ外運送中ノ他ノ貨車ニ積替フルコトヲ得ス
- 第二十二條 火藥類ヲ運送スル列車停車スルトキハ特ニ車輛ノ點檢ヲ嚴ニシ危險アリト認ムルトキハ即時ニ該車輛ヲ解放シテ危險防止ノ處置ヲ爲スヘシ
- 列車運轉中車軸發熱ノ徵候ヲ發見シタルトキハ其ノ進行ヲ停メテ之ヲ冷却シ又ハ危險ナキ程度ニ於テ徐行シ次ノ停車場ニ到リ前項ノ處置ヲ爲ス

第二十三條 火藥類ヲ運送スル列車二時間以上停車ヲ要スルトキハ成ルヘク隔離シタル線路ニ火藥類ヲ積載シタル貨車ヲ移シ危險防止ノ處置ヲ爲スヘシ此ノ場合ニ於テハ所轄警察官署又ハ警察官吏ニ之ヲ届出ツヘシ前條ノ規定ニ依リ車輛ヲ解放シタル場合亦同シ

第二十四條 火藥類積載ノ貨車到達停車場ニ著シタルトキハ直ニ之ヲ荷受人ニ通知スヘシ

荷受人前項ノ通知ヲ受ケタルトキハ遲滞ナク火藥類ヲ停車場外ニ搬出スヘシ

荷受人カ火藥類積載ノ貨車到着後二時間内ニ火藥類ヲ搬出セザルトキハ鐵道ハ所轄警察官署又ハ警察官吏ニ之ヲ届出ツヘシ

第二十五條 旅客ハ火藥類ヲ携帯シテ乘車スルコトヲ得ス但シ少量ノ銃用火藥類及緩燃導火線ヲ携帯スル場合ハ此ノ限ニ在ラス

附則

本令ハ大正四年十月十日ヨリ之ヲ施行ス

●陸軍軍用銃砲及火藥類拂下規則

明治四十四年四月二十九日 陸軍省令第四號

改正 大正元年八月陸軍省令第一號

陸軍軍用銃砲及火藥類拂下規則ノ通定ム

陸軍軍用銃砲及火藥類拂下規則

第一條 砲兵工廠ハ左ニ掲ケル者ニ對シ軍用銃砲ノ拂下ヲ爲スコトヲ得

一 官廳、公署、官公立中學校又ハ之ト同等以上ノ官公立學校

二 銃砲販賣業者

〔山梨警〕

三 軍用銃砲ノ輸出ニ付内務大臣及陸軍大臣又ハ海軍大臣ノ許可ヲ受ケタル者

四 軍用銃砲ノ讓受ニ付警察官署ノ許可ヲ受ケタル者

前項第四號ニ據リ拂下ケル銃砲ノ數量ハ一人ニ付一箇トス但シ在郷軍人會及學校ハ此ノ限ニ在ラス

第二條 砲兵工廠ハ左ニ掲ケル者ニ對シ火藥類ノ拂下ヲ爲スコトヲ得

一 官廳、公署、官公立中學校又ハ之ト同等以上ノ官公立學校

二 甲種火藥類販賣業者

三 軍用火藥類ノ拂下ニ在リテハ其ノ輸出ニ付内務大臣及陸軍大臣又ハ海軍大臣ノ許可ヲ受ケタル者、其ノ他ノ火藥類ノ拂下ニ在リテハ其ノ輸出ニ付府縣長官ノ許可ヲ受ケタル者

四 火藥類ノ讓受ニ付府縣長官又ハ警察官署ノ許可ヲ受ケタル者

五 銃砲火藥類取締法施行規則第二十一條ニ依リ火藥類ノ讓受ニ付許可ヲ要セザル者

前項第四號及第五號ノ者ニ拂下ケル火藥類ハ火藥ハ十二貫、爆藥ハ三貫、實包ハ三萬箇、空包ハ三萬箇、銃用雷管ハ十萬箇、工業用雷管ハ一萬箇、信管爆管門管ハ各三萬箇以上トス但シ現役將校同相當官、准士官、在郷軍人會又ハ學校カ射撃用ノ爲拂下ヲ受ケル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第三條 砲兵工廠ハ前條第一項各號ノ一ニ該當スル者ヨリ火藥類ノ變形修理ヲ願出タルトキハ之ニ應スルコトヲ得

第四條 砲兵工廠ニ軍用銃砲又ハ火藥類ノ拂下ヲ願出ル者ハ願書ニ拂下ヲ受ケヘキ品種、數量ヲ記載シ軍用銃砲火藥類ノ讓受若ハ輸出許可證又ハ讓受ニ關シ其ノ資格ヲ證明スヘキ書類ヲ提示スヘシ

第五條 砲兵工廠ニ於テ火藥類讓受許可證ニ依リ火藥類ヲ拂下タルトキハ火藥類ノ種類、數量及讓渡ノ年月日ヲ許可證ニ記入シ主任官署名捺印ス

〔山梨警〕

〔別冊〕

●爆發物取締罰則

第一條 治安ヲ妨ケ又ハ人ノ身體財產ヲ害セントスルノ目的ヲ以テ爆發物ヲ使用シタル者及ヒ人ヲシテ之ヲ使用セシメタル者ハ死刑又ハ無期若クハ七年以上ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス

第二條 前條ノ目的ヲ以テ爆發物ヲ使用セントスルノ際發覺シタル者ハ無期若クハ五年以上ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス

第三條 第一條ノ目的ヲ以テ爆發物若クハ其使用ニ供ス可キ器具ヲ製造輸入所持シ又ハ注文ヲ爲シタル者ハ三年以上十年以下ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス

第四條 第一條ノ罪ヲ犯サントシテ脅迫唆使煽動ニ止ル者及ヒ共謀ニ止ル者ハ三年以上十年以下ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス

第五條 第一條ニ記載シタル犯罪者ノ爲メ情ヲ知テ爆發物若クハ其使用ニ供ス可キ器具ヲ製造輸入販賣讓與寄藏シ及ヒ其約束ヲ爲シタル者ハ三年以上十年以下ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス

第六條 爆發物ヲ製造輸入所持シ又ハ注文ヲ爲シタル者第一條ニ記載シタル犯罪ノ目的ニアラサルコトヲ證明スルコト能ハサル時ハ六月以上五年以下ノ懲役ニ處ス

第七條 爆發物ヲ發見シタル者ハ直ニ警察官吏ニ告知ス可シ違フ者ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス

第八條 第一條乃至第五條ノ犯罪アルコトヲ認知シタル時ハ直ニ警察官吏若クハ危害ヲ被ムラントスル人ニ告知ス可シ違フ者ハ五年以下ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス

●爆發物取締罰則

明治十七年十二月二十七日 太政官布告第三十二號

改正 明治四一年三月法律第二九號、大正七年四月第三四號

爆發物取締罰則別冊ノ通制定ス

治奉 勅旨布告候事

第九條 第一條乃至第五條ノ犯罪者ヲ藏匿シ若クハ隠避セシメ又ハ其ノ罪證ヲ湮滅シタル者ハ十年以下ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス

第十條 罰除

第十一條 第一條ニ記載シタル犯罪ノ豫備陰謀ヲ爲シタル者ト雖モ未タ其事ヲ行ハサル前ニ於テ官ニ自首シ因テ危害ヲ爲スニ至ラサル時ハ其刑ヲ免除ス第五條ニ記載シタル犯罪モ亦同シ

第十二條 本則ニ記載シタル犯罪刑法ニ照シ仍ホ重キ者ハ重キニ從テ處斷ス

●煙火打揚ニ關スル件

昭和十二年二月 警調第一號

煙火打揚ノ申請アリタルトキハ昭和七年八月訓令乙第一四四號銃砲火藥類取締法令執行心得第十三條ノ規定ニ依リ處分ヲ爲スベキモノナルモ危險防止ノ爲メ建造物又ハ發火質物品集積場等ニ對シ保距離ニ關シテハ爾後左記表中ノ最短保有距離ヲ標準トシ許否ノ處分ヲ爲スベシ

記

(山梨警)

種別	打揚火藥量	昇騰力	最短保有距離
三寸未滿ノ玉	二十瓦以下		五十米
三寸玉	十五瓦乃至三十瓦	百三十米	七十米
四寸玉	三十五瓦乃至五十五瓦	百七十米	八十米
五寸玉	七十瓦乃至百瓦	二百五十米	九十米
六寸玉	百十瓦乃至百四十瓦	三百米	九十米
七寸玉	百九十瓦乃至二百二十五瓦	三百五十米	百米
八寸玉	二百四十瓦乃至三百瓦	三百七十米	百米
一尺玉	三百五十瓦乃至五百七十瓦	四百五十米	百二十米
二尺玉	三百七十五瓦乃至五百瓦	五百五十米	二百五十米
三尺玉	五百瓦乃至五百九十瓦	七百五十米	三百五十米

吊星ヲ填實セル煙火ニ在リテハ風下ニ於テ前表最短保有距離ノ一倍半以上ヲ保有セシムルコト
仕掛煙火ニ打揚煙火ヲ附隨スルモノニ在リテハ前表最短保有距離ノ二分ノ一以上又此煙火ニ吊星ヲ填實セル場合ニ在リテハ前表最短保有距離ノ四分ノ三以上ヲ保有セシムルコト(但シ四十米ヲ下ラザルコト)
前項ニ該當セザル仕掛煙火ハ十五米以上ノ距離ヲ保有セシムルコト

●壓縮瓦斯及液化瓦斯取締法

大正十一年四月十一日 法律第三十一號

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル壓縮瓦斯及液化瓦斯取締法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

第一章 壓縮瓦斯及液化瓦斯取締法

第一條 壓縮瓦斯又ハ液化瓦斯ノ製造、貯藏又ハ販賣ノ業ヲ爲サムトスル者ハ命令ノ定ムル所ニ依リ行政官廳ノ許可ヲ受ケヘシ

第二條 行政官廳ハ壓縮瓦斯又ハ液化瓦斯ノ製造、貯藏又ハ販賣ノ業ヲ爲ス者カ本法若ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ違反シタルトキ又ハ安寧秩序ヲ害スルノ虞アリト認ムルトキハ其ノ許可ヲ取消シ又ハ其ノ事業ヲ停止シ若ハ制限スルコトヲ得

第三條 行政官廳ハ何時ニテモ當該官吏ヲシテ壓縮瓦斯液化瓦斯若ハ其ノ容器ノ製造所、貯藏所其ノ他之ヲ收積スルノ疑アル場所ニ臨檢シ又ハ壓縮瓦斯液化瓦斯及其ノ容器並ニ之ヲ收積スルノ疑アル物件若ハ事業上ノ帳簿其ノ他ノ書類ヲ檢査セシムルコトヲ得

第四條 行政官廳ハ保安上必要アリト認ムルトキハ壓縮瓦斯又ハ液化瓦斯ノ授受、運搬又ハ携帶ヲ禁止シ又ハ制限スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ行政官廳ハ壓縮瓦斯又ハ液化瓦斯ノ假領置ヲ爲スコトヲ得

第五條 左ノ事項ニ關シ必要ナル規定ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム
一 本法ヲ適用セザル壓縮瓦斯又ハ液化瓦斯ノ範圍
二 壓縮瓦斯液化瓦斯及其ノ容器ノ製造、貯藏、販賣、授受、使用、運搬其ノ他ノ取扱

第六條 第一條第一項ノ規定ニ違反シ又ハ第二條ノ規定ニ依ル命令ニ違反シタル者ハ一年以下ノ懲役若ハ禁錮又ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

第七條 第四條第一項ノ規定ニ依ル命令ニ違反シタル者ハ六月以下ノ懲役若ハ禁錮又ハ三百圓以下ノ罰金ニ處ス

第八條 第三條第三項ノ規定ニ依ル命令ニ違反シ又ハ第三條若ハ第四條第二項ノ規定ニ依ル當該官吏ノ職務ノ執行ヲ拒ミ若ハ之ヲ妨ケタル者又ハ其ノ執行ニ際シ當該官吏ノ時間ニ對シ答辯ヲ爲サス若ハ虛偽ノ陳述ヲ爲シタル者ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第九條 壓縮瓦斯液化瓦斯又ハ其ノ容器ノ製造、貯藏、販賣又ハ運搬ノ業ヲ爲ス者未成年者又ハ禁治產者ナルトキハ本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ依リ之ニ適用スヘキ罰則ハ之ヲ法定代理人ニ適用ス但シ營業ニ關シ成年者ト同一ノ能力ヲ有スル未成年者ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第十條 壓縮瓦斯液化瓦斯又ハ其ノ容器ノ製造、貯藏、販賣又ハ運搬ノ業ヲ爲ス者ハ其ノ代理人、戶主、家族、同居者、雇人其ノ他ノ從業者カ其ノ業ニ關シ本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ違反シタルトキハ自己ノ指揮ニ出テサルノ故ヲ以テ處罰ヲ免ルルコトヲ得

第十一條 前二條ノ場合ニ於テハ罰金、料料又ハ沒收以外ノ刑ニ處スルコトヲ得

第十二條 明治三十三年法律第五十二號ハ本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令

令ニ依ル犯罪ニ付之ヲ準用ス

附則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム(大正十二年四月勅令第百七十七號ヲ以テ同年六月一日ヨリ施行)

●壓縮瓦斯及液化瓦斯取締法施行

令

昭和十一年七月二十日
内務省令第二十三號

壓縮瓦斯及液化瓦斯取締法施行令左ノ通改正ス

第一章 總則

- 第一條 壓縮瓦斯及液化瓦斯取締法ハ攝氏三十五度ニ於テ十氣壓以上ノ壓力ヲ有スル壓縮瓦斯、攝氏十五度ニ於テ二氣壓以上ノ壓力ヲ有スル壓縮アセチレン瓦斯及總テノ液化瓦斯ニ之ヲ適用ス
- 第二條 本令ニ於ケル瓦斯容積ハ溫度攝氏零度氣壓七百六十ミリメートルノ狀態ニ換算シタル容積トス
- 第三條 壓縮瓦斯及液化瓦斯ノ容器ヲ分チテ左ノ三種トス
大容器 容積五百リットル(塩素瓦斯ヲ充填スルモノニ在リテハ四百リットル)以上ノモノ

中容器 容積五百リットルヲ超エ五百リットル(塩素瓦斯ヲ充填スルモノニ在リテハ四百リットル)ニ滿タザルモノ
小容器 容積〇・一リットル以上五リットル以下ノモノ

第二章 製造、貯藏、販賣

- 第四條 一日ニ付三立方メートル以上ノ瓦斯ヲ壓縮シ又ハ液化スル業ヲ爲サントスル者ハ左ノ事項ヲ具シ製造所所在地ノ地方長官(東京府ニ在リテハ警視總監以下之ニ同シ)ニ申請スベシ但シ第四號ト、チ、第六號及第七號ノ事項ニシテ申請ノ際未定ナルモノハ其ノ旨記載シ決定ノ上提出スルヲ妨ゲズ
- 一 住所、氏名、生年月日及職業(法人ニ在リテハ名稱、事務所ノ所在地及代表者ノ住所氏名以下之ニ同シ)
- 二 製造ノ目的、瓦斯ノ種類及名稱、作業ノ工程並ニ一日内ニ製造スベキ最大數量
- 三 製造所ノ位置及附近ノ狀況(圖面ヲ添付スルコト)
- 四 製造所ノ設備
- イ 全體ノ配置圖
- ロ 作業室ノ構造及設備(圖面ヲ添付スルコト)
- ハ 壓縮機ノ種類、型式、構造(同轉數、ピストン行程、氣筒内徑、段數)、能力(各段ノ壓力、毎時壓縮量)、製作所名、製作年月及經歷(壓縮機ノ圖面ヲ添付スルコト)
- ニ 瓦斯分離裝置、電槽及其ノ他ノ設備ヲ表ハシタル圖面
- ホ 壓力計ノ型式、目盛及筒數
- ヘ 瓦斯メートルノ型式及筒數

ト 耐壓試驗裝置ノ構造、能力及數

チ 瓦斯分析裝置及其ノ筒數、分析方法並ニ分析瓦斯採取箇所

リ 瓦斯溜ノ型式、構造、容量及外部ノ塗裝

ヌ 充填シタル容器ノ貯藏室、貯藏方法及最大貯藏數量

五 原料ノ種類、貯藏方法及最大貯藏數量

六 作業主任者ノ氏名及履歷

七 職工其ノ他ノ勞務者ノ最大員數及其ノ取締ニ關スル規程

第五條 百立方メートル以上ノ壓縮瓦斯又ハ千キログラム以上ノ液化瓦斯(壓縮瓦斯ト液化瓦斯トヲ共ニ貯藏スル場合ハ壓縮瓦斯一立方メートルヲ液化瓦斯十キログラムト看做ス以下之ニ同シ)ヲ貯藏セントスル者ハ左ノ事項ヲ具シ貯藏所所在地ノ地方長官ニ申請スベシ

一 住所、氏名、生年月日及職業

二 貯藏所ノ位置、設備及附近ノ狀況

三 貯藏スベキ瓦斯ノ種類、名稱、最大數量及貯藏方法

第六條 壓縮瓦斯又ハ液化瓦斯ノ販賣ノ業ヲ爲サントスル者ハ第二項ニ規定スル場合ヲ除クノ外左ノ事項ヲ具シ販賣所所在地ノ地方長官ニ申請スベシ

一 住所、氏名、生年月日及職業

二 販賣スベキ瓦斯ノ種類及名稱

三 販賣所、貯藏室及詰替所ノ位置、設備及附近ノ狀況

四 貯藏スベキ瓦斯ノ種類、名稱、最大數量及貯藏方法

壓縮酸素瓦斯ノ販賣ノ業ヲ爲サントスル場合ニシテ其ノ貯藏數量五立方メートルヲ超エザルトキハ前項各號ノ事項ヲ具シ販賣所所在地ノ地方長

官ニ届出ヅベシ其ノ具シタル事項ヲ變更シ又ハ其ノ業ヲ廢止シタルトキ亦同シ

第七條 前三條ノ規定ニ依リ申請書ニ具シタル事項ヲ變更セントスルトキハ地方長官ノ許可ヲ受クベシ但シ住所、氏名、職業、第四條第一項第四號ホ、ヘ又ハ同項第七號ノ事項ニ付テハ其ノ變更ノ日ヨリ二十日以内ニ地方長官ニ届出ヅベシ

前三條ノ規定ニ依リ許可ヲ受ケタル者其ノ業ヲ開始シ若ハ廢止シ又ハ一月以上休止セントスルトキハ地方長官ニ届出ヅベシ

第八條 第四條乃至第六條ノ規定ニ依リ許可ヲ受ケタル業ヲ相續又ハ法人ノ合併ニ因リ繼承シタルトキハ二十日以内ニ地方長官ニ届出ヅベシ

第四條乃至第六條ノ規定ニ依リ許可ヲ受ケタル業ヲ讓渡セントスルトキハ關係者連署ノ上地方長官ニ申請スベシ

第三章 作業主任者

第九條 一日ニ付三立方メートル以上ノ瓦斯ヲ壓縮シ又ハ液化スル製造所ニハ作業主任者トシテ化學主任者免狀ヲ有スル者及機械主任者免狀ヲ有スル者ヲ置クベシ但シ製氷又ハ冷凍ノ爲瓦斯ヲ壓縮シ又ハ液化スル製造所ニ在リテハ化學主任者免狀ヲ有スル者ヲ、壓縮機ヲ使用セズシテ瓦斯ヲ液化スル製造所ニ在リテハ機械主任者免狀ヲ有スル者ヲ置カザルコトヲ得

第十條 前條ノ化學主任者免狀及機械主任者免狀ハ左ノ通トス
甲種化學主任者免狀
總テノ製造所ニ於テ作業主任者タルコトヲ得
乙種化學主任者免狀

特定瓦斯ノ製造所ニ於テ作業主任者タルコトヲ得
甲種機械主任者免狀

乙種機械主任者免狀
一 時間ニ付千立方メートル以下ノ瓦斯ヲ攝氏三十五度ニ於テ二百氣壓

以下ニ壓縮スル製造所ニ於テ作業主任者タルコトヲ得
丙種機械主任者免狀
製氷又ハ冷凍ノ爲瓦斯ヲ壓縮シ又ハ液化スル製造所ニ於テ作業主任者

タルコトヲ得
第十一條 化學主任者免狀及機械主任者免狀ハ左ノ資格ヲ有シ且壓縮瓦斯

及液化瓦斯取締法令ノ知識ヲ有スル者ニ就キ本人ノ申請ニ依リ内務大臣
銓衡ノ上之ヲ交付ス
甲種化學主任者免狀

一 高等工業學校又ハ之ト同等以上ノ學校ノ應用化學ニ關スル學科ヲ專
修シタル卒業生ニシテ一年以上壓縮瓦斯又ハ液化瓦斯製造ノ作業ニ從
事シタル者
二 壓縮瓦斯又ハ液化瓦斯製造ノ技術ニ關シ前號ニ掲グル者ト同等以上

ノ學識經驗ヲ有スル者
乙種化學主任者免狀
一 工業學校(尋常小學校卒業程度ヲ以テ入學資格トスル修業年限五年

又ハ高等小學校卒業程度ヲ以テ入學資格トスル修業年限三年ノモノ)
又ハ之ト同等以上ノ學校ノ應用化學ニ關スル學科ヲ專修シタル卒業生
ニシテ一年以上壓縮瓦斯又ハ液化瓦斯製造ノ作業ニ從事シタル者

二 壓縮瓦斯又ハ液化瓦斯製造ノ技術ニ關シ前號ニ掲グル者ト同等以上
ノ學識經驗ヲ有スル者
甲種機械主任者免狀

乙種機械主任者免狀
一 高等工業學校又ハ之ト同等以上ノ學校ノ機械ニ關スル學科ヲ專修シ

タル卒業生ニシテ一年以上壓縮機械取扱ノ作業ニ從事シタル者
二 壓縮機械取扱ノ技術ニ關シ前號ニ掲グル者ト同等以上ノ學識經驗ヲ有

スル者
乙種機械主任者免狀
一 工業學校(尋常小學校卒業程度ヲ以テ入學資格トスル修業年限五年

又ハ高等小學校卒業程度ヲ以テ入學資格トスル修業年限三年ノモノ)
又ハ之ト同等以上ノ學校ノ機械ニ關スル學科ヲ專修シタル卒業生ニシ

テ一年以上壓縮機械取扱ノ作業ニ從事シタル者
二 壓縮機械取扱ノ技術ニ關シ前號ニ掲グル者ト同等以上ノ學識經驗ヲ有

スル者
丙種機械主任者免狀
製氷又ハ冷凍用ノ壓縮機械取扱ノ作業ニ六月以上從事シタル者

前項ノ規定ニ依リ交付ヲ受ケタル免狀ヲ滅失又ハ毀損シタルトキハ其ノ
事由ヲ具シ再交付ヲ申請スルコトヲ得
前二項ノ申請ハ申請者ノ住所地ノ地方長官ヲ經由スベシ
内務大臣保安上必要アリト認ムルトキハ免狀ノ返納ヲ命ズルコトアルベ

第四章 作業上ノ制限

第十三條 第四條乃至第六條ノ規定ニ依リ許可ヲ受ケタル者ハ其ノ設備ニ
付検査ヲ受ケ合格スルニ非ザレバ之ヲ使用スルコトヲ得ズ之ヲ變更シタ
ルトキ亦同シ

第十四條 壓縮瓦斯又ハ液化瓦斯ノ製造業者容器ニ瓦斯ヲ充填シタルトキ
ハ製造所ニ於テ其ノ都度別記第一號様式ニ依ル充填日誌ニ所定ノ事項ヲ
記録スベシ

壓縮瓦斯又ハ液化瓦斯ノ詰替ハ之ヲ充填ト看做ス
壓縮瓦斯又ハ液化瓦斯ノ製造業者瓦斯ノ授受ヲ爲シタルトキハ製造所ニ
於テ其ノ都度別記第二號様式ニ依ル容器臺帳ニ所定ノ事項ヲ記録スベシ

第十五條 壓縮瓦斯又ハ液化瓦斯ノ貯藏者、輸入者又ハ販賣業者瓦斯ノ授
受ヲ爲シタルトキハ其ノ都度別記第三號様式ニ依ル取引簿ニ所定ノ事項
ヲ記録スベシ但シ販賣業者ニシテ製造業者ヲ兼ムル者ハ此ノ限ニ在ラ

ズ
第十六條 壓縮瓦斯又ハ液化瓦斯ノ製造所ノ構造及設備ハ左ノ制限ニ從フ
ベシ但シ第四號、第五號及第十號ノ制限ニ付テハ地方長官ノ許可ヲ受ケ
タル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

一 製造所ノ境界ニハ適當ナル圍墻ヲ構設シ且見易キ場所ニ製造所ノ標
示ヲ爲スコト
二 可燃性又ハ支燃性ノ瓦斯ヲ製造シ又ハ其ノ壓縮、液化若ハ充填ヲ爲
ス作業室並ニ其ノ瓦斯及引火又ハ發火ノ虞アル原料ノ貯藏室ハ不燃性
材料ヲ以テ築造シ其ノ照明裝置ハ電燈ヲ用ヒ且外部見易キ場所ニ火氣
ニ對スル警戒標示ヲ爲スコト

三 毒性瓦斯發散ノ虞アル作業室及貯藏室ハ換氣ヲ完全ニシ且發散瓦斯
ノ排氣又ハ吸收裝置ヲ爲スコト

四 五立方メートル以上ノ瓦斯ヲ常時收納スル瓦斯溜ハ鐵材ヲ用ヒ氣密
ニ構造シ瓦斯放出裝置ヲ施シ可燃性瓦斯溜ニ在リテハ赤色ノ塗料ヲ、
不燃性又ハ支燃性瓦斯溜ニ在リテハ黑色ノ塗料ヲ其ノ外部ニ塗布シ且

可燃性瓦斯溜ノ出口ニハ逆火ヲ防止スルニ足ル安全裝置ヲ施スコト
五 瓦斯壓縮機ト瓦斯ヲ容器ニ充填スル場所トノ間ニハ高さ二・五メー
トル以上厚サ十センチメートル以上ノ煉瓦壁又ハ之ニ相當スル強サヲ
有スル障壁ヲ設ケルコト

六 アセチレン瓦斯ヲ發生セシメ又ハ之ヲ溶解ニ溶解セシムル爲ニ使用
スル機械器具類ノアセチレン瓦斯ニ接觸スル部分ニハ銅ヲ使用セザル
コト

七 水ノ電氣分解ニ依ル酸素又ハ水素ノ製造ニ要スル發電機、開閉器、
抵抗器其ノ他火花ヲ發シ又ハ赤熱スルノ虞アル器具ノ類ハ電槽室又ハ
壓縮機室以外ノ場所ニ之ヲ設置シ其ノ電路ニハ電槽ニ生ズル逆電流ニ

依リ發電機磁極ノ逆變ヲ妨グベキ適當ノ自動裝置ヲ爲スコト
八 可燃性瓦斯ノ發生室及壓縮機室ニ電氣裝置ヲ爲ス場合ニハ發火ヲ誘
致スルノ危險ヲ防止スルニ必要ナル設備ヲ爲スコト

九 瓦斯ノ貯藏、壓縮、液化、充填、耐壓試驗等ニ使用スル溫度計、瓦
斯メートル又ハ壓力計ハ度量衡法第八條ノ規定ニ抵觸セザルモノヲ使
用シ且壓力計ハ常用壓力ノ一倍半以上二倍以下ノ最高自盛アルモノヲ

使用スルコト
十 製造所内ノ機械、裝置及導管ニシテ常用壓力十氣壓以上ノモノハ每

年一回以上其ノ常用壓力ニ其ノ二分ノ一以上ヲ加ヘタル壓力ヲ以テスル耐壓試驗ヲ行ヒタルモノナルコト

前項第九號ノ壓力計ハ別ニ標準壓力計二箇以上ヲ備ヘ之ニ據リ毎月一回以上其ノ機能ヲ試驗スベシ

前項ノ標準壓力計ニ付テハ毎年一回以上中央度量衡檢定所ノ比較檢査ヲ受ケ且其ノ檢査成績書ノ交付ヲ受ケベシ但シ地方長官ノ檢査ニ合格シタル壓力計試驗機ニ依リ毎月一回以上試驗ヲ行ヒ其ノ誤差度量衡法施行令第十條ニ規定シタル公差ノ二分ノ一ヲ超エザルモノヲ使用スル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

前項但書ノ壓力計試驗機ノ分銅ニ付テハ五年ニ一回中央度量衡檢定所ノ比較檢査ヲ受ケベシ

壓縮瓦斯又ハ液化瓦斯ノ詰替所ノ構造及設備ニ付テハ第一項第二號及第三號ノ規定ヲ準用ス

第十七條 瓦斯ノ壓縮又ハ液化作業ニ關シテハ左ノ事項ヲ遵守スベシ

一 作業著手前分析ヲ行ヒ可燃性瓦斯中ニ酸素容量ニパーセント以上、酸素瓦斯中ニ可燃性瓦斯容量ニパーセント以上ヲ含有スルモノハ壓縮セザルコト

二 水ノ電氣分解ニ依リ酸素又ハ水素ヲ製造スルトキハ電槽ヨリ出ヅル瓦斯及精製裝置通過直後ノ瓦斯、他ノ製造方法ニ依リ水素其ノ他ノ可燃性瓦斯ヲ製造スルトキハ其ノ製造裝置ヨリ出ヅル瓦斯及精製裝置通過直後ノ瓦斯ニ就キ一時間毎ニ分析ヲ行ヒ其ノ收納シタル瓦斯溜ノ瓦斯ハ瓦斯溜ノ出口ニ近キモノニ就キ一日二回以上分析ヲ行ヒ其ノ成績ハ分析者名ト共ニ之ヲ記録スルコト

三 酸化性ヲ有スル瓦斯ノ壓縮機ノ内部潤滑劑ニハ油、脂肪又ハ濃厚ナルグリセリンヲ使用セザルコト

四 作業室内ノ機械、裝置、導管等ノ内部ニ異物ノ蓄積ナカラシムルコト

第十八條 第十六條第一項第二號及第三號ノ規定ハ製造所以外ノ場所ニ於ケル二十立方メートル以上ノ壓縮瓦斯又ハ二百キログラム以上ノ液化瓦斯ノ貯藏室又ハ貯藏所ニ之ヲ準用ス

前項ノ貯藏室又ハ貯藏所ニハ見易キ場所ニ其ノ標示ヲ爲スベシ

第十九條 一日ニ付十立方メートル以上ノ瓦斯ヲ壓縮シ又ハ液化スル製造所ノ作業室及貯藏室、可燃性、支燃性又ハ毒性瓦斯ヲ收納スル容量五立方メートル以上ノ瓦斯溜並ニ百立方メートル以上ノ壓縮瓦斯又ハ千キログラム以上ノ液化瓦斯ノ貯藏室又ハ貯藏所ヲ新設セントスルトキハ其ノ外側ヨリ左ノ距離ヲ有セシムベシ

一 宮城、離宮、御用邸、神宮又ハ皇陵へ四百メートル以上

二 社寺、公園、學校、寄宿舎、病院、劇場其ノ他多衆ヲ收容スベキ建造物へ百メートル以上

前項ノ施設ハ其ノ外側ヨリ前項第一號ニ掲ゲルモノへ二百メートル以上、前項第二號ニ掲ゲルモノ及人家へ二十メートル以上ノ距離ヲ保有スベシ

第二十條 地方長官ハ所在地又ハ設備ノ狀況ニ依リ危險ノ虞ナシト認ムルトキハ申請ニ依リ前條ニ定ムル距離ノ減少ヲ許可スルコトヲ得

前項ノ許可ハ狀況ノ變更ニ依リ必要アリト認ムルトキハ之ヲ取消スコトヲ得

第二十一條 壓縮瓦斯又ハ液化瓦斯ノ充填作業ニ關シテハ左ノ事項ヲ遵守スベシ

一 壓縮瓦斯ニ在リテハ最高充填壓力以上ノ壓力アル瓦斯ヲ充填シ又ハ液化瓦斯ニ在リテハ第二十三條第六號ノ充填重量ヲ超エテ充填セザルコト

二 アセチレン瓦斯ヲ充填スルトキハ豫メ容器内ニ多孔質物ヲ均等ニ詰メ之ニ溶解ヲ均等ニ浸潤セシムルコト

三 アセチレン瓦斯ハ攝氏十五度ニ於テ十五氣壓ヲ超ユル壓力ヲ以テ充填セザルコト

四 アセチレン瓦斯以外ノ瓦斯ヲ充填スルトキハ豫メ其ノ内部ヲ照明檢査シ塵埃、鐵片其ノ他ノ異物アルトキハ之ヲ除去スルコト

五 酸素瓦斯又ハ空氣ヲ充填スルトキハ豫メ容器ノ瓦斯ニ接觸スベキ部分ノ油脂類ヲ洗除シ且容器ニ可燃性緊塞材料ヲ使用セザルコト

六 容器ノ瓦斯閉閉裝置及之ニ取付クル導管ノ凍塞ヲ融解シ又ハ液化瓦斯ノ容器ヲ充填ノ爲加熱スルニハ熱濕布又ハ攝氏四十度以下ノ溫湯ヲ以テスルコト

七 瓦斯閉閉裝置ノ突出セル容器ニハ瓦斯充填後其ノ損傷ヲ防グニ足ルベキ鐵製ノ小孔アル帽蓋ヲ螺著スルコト但シ内容積五リットル未満ノモノニ付テハ此ノ限ニ在ラズ

八 瓦斯ヲ充填シタル容器ニハ外面見易キ箇所ニ瓦斯ノ名稱、充填者ノ住所氏名(法人ニ在リテハ其ノ名稱)、充填場所及充填年月日並ニ壓縮瓦斯(アセチレン瓦斯ヲ除ク)ニ在リテハ其ノ攝氏三十五度ニ於ケル壓力、液化瓦斯ニ在リテハ容器ノ重量(瓦斯閉閉裝置、帽蓋等附屬物ノ

重量ヲ含ム)、内容積及瓦斯ノ充填重量ヲ明記シ且毒性瓦斯ニ付テハ「毒」、引火ノ虞アル瓦斯ニ付テハ「燃」ノ字ヲ朱書シタル票紙ヲ貼付シ又ハ結束スルコト

九 瓦斯ヲ充填シタル容器ヲ包裝シタルトキハ其ノ外部見易キ箇所ニ瓦斯ノ種類及名稱ヲ明記シ且毒性瓦斯ニ付テハ「毒」、引火ノ虞アル瓦斯ニ付テハ「燃」ノ字ヲ朱書スルコト

第二十二條 壓縮瓦斯又ハ液化瓦斯ヲ充填シタル容器ノ貯藏、運搬及取扱ニ關シテハ左ノ事項ヲ遵守スベシ

一 危害ノ生ズル虞アル場所又ハ物件ト隔離スルコト

二 攝氏三十五度以上ノ場所ニ貯藏セザルコト

三 液化瓦斯ヲ充填シタル容器ハ其ノ溫度ヲ攝氏四十度以下ニ保ツベキ適當ノ措置ヲ爲シテ之ヲ運搬スルコト

四 突出セル瓦斯閉閉裝置ニ付テハ常ニ帽蓋ヲ螺著セシメ置クコト但シ内容積五リットル未満ノモノニ付テハ此ノ限ニ在ラズ

五 容器ハ動搖又ハ轉落等ノ虞ナカラシメ且投下其ノ他粗暴ノ取扱ヲ爲サザルコト

六 容器ノ瓦斯閉閉裝置及之ニ取付クル導管ノ凍塞ヲ融解シ又ハ液化瓦斯ノ容器ヲ加熱スルニハ熱濕布又ハ攝氏四十度以下ノ溫湯ヲ以テスルコト

第五節 容器

第二十三條 左ノ各號ニ該當シ當該官廳ヨリ容器證明書ノ交付ヲ受ケタル容器ニ非ザレバアセチレン瓦斯、攝氏三十五度ニ於テ二十氣壓以上ノ壓力ヲ有スル他ノ壓縮瓦斯及總テノ液化瓦斯ヲ充填スルコトヲ得ズ

- 一 材料ニハ鋼又ハ鐵ヲ用フルコト但シ壓縮酸素瓦斯又ハ液化炭酸瓦斯ヲ充填スル小容器ニシテ内務大臣ノ許可ヲ受ケタル者ノ製造シタル輕合金製ノモノニ付テハ此ノ限ニ在ラズ
- 二 大容器ヲ除ク外鐵目ナク製作シタルモノナルコト
- 三 熔接シタル大容器ハ内務大臣ノ指定シタル者ノ熔接シ熔接後適當ナル方法ニ依リ燒鈍シタルモノナルコト
- 四 大容器ハ別ニ定ムル屈曲試驗及延伸試驗ニ合格シタル材料ヲ以テ製作シ中容器及小容器ハ別ニ定ムル壓潰試驗及延伸試驗ニ合格シタルモノナルコト
- 五 アセチレン瓦斯ヲ充填スベキ容器ハ攝氏十五度ヲ標準トセル充填壓力ノ三倍以上ノ壓力、其ノ他ノ壓縮瓦斯ヲ充填スベキ容器ハ攝氏三十五度ヲ標準トセル充填壓力ニ其ノ三分ノ二以上ヲ加ヘタル壓力ヲ以テスル耐壓試驗(容器ノ耐壓試驗ハ水壓ニ依ル以下之ニ同シ)ヲ行ヒ一分間以上其ノ壓力ニ耐ヘ且其ノ壓力ニ因ル内容積ノ恒久増加が全増加ノ十分ノ一以下ニシテ膨脹均一ナルコトノ外充填物ノ重量一キログラムニ對シ各表示ノ内容積以上ヲ有スルモノナルコト
- 六 左ノ液化瓦斯ヲ充填スベキ容器ハ各表示ノ耐壓試驗壓力以上ノ壓力ニ對シ一分間以上其ノ壓力ニ耐ヘ且其ノ壓力ニ因ル内容積ノ恒久増加が全増加ノ十分ノ一以下ニシテ膨脹均一ナルコトノ外充填物ノ重量一キログラムニ對シ各表示ノ内容積以上ヲ有スルモノナルコト

瓦斯ノ名稱	耐壓試驗壓力	内 容 積
炭 酸 瓦 斯	氣壓 二〇〇	リットル 一・三四
亞酸化窒素瓦斯	二〇〇	一・三四

十二 容器ハ其ノ見易キ箇所ニ容器番號(記號アルモノハ之ヲ含ム以下之ニ同シ)耐壓試驗年月日、容器製造所ノ名稱又ハ其ノ符號、充填シ得ベキ瓦斯ノ名稱並ニ液化瓦斯ノ容器ニ在リテハ耐壓試驗壓力及其ノ内容積、壓縮瓦斯ノ容器ニ在リテハ最高充填壓力ヲ鮮明ニ刻印セルモノナルコト

十三 左ノ瓦斯ヲ充填スベキ容器ハ其ノ外面ヲ各表示ノ色別ニ塗裝シ其ノ他ノ瓦斯ヲ充填スベキ容器ハ其ノ外面ニ充填スベキ瓦斯ノ名稱ヲ記載シタルモノナルコト

瓦斯ノ名稱	塗 色
酸 素 瓦 斯	黒
水 素 瓦 斯	赤
炭 酸 瓦 斯	綠
アンモニア瓦斯	白
塩 素 瓦 斯	黄
アセチレン瓦斯	褐

第二十四條 大容器ニ關スル前條第四號ノ屈曲試驗及延伸試驗ハ材料タル鑄塊ヲ異ニスル毎ニ作リタル試験片ニ就キ之ヲ行フ

中容器及小容器ニ關スル前條第四號ノ壓潰試驗及延伸試驗ハ同一製造所ニ於テ同一鑄塊ノ材料ヨリ製作シタル同形ノ容器ニシテ製作時期一月以上ヲ隔テザル百箇以内ノ一群ノモノノ中ヨリ任意一箇(小容器ニシテ必

瓦斯名稱	耐壓試驗壓力	内 容 積
アンモニア瓦斯	三〇	一・八六
塩 素 瓦 斯	二五	〇・八
亞 硫 酸 瓦 斯	二〇	〇・八
ホスゲン瓦斯	二五	〇・八
油 瓦 斯	二〇〇	二・五
プロパン瓦斯	三〇	二・三五
クロルメチル瓦斯	二〇	一・二五
クロルエチル瓦斯	一五	一・二五

七 瓦斯閉閉裝置ハ充填瓦斯ニ依リ浸蝕セラレザル材料ヲ以テ作りタルモノナルコト

八 瓦斯閉閉裝置ニハ容器ノ耐壓試驗壓力ノ十分ノ八ノ壓力ニ耐ヘザル安全裝置ヲ備フルコト

九 瓦斯充填口及放出口ノホチハ可燃性瓦斯ヲ充填スベキ容器ニ在リテハ左回轉、其ノ他ノ瓦斯ヲ充填スベキ容器ニ在リテハ右回轉タルコト

十 アセチレン瓦斯ヲ充填スベキ容器ノ安全裝置、瓦斯閉閉裝置等瓦斯ト接觸スル部分ニハ銅ヲ用ヒザルコト

十一 外部ニ損傷ヲ生ジタル容器又ハ最近ノ耐壓試驗後三年(大容器及輕合金ヲ以テ製作シタル小容器ニ在リテハ二年)ヲ經過シタル容器ハ第五號又ハ第六號ノ規定ニ依リ更ニ試驗ヲ行ヒ之ニ合格シタルモノナルコト

要アル場合ハ任意二箇)ヲ抽出シテ之ヲ行ヒ合格シタルトキハ其ノ一群ニ屬スル殘餘ノ全部ヲ合格品トシ若シ合格セザルトキハ全部ヲ不合格品トス

第二十五條 アセチレン瓦斯ヲ充填スベキ容器ニシテ第二十三條第十一號ノ規定ニ依リ行フ耐壓試驗ハ製造所、内容積、形狀及製造年月ヲ同シクスルモノノ中ヨリ任意一箇ヲ抽出シテ之ヲ行ヒ合格シタルトキハ殘餘ノモノニ對スル試驗ヲ省略シ合格品トシ若シ合格セザルトキハ全部ニ對シ試驗ヲ行フベシ

前項ノ試驗ハ容器所有者ノ申請ニ依リ各箇ノ容器ニ付多孔質物及溶劑ヲ詰メタル儘酸素含有量一パーセント以下ノ窒素瓦斯ヲ以テ行ヒ之ニ代フルコトヲ得

第二十六條 第二十三條第四號乃至第六號及第十一號ノ試驗ハ容器ノ製造者又ハ所有者ノ申請ニ依リ大容器ニ在リテハ内務大臣、中容器及小容器ニ在リテハ地方長官之ヲ行フ此ノ場合ニ於テ内務大臣又ハ地方長官ハ其ノ指定シタル者ヲシテ之ヲ行ハシムルコトヲ得

第二十七條 容器ノ所有者容器證明書ノ交付ヲ受ケントスルトキハ其ノ構造(設計及材料ヲ含ム)、製作工程及製造所ノ設備ニ關スル事項ヲ具シ大容器ニ在リテハ内務大臣、中容器及小容器ニ在リテハ地方長官ニ申請スベシ

當該官廳前項ノ規定ニ依リ申請シタル容器ニ付第二十三條各號ノ規定ニ適合スト認ムルトキハ別記第四號様式ノ容器證明書ヲ交付ス

第二十三條第十一號ノ試驗ニ合格シタルトキハ當該官廳ハ其ノ容器證明書ニ之ヲ記入スルモノトス

容器證明書ハ容器ノ所有者ニ於テ之ヲ保管スベシ

容器ノ授受ヲ爲シタルトキハ讓渡人ハ其ノ容器證明書ヲ容器ト共ニ讓渡シ讓受人ハ遲滞ナク容器證明書ニ裏書ヲ爲スベシ
 容器證明書ヲ滅失又ハ毀損シタルトキハ所有者ハ其ノ事由ヲ具シ之ヲ交付シタル官廳ニ對シ其ノ再交付ヲ申請スルコトヲ得
 容器ノ使用ヲ廢止シタルトキハ所有者ハ其ノ旨地方長官ニ届出テ容器證明書ヲ返納スベシ壓縮瓦斯及液化瓦斯取締法第三條第三項ノ規定ニ依リ容器ノ使用ヲ禁止セラレタルトキ亦同シ

第二十八條 前條第二項ノ容器證明書ヲ有スル容器ニ付其ノ充填シ得ベキ瓦斯ノ種類、名稱又ハ最高充填壓力ヲ變更セントスルトキハ所有者ハ大容器ニ在リテハ内務大臣、中容器及小容器ニ在リテハ地方長官ノ許可ヲ得テ第二十三條第十二號ノ刻印ヲ改訂シ又ハ同條第十三號ノ塗色若ハ瓦斯ノ名稱ノ記載ヲ變更スベシ
 當該官廳前項ノ許可ヲ爲シタルトキハ容器證明書ノ記載事項ヲ改訂ス

第二十九條 容器ノ製造、輸入又ハ販賣ノ業ヲ爲サントスル者ハ地方長官ニ届出ヅベシ
 前項ノ製造業者又ハ輸入業者ハ容器證明書ノ交付ヲ受ケタル容器ニ付左ノ事項ヲ帳簿ニ記載スベシ
 一 容器ノ種類、充填瓦斯ノ種類及名稱、容器製造所ノ名稱(輸入シタル容器ニ限ル)、容器番號、内容積並ニ製造年月日
 二 壓潰試驗及延伸試驗ノ場所、年月日及成績並ニ試驗ニ供シタル容器ノ容器番號
 三 耐壓試驗ノ場所、年月日及成績
 四 材料トシテ使用シタル鑄塊ノ製造業者

再交付(容器一本) (=付一枚)	五〇錢			二〇錢
	甲種	乙種	丙種	
再交付(各一枚ニ付)	三圓	二圓	一圓五〇錢	五〇錢
	五〇錢	五〇錢	五〇錢	

第三十四條 前條ノ手数料ハ收入印紙ヲ用ヒ交付又ハ再交付申請書ニ貼付スベシ
 既納ノ手数料ハ之ヲ還付セズ

第七章 雜則

第三十五條 壓縮瓦斯又ハ液化瓦斯ノ製造、貯藏又ハ販賣ノ業ヲ爲ス者ハ壓縮瓦斯又ハ液化瓦斯ニ依リ災害ヲ生ジタルトキハ遲滞ナク所轄警察署長ニ届出ヅベシ

第三十六條 製氷又ハ冷凍ノ爲瓦斯ヲ壓縮シ又ハ液化スル作業ニシテ一日ノ冷凍能力二十瓩ニ滿タザルモノニ付テハ第四條、第九條、第十四條乃至第十七條、第十九條及第二十一條ノ規定ヲ、一日ノ冷凍能力二十瓩以上ノモノニ付テハ第十四條第一項及第三項、第十五條、第十六條第一項第二號及第五號、同條第二項乃至第四項及第十九條ノ規定ヲ適用セズ
 密閉セザル容器ニ液化瓦斯ヲ充填スル場合ハ第二十一條第五號、第二十二條第一號、第五號及第六號ノ規定ヲ除クノ外容器及充填ニ關スル本令ノ規定ヲ適用セズ

第三十七條 内務大臣ハ壓縮瓦斯、液化瓦斯若ハ其ノ製造設備又ハ其ノ容器ニシテ特ニ危険ノ虞アリト認ムルモノ又ハ特別ノ事由ニ因リ本令ノ規定

五 容器ヲ讓渡シタルトキハ讓渡年月日及讓渡先
 第三十條 容器ノ製造業者、輸入業者又ハ販賣業者ハ毎年一月末日迄ニ別記第五號様式ニ依リ其ノ前年末ニ於ケル容器ノ現存數量及前年中ニ製造、輸入又ハ販賣ヲ爲シタル容器ノ數量ヲ地方長官ニ届出ヅベシ
 第三十一條 左ノ各號ニ該當スル容器ニ非ザレバ攝氏三十五度ニ於テ二十氣壓未滿ノ壓力ヲ有スル壓縮瓦斯ヲ充填スルコトヲ得ズ
 一 第二十三條第七號、第九號、第十二號及第十三號規定ノ事項
 二 攝氏三十五度ヲ標準トセル充填壓力ノ三倍以上ノ壓力ヲ以テスル耐壓試驗ヲ行ヒ一分間以上其ノ壓力ニ耐ヘ且膨脹均一ノモノナルコト
 三 外部ニ損傷ヲ生ジタルモノ又ハ最近ノ耐壓試驗後三年ヲ經過シタルモノニ在リテハ前號ノ規定ニ依リ更ニ試驗ヲ行ヒ之ニ合格シタルモノナルコト

第三十二條 壓縮瓦斯又ハ液化瓦斯ヲ輸入又ハ移入シタル場合ニ於テハ其ノ容器ガ充填瓦斯ノ種類又ハ壓力ニ應ジ第二十三條各號又ハ前條各號ノ規定ニ適合スルニ非ザレバ之ヲ授受又ハ運搬スルコトヲ得ズ
 第六章 手数料
 第三十三條 容器證明書、化學主任者免狀及機械主任者免狀ノ交付又ハ再交付ヲ受ケントスル者ハ左ノ手数料ヲ納付スベシ

容器證明書	大	中	小
	三圓	二圓	一圓
交付(容器一本) (=付一枚)	五〇錢		
	再交付(各一枚ニ付)		
再交付(各一枚ニ付)			
五〇錢			

定ニ依リ難シト認ムルモノニ付テハ本令ニ定ムルモノノ外特別ノ制限ヲ命ジ又ハ本令ノ規定ニ異ル取扱ヲ命ジ若ハ許可スルコトアルベシ

第八章 罰則

第三十八條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ三月以下ノ懲役若ハ禁錮、百圓以下ノ罰金又ハ拘留若ハ科料ニ處ス

一 第九條、第十三條、第十六條第二項乃至第四項、第十七條、第二十一條、第二十八條第一項又ハ第三十二條ノ規定ニ違反シタル者
 二 第十二條ノ規定ニ依リ命令ニ違反シタル者
 三 第二十三條又ハ第三十一條ノ規定ニ適合セザル容器ヲ販賣シ又ハ之ニ瓦斯ヲ充填シタル者
 四 容器ニ虛偽ノ刻印、塗裝又ハ記載ヲ爲シタル者
 第三十九條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ五十圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

一 第六條第二項、第七條、第八條第一項、第二十二條、第二十七條第四項、第五項若ハ第七項、第二十九條第一項、第三十條又ハ第三十五條ノ規定ニ違反シタル者
 二 第十四條、第十五條又ハ第二十九條第二項ノ規定ニ違反シ又ハ虛偽ノ記載ヲ爲シタル者

第九章 附則

第四十條 本令ハ昭和十一年八月一日ヨリ之ヲ施行ス
 第四十一條 本令施行ノ際從前ノ規定ニ依リ壓縮瓦斯若ハ液化瓦斯ノ製造、貯藏若ハ販賣ノ業ヲ爲スノ許可ヲ受ケタル者又ハ壓縮瓦斯若ハ液化瓦斯ノ容器ニシテ耐壓試驗ヲ受ケタルモノハ本令ニ依リ其ノ許可又ハ試驗ヲ受ケタルモノト看做ス
 第四十二條 從前ノ規定ニ依リ交付ヲ受ケタル化學主任者免狀又ハ壓縮機

(表) 備考

一 材料	四 刻印ノ完否
二 外部損傷ノ有無	五 塗 色
三 安全装置ノ種類	六 其ノ他

耐壓試験成績

年月日	試験力 (kg)	容 積 (リットル)	全 増 加 (立方寸)	恒久増加 (立方寸)	復久増加 割合(%)	全ノ増加 對スル	試験場	官又ハ 試験者ノ 氏名印	備 考

容器所有者

讓受年月日									
住 所									
氏 名									

第五號様式(壓縮瓦斯及液化瓦斯取締法施行令第三十條)

壓縮(液化)瓦斯容器製造(輸入、販賣)届

年 月 日

容器製造所ノ名稱種類	容器ノ内容積ノ種類	充填瓦斯ノ種類	充填瓦斯前年中ノ製造現存高	住所	氏 名

備考

- 一 容器製造所ノ名稱欄ハ輸入業者ニ限り之ヲ記載スベシ
- 二 容器ノ種類欄ニハ大、中、小ノ種別ヲ記載スベシ
- 三 充填瓦斯ノ種類欄ニハ壓縮瓦斯又ハ液化瓦斯ノ種別ヲ記載スベシ
- 四 充填瓦斯ノ名稱欄ニハ酸素、水素、アンモニア等其ノ名稱ヲ記載スベシ

●壓縮瓦斯及液化瓦斯取締法施行細則

昭和十一年八月三日
山梨縣令第三十號

壓縮瓦斯及液化瓦斯取締法施行細則左ノ通定ム

第一條 壓縮瓦斯及液化瓦斯取締法(以下單ニ法ト稱ス)壓縮瓦斯及液化瓦斯取締法施行令(以下單ニ施行令ト稱ス)又ハ本則ニ依リ知事ニ提出スル

(山梨縣)

(山梨縣)

申請書又ハ届書ハ所轄警察署長ヲ經由スベシ但シ施行令第二十六條乃至第二十八條ノ規定ニ依ル申請書ハ此ノ限ニ在ラズ

第二條 施行令第四條乃至第六條ノ規定ニ依リ許可ヲ受ケタル者其ノ工事竣功シタルトキハ知事ニ届出ヅベシ

第三條 施行令第十一條第一項ノ規定ニ依ル申請書ニハ卒業證書ノ寫、履歴書、作業經歷書其ノ他資格ヲ證明スベキ書類ヲ添付スベシ

第四條 壓縮瓦斯又ハ液化瓦斯ノ製造業者他人ノ容器ニ瓦斯ヲ充填セントスルトキハ其ノ容器證明書ノ寫ヲ作成シ三年間之ヲ保存スベシ

第五條 施行令第二十四條第二項ノ規定ニ依リ試験ニ合格セザル容器ニハ線ノ太サ約二ミリメートル大サ約二十ミリメートル平方ノ「不」ノ文字ヲ刻印スベシ

第六條 施行令第二十九條ノ規定ニ依リ届出ヲ爲シタル者其ノ營業ヲ廢止シタルトキハ十日以内ニ知事ニ届出ヅベシ

第七條 第四條乃至第六條ノ規定ニ違反シタル者ハ拘留又ハ科料ニ處ス

●壓縮瓦斯及液化瓦斯取締法令執行心得

行心得

昭和十一年八月三日
山梨縣訓令乙第二〇四號

壓縮瓦斯及液化瓦斯取締法令執行心得左ノ通定ム

●壓縮瓦斯及液化瓦斯取締法令執行心得

第一條 本心得ニ於テ法ト稱スルハ壓縮瓦斯及液化瓦斯取締法ヲ、施行令ト稱スルハ壓縮瓦斯及液化瓦斯取締法施行令ヲ、細則ト稱スルハ壓縮瓦斯及液化瓦斯取締法施行細則ヲ謂フ

第二條 知事ニ提出スベキ申請書又ハ届書ヲ受理シタルトキハ所定ノ事項

第四編 保安 第九章 銃砲火藥類及壓縮瓦斯液化瓦斯

ヲ具備スルヤ否ヲ調査シ進達スベシ

第三條 施行令第四條乃至第六條ノ規定ニ依ル申請書ヲ受理シタルトキハ左ノ事項ヲ調査シ意見ヲ附シ進達スベシ

- 一 申請者ノ性行、經歷、職業、資産、信用ノ程度及前科ノ有無
- 二 施行令第十九條第一項ノ規定セル距離ノ有無
- 三 設備ハ規定ニ適合スルヤ
- 四 施行令第十九條第一項ノ設備ノ設置ニ付テハ附近住民ノ意圖

第四條 施行令第七條第一項ノ規定ニ依ル申請書ヲ受理シタルトキハ其ノ申請事項ニ付調査シ意見ヲ附シ進達スベシ

第五條 施行令第八條第二項ノ規定ニ依ル申請書ヲ受理シタルトキハ其人ニ付第三條第一號ノ事項ヲ調査シ意見ヲ附シ進達スベシ

第六條 左ノ場合ニ在リテハ其ノ事實ヲ具シ速ニ進達スベシ

- 一 法第二條又ハ施行令第二十條第二項ノ規定ニ依リ處分ヲ爲スノ必要アリト認メタルトキ
- 二 法第三條第三項ノ規定ニ依リ命令又ハ處分ヲ爲スノ必要アリト認メタルトキ
- 三 法第四條第一項ノ規定ニ依リ禁止又ハ制限ノ必要アリト認メタルトキ
- 四 法第四條第二項ノ規定ニ依リ假領置ヲ爲シタルトキ
- 五 施行令第十二條ノ規定ニ依リ作業主任者ノ變更ヲ命ズルノ必要アリト認メタルトキ
- 六 施行令第十九條第一項ノ設備ニシテ第二項ノ規定ニ依ル距離ヲ保有セザルニ至リタルトキ
- 七 取締法令ニ違反スル行爲アリタルトキ
- 八 其ノ他取締上重要ト認ムル事項アリタルトキ

第十章 狩獵及漁業

● 狩獵法

大正七年四月四日
法律第三十二號

改正 大正一一年四月法律第七四號

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル狩獵法改正法律ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

狩獵法

第一條 狩獵鳥獸以外ノ鳥獸ハ之ヲ捕獲スルコトヲ得ス

狩獵鳥獸ノ種類ハ主務大臣ノヲ定ム

主務大臣ハ特殊ノ狩獵鳥獸ノ保護蕃殖ノ爲必要ト認ムルトキハ區域ヲ定メ其ノ捕獲ヲ禁止又ハ制限スルコトヲ得

第二條 狩獵鳥獸ノ雛及鳥類ノ卵ハ主務大臣ノ定ムルモノヲ除クノ外之ヲ捕獲又ハ採取スルコトヲ得ス

第三條 狩獵鳥獸ハ狩獵免許ヲ受クルニ非サレハ主務大臣ノ定ムル銃器、網、納繩、撲、鉤又ハ罾ヲ使用シテ之ヲ捕獲スルコトヲ得ス但シ欄、柵其ノ他ノ圍障アル邸宅地域内ニ於テ銃器ヲ使用セスシテ捕獲スル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第四條 地方長官必要ト認ムルトキハ主務大臣ノ認可ヲ受ケ前條ノ規定ニ依ル獵具ノ使用以外ノ方法ヲ以テスル狩獵鳥獸ノ捕獲ヲ禁止又ハ制限スルコトヲ得

第五條 狩獵免許ハ甲乙ノ二種トシ狩獵免狀ヲ下付ス

甲種狩獵免狀ハ銃器ノ使用以外ノ方法ヲ以テ狩獵ヲ爲ス者ニ、乙種狩獵免狀ハ銃器ヲ使用シテ狩獵ヲ爲ス者ニ之ヲ下付ス

狩獵免狀ノ有効期間ハ十月十五日ヨリ翌年四月十五日迄トス但シ北海道ニ於テハ九月十五日ヨリ翌年四月十五日迄トス

主務大臣ハ特殊ノ狩獵鳥獸ノ保護蕃殖ノ爲必要ト認ムルトキハ前項ノ期

〔山梨管〕

間内ニ於テ特ニ其ノ狩獵ノ期間ヲ限定スルコトヲ得

前二項ノ期間内ニ非サレハ狩獵ヲ爲スコトヲ得ス

第六條 本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ違反シ罰金ニ處セラレタル者ハ一年ヲ經過スルニ非サレハ狩獵免許ヲ受クルコトヲ得ス

第七條 未成年者、白痴者又ハ瘋癲者ハ乙種狩獵免許ヲ受クルコトヲ得ス

乙種狩獵免許ヲ受ケタル者白痴者又ハ瘋癲者ト爲リタルトキハ地方長官ハ其ノ免許ヲ取消スヘシ

第八條 狩獵免許ヲ受クル者ハ甲乙各種ニ付左ノ區別ニ從ヒ免許稅ヲ納ム

ヘシ

一等 所得稅二百圓以上ヲ納ムル者又ハ其ノ家族

二等 所得稅ヲ納ムル者又ハ其ノ家族

三等 一等及二等以外ノ者

前項ノ免許稅ハ收入印紙ヲ以テ之ヲ納ムヘシ

第九條 主務大臣又ハ地方長官ハ鳥獸ノ保護蕃殖ノ爲又ハ土地所有者ノ出願其ノ他ノ事由ニ因リ必要ト認ムル場合ニ於テ十年以内ノ期間ヲ定メ禁獵區ヲ設クルコトヲ得

第十條 地方長官ハ危險豫防ノ爲其ノ他必要ト認ムルトキハ銃獵禁止區域ヲ設クルコトヲ得

第十一條 左ニ掲グル場所ニ於テハ鳥獸ヲ捕獲スルコトヲ得ス

一 御獵場

二 禁獵區

三 公道

四 公園

五 社寺境内

六 墓地

第十二條 學術研究又は有害鳥獸驅除ノ爲其ノ他特別ノ事由ニ因リ主務大臣又ハ地方長官ノ許可ヲ受ケタル場合ニ於テハ前數條ノ規定ニ拘ラス鳥獸ヲ捕獲シ又ハ鳥類ノ卵ヲ採取スルコトヲ得

第十三條 前條第一項ノ規定ニ依リ捕獲シタル鳥獸又ハ採取シタル鳥類ノ卵ハ之ヲ讓渡シ又ハ讓受クルコトヲ得ス但シ警察官署ノ許可ヲ受ケタルトキハ此ノ限ニ在ラス

第十四條 國、道府縣、郡又ハ市町村ハ命令ノ定ムル所ニ依リ獵區ヲ設定スルコトヲ得

第十五條 爆發物、劇藥、毒藥、据銃又ハ危險ナル兵器若ハ陷穿ヲ使用シテ鳥獸ヲ捕獲スルコトヲ得ス

第十六條 日出前若ハ日没後、市街其ノ他人家稠密ノ場所若ハ衆人群集ノ場所ニ於テ又ハ銃丸ノ達スヘキ虞アル人畜、建物、汽車、電車若ハ艦船ニ向テ銃獵ヲ爲スコトヲ得ス

第十七條 櫻梅其ノ他ノ園障又ハ作物アル土地ニ於テハ占有者、共同狩獵地ニ於テハ免許ヲ受ケタル者ノ承諾ヲ得ルニ非サレハ狩獵又ハ第十二條第一項ノ規定ニ依リ鳥獸ノ捕獲ヲ爲スコトヲ得ス

第十八條 獵區ニ於テハ獵區設定者ノ承認ヲ得ルニ非サレハ狩獵又ハ第十二條第一項ノ規定ニ依リ鳥獸ノ捕獲ヲ爲スコトヲ得ス

第十九條 狩獵免許ヲ受ケタル者又ハ第十二條第一項ノ許可ヲ受ケタル者鳥獸ヲ捕獲シ又ハ鳥類ノ卵ヲ採取セムトスルコトキハ狩獵免狀又ハ許可證ヲ携帯スヘシ

警察官吏、憲兵、森林官吏又ハ市町村長ハ前項ノ規定ニ依リ携帯スヘキ狩獵免狀若ハ許可證又ハ捕獲シタル鳥獸若ハ採取シタル鳥類ノ卵ヲ検査スルコトヲ得

本法中市町村又ハ市町村長トアルハ市制又ハ町村制ヲ施行セザル地ニ於テハ之ニ準スヘキモノトス

附則 第二十七條 本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム (大正八年八月勅令第三百八十一號ヲ以テ同年九月一日ヨリ施行)

第二十八條 明治三十年法律第七號ハ之ヲ廢止ス

第二十九條 舊法ニ依リ爲シタル許可ニ付テハ仍從前ノ例ニ依ル舊法ニ依リ設ケタル禁獵區又ハ銃獵禁止ノ區域ハ之ヲ本法ニ依リ設ケタル禁獵區又ハ銃獵禁止區域ト看做ス

第三十條 本法施行前爲シタル共同狩獵地ノ免許ハ仍其ノ效力ヲ有ス前項免許ノ期間ハ申請ニ因リ之ヲ更新スルコトヲ得

第三十一條 狩獵免許ヲ受ケタル者舊法第二十一條乃至第二十三條ノ規定ニ依リ處罰セラレタルトキハ其ノ狩獵免許ハ效力ヲ失フ此ノ場合ニ於テハ一年ヲ經過スルニ非サレハ狩獵免許ヲ受クルコトヲ得ス

●狩獵法施行規則

大正八年八月十六日 農商務省令第二十八號 改正 大正一〇年三月農商務省令第三號、二年一〇月第一九號、二年八月第二二號、一四年一〇月農林省令第二四號、一五年九月第二二號、昭和三年六月第七號、五年一〇月第七號、一〇年七月第一八號

狩獵法施行規則左ノ通改正ス

第一條 狩獵鳥獸ノ種類左ノ如シ

あはうどり う ごあさぎ あなさぎ

わし くまたか はやぶさ みさこ

きじ やまどり うづら えぞやまどり

第四編 保安 第十章 狩獵及漁業

第二十條 本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ違反シテ捕獲シタル鳥獸又ハ採取シタル鳥類ノ卵ハ之ヲ讓渡シ又ハ讓受クルコトヲ得ス

第二十一條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

一 第三條、第十一條、第十五條又ハ第十六條ノ規定ニ違反シタル者

二 詐欺ノ行爲ヲ以テ狩獵免許又ハ第十二條第一項ノ許可ヲ受ケタル者

第三條又ハ第十五條ノ規定ニ違反スル犯罪ノ用ニ供シタル物件及其ノ犯罪ニ因リテ得タル獵獲物ニシテ犯人ノ所有シ又ハ所持スルモノハ之ヲ沒收ス

第二十二條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ三百圓以下ノ罰金ニ處ス但シ第十七條ノ規定ニ違反シタル罪ハ占有者又ハ共同狩獵地ノ免許ヲ受ケタル者ノ告訴ヲ待テ之ヲ論ス

一 第一條第一項、第二條、第五條第五項、第十三條、第十七條、第十八條又ハ第二十條ノ規定ニ違反シタル者

二 第一條第三項ノ規定ニ依リ禁止又ハ制限ニ違反シタル者

三 銃獵禁止區域ニ於テ銃獵ヲ爲シタル者

四 正當ノ事由ナクシテ第十九條第二項ノ規定ニ依リ検査ヲ拒ミタル者

五 狩獵免狀又ハ第十二條第二項ノ許可證ヲ他人ニ使用セシメタル者

第二十三條 御獵場、禁獵區、銃獵禁止區域、獵區又ハ共同狩獵地ノ標識ヲ移轉、汚損、毀壞又ハ除却シタル者ハ五十圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

第二十四條 狩獵免許又ハ第十二條第一項ノ許可ヲ受ケタル者本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ違反シ罰金ニ處セラレタルトキハ其ノ狩獵免許又ハ許可ハ效力ヲ失フ

第二十五條 第十九條第一項ノ規定ニ違反シタル者ハ科料ニ處ス

第二十六條 本法中地方長官トアルハ東京府ニ於テハ警視總監トス

〔山梨警〕

〔山梨警〕

第一條ノ二 左ノ鳥獸ハ農林大臣ノ指定シタル區域ニ於テ捕獲スル場合ヲ除クノ外之ヲ捕獲スルコトヲ得ス

こじやけい てつけい かも あいさ

がん くひな ばん だいぜん

むなぐる ちどり しぎ ほと

ひよどり つぐみ(とらつぐみ) しらばら まみぢない

からす(ほしがら) かけす(るりかけ) しめ いかる

一 銃器 裝藥銃其ノ他瓦斯力ニ依リ彈丸ヲ發射スル銃器、散彈ヲ使用シ得ヘキ空氣銃、刺拔銃身ノ空氣銃及引拔銃身ノ空氣銃(銃身ニ引拔管ヲ使用シタルモノ)ノ類

二 網 罟、魚網、其ノ他ノ張網、突網及投網

三 流網 流網及張網

四 高張及千本張

五 釣 流釣、高張釣、千本張

六 籠 括籠、箱籠、箱落、壓及虎挾

第五條 狩獵免許ヲ受ケムトスル者ハ地方長官ニ出願シ狩獵免狀ノ下付ヲ受ケヘシ

前項ノ願書ニハ左ノ事項ヲ記載シ寫眞(出願前三年内ニ撮影シタル無帽、正面、半身像、名刺型、無臺紙ノモノ)及一等免狀ヲ受ケムトスル者ヲ除クノ外狩獵法第八條第一項ニ定ムル稅額ニ關スル證明書ヲ添附スヘシ

一 免許ノ種類及等級

二 出願者ノ身分、職業、氏名、住所及生年月日

三 狩獵法又ハ本則ノ規定ニ依リ罰金ニ處セラレタルコトノ有無及罰金ニ處セラレタルコトアルトキハ其ノ年月日

地方長官特別ノ事由アリト認ムルトキハ農林大臣ノ認可ヲ受ケ地域ヲ指定シ其ノ地域内ニ住所ヲ有スル者ノ出願ニ付前項ノ規定ニ依ル寫眞ノ添附ヲ免除スルコトヲ得

地方長官前項ノ規定ニ依リ地域ヲ指定シタルトキハ之ヲ告示スヘシ

第六條 狩獵法第八條第二項ノ收入印紙ハ之ヲ前條ノ願書ニ貼附シ消印ヲ爲サシテ差出スヘシ

第七條 狩獵法第十二條第一項ノ許可ヲ受ケムトスル者ハ飼養又ハ有害鳥獸ノ驅除ヲ目的トスル場合ニ於テハ地方長官ニ、其ノ他ノ場合ニ於テハ農林大臣ニ出願シ鳥獸捕獲許可證ノ下付ヲ受ケヘシ

前項ノ願書ニハ左ノ事項ヲ記載スヘシ

一 出願者ノ職業、氏名、住所及生年月日

二 捕獲スヘキ鳥獸又ハ採取スヘキ卵ノ種類及員數

三 捕獲又ハ採取ノ目的、期間、區域及方法並學術研究ヲ目的トスルモノニ在リテハ研究ノ事項及方法

狩獵法第十一條ニ掲グル場所又ハ獵區内ニ於テ鳥獸ヲ捕獲シ若ハ卵ヲ採取セムトスル場合ニ於テハ前項ノ外其ノ旨ヲ記載スヘシ

第八條 狩獵免許又ハ狩獵法第十二條第一項ノ許可ヲ受ケタル者其ノ住所若ハ氏名ヲ變更シタルトキハ二週内ニ其ノ旨ヲ所轄警察官署ニ届出ツヘシ

新住所地方他ノ地方長官ノ管轄ニ屬スルトキハ前項ノ期間内ニ免許ノ種類及等級並身分、職業、氏名、住所及生年月日ヲ新住所地方長官ニ届出ツヘシ

第九條 狩獵免狀又ハ鳥獸捕獲許可證ノ下付ヲ受ケタル者之ヲ亡失シタルトキハ其ノ事由ヲ記載シ遲滞ナク當初之ヲ下付シタル官廳ニ届出ツヘシ

前項ノ届出アリタルトキハ農林大臣又ハ地方長官ハ其ノ旨ヲ公告スヘシ

第十條 狩獵免狀又ハ鳥獸捕獲許可證ヲ亡失又ハ毀損シタルトキハ其ノ再渡ヲ請求スルコトヲ得

狩獵免狀ノ再渡ヲ受ケムトスル者ハ收入印紙ヲ以テ手数料金二圓ヲ納ムヘシ

第十一條 狩獵免狀又ハ鳥獸捕獲許可證ノ下付ヲ受ケタル者ハ其ノ效力ヲ失ヒタル日ヨリ三十日内ニ當初之ヲ下付シタル官廳ニ之ヲ返納スヘシ

前項ノ規定ニ依リ狩獵免狀ヲ返納スル場合ニ於テハ其ノ捕獲シタル鳥獸ノ道府縣別種類別員數ヲ、鳥獸捕獲許可證ヲ返納スル場合ニ於テハ其ノ捕獲シタル鳥獸又ハ採取シタル卵ノ種類別員數及其ノ處置ヲ届出ツヘシ

前項ノ規定ハ失効前ノ狩獵免狀又ハ鳥獸捕獲許可證ヲ返納スル場合ニ付テ之ヲ準用ス

第十一條ノ二 飼鳥ノ賣買ヲ業トスル者ハ左ノ鳥類ニ關スル受渡簿ヲ備ヘ

其ノ閉鎖ノ時ヨリ五年間之ヲ保存スヘシ

わしどり	くわくこう	ほととぎす	かばせみ
みみづく	ふくろう	きつつき	ありすひ
ひばり	せきれい	びんすい	たひばり
ひたき	るり	とらつぐみ	くろつぐみ
あかばら	まみじろ	いそひよどり	あかひげ
こまどり	のこま	よしきり	せつか
うぐひす	めぼそ	きくいただき	みそさざい
れんじやく	もす	ごじふから	しじふから
やまがら	ひがら	こがら	えなが
ほしがらす	るりかけす	ななが	むくどり
めじろ			

前項ノ受渡簿ニハ左ノ事項ヲ記載スヘシ

一 譲受ケタル鳥類ノ種類及員數、譲渡人ノ職業、氏名、住所及其ノ捕獲者ナリヤ否ヤノ別並譲受ノ年月日

二 譲渡シタル鳥類ノ種類、員數及譲渡ノ年月日

三 前二號以外ノ事由ニ因ル鳥類ノ員數ノ異動、其ノ事由及年月日

四 鳥類ノ員數ノ異動アリタル日ニ於ケル鳥類ノ種類別差引現在員數

第十一條ノ三 地方長官ハ鳥獸又ハ獵具ノ地方名稱ニシテ第一條、第二條、第四條又ハ前條ノ施行ノ爲必要ト認ムルモノハ之ヲ告示スヘシ

第十二條 禁獵區ハ御料地又ハ國有地ヲ其區域トセス且其ノ區域ニ府縣以上ニ互ラサル場合ニ於テハ地方長官、其ノ他ノ場合ニ於テハ農林大臣之ヲ設ケ

農林大臣必要ト認ムルトキハ前項前段ノ場合ニ於テモ禁獵區ヲ設ケルコトヲ得

第十三條 農林大臣又ハ地方長官禁獵區ヲ設ケタルトキハ其ノ區域及存續期間ヲ告示スヘシ禁獵區ヲ廢止シ又ハ其ノ區域若ハ存續期間ヲ變更シタルトキ亦同シ

第十四條 農林大臣又ハ地方長官ハ禁獵區ヲ表示スル爲其ノ周圍ノ隅角及見易キ場所ニ百二十間ヲ超エサル間隔ヲ以テ木標ヲ設ケヘシ但シ土地ノ狀況ニ依リ其ノ區域分明ナル場合ニ於テハ木標ノ間隔ヲ延長シ又ハ制札ヲ以テ之ニ代フルコトヲ得

土地所有者ノ出願ニ依リ設ケタル禁獵區ニ付テハ農林大臣又ハ地方長官ハ出願者ヲシテ前項ノ木標又ハ制札ヲ設ケシムルコトヲ得

第十五條 地方長官ハ銃獵禁止區域ヲ表示スル爲其ノ場所ニ制札ヲ設ケヘシ

第十六條 獵區ノ存續期間ハ二十年以内トス

前項ノ期間ハ農林大臣ノ認可ヲ受ケテ之ヲ更新スルコトヲ得

第十七條 獵區ハ三百町歩以上ノ面積タルコトヲ要ス但シ農林大臣ニ於テ特別ノ事由アリト認メタル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第十八條 獵區ハ其ノ區域内ノ土地ノ上ニ登記シタル權利ヲ有スル者ノ同意ヲ得ルニ非サレハ之ヲ設定スルコトヲ得ス

第十九條 獵區設定者第二十四條及第二十六條ノ規定ニ依リ狩獵者ノ員數ヲ制限シタル場合ニ於テ狩獵法第十八條ノ規定ニ依リ狩獵ノ承認ヲ受ケムトスル者ノ員數其ノ制限ヲ超過シタルトキハ抽籤ノ方法ニ依リニ非サレハ狩獵者ヲ定ムルコトヲ得ス

第二十條 獵區設定者ハ正當ノ事由アル場合ヲ除クノ外狩獵法第十二條第一項ノ許可ヲ受ケタル者ニ對シ狩獵法第十八條ノ規定ニ依リ承認ヲ拒ムコトヲ得ス

第二十一條 獵區設定者狩獵法第十八條ノ規定ニ依ル承認ヲ爲シタルトキハ承認證ヲ交付スヘシ

第二十二條 獵區設定者ハ狩獵法第十八條ノ規定ニ依ル承認ヲ受クル者ヲシテ承認料ヲ納付セシムルコトヲ得

前項ノ承認料ハ一日ニ付五圓ヲ超ユルコトヲ得ス但シ特別ノ事由アル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第一項ノ規定ハ狩獵法第十二條第一項ノ許可ヲ受ケ學術研究又ハ有害鳥獸驅除ノ爲鳥獸ノ捕獲ヲ爲ス者ニ對シテハ之ヲ適用セス

第二十三條 獵區内ニ於テ狩獵又ハ狩獵法第十二條第一項ノ規定ニ依ル鳥獸ノ捕獲ヲ爲サントスルトキハ第二十一條ノ承認證ヲ携帶スヘシ

第二十四條 獵區設定者ハ狩獵日、狩獵者ノ員數又ハ狩獵者ニ對シ其ノ捕獲スヘキ鳥獸ノ種類及員數、獵具、獵法、捕獲區域其ノ他狩獵ニ關スル制限ヲ爲スコトヲ得

第二十五條 獵區ヲ設定セムトスル者ハ入獵規程ノ外左ノ事項ヲ記載シタル書面ヲ差出シ農林大臣ノ認可ヲ受ケヘシ

- 一 獵區ノ名稱
- 二 獵區ト爲サントスル土地ノ地目別面積、水面ノ面積及其ノ面積三百町歩ニ滿タサルトキハ其ノ事由
- 三 獵區ノ存續期間
- 四 獵區ト爲サントスル區域ニ於ケル過去一年ノ季節別鳥獸棲息狀況及其ノ以前ニ於ケル概況
- 五 一狩獵期間當ノ月別狩獵者(甲、乙種別)及捕獲鳥獸(種類別)見込數
- 六 鳥獸ノ保護蕃殖ヲ爲スヤ否ノ別及之ヲ爲スモノニ在リテハ其ノ方法
- 七 獵區内ニ棲息スル鳥獸ニ因ル損害ノ補償ニ關スル事項

- 八 獵區設定ニ要スル費用及一年當收支概算
- 九 第二十二條第二項但書ノ規定ニ依ル承認料ヲ納付セシムルモノニ在リテハ其ノ事由
- 十 管理者又ハ巡守ヲ置クヤ否ヤノ別及之ヲ置クモノニ在リテハ其ノ員數

前項ノ書面ニハ獵區ノ區域及位置ヲ示ス圖面、第十八條ノ同意ヲ證スル書面並獵區設定ニ關スル決議ヲ證スル書面ヲ添付スヘシ

獵區設定者第一項第三號、第六號又ハ第七號ノ事項ヲ變更セムトスルトキハ其ノ事由ヲ記載シタル書面ヲ差出シ農林大臣ノ認可ヲ受ケヘシ

第二十六條 入獵規程ニハ左ノ事項ヲ記載スヘシ

- 一 事務所ノ位置
- 二 獵區ノ區域
- 三 第二十四條ノ規定ニ依ル制限
- 四 入獵申込ノ手續
- 五 第十九條ノ規定ニ依ル抽籤ノ方法
- 六 入獵承認ノ通知方法
- 七 第二十二條ノ規定ニ依ル承認料及其ノ納付ノ方法
- 八 承認證ノ交付、携帶及提示ニ關スル事項
- 九 案内者又ハ勢子ヲ置クモノニ在リテハ之ニ關スル事項
- 十 入獵者、其ノ從者、獵區管理者、巡守、案内者又ハ勢子ニ徽章ヲ佩用セシムルモノニ在リテハ其ノ旨及雛形
- 十一 退獵ノ手續
- 十二 入獵規程違反者ニ對スル處置

獵區設定者前項第二號、第三號、第五號、第七號、第九號又ハ第十二號ノ事項ヲ變更シ又ハ新ニ設ケムトスルトキハ其ノ事由ヲ記載シタル書面

ヲ差出シ農林大臣ノ認可ヲ受ケヘシ

前條第一項第二號、第四號、第五號、第八號及第二項ノ規定ハ第一項第二號ノ事項ヲ變更セムトスル場合ニ於ケル認可ノ申請ニ付之ヲ準用ス

第二十七條 第十六條第二項ノ規定ニ依ル認可ヲ申請セムトスルトキハ更新ノ期間ヲ定メ申請書ニ第十八條ノ同意ヲ證スル書面ヲ添付シ期間滿了ノ日ヨリ三月前ニ之ヲ農林大臣ニ差出スヘシ

第二十八條 入獵規程ヲ變更シタルトキハ第二十六條第二項ニ掲ケル事項ニ關スルモノヲ除クノ外運滯ナク其ノ旨ヲ農林大臣ニ届出ツヘシ第二十條第一項第一號又ハ第十號ノ事項ヲ變更シタルトキ亦同シ

第二十九條 農林大臣獵區ノ設定又ハ其ノ存續期間ノ更新ノ認可ヲ爲シタルトキハ左ノ事項ヲ告示スヘシ告示シタル事項ニ付變更ヲ生シタルトキ亦同シ

- 一 獵區ノ名稱
- 二 事務所ノ位置
- 三 獵區ノ區域
- 四 獵區ノ存續期間
- 五 承認料
- 六 狩獵ニ關スル制限

第三十條 獵區設定者ハ其ノ獵區ニ管理者又ハ巡守ヲ置クコトヲ得

獵區設定者管理者又ハ巡守ヲ置キタルトキハ其ノ氏名及住所ヲ農林大臣ニ届出テ且證票ヲ携帶セシムヘシ

第三十一條 獵區管理者又ハ巡守ハ何時ニテモ獵區内ニ於テ鳥獸ヲ捕獲シ又ハ鳥類ノ卵ヲ採取スル者ニ對シ第二十一條ノ承認證ノ提示ヲ求ムルコトヲ得

第三十二條 獵區設定者ハ獵區ノ區域ヲ表示スル爲必要ナル標識ヲ設ケヘシ

第三十二條ノ二 獵區設定者ハ前年四月十六日ヨリ其ノ年四月十五日迄ノ間ニ於ケル獵區ノ成績ヲ様式第一號及第二號ニ依リ毎年四月三十日迄ニ農林大臣ニ報告スヘシ

第三十三條 獵區設定者ハ農林大臣ノ認可ヲ受ケ一定ノ期間狩獵ノ停止ヲ爲スコトヲ得

前項ノ期間ヲ變更セムトスルトキハ農林大臣ノ認可ヲ受ケヘシ

前二項ノ認可ヲ爲シタルトキハ農林大臣ハ其ノ旨ヲ告示スヘシ

第三十三條 獵區設定者獵區ヲ廢止セムトスルトキハ廢止ノ日ヨリ三十日前ニ其ノ事由ヲ具シ農林大臣ニ届出ツヘシ

前項ノ届出アリタルトキハ農林大臣ハ其ノ旨ヲ告示スヘシ

第三十四條 農林大臣必要ト認ムルトキハ獵區設定者ニ對シ獵區設定ノ認可ヲ取消シ第二十五條第一項第三號、第六號、第七號、第十號ノ事項又ハ入獵規程ノ變更、有害鳥獸ノ驅除、一定ノ期間ノ狩獵ノ停止ヲ命ジ其ノ他必要ナル命令又ハ處分ヲ爲スコトヲ得

農林大臣獵區設定ノ認可ヲ取消シ又ハ狩獵ノ停止ヲ命ジタルトキハ其ノ旨ヲ告示スヘシ

第三十五條 第九條第一項、第十一條又ハ第十一條ノ二ノ規定ニ違反シタル者ハ科料ニ處ス

第三十六條 本則ニ依リ農林大臣ニ差出スヘキ書類ハ地方長官ヲ經由スヘシ

第三十七條 本則中地方長官トアルハ東京府ニ於テハ警視總監トス

第三十八條 本則ハ狩獵法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス(大正八年九月一日ヨリ施行)

第三十九條 共同狩獵地ノ免許期間ノ更新ヲ申請セムトスル者ハ其ノ更新ノ期間ヲ定メ申請書ニ區域内ノ土地所有者ノ同意ヲ證スル書面ヲ添附シ期間満了ノ日ヨリ三月前ニ之ヲ農林大臣ニ差出スヘシ

第四十條 共同狩獵地ニ付テハ前條ノ外仍從前ノ例ニ依ル

第四十一條 禁獵區及銃獵禁止區域ノ木標又ハ制札ニシテ本則施行前設ケタルモノハ本則ニ依リ之ヲ設ケタルモノト看做ス

附則 (大正十四年農林省令第二十四號)

本令ハ大正十四年十月十五日ヨリ之ヲ施行ス但シ第四條第一號中制拔銃身ノ空氣銃ニ關スル規定ハ大正十九年四月十五日迄、第十一條ノ二ノ規定ハ

大正十四年十一月三十日迄之ヲ適用セス

飼鳥ノ賣買ヲ業トスル者第十一條ノ二ニ掲ケル鳥類ヲ飼養スルトキハ同條ノ規定ニ依ル受渡簿ニ其ノ鳥類ノ大正十四年十一月三十日現在ノ種類別員數ヲ記載スヘシ

本令施行ノ際現ニ存スル獵區ノ設定者ハ大正十四年十二月十五日迄ニ入獵規程及第二十五條第一項第七號ノ事項ヲ定ムルモノニ在リテハ之ヲ記載シタル書面ヲ差出シ農林大臣ノ認可ヲ受クヘシ

獵區ニ於ケル狩獵ノ制限ニシテ本令施行ノ際現ニ效力ヲ有スルモノハ入獵規程ニ付前項ノ認可アル迄仍其ノ效力ヲ有ス

第一號 様式

大正 年度獵區成績表(其ノ一)

何々獵區

種別	日開獵數	回開獵數	申請者數	入獵者數	捕獲	鳥類	捕獲數		其他類數	
							がんか	もきじ	しまし	ぎうづらば
計										

第二號

大正 年度獵區成績表(其ノ二)

何々獵區

科	目	金	額		内	出
			入	出		
計						

〔山梨等〕

承認料	案内料	勞子賃銀	通信料	何	何	何	計	管理者手當	書記手當	巡守手當	案内者賃銀	備人料	勞子賃銀	消耗品費	通信料	鳥獸保護費	損害補償費	何	計	
																				料
計																				

守ノ携帯スヘキ證票ノ雛形

大正八年八月十八日 農商務省告示第二百二十號

改正 大正一〇年三月農商務省告示第三三號、昭和一〇年七月農林省告示第二四〇號、一年八月第二五五號

狩獵免狀、鳥獸捕獲許可證、禁獵區ノ木標又ハ制札、銃獵禁止區域ノ制札及獵區管理者又ハ巡守ノ携帯スヘキ證票ノ雛形左ノ通定ム

●狩獵免狀、鳥獸捕獲許可證、禁獵區ノ木標又ハ制札、銃獵禁止區域ノ制札及獵區管理者又ハ巡

表

鳥獸捕獲許可證雛形

第 號	期有 間效	至自	年 月 日	年 月 日	日 日
鳥獸捕獲許可證					
農林省(廳府縣)					
印					

表

鳥獸捕獲許可證雛形

裏

及鳥 員獸 數名	區 域	方 法	目 的	生 年 月 日	職 業	住 所
一 七	一			各 〇 ・ 六		

裏

狩獵免狀雛形(甲種ハ綠色、乙種ハ白色)

折目

第 號	年 月 日	何 甲 乙 等 種	狩 獵 免 狀	應 府 縣	印
(蓋附免狀地域ニ付テハ其ノ旨記載シ捺印スルコト)					
寫 眞					
印					

生 年 月 日	氏 職 名 業 分	住 所
一 ・ 五	各 〇 ・ 六	七 〇

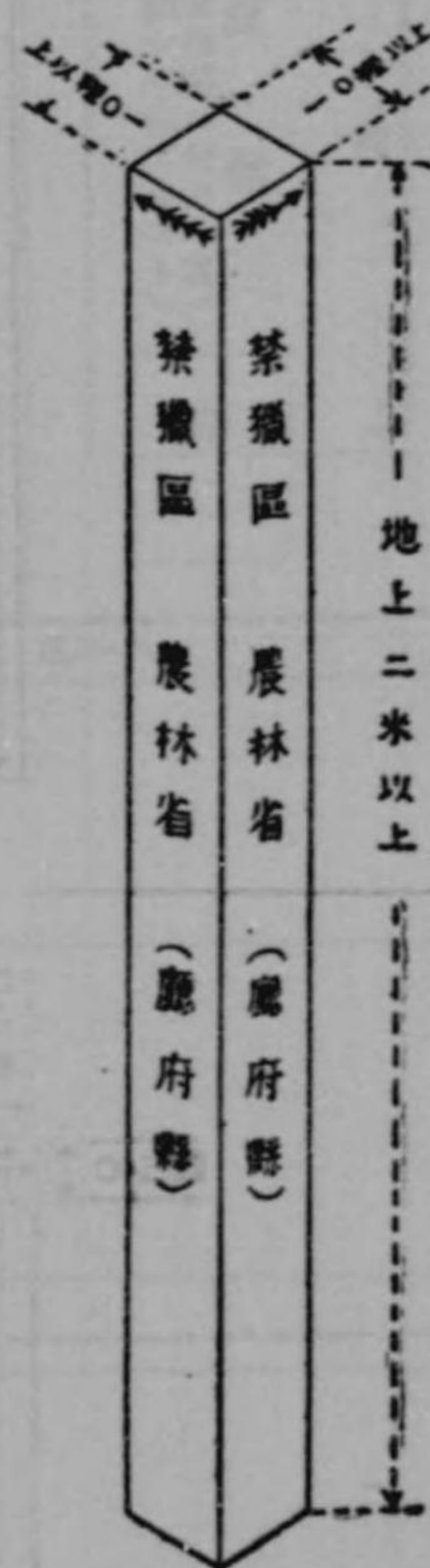
裏

裏

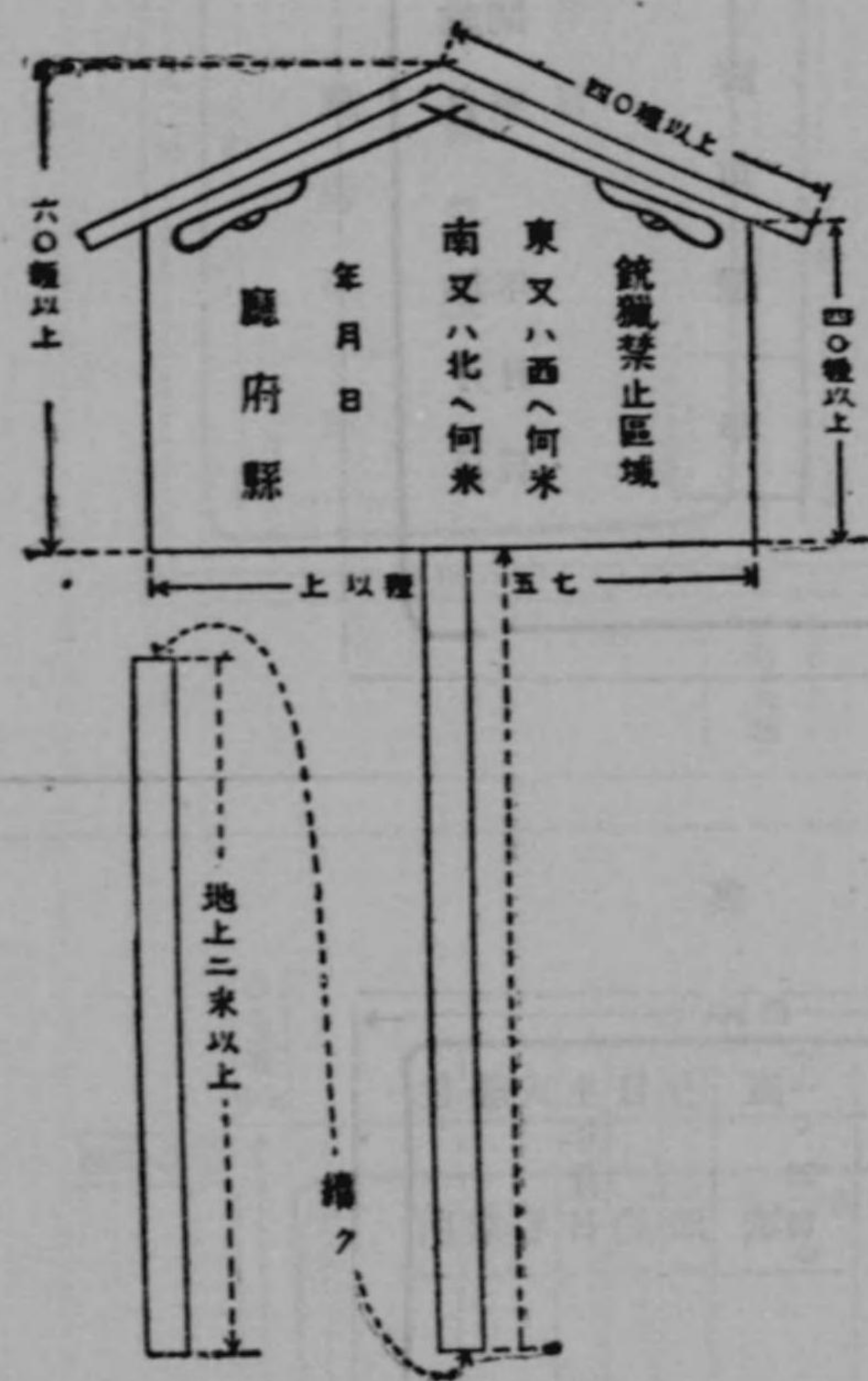
狩 獵 法 令 摘 要
〇 ・ 五

裏

禁獵區木標錐形

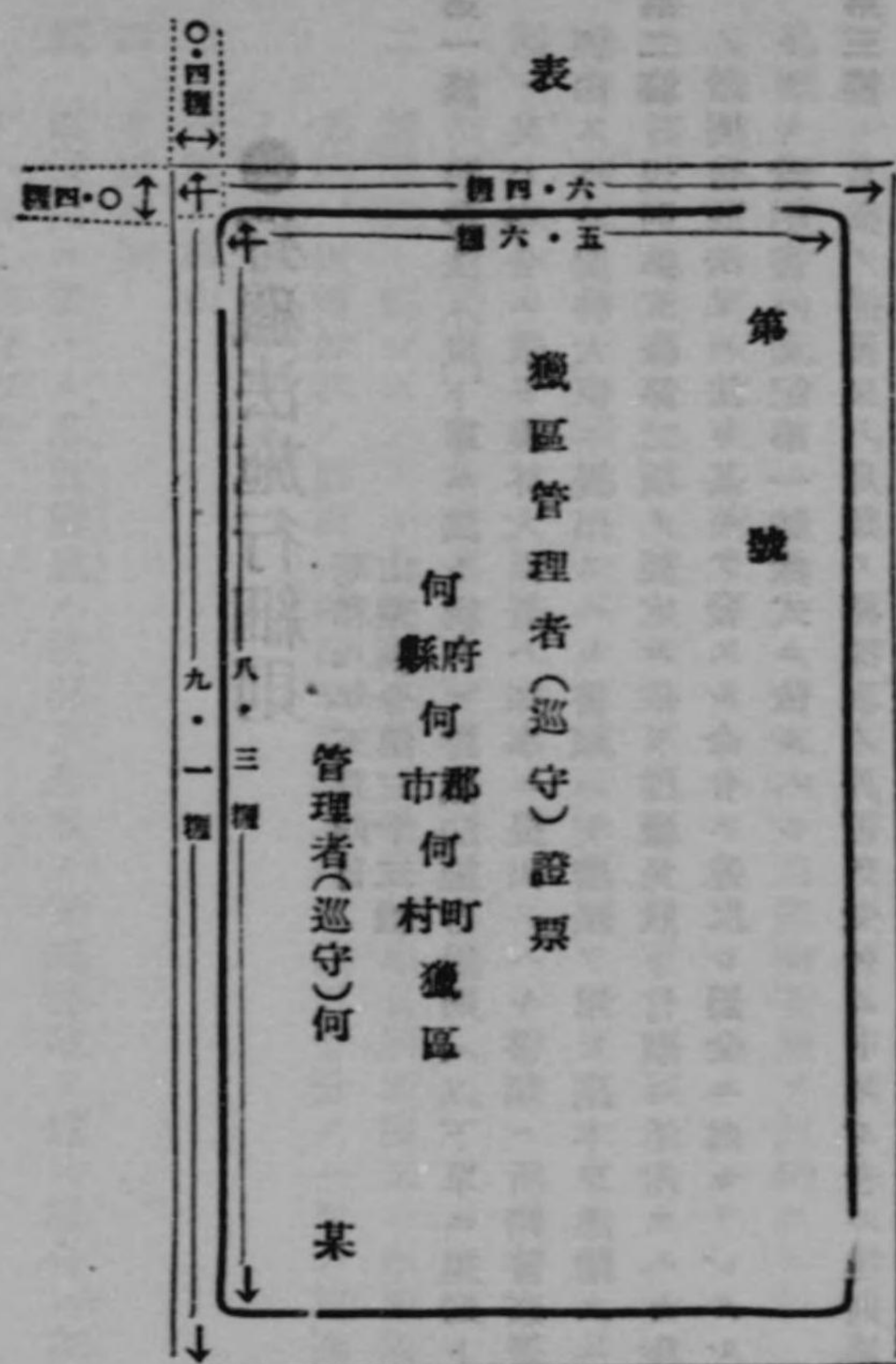


備考 禁獵區ノ制札ハ銃獵禁止區域制札ニ準ス
銃獵禁止區域制札ノ錐形

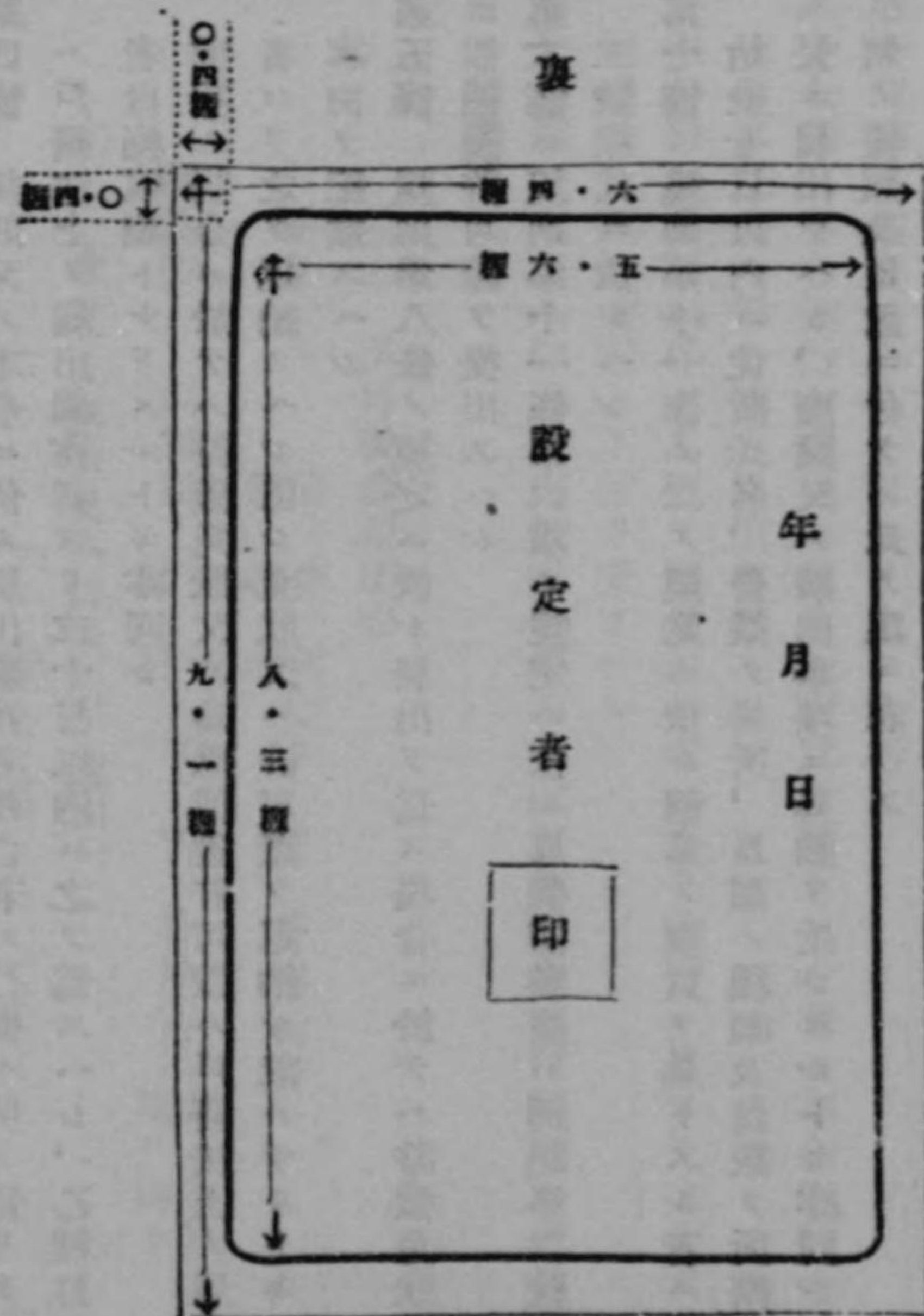


〔山梨管〕

獵區管理者(巡守)證票錐形



裏



●狩獵法施行細則

昭和八年五月四日
山梨縣令第三十三號

- 第一條 狩獵法（以下單ニ法ト稱ス）狩獵法施行規則（以下單ニ規則ト稱ス）又ハ本令ニ依リ農林大臣若ハ知事ニ提出スヘキ書類ハ所轄警察署ヲ經由スヘシ農林大臣ニ提出スヘキ書類ハ美濃紙ヲ用ヒ副本ヲ添付スヘシ
- 第二條 規則第五條第二項ノ規定ニ依リ狩獵免狀下付願ニ添付スヘキ稅額ノ證明書並法又ハ法ニ基キテ發スル命令ニ違反シ罰金ニ處セラレタルコトナキ證明書ハ別記第一號様式ニ依ルヘシ
- 第三條 鳥獸ノ捕獲又ハ鳥類ノ卵採取ノ許可ヲ受ケムトスル者ハ規則第七條ニ規定スル事項ノ外鳥獸ノ飼養ノ目的トスル者ニ在リテハ現在飼養鳥獸ノ種類別員數ヲ有害鳥獸ノ驅除ノ目的トスル者ニ在リテハ左ノ事項ヲ具スヘシ
 - 一 被害ノ狀況及其ノ地目別面積
 - 二 驅除用獵具ノ種類及其ノ使用方法
 - 三 銃器ヲ用フル場合ニ在リテハ其ノ事由及危險豫防方法
 - 四 驅除費及其ノ支出方法

〔山梨管〕

〔山梨管〕

- 一 職業、住所氏名及生年月日
- 二 讓渡又ハ讓受ノ理由
- 三 鳥獸（卵、雛）ノ種類及員數
- 第十一條 法第十二條第一項ノ規定ニ依リ飼養ノ目的ヲ以テ許可ヲ受ケ鳥獸ヲ捕獲シタルトキハ所轄警察署長ニ届出テ鳥獸飼養證ノ交付ヲ受ケヘシ讓受ケタルトキ亦同シ
- 鳥獸飼養證ノ交付ヲ受ケタル者之ヲ亡失、毀損又ハ記載事項ニ異動ヲ生シタルトキハ七日以内ニ其ノ再下付若ハ書換下付ヲ申請スヘシ
- 鳥獸ノ飼養ヲ廢止シタルトキハ七日以内ニ鳥獸飼養證ヲ返納スヘシ
- 鳥獸飼養證ハ當該官吏ノ請求アリタルトキハ之ヲ提示スヘシ
- 第十二條 土地所有者法第九條ニ依リ禁獵區ノ設置ヲ出願セムトスルトキハ左ノ事項ヲ具シ申請スヘシ其ノ區域若ハ期間ノ變更又ハ之カ廢止ヲ出願セムトスルトキ亦同シ
 - 一 出願者ノ職業、住所氏名及生年月日
 - 二 禁獵區ト爲サムトスル土地ノ名稱、地番、地目別面積又ハ水面所在名稱、面積並其ノ圖面（圖面ハ參謀本部二萬五千分ノ一又ハ五萬分ノ一ヲ用フルコト）
 - 三 設置ノ事由
 - 四 存續期間
 - 五 區域内ニ於ケル鳥獸棲息ノ狀況及鳥獸ノ保護蕃殖ヲ爲ス場合ニ在リテハ其ノ施設方法
- 第十三條 前條ノ規定ニ依リ禁獵區ヲ設置シタルトキハ所轄警察署ノ指示ヲ受ケ木標又ハ制札ヲ設ケヘシ
- 第十四條 規則第二十六條ニ定ムル獵區入獵規程ハ別記第五號様式ニ準スヘシ

- 五 被害地及驅除ヲ行フ場所ヲ表示シタル圖面
- 共同シテ驅除セムトスルトキハ連署シ、市町村又ハ農會、組合等ノ事業トシテ行フ場合ニ在リテハ其ノ委託ヲ受ケタルコトヲ證スル書面ヲ添付スヘシ

- 第四條 規則又ハ本令ニ依ル届出義務者死亡若ハ行衛不明ト爲リタルトキハ戶籍法上ノ届出義務者ヨリ三十日以内ニ之ヲ爲スヘシ、乙種狩獵免許者白痴瘋癲トナリタルトキ亦同シ
- 前項ノ場合ニ於テハ狩獵免狀又ハ鳥獸捕獲許可證ハ戶籍法上ノ届出義務者ヨリ之ヲ返納スヘシ但シ免狀又ハ許可證ヲ返納シ能ハサルトキハ其ノ事由ヲ記載スヘシ
- 第五條 規則第八條ノ規定ニ依ル届出ヲ爲ス場合ニ於テハ狩獵免狀又ハ鳥獸捕獲許可證ヲ提出スヘシ
- 第六條 規則第十一條第二項ノ規定ニ依ル鳥獸捕獲届ハ別記第二號又ハ第三號様式ニ依ルヘシ
- 第七條 規則第十一條ノ二ノ規定ニ依ル飼鳥ノ賣買ヲ業トスル者ハ營業開始後七日以内ニ住所氏名、營業ノ場所、鳥類ノ種類及員數ヲ所轄警察署長ニ届出ツヘシ、廢業又ハ届出事項ニ異動ヲ生シタルトキ亦同シ但シ鳥類ノ種類及員數ニ付テハ此ノ限ニ在ラス
- 第八條 前條ノ賣買業者ノ備付クヘキ受拂簿ハ別記第四號様式ニ依リ調製スヘシ
- 第九條 當該官吏必要アリト認ムルトキハ飼鳥、飼養ノ場所ニ臨檢シ帳簿飼鳥ノ檢査ヲ爲スコトアルヘシ
- 第十條 法第十三條但書ノ規定ニ依リ鳥獸又ハ鳥類ノ卵ヲ讓渡シ又ハ讓受ケムトスル者ハ左ノ事項ヲ具シ雙方連署ノ上所轄警察署長ニ届出ツヘシ
 - 一 第四條、第五條、第七條、第八條、第十一條、第十七條ノ規定ニ違反シタル者
 - 二 第九條ノ規定ニ依ル臨檢ヲ拒ミタル者
 - 三 第十一條第五項ノ規定ニ依ル提示ヲ拒ミタル者
 - 四 第十三條ノ規定ニ依ル指示ニ從ハサル者

- 第十五條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ科料ニ處ス
 - 一 第四條、第五條、第七條、第八條、第十一條、第十七條ノ規定ニ違反シタル者
 - 二 第九條ノ規定ニ依ル臨檢ヲ拒ミタル者
 - 三 第十一條第五項ノ規定ニ依ル提示ヲ拒ミタル者
 - 四 第十三條ノ規定ニ依ル指示ニ從ハサル者
- 附則
- 第十六條 本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス
- 第十七條 本令施行ノ際現ニ飼鳥ノ賣買ヲ業トスル者ハ本令施行ノ日ヨリ三十日以内ニ第七條ノ届出ヲ爲スヘシ
- 現ニ狩獵鳥獸以外ノ鳥獸ヲ飼養スル者ハ本令施行ノ日ヨリ三十日以内ニ届出テ鳥獸飼養證ノ下付ヲ受ケヘシ
- 第十八條 大正八年九月山梨縣令第四十三號狩獵法施行細則ハ之ヲ廢止ス
- 第一號様式

(一) 所得稅額證明書

本籍地	縣	市	町	大字	字	番地(戶)
現住所	山梨縣	郡	市	町	大字	字
身分	(戶主又ハ戶主トノ續柄)					
職	業					
氏	氏					
名	名					
生年月日	生年月日					

戶主ノ納ムル所得稅額	本人ノ納ムル所得稅額	摘要
金圓錢也(又ハ「ナシ」)	金圓錢也(又ハ「ナシ」)	

第四編 保安 第十章 狩獵及漁業

第一章 事務所ノ位置及獵區ノ區域

第一條 本獵區ハ事務所ヲ山梨縣 郡 村大字何字何々番地ニ置ク
(註) 巡守詰所ヲ置クトキハ其ノ位置ヲモ記載スルコト

山梨縣 郡 村一圓

第二章 本獵區ノ區域ハ

山梨縣 郡 村一圓但大字何字何々番地ヲ除ク
山梨縣 郡 村大字何字何々番地、何番地

トシ木標ヲ以テ分界シ制札及獵區案内圖ヲ建テ之ヲ表示ス

第二章 狩獵ニ關スル制限

第三條 本獵區ハ狩獵日ヲ狩獵期間中ノ毎日曜日(第何日曜日ヲ除ク)ニ
制限ス但シ已ムヲ得サル事情アルトキハ地方長官ノ認可ヲ受ケ臨時狩
獵日ヲ變更スルコトアルヘシ

前項但書ノ場合ニ於テハ少クトモ七日前ニ本獵區事務所ノ揭示板及何
新聞ニ之ヲ公告ス

第四條 本獵區ハ狩獵者ノ員數ヲ一日何人ニ制限ス

第五條 本獵區ハ狩獵者ニ對シ雌キジ及雌ヤマドリ又ハ何々ノ捕獲ヲ禁
止ス

第六條 本獵區ハ狩獵者ニ對シ其ノ捕獲シ得ヘキキジ、ヤマドリ又ハ何
々ノ員數ヲ一人一日ニ付合計何羽又ハ何頭ニ制限ス

第七條 本獵區ハ狩獵者ニ對シ獵具獵法ヲ左ノ如ク制限ス

- 一 何種獵具及何々ノ使用ヲ禁止ス
- 二 銃器ヲ口径十二番以下ノ單發及二連銃ニ制限ス

〔山梨縣〕

三 獵犬ノ使用ヲ一人何頭ニ制限ス

第八條 本獵區ハ狩獵者ニ對シ大字何字何(面積何百何十何町何段何畝
何歩)ニ於ケル鳥獸ノ捕獲ヲ禁止ス

前項ノ區域ハ木標ヲ以テ分界シ制札ヲ建テ之ヲ表示ス

狩獵者又ハ其ノ從者ハ第一項ノ區域ニ立入り若ハ其ノ區域ニ於ケル鳥
獸ヲ驅逐シ又ハ驅逐セシムルコトヲ得ス

第九條 本獵區ハ狩獵者ニ對シ豫備銃ノ携帶ヲ禁止シ隨伴シ得ヘキ從者
ノ員數ヲ一人ニ制限ス

第三章 入獵申込及入獵承認

第十條 本獵區ニ於テ狩獵セントスル者ハ狩獵日ヨリ五日前火曜日迄ニ
狩獵免狀寫ニ通信料金三錢(電信通知ヲ希望スル者ハ金三十錢)ヲ添ヘ
書面ヲ以テ本獵區事務所ニ申込ムヘシ

第十一條 前條ニ依リ申込者ノ員數第四條ノ制限ヲ超過シタルトキハ本
獵區管理者ハ狩獵日ヨリ四日前水曜日午前十時ニ本獵區事務所ニ於テ
獵區役員二名以上立會ノ上抽籤ヲ行ヒ狩獵者ヲ決定シ直ニ郵便(電信)
ヲ以テ申込者ニ狩獵ノ諾否(被承諾者ニハ入獵規程ヲ送付ス)ヲ通知ス

申込者ノ員數第四條ノ制限ヲ超過セサルトキハ直ニ申込者ヲ狩獵者ト
決定シ前項ノ規程ニ準シ申込者ニ通知ス

第十二條 前條ノ抽籤ハ方一尺ノ木製函ノ一側ニ直徑三寸ノ孔ヲ穿チタ
ルモノニ申込順ニ依リ番號ヲ記載シタル木片ヲ容レ管理者其ノ中ヨリ
一片宛何枚ヲ引出シ其ノ番號ニ該當スル申込者ヲ以テ狩獵者ト定ム

第十三條 狩獵申込者ハ本獵區管理者ニ申出テ抽籤ニ立會フコトヲ得

第十四條 本獵區ハ承認料ヲ一人一日金何圓トス

〔山梨縣〕

第十五條 狩獵法第十二條第一項ノ許可ヲ受ケタル者

本獵區ニ於テ鳥獸ヲ捕獲セントスルトキハ鳥獸捕獲許可證寫ニ通信料
ヲ添ヘ捕獲日ヲ指定シ且其ノ捕獲ノ目的ニシテ學術研究又ハ有害鳥獸
驅除ニ在ラサルモノニ在リテハ第十四條ノ承認料ヲ添ヘ本獵區事務所
ニ申込ミ入獵ノ承認ヲ受クヘシ

第十六條 第十一條ノ規程ニ依リ承諾ノ通知ヲ受ケタル者ハ狩獵日ノ前
日午後四時迄ニ承認料ヲ本獵區事務所ニ納付スヘシ

前項ノ納付ヲ爲ササルトキハ其ノ承認ヲ無効トス

第一項ノ規程ニ依リ納付シタル承認料ハ本獵區ニ於テ狩獵日ヲ變更シ
タル場合ノ外之ヲ返付セス

第四章 入獵及退獵

第十七條 前條ノ規程ニ依リ承認料ヲ納付シタル狩獵者ハ入獵當日又ハ
其ノ前日本獵區事務所ニ出頭シ狩獵免狀ヲ提示シタル上様式第一號ニ
依リ承認證、様式第二號ニ依リ入獵徽章及獵區案内圖ノ交付ヲ受クヘシ

第十五條ノ規程ニ依リ入獵承認ヲ受ケタル者ハ鳥獸ヲ捕獲セントスル
當日又ハ其ノ前日本獵區事務所ニ出頭シ鳥獸捕獲許可證ヲ提示シタル
上承認證並入獵徽章及獵區案内圖ノ交付ヲ受クヘシ

前二項ノ規程ニ依リ承認證ハ左ノ場合ニ於テハ之ヲ交付セス

- 一 入獵セントスル者承認證ノ名義人ニ非ラサルトキ
- 二 承認證ノ交付ヲ受ケントスル者ノ氏名ト狩獵免狀ノ氏名ト符合セ
サルトキ

第十八條 入獵者ハ入獵中狩獵免狀又ハ鳥獸捕獲許可證ノ外承認證ヲ携
帶スヘシ

第四編 保安 第十章 狩獵及漁業

入獵者本獵區管理者又ハ巡守ヨリ承認證ノ提示ヲ求メラレタルトキハ
之ヲ拒ムコトヲ得ス

第十九條 本獵區管理者及巡守ニハ様式第三號ニ依リ管理者證票又ハ巡
守證票ヲ携帶セシメ且様式第四號ニ依リ管理者徽章又ハ巡守徽章ヲ佩
用セシム

第二十條 本獵區ハ案内者(又ハ勢子)何名ヲ置キ入獵者ノ求メニ依リ
案内又ハ(獲物ノ狩立)ニ從事セシム

入獵者前項ノ案内者(又ハ勢子)ヲ要スルトキハ案内者(又ハ勢子)一
人一日ニ付案内料(又ハ勢子賃銀)金何圓ヲ添ヘ其ノ旨本獵區事務所ニ
申込ムヘシ

第一項ノ案内者(又ハ勢子)ニハ様式第五號ニ依リ案内者徽章(又ハ勢
子徽章)ヲ佩用セシム

第二十二條 本獵區ニ案内者(又ハ勢子)何名ヲ置キ第十五條又ハ第十
六條ノ規程ニ依リ承認料ヲ納付シタル入獵者ニハ一人ニ付一人ヲ(又
ハ何人ニ付何人ノ割合ヲ以テ)付シ無料ニテ入獵者ノ案内(又ハ獲物ノ
狩立)ニ從事セシム

前項以外ノ入獵者ニシテ本獵區管理者

(又ハ勢子)ヲ付スルノ必要アリト認メタルトキハ之ヲ付シ案内者(又
ハ勢子)一人一日ニ付案内料(又ハ勢子賃銀)金何圓ヲ納付セシム

前二項ノ案内者(又ハ勢子)ニハ様式第五號ニ依リ案内者徽章(又ハ勢
子徽章)ヲ佩用セシム

(註) 括弧内ノ第二十條ハ鳥獸保護、危險防止又ハ獵法上ノ必要等
特別ノ事由ニ依リ入獵者ニ對シ必ス案内者(又ハ勢子)ヲ付スルノ
必要アル獵區ニ於テハ一例ヲ示セルモノトス

- 第二十一條 入獵者從者ヲ同伴セントスルトキハ其ノ旨ヲ本獵區事務所ニ申出テ様式第六號ニ依ル從者徽章ヲ交付ヲ受クヘシ
 - 第二十二條 入獵中入獵者ハ入獵徽章ヲ從者ハ從者徽章ヲ左胸部ニ佩用スヘシ
 - 第二十三條 入獵者ハ獵區内ニ於テ濫リニ焚火ヲ爲シ又ハ農作物若ハ竹木等ヲ損傷スヘカラス
 - 第二十四條 承認證、入獵徽章又ハ從者徽章ヲ亡失シタルトキハ入獵者ハ直ニ本獵區事務所ニ届出テ其ノ再交付ヲ受クヘシ
 - 前項ノ徽章ヲ亡失シタル者ハ其ノ實費金何錢ヲ納付スヘシ
 - 第二十五條 入獵者退獵セントスルトキハ其ノ捕獲シタル鳥獸ノ種類別員數ヲ承認證ノ裏面相當欄ニ記入シ入獵徽章及從者徽章トトモニ本獵區事務所ニ返納スヘシ
- 第五章 違反者ニ對スル處置
- 第二十六條 本獵區内ニ於テ狩獵法令ニ違反シタル者ニ對シテハ直ニ退獵ヲ命シ且所轄警察署ニ届出ツルモノトス
 - 第二十七條 狩獵者第五條乃至第九條ノ制限ニ違反シタルトキハ直ニ退獵ヲ命シ左ノ區別ニ從ヒ過怠金ヲ徵收シ尙違反行爲ニ因リテ捕獲シタル鳥獸ヲ沒收ス
 - 一 第五條又ハ第六條ノ規程ニ違反シタルトキ一羽ニ付金參圓
 - 二 第七條又ハ第八條ノ規程ニ違反シタルトキ金拾圓
 - 三 第九條ノ規程ニ違反シタルトキ金五圓
 - 第二十八條 第十八條又ハ第二十二條若ハ第二十三條ノ規程ニ違反シタル者ハ直ニ退獵ヲ命スルコトアルヘシ
 - 第二十九條 第五條乃至第九條又ハ第二十五條ノ規程ニ違反シタル者ニ對シテハ次回ヨリ其ノ入獵ヲ拒絕スルコトアルヘシ

〔山梨警〕

〔山梨警〕

様式第一號

一入獵日 年 月 日 一狩獵免狀又ハ捕獲許可證ノ種類 山梨縣 郡 町獵區 設定者	第 號 承認證 山梨縣 郡 町何字何番地 何 某
---	-----------------------------------

百 耗

様式第二號



金屬製
エナメル塗
白地黒文字入
直徑三十五耗

様式第三號

第 號 獵區管理者(巡守)證票 山梨縣 郡 村獵區 管理者(巡守) 何 某	年 月 日 設定者
--	--------------

百 耗

裏

三耗
五耗

告報數員獸鳥獲捕				
種類	員數	種類	員數	
きじ	何			注意事項 一 入獵中ハ必ス本證ヲ携帯シ管理者又ハ巡守ノ求メニヨリ之ヲ提示スヘシ 一 入獵者ハ入獵中必ス入獵徽章ヲ佩用スヘシ 一 本證又ハ入獵徽章等ヲ亡失シタルトキハ本獵區事務所ニ届出其ノ再渡交付ヲ受クヘシ 一 狩獵ニ關スル制限 退獵ノ際ハ其ノ捕獲シタル鳥獸ノ種類別員數ヲ左記相當欄ニ記載シ.....
やまどり				
しぎ				
うづら				
はと				

様式第四號



金屬製
エナメル塗
赤地黒文字入
直徑三十五耗



金屬製
エナメル塗
白地黒文字入
直徑三十五耗



金屬製
エナメル塗
青地白文字入
直徑三十五耗

様式第五號

〔山梨縣〕

●狩獵法施行手續

昭和八年五月
山梨縣訓令乙第九二號

- 改正 昭和一〇年九月訓令乙第二二七號
- 第一條 本手續ニ於テ法ト稱スルハ狩獵法、規則ト稱スルハ狩獵法施行規則、細則ト稱スルハ狩獵法施行細則ヲ謂フ
 - 第二條 細則第一條ニ依リ經由スル書類ハ其ノ記載事項ノ適否ヲ調査ノ上意見ヲ附シ速ニ進達スベシ
 - 第三條 規則第四條ノ規定ニ依ル獵具以外ノ方法ヲ以テスル狩獵鳥獸ノ捕獲ヲ禁止又ハ制限スルノ必要アリト認ムルトキハ左ノ事項ヲ具申スベシ
 - 一 獵具及獵法
 - 二 鳥獸ノ名稱、區域及期間
 - 三 禁止又ハ制限ヲ必要ト認ムル事由ノ詳細
 - 第四條 鳥獸保護蕃殖ノ爲又ハ危險豫防其ノ他ノ事由ニ依リ禁獵區又ハ銃獵禁止區域ヲ設クル必要アリト認ムルトキハ左ノ事項ヲ具申スベシ、廢止、變更ノ場合亦同シ
 - 一 設置ノ事由
 - 二 區域及期間
 - 第五條 狩獵免許ヲ出願シタル者ニシテ其ノ甲種ニ在リテハ法第六條乙種ニ在リテハ法第六條及第七條第一項ノ規定ニ牴觸セザルトキニ限リ法第八條第一項、規則第五條及細則第二條ノ規定スル事項ヲ調査シ支障ナキトキハ免狀ヲ下付スベシ
 - 第六條 法第八條第一項ノ規定ニ依リ狩獵免許稅ノ納付額ハ左ノ標準ニ依リ決定スベシ

●きじ及やまどりノ捕獲禁止ノ件

昭和八年五月四日
山梨縣令第三十四號

狩獵法第四條ニ依リ獵槍使用ニ依ルきじ及やまどりノ捕獲ハ之ヲ禁止ス之ニ違反シタル者ハ科料ニ處ス

附則
本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

様式第六號



同上



金屬製
エナメル塗
黄地白文字入
直徑三十五耗

〔山梨縣〕

- 一 戶主カ所得稅ヲ納メ其ノ家族之ヲ納メザル場合ニ於テハ家族ノ納ムベキ免稅額ハ戶主ノ納稅額ニ依ル
- 二 戶主並家族カ所得稅ヲ納ムル場合ニシテ家族ノ納稅額ガ戶主ノ納稅額ヨリ少ナキトキハ家族ノ納ムベキ免稅額ハ戶主ノ納稅額ニ依ルベク又家族ノ納稅額ガ戶主ノ納稅額ヨリ多キトキハ戶主ノ納ムベキ免稅額ハ戶主ノ納稅額ニ依リ家族ノ納ムベキ免稅額ハ其ノ納稅額ニ依ル
- 第七條 別記第一號様式ノ狩獵免狀下付臺帳ヲ調製シ免狀ノ下付順ニ登録契印スベシ
- 前項ノ契印ハ昭和八年度分ヨリ紫朱ノ順序ニ逐年更改スベシ
- 第八條 狩獵免狀ノ番號ハ前條ノ登錄順ニ記入シ且ツ上部ニ日下部署ハ「日下」日野春署ハ「日野」其ノ他ハ署名ノ頭字ヲ冠スベシ
- 前項ノ番號ハ壹、貳、參ノ數字ヲ用フベシ
- 第九條 狩獵免狀ノ再下付又ハ書換下付ノ申請ヲ請ケタルトキハ其ノ事由ヲ詳查シ支障ナキトキハ再下付又ハ書換下付スベシ
- 前項ノ場合ニハ狩獵免狀下付臺帳ニ「再」又ハ「書換」ト朱書シ署長認印ノ上下付スベシ
- 貼付セル收入印紙ノ取扱ハ第五條第二項ニ準ズベシ
- 第十條 狩獵免狀ヲ書損シタルトキハ之ヲ抹消シ署長認印ノ上直ニ之ヲ返戻スベシ
- 第十一條 規則第八條第一項ノ届出アリタルトキハ狩獵免狀下付臺帳並狩獵免狀又ハ鳥獸捕獲許可證ヲ訂正シ免狀又ハ許可證ニハ署名印ヲ押捺スベシ
- 鳥獸捕獲許可證ヲ訂正シタルトキハ其ノ旨速ニ報告スベシ
- 第一項ノ届出アリタルトキハ其ノ住所變更ガ他ノ警察署ニ關係アルトキハ

直ニ通報スベシ

第十二條 狩獵免狀又ハ鳥獸捕獲許可證ノ亡失届ヲ受理シタルトキハ其事由ヲ詳查シ速ニ左ノ事項ヲ報告スベシ

- 一 免狀ノ種類、等級、番號及下付年月日
- 二 許可證ノ番號
- 三 亡失ノ狀況
- 四 身分、職業、住所氏名及生年月日

狩獵免狀亡失ノ場合ニハ狩獵免狀下付臺帳ニ其ノ事由及年月日ヲ記入スベシ

第十三條 狩獵免狀ノ返納アリタルトキハ狩獵免狀下付臺帳ニ返納ノ年月日ヲ記載シ免狀ハ之ヲ燒棄スベシ

第十四條 狩獵免狀又ハ法第十二條第一項ノ許可ヲ取消スベキ必要アリト認メタルトキハ左ノ事項ヲ調査ノ上具申スベシ

- 一 免狀ノ種類、等級、番號及下付年月日
 - 二 許可證ノ番號
 - 三 免狀又ハ許可ヲ受ケタル者ノ身分、職業、氏名、住所及生年月日
 - 四 取消ヲ要スル事由
- 乙種狩獵免狀又ハ法第十二條第一項ノ許可ヲ受ケ銃器ヲ使用スル者白痴又ハ瘋癲トナリタルトキハ前項ノ外醫師ノ診斷書ヲ添付スベシ

件名	調査期間	報告期限	様式	又ハ	調査事項
狩獵免狀下付報告	自前年四月十六日	四月二十日	別記第五號様式		
狩獵免許者ニ依ル鳥獸捕獲數報告	自前年四月十五日	五月二十日	別記第六號様式(一)及(二)		
狩獵法令違反事件調	自前年四月十五日	五月十五日現在ヲ以テ五月二十日迄	別記第七號様式(一)		

〔山梨管〕

〔山梨管〕

第十五條 別記第二號様式ニ依ル狩獵免狀受拂簿ヲ調製シ受拂ノ都度記入スベシ

當該年度ニ剩餘ヲ生ジタル免狀ハ次年度ニ繰越之ヲ使用スベシ

第十六條 細則第十一條第一項ノ規定ニ依ル鳥獸飼養證ハ別記第三號様式ニ依ルベシ

第十七條 別記第四號様式ニ依ル鳥獸飼育者臺帳ヲ調製シ規則第十一條第二項ノ届出又ハ細則第十條ノ許可ヲ爲シタルトキハ登錄契印スベシ

鳥獸飼養證ノ再下付又ハ書換下付ノ申請ヲ請ケタルトキハ第九條ノ規定ニ準ズベシ

下付シタル鳥獸飼養證其ノ記載欄餘白ナキニ至リタルトキハ更ニ追加下付シ「第 號ノ二」第 號ノ三」如ク番號ヲ附スベシ

第十八條 規則第三十四條第一項ノ規定ニ依ル命令又ハ處分ノ必要アリト認ムルトキハ其事由ヲ具シ報告スベシ

第十九條 禁獵區又ハ銃獵禁止區域ノ木標制札ニシテ亡失、毀損又ハ腐朽シ文字不明ニ至リタルトキハ其ノ建設地ノ略圖及本數ヲ速ニ報告スベシ

出願ニ依ル禁獵區及獵區ノ木標又ハ制札ニシテ前項ニ該當スルトキハ出願者又ハ管理者ヲシテ速ニ新設又ハ補修ヲ爲サシムベシ

第二十條 左ノ定期報告ハ遲滞ナク之ヲ爲スベシ

第二十一條 狩獵法令違反又ハ獵銃ニ依ル事故發生ノ場合ハ左ノ事項ヲ速ニ報告スベシ

- 一 犯罪ノ日時及場所
- 二 被疑者ノ住所、職業、氏名、生年月日
- 三 犯罪ノ事實
- 四 處 理
- 獵銃ニ依ル事故發生ノ場合
- 一 事故發生ノ日時
- 二 事故發生ノ場所
- 三 加害者ノ住所、職業、氏名、生年月日
- 四 被害者ノ住所、職業、氏名、生年月日
- 五 銃器ノ種類
- 六 事故ノ顛末
- 七 處 理

附 則

第二十二條 大正八年十月訓令乙第一九三號狩獵法施行手續ハ之ヲ廢止ス

第一號様式

免狀番號種類	等級	免狀下付年月日	免狀返納年月日	納稅額	住所身分職業氏名	生年月日
備考						
備考						
備考						

注意 文鳥、カナリヤ等ノ洋禽類ハ含マサルモノトス
 第九號様式 鳥類賣買業者ニ依ル鳥類異動報告 (自 年 月 日 至 年 月 日)

鳥類ノ種別	譲受數	譲渡數	其ノ他ノ異動		月末現在高
			員數		
住所氏名					署名

備考 一、右表ハ其ノ署管内飼鳥賣買業者毎ニ作製シ報告スルコト
 二、表中住所氏名ハ其ノ賣買業者ヲ記載スルコト
 三、表中其ノ他ノ異動ノ事由欄ニハ孵化、逃逸、盜難、放翔、外敵被害、斃死等譲受、譲渡以外ノ原因ニ依リ員數ニ異動ヲ生シタル場合記載スルコト

●狩獵法施行規則第十一條ノ三ニ依ル鳥獸竝獵具ノ地方名稱

昭和八年五月 山梨縣告示第百六十二號
 一、狩獵法施行規則第一條ニ依ル鳥類地方名稱

鳥類ノ學名	地方名稱(方言)
こゝろさぎ	えぼ、いしらさぎ、こゝろ、いぶ
くまたか	まぐそたか、わしたか
はやぶさ	まぐそだか、せつとうだか
やまどり	やまんどり

〔山梨管〕

たぬき	むちな、たのき
むささび	ばんどり、ももんが、ももんがあ
りす	きねすみ、くりねすみ

三、狩獵法施行規則第十一條ノ二ニ依ル鳥類地方名稱

まがも	あなくび、ほんがも
こがも	すいてう
むなぐろ	ばかしぎ
しぎ	しげ
つぐみ	ちようま、ちようまん
あとり	はなどり
かはらひわ	あわす
うそ	ことひき
にふないすずめ	よしはらすずめ、むらすずめ、やますずめ
ほほじろ	せつとう、せつつ
みやまほほじろ	やますずめ、やませつとう
あなをじ	あなせつとう
しめ	まめばたき

二、狩獵法施行規則第二條ニ依ル獸類地方名稱

鳥類ノ學名	地方名稱(方言)
をしどり	をしがも、をし
くわくこ	むしほみ、かんこどり
ほととぎす	ほうちよきつちよ
かはせみ	しょうびん
かみづく	ほらづつこ、づく
みくろ	ころつちよう、ぼうづつこ、ころつち
ふくろ	けらつつき、おしげら、けら
きつつき	つつんどう、せきれん、いしたたき、つつ
せきれい	つんどり
びんすい	びんどろりん
たひばり	つちひばり
ひたき	もんつき、だんごしよい、はかつちよう、かやもぐり、はかびたき
とらつぐみ	とらつぐ

〔山梨管〕

くるつぐみ	はらじろ、くろつちよ、くろつぐ、くつ
こまどり	こま
よしきり	がちやく
うぐゑす	うむゑす
きくいただき	ていこしよい
みそさざい	みそつちよう、さざい
も	むづきち、もすたか
こじふから	まつむし
え	まつむし、えなが
ほしがらす	やまがらす
むくどり	もくどり、むく

四、其ノ他ノ獸類地方名稱

獸類ノ學名	地方名稱(方言)
さ	えて、えてんぼう、やえんぼう、だるまやえん、えてこう
かもしか	いわしか、あわしか
かばなそ	かばうそ、かばうす

(山梨管)

五、狩獵法施行規則第四條ニ依ル獵具ノ地方名稱

獵具ノ學名	地方名稱(方言)
罽	ひきつな
霰	ひるてん
括	なぐびつちよう、ひつくり、くくり、わんな
箱	はかをつそ、ちこく、かられこ
壓	をつそ、はじき、もつをつそ、はつた
虎	挟
	はさみ

●狩獵法施行ニ關スル件

大正八年九月 農第一〇四〇三號

狩獵法施行ニ付テハ左ノ通り心得ヘシ
 一 狩獵法第八條ノ適用方ニ付テハ左ノ如ク取扱フヘシ
 イ 戸主カ所得稅ヲ納メ其ノ家族之ヲ納メサル場合ニ於テハ家族ノ納ムヘキ免稅稅ハ戸主ノ納稅額ニ依ル
 ロ 戸主並家族カ所得稅ヲ納ムル場合ニシテ家族ノ納稅額カ戸主ノ納稅額ヨリ少ナキトキハ家族ノ納ムヘキ免稅稅ハ戸主ノ納稅額ニ依ルヘ
 ハ 家族ノ納稅額カ戸主ノ納稅額ヨリ多キトキハ戸主ノ納ムヘキ免稅稅ハ戸主ノ納稅額ニ依リ家族ノ納ムヘキ免稅稅ハ其ノ納稅額ニ依ル
 二 御獵場、御料林野、御料牧場、國有林野其ノ他國ノ管理スル土地ニ於

テ有害鳥獸ノ驅除ヲ必要ト認ムルトキハ當該管理官廳ハ所屬公務員ニ狩獵法施行規則第七條ニ依ル鳥獸捕獲許可證ニ準シタル證票ヲ交付シ其ノ旨關係地方官ニ通牒スヘク右證票ハ地方長官ノ下付スヘキ許可證ニ代ルモノトス
 三 狩獵免狀又ハ鳥獸捕獲許可證ヲ下付シタルトキハ第一號及第二號様式ニ依リ前年四月十六日ヨリ其ノ年月日十五日迄ニ於ケル報告書ヲ調製シ毎年五月末日迄ニ之ヲ差出スヘシ
 四 禁獵區及銃獵禁止區域ヲ設ケタルトキハ遲滞ナク其ノ理由區域及存續期間ヲ報告スヘシ禁獵區及銃獵禁止區域ヲ廢止シ又ハ變更シタルトキ亦同シ
 五 禁獵區内ニ於ケル前年九月十五日ヨリ其ノ年九月十四日迄ノ鳥獸蕃殖ノ狀況其ノ他ノ成績ヲ毎年九月末日迄ニ報告スヘシ
 六 狩獵法施行規則第二十五條ニ依ル獵區設定認可願並獵區ノ區域及位置ヲ示ス圖面ハ別記第三號及第四號様式ニ準セシムヘシ

(山梨管)

(第一號様式)

何年度狩獵免狀鳥獸捕獲許可下付報告書 廳府縣

免取狀數	甲種			乙種				
	一等	二等	三等	計	一等	二等	三等	計
受取狀數								
下付狀數								
再免狀數								
免狀殘數								

(第二號様式)

何年度鳥獸捕獲報告書 廳府縣

免許稅	備考	飼養	有害鳥獸驅除
許可證			
下付狀數			
備考			

(第三號様式)

獵區設定認可願 廳府縣

捕獲又ハ採取ノ目的	鳥獸又ハ卵ノ種類	員數
備考		

獵區設定認可願

- 獵區ノ名稱 何府(縣)何郡(市)何町(村)獵區
- 事務所ノ位置 何府(縣)何郡(市)何町(村)大字何々字何番地
- 獵區ノ區域 何府(縣)何郡(市)何町(村)及何町(村)ノ一部

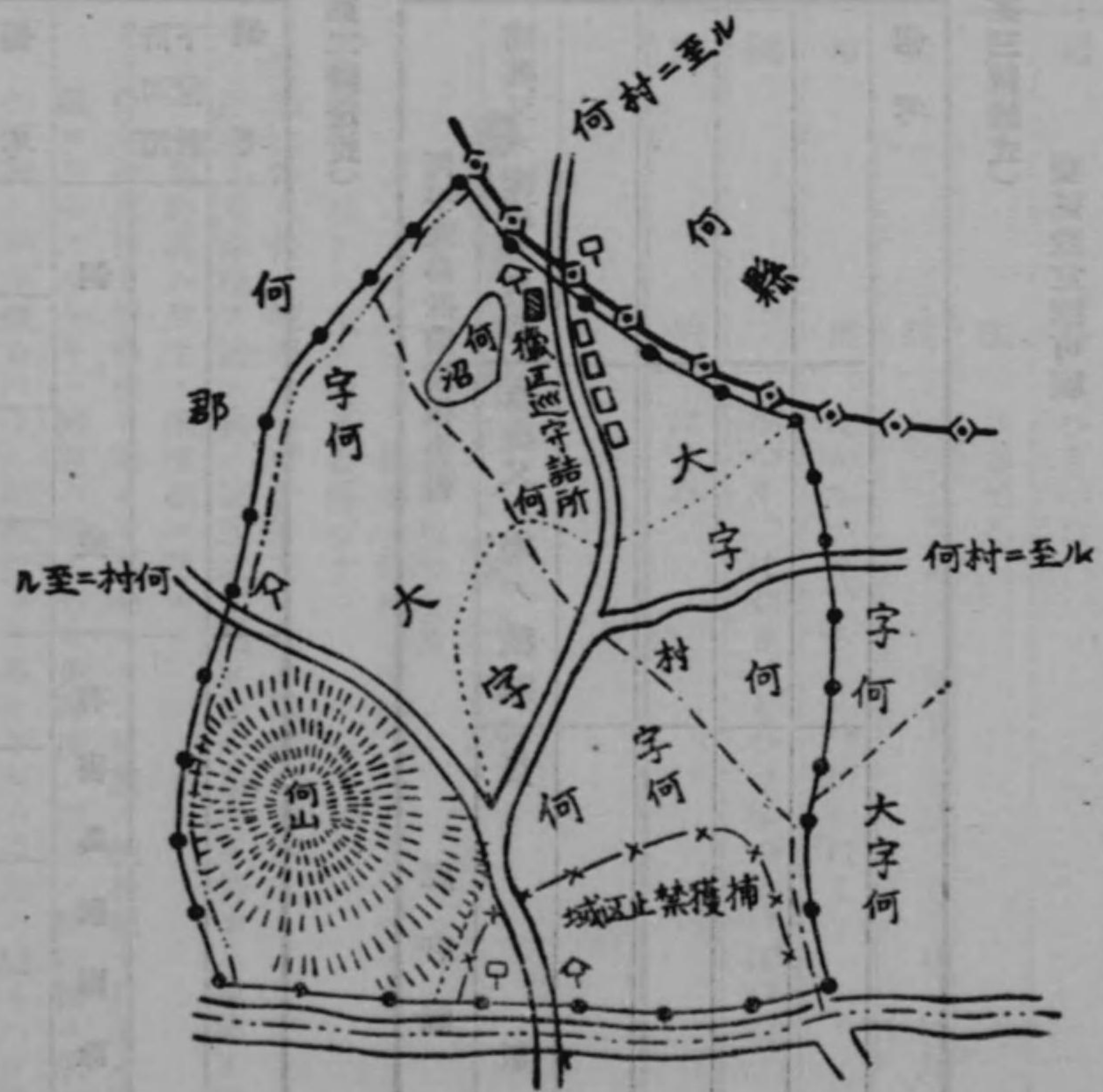
四 獵區ノ面積 山林 何町何段何畝何歩
原野 同
田 同
畑 同
池沼 同
計 同

五 獵區存續期間 自何年何月何日 至何年何月何日
六 狩獵法施行規則 第三十二條ノ承 一人一日 何圓
七 狩獵日ヲ制限セントストキハ其方法及日數狩獵者ノ員數ヲ制限セ
ントストキハ其方法
八 鳥獸ノ保護蕃殖ニ關スル方法
九 獵區内ニ於ケル鳥獸棲息ノ狀況
前記ノ通獵區設定致度候ニ付テハ御認可相成度狩獵法施行規則第二十五
條第二項規定ノ書類相添ヘ此段相願候也

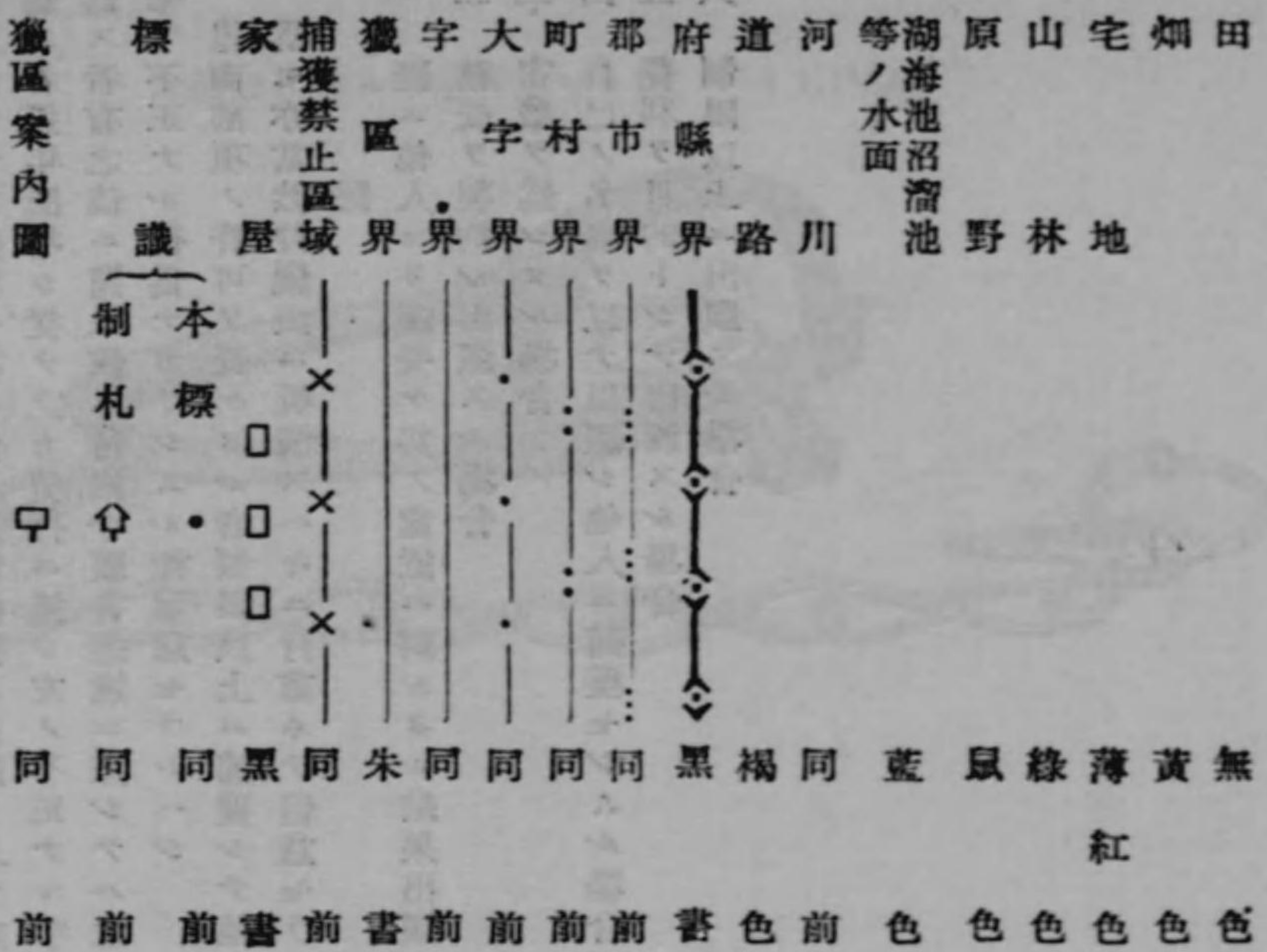
年 月 日 何府(縣)何郡(市)何町(村)長 何 某印
農商務大臣宛

〔山梨管〕

〔第四號様式〕



凡 例



備考
圖面ニハ周圍ノ間數及府縣郡市町村名ヲ記入スヘシ

〔山梨管〕

● 外國皇族狩獵ニ關スル件

明治三十七年二月 農第一一八六八號
外國皇族ニ於テ狩獵相成候節ハ明治二十五年十月内訓丙第三七九號ノ通心得ヘシ

● 帝國駐在外國使臣ノ狩獵免許ニ關スル件

大正八年十月 農第一一八六八號
帝國ニ駐在スル外國大使、公使、領事館及其ノ隨附屬ノ外國官吏ハ一般外國人ト同シク免許稅ヲ納付シテ狩獵免狀ヲ受ケヘキモノトシテ取扱フヘシ

● 有害鳥獸驅除ニ關スル件

大正九年十月 農第一三六九六號
有害鳥獸驅除ハ往々必要以外ノモノニ付テモ許可セラル、傾アリ爾今左記二十種ノ範圍内ニ於テ個々ノ場合適當ノ種類ノミ許可相成度前記以外ノ鳥獸ニ關シテハ其都度本省ニ照會ノ上許可相成度此段及通牒候也

- 左記
- 花鳥 雁鳥 河原鶺 輕鴨 鴉 雉 五位鶯
 - 雀 鳩 鷓 鴨 金翅雀 鷓雉
 - 熊 猪 兔 鼯鼠 栗鼠 土龍鼠 野鼠

● 皇族遊獵ノ件

明治三十五年二月 丙第三七九號
皇族ニ於テ御遊獵相成候節ハ狩獵規則遵守相成ハ勿論ニ有之候ヘトモ右ハ免狀御携帶ニ及ハサル義ニ付別段狩獵免狀交付不相成候御出獵ノ際不都合無之様取扱フヘシ

● 非狩獵鳥捕獲出願ニ關スル件

昭和七年九月
保發第二六四號

狩獵法第十二條第一項ニ依リ愛護飼養ノ目的ヲ以テ非狩獵鳥捕獲ノ出願ヲ爲ス者近年激増シ從テ之カ流行ニ連レ左ノ不正ナル手段方法ヲ以テ願出ヲ爲ス者有之哉ニ聞及候ニ付爾今願書通達ニ際シテハ之カ調査ノ完壁ヲ期シ毫モ不正ナル行爲ナカラシムル様留意セラレヘシ
追而前項ノ許可ヲ受ケタル者制限以上ニ捕獲シテ他人ニ分與スル等ノ行爲モ亦當然狩獵法ニ抵觸スヘキニ付重ネテ留意セラレ度申添候

記

- 一 既ニ他人ヨリ讓受ケ其ノ處置ニ窮シタル結果出願ヲ爲ス場合
- 二 讓受ヲ契約シ出願スル場合
- 三 密獵ヲ爲シタル場合
- 四 自己ノ名義ヲ以テ出願シ他人ニ捕獲セシムル場合
- 五 營利ヲ目的トシテ出願スル場合
- 六 制限以上ニ出願スル場合

● 狩獵補助者ノ取締ニ關スル件

昭和七年九月
保發第二六五號

銃器以外ノ獵具ヲ以テスル狩獵ニ關シ其ノ獵具ノ效力ヲ全カラシムル爲メ狩獵者ノ補助行爲ヲ爲ス者ニ對シテハ從來取締向一定セサル哉ノ聞エ有之候處右ハ農林省ニ於テ開催セラレタル地方狩獵主任官會議ニ於ケル決議ノ次第モ有之候ニ付爾今左記各號ニ依リ取締向留意セラレヘシ

記

- 一 主務大臣ノ定ムル獵具ノ效力ヲ全カラシムル目的ヲ以テ之ヲ使用又ハ裝置シ(運搬ヲ除ク)鳥獸ヲ捕獲スルモノ等ノ補助者ニ對シテハ總テ狩獵免許又ハ狩獵法第十二條第一項ノ許可ヲ受ケシムルコト
- 二 狩獵補助者中單ニ鳥獸ヲ返出スモノ所謂勢子ニ在リテハ主務大臣ノ定ムル獵具ヲ使用スルコトナク且ツ直接捕獲行爲ヲ爲ササル限リ狩獵免許又ハ狩獵法第十二條第一項ノ許可ヲ要セス

● 危險ナル罟ノ取締ニ關スル件

昭和七年九月
保發第二八八號

米國製捕獸器並之ニ類スル虎挾使用ニ對シテハ夫々嚴重御取締中ノコトトハ存シ候ヘトモ近年當該罟ニ依リ狩獵從事者相當有之哉ニ聞及候處右ハ開キタル罟ノ直徑四吋「約三寸五分弱」以下ノ「ビクタートラップ」及四吋四分ノ三「約四寸以下」ノ「ジャンプトラップ」即チ兩式(別紙參照)共ニ零號及壹號ヲ除クノ外ハ狩獵法第十五條ノ危險ナル罟トシテ取締ヲ要スル義ニ付留意セラレヘシ

A型ビクター トラップノ圖 0.1.1¹/₂號



B型ビクター トラップノ圖 2.3.4號

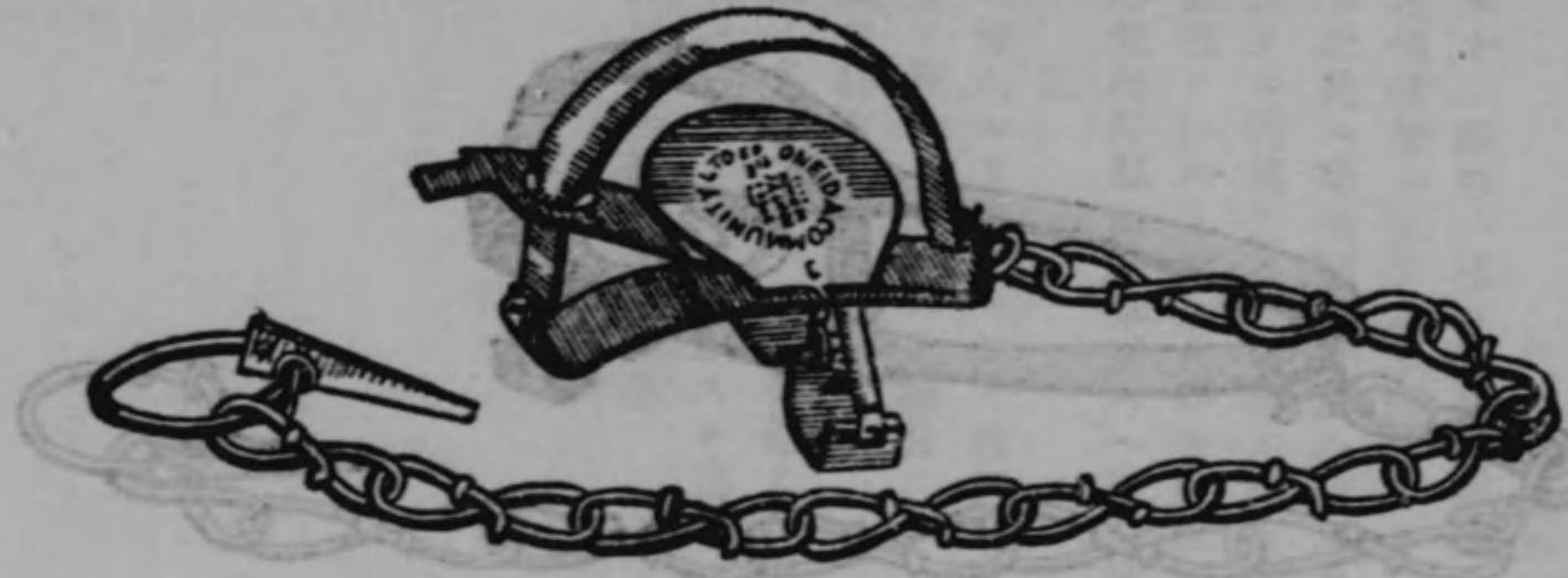


〔山梨警〕

ビクタートラップ

種類	零號	壹號	壹號 1/2	貳號
開キタル罟ノ直徑	3 1/2 吋	4 吋	4 5/8 吋	4 5/8 吋
全長	1 1/2 吋	1 3/4 吋	2 1/8 吋	2 1/8 吋
鎖ノ長サ	6 1/2 吋	18 1/2 吋	19 3/4 吋	19 5/4 吋
一打ノ重量	5 ポンド	7 1/2 ポンド	11 1/2 ポンド	13 1/4 ポンド

ジャンプトラップノ圖 A型0.1.1½號



ジャンプトラップノ圖 B型 2號



ジャンプトラップ

種類	零號	壹號	壹號 1/2	貳號
開キタル直径	4 吋	4 3/4 吋	5 1/4 吋	5 3/4 吋
皿ノ大サ	1 1/2 吋	2 1/8 吋	2 1/4 吋	2 3/4 吋
全長	5 1/4 吋	5 7/8 吋	6 1/2 吋	7 3/4 吋
鎖ノ長サ	16 1/2 吋	18 1/2 吋	19 3/4 吋	20 1/4 吋
一打ノ重量	5 1/2 ボンド	8 ボンド	9 1/2 ボンド	14 ボンド

〔山梨警〕

〔山梨警〕

●禁獵區

昭和八年十一月三十日
山梨縣告示第四百四十四號

禁獵區ノ名稱
塩山禁獵區

東山梨郡塩山町上於會塩山鎮泉地ヨリ向嶽寺ニ通スル横
手路、同寺境内ヨリ松里村ニ通スル山ノ越道及松里村ヨ
リ塩山鎮泉地ニ通スル塩山裏山道ヲ以テ圍メル一圍地
自昭和八年十二月一日
至昭和十八年十一月三十日

存續期間

昭和九年十月十三日
農林省告示第三百七十七號

禁獵區ノ名稱
富士山禁獵區

山梨縣南都留郡福地村地内國道八號線ト縣道御殿場吉田
線トノ交點ヲ基點トシ之ヨリ同縣道ニ依リ同縣道ヨリ縣
道吉田口登山道トノ交點ニ達シ之ヨリ同縣道ニ依リ大石
茶屋前ニ至リ之ヨリ林道兼用防火線ニ依リ同防火線ト同
郡中野村山中部落ヨリ發シ小富士ヲ經富士山頂ニ通スル
山道(小富士道)トノ交點ニ達シ之ヨリ同山道ニ依リ同山
道ト縣道御殿場吉田線トノ交點ニ達シ之ヨリ同縣道ニ依
リ同郡中野村地内籠坂峠ヲ經靜岡縣駿東郡須走村地ニ至
リ同縣道ト縣道東口登山道トノ交點ニ達シ之ヨリ同縣道
ニ依リ同村字凹凸山四八一番ノ三ノ地先ニ至リ同縣道ト
大日堂參道トノ交點ニ達シ之ヨリ同參道ニ依リ同村同字
四八一番ノ三ノ地先ニ至リ同參道ト須走村林道トノ交
點ニ達シ之ヨリ同林道ニ依リ同林道ト縣道御殿場吉田線
トノ交點ニ達シ之ヨリ同縣道ニ依リ同村字一ノ澤四七三

禁獵區ノ名稱

存續期間

番ノ一ノ地先ニ至リ同縣道ト同縣道ヨリ分岐シ縣道御殿
場口登山道ニ通スル軍用道路トノ交點ニ達シ之ヨリ同軍
用道路ニ依リ同道路ト縣道御殿場口登山道トノ交點ニ達
シ之ヨリ同縣道ニ依リ富士山頂ニ至リ之ヨリ縣界ニ依リ
西方靜岡縣富士郡上井出村大字上井出富士山第五御料地
境界線ニ達シ之ヨリ同境界線ヲ左方ニ廻リ同境界線ト縣
界トノ交點ニ達シ之ヨリ同縣界ニ依リ縣界ト同郡同村根
原部落ヲ經山梨縣西八代郡古關村ニ通スル山道トノ交
點ニ達シ之ヨリ同山道ニ依リ佛峠ニ達シ之ヨリ本栖湖ニ
沿ヒタル嶺道道路ニ依リ中倉峠根子峠ヲ經精進湖畔ニ至
リ同道路ト大正道路トノ交點ニ達シ之ヨリ同道路ニ依リ
同道路ト南都留郡西湖村根場部落ヨリ同郡長濱村ニ通ス
ル村道トノ交點ニ達シ之ヨリ同村道ニ依リ同村長濱部落
ニ至リ同村道ト同村ヨリ河口湖畔ニ沿ヒ同郡大石村大石
部落ニ通スル小徑トノ交點ニ達シ之ヨリ小徑ニ依リ同小
徑ト同村ヨリ同郡河口村河口部落ニ通スル村道トノ交點
ニ達シ之ヨリ同村道ニ依リ河口湖畔長岬ニ達シ之ヨリ同
湖岸ニ依リ同湖畔産屋ヶ岬ニ達シ之ヨリ國道第八號線ニ
依リ基點ニ至ル線ニ圍メタル一圍ノ地域但シ獵區ノ區
域ヲ除ク
自昭和九年十月十五日
至昭和十九年十月十四日

昭和十年三月十四日
山梨縣告示第三百三十四號
玉宮禁獵區

第四編 保安 第十章 狩獵及漁業

禁獵區ノ區域 東山梨郡玉宮村大字平澤小子竹森入恩賜縣有財產一團
存續期間 自昭和十年三月十四日
至昭和二十年三月十三日

昭和十一年十月二十二日
山梨縣告示第五百九十二號

禁獵區ノ名稱 南巨摩郡身延町字舟久保、字寺平、字御塔林、字東谷、
字西谷、字南谷、字町方、字上ノ山、字丸尾山、字洗足、
字鷹取山、字七面山
存續期間 自昭和十一年十月二十五日
至昭和二十一年十月二十四日

昭和十一年十月二十五日
山梨縣告示第六十五號

禁獵區ノ名稱 市川禁獵區
禁獵區ノ區域 西八代郡市川大門町字宮東西北隅地點ヲ起點トシ之ヨリ
道路ニ沿ヒ南方印澤川ニ達シ同川ノ左岸ヲ下行シテ字前
山地内熊野神社西側ニ於テ山道ニ移行シ招待山北端ニ至
リ之ヨリ字カベラザラ及峠西ヲ横切リ間道ヲ經テ帶那峠
ニ出テ山保村ト市川大門町トノ境界線ヲ東へ上リ山保村
ノ内字獵師、海日向、海日向野瀬、大明神、尻屋根、海
尻、上ノ林ノ七字ヲ包含シ大島山嶺東下方地點ヨリ縣
有恩賜林終ニ沿ヒ芦川ニ達シ同川左岸ヲ市川大門町字上
原四、四九一番地々點迄下リ谷川ニ沿ヒテ塩澤温泉裏ニ
出テ字御屋敷、西平塩、羽場、西羽場ノ各北方字界(小
溝)ヲ經テ起點へ廻歸スル線ヲ以テ圍メ一團ノ地域但

〔山梨管〕
自昭和十一年十月二十五日
至昭和二十一年十月二十四日

シ市川大門町地内五、一五四番地及五、二六七番地、
五、七一一番地、七、一八九番地、高田村地内一、〇二
五番地、一、〇二六番地、山保村地内三、四七〇番地、
三、六〇七番地、三、六二〇番地ハ之ヲ除ク
存續期間 自昭和十三年三月三十日
至昭和十三年三月二十九日

昭和十一年十一月二十六日
山梨縣告示第六百四十六號

禁獵區ノ名稱 清春、篠尾禁獵區
禁獵區ノ區域 北巨摩郡清春村一團及清春、篠尾兩村ノ境界線ニ府縣道小
淵澤甲府線ノ會合スル地點ヨリ本道路ヲ西行シ篠尾村原
村部落ニ至リ之ヨリ里道ニ依リテ同村松向部落ヲ經テ清
春村中島部落ニ達スル中間ニ於テ再ヒ篠尾、清春村界線
ニ會合スル線ヲ以テ圍メ篠尾村地内ノ一部ヲ含ム一團
ノ地域但シ清春村中丸二六五二番地同二八四一番地ハ之
ヲ除ク
存續期間 自昭和十一年十一月一日
至昭和二十一年十一月三十日

昭和七年十月六日
山梨縣告示第三百五十一號

禁獵區ノ名稱 御嶽禁獵區
禁獵區ノ區域 西山梨郡千代田村、能泉村及中巨摩郡宮本村、吉澤村ノ
各一部ニ跨リ東及北ハ千代田村内御嶽通路ヨリ分岐スル
塔岩道ニ沿ヒ團子峠ヲ越ヘ能泉村竹日向區、高成區、大
石峠ヲ經テ下川窪ニ至リ荒川ニ沿ヒテ廻リ板敷川合流點ヨ

存續期間

〔山梨管〕
自昭和七年十月十五日
至昭和十七年十月十四日

禁獵區ノ名稱

昭和三十二年四月十二日
山梨縣告示第二百七號

存續期間

自昭和十二年四月十六日
至昭和二十二年四月十五日

禁獵區ノ名稱

山梨縣告示第三百三十三號

第四編 保安 第十章 狩獵及漁業

銃獵禁止區域

昭和十二年四月二十九日
山梨縣告示第二百五十二號

狩獵法第十條ニ依リ左ノ通銃獵禁止區域ヲ設置ス

一、銃獵禁止ノ區域
甲府市愛宕町中央本線踏切ヲ起點トシ之ヨリ愛宕町及元紺屋町ヲ經、火葬場入口道路分岐點ニ至リ同所ヲ南流スル富士川左岸ヲ逆リ西山梨郡相川村瀨岡ヶ崎貯水池排水口ニ達シ之ヨリ村道ニ依リ北上、同村宇日影部落八枚橋(積翠寺橋)ニ達シ之ヨリ相川左岸ヲ逆リ同村上積翠寺部落ニ達シ之ヨリ東南方小徑ヲ經テ標高九八九米七、三角點ニ至リ之ヨリ西山梨郡相川、里垣兩村界ニ沿ヒ更ニ東山梨郡ト西山梨郡トノ境界線ヲ南下シ縣道甲府青梅線ニ達シ同道路ヲ西方へ進ミ西山梨郡甲運村宇山崎部落地内中央本線踏切トノ交點ニ達シ同線路ニ沿ヒ起點ニ廻歸スル線ヲ以テ圍マシタル一圓ノ區域
一、存續期間
自昭和十二年五月一日
至昭和二十二年四月三十日 十年

狩獵法施行細則並同法施行手續
中取扱ニ關スル件

昭和八年六月二十日
保發第二〇一號

五月四日附公布相成候山梨縣令第三十三號狩獵法施行細則並訓令乙第九十二號同法施行手續中ノ一部取扱上左記ノ通心得ラルヘシ

〔山梨警〕

狩獵法施行細則中

- 1 狩獵鳥獸以外ノ鳥獸飼養者他府縣又ハ他署管内ヨリ轉住シタルトキハ細則第十一條第一項ニ準シ手續ヲ爲サシムルコト
- 2 狩獵鳥獸以外ノ鳥獸飼養者他府縣又ハ他署管内ニ轉住スルトキハ細則第十一條第三項ニ準シ手續ヲ爲サシムルコト
- 3 細則第十條ニ依ル鳥獸又ハ鳥類ノ卵ノ讓受渡ノ許可ヲ受クヘキ範圍ハ法第十二條第一項ノ許可ヲ受ケ捕獲シタルモノノミニシテ飼養中蕃殖セルモノ又ハ再讓受渡ヲ爲ス場合若ハ飼鳥賣買業者ヨリ讓受ケル場合ハ適用セサルコト

狩獵法施行手續中

- 1 鳥獸飼養證ノ表「第 號」ノ上部ニハ手續第八條ニ準シ署名ノ頭字ヲ冠スルコト
- 2 手續第十七條ノ鳥獸飼養者臺帳ニハ鳥獸飼養證下附年月日ノ記載欄ナキヲ以テ其ノ都度備考欄へ記入スルコト
- 3 狩獵鳥獸ニ付テハ鳥獸飼養者臺帳又ハ鳥獸飼養證へ記入スルヲ要セサルコト

狩獵免許ニ關スル收入印紙消印
方ノ件

昭和九年十月八日
保發第三九五號

收入印紙消印方ニ關シテハ常ニ遺策ナキヲ期シツツアルコトト存シ候ヘトモ今回ノ巡閱ニ依リ狩獵免許稅收入印紙ノ消印ニ付聊カ疎漏ノ點有之哉ニ見受ケラレ候條爾今ハ左記事項特ニ留意シ可成正確ヲ期セラル様セラルヘシ

〔山梨警〕

〔山梨警〕

- 一 收入印紙貼付ノ位置ハ臺紙ト印紙トニ跨ツテ完全ニ消印出來得ル餘地ヲ取ルコト
- 二 消印ハ必ス一回ニ限ルコト
- 三 消印ハ印紙ノ御紋章ヲ打抜ク様押捺スルコト
- 四 消印ハ可成墨痕明瞭ヲ期スルコト
- 五 消印完了後ハ更ニ署長ニ於テ閱覽シ可否ヲ審査ノ上可ナルトキハ認印スルコト

狩獵法ト國立公園法トノ運用ニ
關スル件

昭和十年八月二日
一〇林第三三七四號

狩獵法ト國立公園法トノ運用ノ關係ニ付テハ爾今左記ニ依リ處理スルコトト相成候條右御了知相成度此段及通牒候也

- 一、左ノ場合ニ於テハ内務省ヨリ農林省ニ協議スルコト
國立公園法第九條ノ規定ニ依リ鳥獸ニ關シ一定ノ行爲ヲ禁止若ハ制限シ又ハ必要ナル措置ヲ命セントスルコト
- 二、左ノ場合ニ於テハ農林省ヨリ内務省ニ協議スルコト
(イ) 鳥獸捕獲禁止區域又ハ制限區域(狩獵法第一條第三項)ノ廢止又ハ其ノ區域若ハ存續期間ノ變更ヲ爲サントスルコト
(ロ) 禁獵區ノ廢止又ハ其ノ區域若ハ存續期間ノ變更ヲ爲サントスルコト
(ハ) 獵區ノ設定、其ノ區域ノ變更又ハ存續期間ノ變更若ハ更新ノ認可ヲ爲サントスルコト又ハ農林大臣ニ於テ獵區ノ設定、其ノ區域ノ變更又ハ存續期間ノ變更若ハ更新ヲ爲サントスルコト

前項ノ場合ニ於テハ其ノ獵區ノ名稱、區域地積及存續期間ヲ明示スルコト

- 三、左ノ場合ニ於テハ農林省ヨリ内務省ニ通知スルコト
(イ) 禁獵區又ハ鳥獸捕獲禁止區域若ハ制限區域(狩獵法第一條第三項)ノ設定ヲ爲シタルトキ
(ロ) 狩獵法施行規則第三十二條ノ三ノ規定ニ依リ認可ヲ爲シタルトキ
(ハ) 狩獵法施行規則第三十三條ノ規定ニ依リ獵區廢止ノ届出アリタルトキ
(ニ) 狩獵法施行規則第三十四條ノ規定ニ依リ命令又ハ處分ヲ爲シタルトキ
 - 四、左ノ場合ニ於テハ地方長官ハ農林省ニ稟伺シ農林省ヨリ内務省ニ協議スルコト
禁獵區又ハ銃獵禁止區域ノ廢止又ハ其ノ區域若ハ存續期間ノ變更ヲ爲サントスルコト
 - 五、左ノ場合ニ於テハ地方長官ハ農林省ニ稟伺シ農林省ヨリ内務省ニ通知スルコト
禁獵區又ハ銃獵禁止區域ノ設定ヲ爲サントスルコト
- (參考)
國立公園法第九條拔萃
第九條 主務大臣ハ國立公園ノ保護又ハ利用ノ爲必要アリト認ムルトキハ其ノ區域内ニ於テ一定ノ行爲ヲ禁止若ハ制限シ又ハ必要ナル措置ヲ命ズルコトヲ得

●傳書鳩ニ關スル件

昭和十一年三月二十六日
保發第七一號

近時科學的通信機關ヲ超越シテ軍用ニ私用ニ缺クヘカラサル通信機關ノ一トシテ盛ニ飼養育成セラレツツアル傳書鳩ハ其ノ利用價值頓ニ向上シ軍隊ハ勿論民間ニ於テモ協會、組合等ノ組織ノ下ニ之ヲ大々的ニ養成シ社會公共ノ爲ニ善用シツツアル狀況ニアリト雖モ偶々訓練未成ノモノ或ハ地理的環境ニ依リ又ハ天災事變等ノ突發的事故ノ爲其ノ進路ヲ誤リ途中飛翔ヲ停止シ迷ヒ込ムモノ相當數ニ達スル見込ニシテ此ノ點所有者ノ最モ苦慮スル所ナルヲ以テ爾今前記ノ迷鳩ヲ發見シ保護飼養ニ任スルモノアリタル場合ハ脚部ニ籤付セル標識ノ記號番號並ニ捕獲者住所氏名、捕獲場所、捕獲日時等ヲ届出シメ同時ニ其ノ旨保安課宛報告セラルヘシ

●狩獵法施行規則第七條ニ依ル出願調査方ノ件

昭和十一年七月十四日
警訓第三號

狩獵法施行規則第七條ニ依リ愛翫飼養ノ目的ヲ以テ出願スル鳥類ノ捕獲許可ニ對シテハ爾今左記標準ニ依リ調査進達スヘシ
右訓令ス

昭和六年六月八日警訓第十一號ハ之ヲ廢止ス

一、許可鳥名並員數

狩獵鳥類各種、ウグヒス、コマドリ、ヤマガラ、ヒガラ、コガラ、シ

〔山梨警〕

シフカラ、ミソサザイ、ヒバリ、メジロ、オホトリ、コトリ、クロツグミ以上ノ内二種各二羽以内

二、捕獲期間
七月一日ヨリ十二月末日迄ノ間ニ於テ二十日以内(特別ノ事由アル場合ハ此ノ限ニアラズ)

三、捕獲區域
狩獵法第十條、第十一條ノ場所及獵區ヲ除ク

四、出願度數
毎年一回限り

●狩獵免狀契印取扱方ニ關スル件

昭和十一年十月二日
保發第二三〇號

狩獵免狀貼付ノ寫眞ト裏紙トノ契印ハ豫算ノ關係上昨年度之カ購入ノ運ビニ至ラス各署夫々多種多様ニシテ統一ヲ缺キノミナラズ普通印章ナリシ爲押跡自然ニ消滅スル等規則改正ノ趣旨ニ添ハサル點多々有之シヲ痛感シ居リ候處本年度ハ裏ニ透附シタル「シールプレス」ヲ購入各署へ備ヒ付クルコトト相成候條狩獵免狀下付ノ際ハ明瞭ニ有效ニ使用セラルルト共ニ押捺ハ左記略圖ノ如キ位置ニ統一致度右留意セラルヘシ
左記

〔山梨警〕

甲(2)種 狩獵鳥類		昭和 年 月 日	第 號
生	年 月 日	兵部省	住
所	所		

シールプレス
押捺ノ位置

●非狩獵鳥獸取扱方ノ件

昭和十一年十月三日
保發第二三五號

狩獵法第十二條第一項ノ許可ヲ受ケ捕獲シタル鳥獸ヲ愛翫飼養セル者或ハ同法第十三條但書ニ基キ鳥獸ヲ譲リ受ケ飼養中ニ屬スル者行衛不明ト爲リ若ハ死亡シタル場合合法ノ建前之ガ放翔スヘキガ妥當ナリトスルモ長日月籠飼ニ做レタルモノハ攝餌ノ方法ヲ忘レ概シテ斃死シ或ハ活動鈍緩トナルカ故ニ天敵ニ襲ハルルノ機會多ク保護上反テ妨ケ多キ憾ミ有之候ニ付爾今カカル場合ヲ生シタルトキハ細則第四條第一項ノ届出アリタルトキ其ノ家族之ヲ引繼キ繼續飼養セントスル希望アルニ於テハ細則第十一條第二項ニ準據シ鳥獸飼養證ノ書換下付ヲ申請セシメ飼養ニ任セシムルモ差支無キニ付取締上心得ラルヘシ

〔山梨管〕

●漁業法

明治四十三年四月二十一日
法律第五十八號

改正 昭和八年三月法律第三三號

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル漁業法改正法律ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

漁業法

- 第一條 本法ニ於テ漁業ト稱スルハ營利ノ目的ヲ以テ水産動物ノ採捕又ハ養殖ヲ業トスルヲ謂フ
- 本法ニ於テ漁業者ト稱スルハ漁業ヲ爲ス者及漁業權又ハ入漁權ヲ有スル者ヲ謂フ
- 第二條 公共ノ用ニ供セサル水面ニハ別段ノ規定アル場合ヲ除クノ外本法ノ規定ヲ適用セス
- 第三條 公共ノ用ニ供スル水面ト連接シ一體ヲ成ス公共ノ用ニ供セサル水面ニハ本法ヲ適用ス
- 前項ノ水面ノ占有者又ハ其ノ敷地ノ所有者ハ行政官廳ノ許可ヲ得テ漁業ニ關シ之カ利用ヲ制限シ又ハ廢止スルコトヲ得
- 第四條 漁具ヲ定置シ又ハ水面ヲ區劃シテ漁業ヲ爲スノ權利ヲ得ムトスル者ハ行政官廳ノ免許ヲ受クヘシ其ノ免許スヘキ漁業ノ種類ハ主務大臣之ヲ指定ス
- 第五條 水面ヲ専用シテ漁業ヲ爲スノ權利ヲ得ムトスル者ハ行政官廳ノ免許ヲ受クヘシ
- 前項ノ免許ハ漁業組合カ其ノ地先水面ノ専用ヲ出願シタル場合ノ外之ヲ與ヘス

〔山梨管〕

- 第六條 前二條ノ外主務大臣ニ於テ免許ヲ受ケシムル必要アリト認ムル漁業ノ種類ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム
- 第七條 漁業權ハ物權ト看做シ土地ニ關スル規定ヲ準用ス
- 民法第二編第九章ノ規定ハ漁業權ニ之ヲ適用セス
- 第八條 漁業權ヲ抵當ト爲シタル場合ニ於テ其ノ漁場ニ定著シタル工作物ハ民法第三百七十條ノ準用ニ關シテハ漁業權ニ附加シテ之ト一體ヲ成シタル物ト看做ス
- 第九條 裁判所ノ土地ノ管轄カ不動産所在地ニ依リテ定マル場合ニ於テハ漁場ニ最近キ沿岸ノ屬スル市町村又ハ之ニ相當スル行政區劃ヲ以テ不動産所在地ト看做ス
- 第十條 漁業權ハ行政官廳ノ許可ヲ受クルニ非サレハ之ヲ分割シ其ノ他變更スルコトヲ得ス
- 第十一條 漁業權者ノ有スル水面使用ニ關スル權利義務ハ漁業權ノ處分ニ從フ
- 第十二條 入漁權者ハ設定行爲又ハ舊法施行前ノ慣行ニ從ヒ他人ノ専用漁業權ニ屬スル漁場内ニ入會ヒ其ノ専用漁業權ノ全部又ハ一部ノ漁業ヲ爲スノ權利ヲ有ス
- 第十三條 入漁權ハ物權ト看做ス
- 入漁權ハ相續及讓渡ノ目的タル外權利ノ目的タルコトヲ得ス
- 第十四條 入漁權ハ漁業權者ノ承諾アルニ非サレハ之ヲ讓渡スルコトヲ得ス但シ別段ノ慣行アル場合ハ此ノ限ニ在ラス
- 第十五條 漁業權又ハ入漁權ノ各共有者ハ他ノ共有者ノ三分ノ二以上ノ同意アルニ非ザレバ其ノ持分ヲ處分スルコトヲ得ズ

第十五條ノ二 漁業權又ハ入漁權ノ各共有者ガ其ノ共有ニ屬スル漁業權又ハ入漁權ヲ變更セントスル場合ニ於テ他ノ共有者ノ住所又ハ居所分明ナラザルトキハ勅令ノ定ムル所ニ依リ裁判所ノ許可ヲ以テ其ノ者ノ同意ニ代フルコトヲ得

第十六條 漁業權ノ存続期間ハ二十年以内ニ於テ行政官廳ノ定ムル所ニ依ル但シ第二十四條第一項ノ規定ニ依リ又ハ第三十四條ノ規定ニ基ク命令ニ依リ漁業ヲ停止セラレタル期間ハ之ヲ算入セス

第十七條 設定行為ニ於テ存続期間ニ付別段ノ定ナキ入漁權ハ目的タル漁業權ノ存続中存続スルモノト看做ス但シ入漁權者ハ何時ニテモ其ノ權利ヲ拋棄スルコトヲ得

第十八條 入漁權者カ入漁料ノ支拂ヲ怠リタルトキハ漁業權者ハ其ノ入漁ヲ拒ムコトヲ得

第十九條 入漁料ハ入漁者ガササルトキハ之ヲ支拂フコトヲ要セス

第二十條 入漁權ニ關シ前三條ノ規定ニ異リタル慣行アルトキハ其ノ慣行ニ從フ

第二十一條 行政官廳ニ於テ必要アリト認ムルトキハ漁業ノ免許ヲ與フルニ當リ之ニ制限又ハ條件ヲ附スルコトヲ得

第二十二條 漁業ノ免許ヲ受ケタル日ヨリ一年間其ノ漁業ニ從事スル者ナキトキ又ハ引續キ二年間休業シタルトキハ行政官廳ハ其ノ免許ヲ取消スコトヲ得

第二十三條 行政官廳ノ認可ヲ得テ漁業ヲ爲ササル期間及第二十四條第一項ノ規定ニ依リ又ハ第三十四條ノ規定ニ基ク命令ニ依リ漁業ヲ停止セラ

第二十九條 漁業者ハ左ニ掲ケル目的ノ爲必要アルトキハ行政官廳ノ許可ヲ得テ他人ノ土地ヲ使用シ又ハ立木竹若ハ土石ノ除去ヲ制限スルコトヲ得

一 漁場ノ標識ノ建設
二 魚見若ハ漁業ニ關スル信號又ハ之ニ必要ナル設備
三 漁業ニ必要ナル目標ノ保存又ハ建設

第三十條 漁業者ハ必要アルトキハ行政官廳ノ許可ヲ得テ特別ノ用途ナキ他人ノ土地ニ立入り漁業ヲ爲スコトヲ得

第三十一條 漁業ニ關スル測量、實地調査又ハ前二條ノ目的ノ爲必要アルトキハ行政官廳ノ許可ヲ得テ他人ノ土地ニ立入り支障木竹ヲ伐採シ又ハ障礙物ヲ除去スルコトヲ得

第三十二條 前三條ノ行為ヲ爲ス者ハ豫メ其ノ旨ヲ土地ノ所有者又ハ占有者ニ通知シ爲ニ生シタル損害ハ之ヲ賠償スヘシ

第三十三條 行政官廳ハ漁業者ニ漁場ノ標識ノ建設又ハ漁具ノ標識ノ設置ヲ命スルコトヲ得

第三十四條 地方長官ハ水産動植物ノ蕃殖保護又ハ漁業取締ノ爲主務大臣ノ認可ヲ得テ左ノ命令ヲ發スルコトヲ得

一 水産動植物ノ採捕ニ關スル制限又ハ禁止
二 水産動植物若ハ其ノ製品ノ販賣又ハ所持ニ關スル制限若ハ禁止
三 漁具又ハ漁船ニ關スル制限若ハ禁止
四 漁業者ノ數又ハ資格ニ關スル制限
五 水産動植物ニ有害ナル物ノ遺棄又ハ漏泄ニ關スル制限又ハ禁止
六 水産動植物ノ蕃殖保護ニ必要ナル物ノ採取又ハ除去ニ關スル制限若ハ禁止
七 水産動植物ノ移植ニ關スル制限又ハ禁止

レタル期間ハ前條ノ期間ニ之ヲ算入セス

第二十四條 水産動植物ノ蕃殖保護、船舶ノ航行碇泊繫留、水底電線ノ敷設若ハ國防其ノ他ノ軍事上必要アルトキ又ハ公益上害アルトキハ主務大臣ハ免許シタル漁業ヲ制限シ、停止シ又ハ免許ヲ取消スコトヲ得

第二十五條 錯誤ニ依リ漁業ノ免許ヲ與ヘタルトキハ行政官廳ハ之ヲ取消スコトヲ得

第二十六條 免許漁業原簿ノ登録ハ登記ニ代ハルモノトス

第二十七條 漁業免許ノ取消アリタルトキハ行政官廳ハ直ニ之ヲ登録シタル抵當權者及先取特權者ニ通知スヘシ

前項ノ權利者ハ通知ヲ受ケタル日ヨリ三十日以内ニ漁業權ノ競賣ヲ請求スルコトヲ得但シ第二十四條第一項又ハ第二十五條ノ規定ニ依リ取消ノ場合ハ此ノ限ニ在ラス

漁業權ハ前項ノ期間内又ハ競賣ノ手續完結ノ日迄競賣ノ目的ノ範圍内ニ於テ仍存続スルモノト看做ス

競賣ニ依ル賣得金ハ競賣ノ費用及第一項ノ權利者ニ對スル債務ノ辨濟ニ充テ其ノ殘金ハ國庫ニ歸屬ス

競賣ヲ許ス決定力確定シタルトキハ漁業免許ノ取消ハ其ノ效力ヲ生セザリシモノト看做ス

第二十八條 漁業權ハ登録シタル權利者ノ同意アルニ非サレハ之ヲ分割シ其ノ他變更シ又ハ拋棄スルコトヲ得

第十五條ノ二ノ規定ハ漁業權ヲ分割シ其ノ他變更セントスル場合ニ於テ登録シタル入漁權者ノ住所又ハ居所分明ナラザル場合ニ之ヲ準用ス

主務大臣ニ於テ前項ノ制限又ハ禁止ヲ爲スノ必要アリト認ムルトキハ命令ヲ以テ之ヲ定ムルコトヲ得

前二項ノ命令ニハ犯人ノ所有シ又ハ所持スル漁獲物、製品、漁具及第一項第七號ノ水産動植物ノ沒收並犯人ノ所有シタル前記物件ノ全部又ハ一部ヲ沒收スルコト能ハサル場合ニ於テ其ノ價額ノ追徴ニ關スル規定ヲ設ケルコトヲ得

第三十五條 汽船「トロー」漁業、母船式漁業、汽船捕鯨業又ハ機船底曳網漁業ハ命令ノ定ムル所ニ依リ主務大臣ノ許可ヲ受ケルニ非ザレバ之ヲ營ムコトヲ得

前項ノ漁業ニ關スル制限又ハ禁止ハ主務大臣之ヲ定ム

第三十六條 爆發物ヲ使用シテ水産動植物ヲ採捕スルコトヲ得ス但シ海歌捕獲ノ爲ニスル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第三十七條 主務大臣ハ迴河魚類ノ通路ヲ害スルノ虞アリト認ムルトキハ水面ノ一定區域内ニ於ケル工作物ノ設置ニ付制限又ハ禁止ニ關スル命令ヲ發スルコトヲ得

工作物ニシテ迴河魚類ノ通路ヲ害スルモノト認ムルトキハ主務大臣ハ其ノ所有者又ハ占有者ニ除害工事ヲ命スルコトヲ得

第三十八條 前條第二項ノ規定ニ依リ除害工事ヲ命シタルトキハ主務大臣ハ工作物ニ付權利ヲ有スル者ニ對シ相當ノ補償ヲ爲スヘシ但シ利害關係人ノ申請ニ依リ除害工事ヲ命シタルトキハ主務大臣ノ定ムル所ニ依リ申請者之ヲ補償スヘシ

前項ノ補償金額ニ付不服アル者ハ補償金額決定ノ通知ヲ受ケタル日ヨリ九十日以内ニ通常裁判所ニ出訴スルコトヲ得

第三十九條 公共ノ用ニ供セザル水面ニシテ公共ノ用ニ供スル水面又ハ第三條ノ水面ニ通スルモノニハ命令ヲ以テ第三十四條、第三十六條乃至第

第三十八條、第五十五條及第五十九條ノ規定ヲ適用スルコトヲ得
第四十條 漁業ニ従事スル者ノ雇傭並雇人及遺族ノ扶助ニ關シテハ勅令ヲ以テ規程ヲ設クルコトヲ得

第四十一條 海軍艦艇乘組將校、警察官吏、港務官吏、稅關官吏又ハ漁業監督吏員ハ漁業ヲ監督シ必要アリト認ムルトキハ船舶、店舗其ノ他ノ場所ニ臨檢シ帳簿物件ヲ檢査スルコトヲ得

前項ノ臨檢ニ際シ漁業ニ關スル犯罪アリト認ムルトキハ搜索ヲ爲シ又ハ犯罪ノ事實ヲ證明スヘキ物件ノ差押ヲ爲スコトヲ得
臨檢、搜索及差押ニ關シテハ間接國稅犯則者處分法ヲ準用ス但シ同法第四條ノ規定ハ漁業監督吏員以外ノ者ニ之ヲ準用セス

第四十二條 一定ノ地區内ニ住所ヲ有スル漁業者ハ行政官廳ノ許可ヲ得テ漁業組合ヲ設クルコトヲ得

漁業組合ノ地區ハ市町村ノ區域又ハ市町村内ノ漁業者ノ部落ノ區域ニ依リ之ヲ定ムヘシ但シ特別ノ事情アル場合ハ此ノ限ニ在ラス
町村制ヲ施行セサル地方ニ在リテハ町村ニ準スヘキモノヲ以テ前項ノ町村ト看做ス

北海道ニ於テハ郡ヲ以テ漁業組合ノ地區ト爲スコトヲ得
第四十三條 漁業組合ハ法人トス

漁業組合ハ漁業權若ハ入漁權ヲ取得シ又ハ漁業權ノ貸付ヲ受ケ組合員ノ漁業又ハ其ノ經濟ノ發達ニ必要ナル共同ノ施設ヲ爲スヲ以テ目的トス
漁業組合ハ本法ニ別段ノ規定アル場合ヲ除クノ外自ラ漁業ヲ營ムコトヲ得

組合員ハ漁業組合ノ取得シ若ハ貸付ヲ受ケタル專用漁業權又ハ入漁權ノ範圍内ニ於テ各自漁業ヲ爲スノ權利ヲ有ス但シ組合規約ヲ以テ別段ノ規定ヲ設クルコトヲ得

ヲ負擔シ保證責任ノ組合ニ在リテハ組合財產ヲ以テ其ノ債務ヲ完済スルコト能ハザル場合ニ於テ組合員ノ全員ガ其ノ出資額又ハ經費負擔額ノ外一定ノ金額(保證金額)ヲ限度トシテ責任ヲ負擔ス

第四十三條ノ六 無限責任又ハ保證責任ノ漁業組合ヨリ脱退シタル組合員ハ脱退前ノ組合債權者ニ對シ其ノ脱退ヲ登記シタル後二年間前條第二項ノ規定ニ依ル責任ヲ負擔ス

第四十三條ノ七 新ニ無限責任又ハ保證責任ノ漁業組合ニ加入シタル組合員ハ其ノ加入前ニ生シタル組合ノ債務ニ付テモ亦第四十三條ノ五第二項ノ規定ニ依ル責任ヲ負擔ス

第四十三條ノ八 漁業協同組合ハ命令ノ定ムル所ニ依リ行政官廳ノ許可ヲ得テ自ラ漁業ヲ營ムコトヲ得

第四十三條ノ九 漁業協同組合ハ組合規約ノ定ムル所ニ依リ組合ノ地區内ニ住所ヲ有スル者ニシテ漁業者ニ非ザルモノヲ組合員ト爲スコトヲ得

第四十三條ノ十 漁業組合ハ組合規約ノ定ムル所ニ依リ組合規約ニ違反シタル組合員ニ對シ過怠金ヲ課スルコトヲ得

第四十四條 漁業組合聯合會ハ所屬ノ漁業組合及漁業組合聯合會ノ共同ノ目的ヲ達スル爲行政官廳ノ許可ヲ得テ之ヲ設立スルコトヲ得

漁業組合聯合會ハ法人トス
漁業組合聯合會ハ第四十三條ノ二第一項第三號若ハ第四號ノ事業ヲ行フ漁業組合又ハ漁業組合聯合會ヲ以テ之ヲ構成ス

第四十三條ノ二 漁業組合ハ左ノ事業ヲ行フコトヲ得

- 一 水産動植物ノ蕃殖保護其ノ他漁場ノ利用ニ關スル施設
- 二 船溜、船揚場、漁礁其ノ他組合員ノ漁業ニ必要ナル設備ノ設置
- 三 組合員ノ漁獲物其ノ他ノ生産物ノ加工、保藏、運搬又ハ販賣ニ關スル施設
- 四 組合員ノ漁業又ハ其ノ經濟ノ發達ニ必要ナル物又ハ資金ノ供給ニ關スル施設

五 組合員ノ遭難防止又ハ遭難救恤ニ關スル施設
六 前各號ニ掲グルモノノ外組合ノ目的ヲ達スルニ必要ナル施設

前項ニ掲グル組合ノ施設ハ組合員ノ利用ニ支障ナキ場合ニ限り組合員タルコトヲ得ザル者ヲシテ命令ノ定ムル所ニ依リ之ヲ利用セシムルコトヲ得

第四十三條ノ三 前條第一項第三號又ハ第四號ノ事業ヲ行フ漁業組合ハ組合規約ノ定ムル所ニ依リ組合員ニ出資ヲ爲サシムルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ組合員ニ出資ヲ爲サシムル漁業組合(漁業協同組合)ノ組合員ハ出資一口以上ヲ有スベシ
出資一口ノ金額ハ均一ニ之ヲ定ムベシ

出資一口ノ金額ノ最高限ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム
第四十三條ノ四 漁業組合ハ組合規約ノ定ムル所ニ依リ其ノ經費ヲ組合員ニ分賦スルコトヲ得

第四十三條ノ五 第四十三條ノ二第一項第三號又ハ第四號ノ事業ヲ行フ漁業組合ノ組織ハ無限責任、有限責任及保證責任ノ三種トス
無限責任ノ組合ニ在リテハ組合財產ヲ以テ其ノ債務ヲ完済スルコト能ハザル場合ニ於テ組合員ノ全員ガ連帶無限ノ責任ヲ負擔シ有限責任ノ組合ニ在リテハ組合員ノ全員ガ經費負擔額ノ外其ノ出資額ヲ限度トシテ責任

組合員トアルハ所屬ノ組合、聯合會及組合員トス

第四十五條 漁業組合及漁業組合聯合會ニハ所得稅及營業收益稅ヲ課セ

第四十六條 漁業組合又ハ漁業組合聯合會ノ設立ハ其ノ主タル事務所ノ所在地ニ於テ登記ヲ爲スニ非サレハ之ヲ以テ第三者ニ對抗スルコトヲ得

登記シタル事項ノ變更ハ其ノ登記ヲ爲スニ非サレハ之ヲ以テ第三者ニ對抗スルコトヲ得

第四十七條 行政官廳ハ何時ニテモ漁業組合又ハ漁業組合聯合會ノ事業ニ關スル報告ヲ徵シ、事業ニ付認可ヲ受ケシメ、事業及財產ノ狀況ヲ檢査シ其ノ他監督上必要ナル命令ヲ發シ又ハ處分ヲ爲スコトヲ得

第四十八條 漁業組合又ハ漁業組合聯合會ノ決議若ハ役員ノ行爲ニシテ法令、行政官廳ノ命令若ハ規約ニ違反シ又ハ公益ヲ害シ若ハ害スルノ虞アリト認ムルトキハ行政官廳ハ左ノ處分ヲ爲スコトヲ得

- 一 決議ノ取消
- 二 役員ノ解職
- 三 解散又ハ事業ノ停止

第四十九條 本法ニ規定スルモノノ外漁業組合又ハ漁業組合聯合會ノ設立、登記、管理、構成者ノ權利義務及加入脱退、組織變更、分合、解散、清算其ノ他ニ關シ必要ナル事項ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第四十九條ノ二 漁業組合又ハ漁業組合聯合會ノ役員何等ノ名義ヲ以テスルヲ問ハズ組合若ハ聯合會ノ事業ノ範圍外ニ於テ貸付ヲ爲シ又ハ投機取引ノ爲ニ組合若ハ聯合會ノ財產ヲ處分シタルトキハ一年以下ノ懲役若ハ禁錮又ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

第五十條 漁業組合又ハ漁業組合聯合會ニ於テ本法中特ニ組合又ハ聯合會ニ關スル規定ニ違反シタル場合ニ於テハ其ノ役員ヲ三百圓以下ノ過料ニ處ス

本法ニ基キテ發スル組合又ハ聯合會ニ關スル命令ニ於テハ組合又ハ聯合會カ之ニ違反シタル場合ニ於テ其ノ役員ヲ三百圓以下ノ過料ニ處スル規定ヲ設クルコトヲ得

第五十一條 漁業者又ハ水産動物ノ製造若ハ販賣ヲ業トスル者ハ水産業ノ改良發達及水産動物ノ蕃殖保護其ノ他水産業ニ關シ共同ノ利益ヲ圖ル爲メ水産組合ヲ設クルコトヲ得

第五十二條 水産組合成立シタルトキハ其ノ地區内ニ於テ定款ノ定ムル所ニ依リ組合員タル資格ヲ有スル者ハ總テ其ノ組合ニ加入シタルモノト看做ス但シ主務大臣ニ於テ加入ノ義務ナシト認メタル者ハ此ノ限ニ在ラズ

第五十三條 水産組合ハ相互ニ共同シテ其ノ目的ヲ達スル爲メ水産組合聯合會ヲ設クルコトヲ得

第五十四條 水産組合及水産組合聯合會ハ法人トシ重要物産同業組合法ヲ準用ス

第五十五條 漁業ノ免許若ハ許可ノ出願又ハ期間更新ノ申請ニ對スル許否ニ不服アル者及第三條第二項、第二十二條、第二十四條、第二十五條若ハ第三十七條第二項ノ規定ニ依ル處分ニ不服アル者ハ訴願ヲ提起シ違法ニ權利ヲ侵害セラレタリトスルトキハ行政訴訟ヲ提起スルコトヲ得

第五十六條 漁場ノ區域、漁業權若ハ入漁權ノ範圍又ハ漁業ノ方法ニ付漁業者ノ間ニ爭アルトキハ關係者ヨリ行政官廳ニ之ニ關スル裁決ヲ申請スルコトヲ得

十圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

第六十二條 第四十一條ノ規定ニ依ル職務ノ執行ヲ拒ミ若ハ妨ケタル者及職務搜索ノ際當該吏員ノ訊問ニ對シ答辯ヲ爲サス若ハ虚偽ノ陳述ヲ爲シタル者ハ三百圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

第六十三條 營業者未成年者又ハ禁治産者ナルトキハ本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ依リ之ニ適用スヘキ罰則ハ之ヲ法定代理人ニ適用ス但シ營業ニ關シ成年者ト同一ノ能力ヲ有スル未成年者ニ付テハ此ノ限ニ在ラズ

第六十四條 營業者ハ其ノ代理人、戶主、家族、同居者、雇人其ノ他ノ從業者ニシテ其ノ業務ニ關シ本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ違反シタルトキハ自己ノ指揮ニ出テサルノ故ヲ以テ其ノ處罰ヲ免カラルコトヲ得

第六十五條 明治三十三年法律第五十二號ハ本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ依ル犯罪ニ之ヲ準用ス

第六十六條 本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム (明治四十三年十一月勅令第四百二十八號ヲ以テ同十四年四月一日ヨリ施行)

第六十七條 本法ハ羆虎及羆獸ノ漁獵ニ之ヲ適用セズ

第六十八條 本法施行前ノ漁業ニ關スル出願ニシテ未タ處分ヲ終ラサルモノニ關シテハ仍從前ノ例ニ依ル

第六十九條 舊法ニ依リ發生シタル漁業權ハ本法施行ノ日ヨリ本法ニ定メタル效力ヲ有ス但シ其ノ存續期間ハ發生ノ時ヨリ起算ス

第七十條 本法施行前免許漁業原簿ニ登錄シタル事項ハ本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ依リ登錄スルコトヲ得ヘキモノニ限リ之ニ依リ登錄シ

ルコトヲ得

前項ノ裁決ニ不服アル者ハ訴願ヲ提起シ違法ニ權利ヲ侵害セラレタリトスルトキハ行政訴訟ヲ提起スルコトヲ得

第五十七條 民事又ハ刑事ノ訴訟ニ付前條ノ規定ニ依ル裁決又ハ判決ヲ待ツノ必要アル場合ニ於テハ裁判所ハ其ノ訴訟手續ヲ中止スルコトヲ得

第五十八條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

一 免許ニ依ラス若ハ漁業ノ停止中第四條又ハ第六條ノ漁業ヲ爲シタル者

二 免許漁業ノ制限又ハ免許ノ條件若ハ制限ニ違反シテ漁業ヲ爲シタル者

三 専用漁業ノ停止中其ノ漁場ニ於テ停止シタル漁業ヲ爲シタル者

前項ノ場合ニ於テハ犯人ノ所有シ又ハ所持スル漁獲物、製品及漁具ハ之ヲ沒收スルコトヲ得但シ犯人ノ所有シタル前記物件ノ全部又ハ一部ヲ沒收スルコト能ハサルトキハ其ノ價額ヲ追徵スルコトヲ得

第五十九條 汽船「トロール」漁業又ハ母船式漁業ニ關シ第三十五條第一項ノ規定、同條第二項ノ制限若ハ禁止ニ違反シタル者ハ五千圓以下ノ罰金、汽船捕鯨業又ハ機船底曳網漁業ニ關シ同條第一項ノ規定、同條第二項ノ制限若ハ禁止又ハ第三十六條ノ規定ニ違反シタル者ハ二千圓以下ノ罰金ニ處ス此ノ場合ニ於テハ犯人ノ所有シ又ハ所持スル漁獲物、製品及漁具ハ之ヲ沒收スルコトヲ得但シ犯人ノ所有シタル前記物件ノ全部又ハ一部ヲ沒收スルコト能ハサルトキハ其ノ價額ヲ追徵スルコトヲ得

第六十條 漁業權又ハ漁業組合員ノ漁業ヲ爲スノ權利ヲ侵害シタル者ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

前項ノ罪ハ告訴ヲ待テ之ヲ論ス

タルモノト看做ス

第七十一條 舊法施行前ノ契約又ハ慣行ニ依リテ入漁スルノ權利ハ專用漁業免許後一年間ニ限リ登錄ナキモノヲ以テ第三條ニ對抗スルコトヲ得

第七十二條 本法施行前ニ爲シタル處分又ハ第六十八條ノ規定ニ依リ爲シタル處分ニ對スル裁決ノ申請、訴願又ハ行政訴訟ニ關シテハ仍從前ノ例ニ依ル

第七十三條 舊法ニ依リ設ケタル漁業組合ハ本法施行後一年間ニ限リ登記ナキモノ其ノ設立ヲ以テ第三條ニ對抗スルコトヲ得

附則 (昭和八年法律第三十三號)

第一條 本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム (昭和九年七月勅令第二百三十一號ヲ以テ同年八月一日ヨリ施行)

第二條 本法施行前ヨリ引續キ第四十三條ノ二第一項第三號又ハ第四號ノ事業ヲ行フ漁業組合ハ本法施行ノ日ヨリ五年ヲ限リ其ノ組織ニ關シ第四十三條ノ五ノ規定ニ依ルコトヲ得

第三條 本法施行前ニ設立シタル漁業組合聯合會ハ本法施行ノ日ヨリ五年ヲ限リ其ノ構成者及組織ニ關シ第四十四條第三項及第四項ノ規定ニ依ル聯合會ト爲ラザルモノハ其ノ期間満了ノ日ニ於テ解散ス

第四條 印紙稅法第四條第一項第十一號中「産業組合聯合會」ノ下ニ「漁業組合、漁業組合聯合會」ヲ加フ

●漁業法施行規則

明治四十三年十一月十二日
農商務省令第二十五號

改正 大正一五年農林省令第一四號
漁業法施行規則左ノ通改正ス

漁業法施行規則

第一章 總則

第一條 漁業ニ關スル出願、申請及届出ハ漁場ヲ管轄スル地方長官ニ之ヲ爲スヘシ但シ左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ニ於テハ農林大臣ニ之ヲ爲スヘシ

一 專用漁業ニ關スルトキ

二 入漁權ニ關スルトキ

三 二以上ノ地方長官ノ管轄ニ屬スル漁場ニ於ケル漁業ニ關スルトキ

四 漁場ヲ管轄スル地方長官明確ナラサル漁業ニ關スルトキ

前項第三號又ハ第四號ニ該當スル場合ニ於テハ農林大臣ハ管轄地方長官ヲ指定スルコトヲ得農林大臣ノ處分ヲ爲シタルモノニ付亦同シ

第二條 農林大臣ニ出願、申請又ハ届出ヲ爲サムトスルトキハ漁場ヲ管轄スル地方長官ヲ經由スヘシ但シ漁場ヲ管轄スル地方長官明確ナラサルトキハ住所ノ地方長官ヲ經由スヘシ

第三條 漁業ニ關スル行政行為ニ付テハ關係地方長官ハ交互ニ補助スルモノトス

第四條 行政官廳ニ於テ必要ト認ムルトキハ出願、申請又ハ届出ヲ爲シタ

ル者、漁業權者、入漁權者其ノ他漁業ニ關シ利害ノ關係ヲ有スル者ニ對シ書類ノ提出、訂正若ハ補充又ハ物件ノ提出ヲ命スルコトヲ得

第五條 住所又ハ居所ノ不明其ノ他ノ事由ニ依リ書類ノ送付ヲ爲スコト能ハサルトキハ行政官廳ハ其ノ事由及書類ノ要領ヲ公告スヘシ此ノ場合ニ於テハ公告ノ終リタル日ヨリ起算シテ三十日ヲ經過シタルトキハ其ノ末日ニ於テ書類ノ送付アリタルモノト看做ス

第六條 本則ニ依リ行政官廳ノ爲スヘキ公告ハ慣行ノ公示式ニ依ルモノトス

第七條 漁業法第三條第二項ノ水面ノ占有者又ハ其ノ敷地ノ所有者ニシテ同條ノ許可ヲ受ケムトスルトキハ其ノ水面又ハ敷地ヲ管轄スル地方長官ニ之ヲ出願スヘシ

一 許可ヲ受ケムトスル事由書

二 占有者又ハ所有者タルコトヲ證スヘキ書面

三 許可ヲ受ケムトスル區域ノ圖面

四 漁業權ノ設定アルトキハ其ノ漁業權者及登錄シタル權利者ノ同意書若シ其ノ同意ヲ得ルコト能ハサルトキハ其ノ事由書

第八條 前條ノ出願ノ許可シタルトキハ地方長官ハ之ヲ公告シ若シ漁業權者其ノ他登錄シタル權利者アルトキハ之ヲ通知スヘシ

第九條 地方長官ハ漁業法第三條第二項ノ許可ヲ受ケタル者ニ對シ其ノ許可シタル區域ノ標識ノ建設ヲ命スルコトヲ得

第二章 漁業ノ免許
第十條 本則ニ於テ免許漁業ト稱スルハ定置漁業、區別漁業、專用漁業及特別漁業ヲ謂フ

第十一條 本則ニ於テ定置漁業ト稱スルハ漁具ヲ定置シテ爲ス漁業ヲ謂

一 一定ノ追込場ヲ有スル海豚漁業
二 一定ノ曳揚場ヲ有スル地曳網、地漕網漁業
三 一定ノ曳寄場ヲ有スル船曳網漁業
四 一定ノ網場ヲ有スル囊待網漁業
五 一定ノ網場ヲ有スル敷網漁業
六 一定ノ水面ニ於テ飼付ヲ爲ス漁業
七 一定ノ水面ニ於テ飼付ヲ爲ス漁業
八 一定ノ水面ニ於テ飼付ヲ爲ス漁業
九 一定ノ水面ニ於テ飼付ヲ爲ス漁業
第十條 前二條ニ該當スル免許漁業ノ名稱ハ農林大臣別ニ之ヲ告示ス

七、區別漁業ト稱スルハ水面ヲ區別シテ爲ス漁業ヲ謂ヒ、專用漁業ト稱スルハ他ノ免許漁業ニ該當セスシテ水面ヲ專用シテ爲ス漁業ヲ謂ヒ、特別漁業ト稱スルハ第十四條各號ニ掲ケル漁業ヲ謂フ

第十二條 定置漁業ノ種類左ノ如シ

一 臺網類漁業 敷網及垣網又ハ敷網ヲ土俵若ハ碇等ヲ以テ一定ノ水面ニ敷設スルモノ

二 落網類漁業 落網、上綱及垣網ヲ土俵若ハ碇等ヲ以テ一定ノ水面ニ敷設スルモノ

三 掛網類漁業 側網及垣網ヲ碇、土俵若ハ支柱等ヲ以テ一定ノ水面ニ敷設スルモノ

四 建網類漁業 曲網及垣網又ハ刺網ヲ一定ノ水面ニ敷設スルモノ

五 出網類漁業 垣網ヲ土俵若ハ碇等ヲ以テ一定ノ水面ニ敷設スルモノ

六 張網類漁業 臺網又ハ立廻網ヲ支柱若ハ碇等ヲ以テ一定ノ水面ニ敷設スルモノ

七 臥網類漁業 一定ノ水面ニ支柱ヲ以テ簀若ハ網ヲ建設シ又ハ竹、木、石堤等ヲ建設シテ陷穿ノ裝置若ハ魚堰ヲ設ケルモノ

第十三條 區別漁業ノ種類左ノ如シ

一 第一種 一定ノ區域内ニ於テ瓦、石、竹、木等ヲ沈設シ又ハ築キ建

設シテ爲ス養殖業

二 第二種 土、石、竹、木等ノ圍障ニ依リ限界セラレタル一定ノ區域内ニ於テ爲ス養殖業

三 第三種 前二種ノ外一定ノ區域内ニ於テ爲ス養殖業

第十四條 左ニ掲ケル漁業ハ行政官廳ノ免許ヲ受クヘシ

一 第一種 一定ノ網場又ハ捕獲場ヲ有スル鯨漁業

二 第二種 一定ノ網場又ハ捕獲場ヲ有スル鯨漁業

三 第三種 一定ノ網場又ハ捕獲場ヲ有スル鯨漁業

四 第四種 一定ノ網場又ハ捕獲場ヲ有スル鯨漁業

五 第五種 一定ノ網場又ハ捕獲場ヲ有スル鯨漁業

六 第六種 一定ノ網場又ハ捕獲場ヲ有スル鯨漁業

七 第七種 一定ノ網場又ハ捕獲場ヲ有スル鯨漁業

八 第八種 一定ノ網場又ハ捕獲場ヲ有スル鯨漁業

九 第九種 一定ノ網場又ハ捕獲場ヲ有スル鯨漁業

第十種 一定ノ網場又ハ捕獲場ヲ有スル鯨漁業

第十一種 一定ノ網場又ハ捕獲場ヲ有スル鯨漁業

第十二種 一定ノ網場又ハ捕獲場ヲ有スル鯨漁業

第十三種 一定ノ網場又ハ捕獲場ヲ有スル鯨漁業

第十四種 一定ノ網場又ハ捕獲場ヲ有スル鯨漁業

第十五種 一定ノ網場又ハ捕獲場ヲ有スル鯨漁業

第十六種 一定ノ網場又ハ捕獲場ヲ有スル鯨漁業

前項ノ規定ハ北海道、沖繩縣、並沖繩縣及島嶼町村制ヲ施行シタル島嶼ノ區又ハ町村内ノ一部ニ之ヲ適用ス

第十九條 第十七條第一項及第二項ノ規定ハ漁業權變更ノ許可ノ出願ニ之ヲ準用ス

第二十條 從來ノ慣行ニ因ル專用漁業權者ハ其ノ漁業ノ種類ヲ增加シ又ハ漁場ノ區域ヲ擴張スル變更ノ許可ヲ出願スルコトヲ得ス

第二十一條 地勢上漁業組合毎ニ其ノ地先水面ヲ區分スルコト能ハサルトキ又ハ其ノ區分カ著シク困難ナルトキハ關係漁業組合ハ共同シテ其ノ地先水面ノ專用ヲ出願スルコトヲ得

第二十二條 漁業ノ免許ヲ受ケムトスルトキハ專用漁業ニ在リテハ漁場毎ニ、其ノ他ノ免許漁業ニ在リテハ漁業ノ名稱及漁場毎ニ願書二通ヲ作リ之ヲ出願スヘシ

願書ニハ左ノ事項ヲ記載スヘシ
一 專用漁業ニ在リテハ漁具ノ種類又ハ漁業ノ方法、其ノ他ノ免許漁業ニ在リテハ漁業ノ種類及名稱

二 漁獲物ノ種類
三 漁業時期
四 漁業權存續期間

第二十三條 前條ノ願書ニハ漁場ノ位置及區域ヲ記載シタル漁場圖二通ヲ添附スヘシ
前項ノ記載事項ノ外定置漁業ノ漁場圖ニハ漁具ノ建設又ハ敷設ノ形狀ヲ、區劃漁業ノ漁場圖ニハ漁場ノ面積ヲ記載スヘシ

第二十四條 免許ヲ受ケムトスル漁場ノ敷地力他人ノ所有ニ屬スルトキ又ハ水面力他人ノ占有ニ係ルトキハ其ノ所有者又ハ占有者ノ同意ヲ證スル書面ヲ漁業ノ願書ニ添附スヘシ
第二十五條 二人以上共同シテ漁業ノ免許ヲ受ケムトスルトキハ内一人ヲ

選定シテ代表者ト爲シ之ヲ行政官廳ニ届出テ又ハ出願ノ書面ニ記載スヘシ

前項ノ規定ニ依リ代表者ノ届出又ハ記載ナキトキハ行政官廳ハ代表者ヲ指定スヘシ

第二十六條 代表者ハ共同者全員ノ三分ノ二以上ノ同意ヲ以テ之ヲ變更スルコトヲ得

代表者ニ變更アリタルトキハ行政官廳ニ之ヲ届出ツヘシ
代表者ノ變更ハ前項ノ届出ヲ爲スニ非サレハ之ヲ以テ行政官廳ニ對抗スルコトヲ得ス

第二十七條 前二條ノ規定ハ二人以上共同シテ漁業權又ハ之ヲ目的トスル權利若ハ入漁權ヲ取得シタル者ニ之ヲ準用ス

第二十八條 代表者ハ行政官廳ニ對シ共同者ヲ代表ス
第二十九條 代表者ハ行政官廳ニ對シ共同者ヲ代表ス

付其ノ共同者ヲ代表スル者ト看做ス
二十九條 漁業ノ免許ヲ與ヘタルトキハ左ノ事項ヲ公告スヘシ

一 免許ノ番號
二 免許ノ年月日
三 漁業權者又ハ代表者ノ氏名若ハ名稱及住所
四 漁場ノ位置
五 漁業ノ種類及名稱
六 漁獲物ノ種類
七 漁業時期
八 漁業權ノ存續期間

九 免許ニ條件又ハ制限ヲ附シタルトキハ其ノ事項
第三十條 漁業權ノ分割其ノ他ノ變更ノ許可ヲ受ケムトスルトキハ願書二通ヲ作リ免許ヲ受ケタル行政官廳ニ之ヲ出願スヘシ若シ登錄シタル權利

者アルトキハ其ノ同意ヲ證スル書面ヲ、其ノ出願力漁業權ノ分割又ハ漁場區域ノ變更ニ係ルトキハ尙其ノ分割又ハ變更スル漁場ノ漁場圖二通ヲ添附スヘシ

第二十三條ノ規定ハ前項ノ漁場圖ニ之ヲ準用ス

第三十一條 漁業權存續期間更新ノ免許ヲ受ケムトスルトキハ更新期間ヲ定メ申請書二通ヲ作り存續期間満了ノ日ヨリ少クトモ三月前ニ之ヲ申請スヘシ

第二十四條ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス但シ慣行ニ因リ免許ヲ受ケタル漁業權ニ付テハ此ノ限ニ在ラズ

第三十二條 漁業權ノ分割其ノ他ノ變更ヲ許可シタルトキ又ハ漁業權存續期間ノ更新ヲ免許シタルトキハ之ヲ公告スヘシ

第三十三條 漁業ノ免許ヲ取消シ、免許シタル漁業ヲ制限若ハ停止シ又ハ其ノ處分ヲ變更若ハ取消シタルトキハ當該官廳ハ之ヲ公告シ且遲滞ナク登錄シタル權利者ニ通知スヘシ但シ地方長官ノ免許シタル漁業ニ關シ農林大臣ノ爲シタル處分ノ通知ハ地方長官ノ爲スヘシ

第三十四條 漁業法第二十五條ノ規定ニ依リ地方長官漁業ノ免許ヲ取消サムトスルトキハ農林大臣ノ認可ヲ受クヘシ

第三十五條 漁業法第十條第二項ノ認可ヲ受ケムトスルトキハ其ノ事由ヲ具シ免許ヲ受ケタル行政官廳ニ之ヲ申請スヘシ

前項ノ場合ニ於テ漁業權者カ其ノ持分ノ處分ヲ爲ストキハ他ノ共有者ノ同意ヲ證スル書面ヲ、拋棄ヲ爲ストキハ登錄シタル權利者ノ同意ヲ證スル書面ヲ申請書ニ添附スヘシ

第三十六條 免許漁業ニ付休業ノ認可ヲ受ケムトスルトキハ休業期間ヲ定メ其ノ事由ヲ具シ免許ヲ受ケタル行政官廳ニ之ヲ申請スヘシ
前項ノ認可ヲ受ケタル者漁業ヲ爲スニ至リタルトキハ遲滞ナク之ヲ届出

ツヘシ

休業認可ノ期間内漁業ヲ爲シタルトキハ爾後認可ノ效力ヲ失フ

第三十七條 漁業權ヲ拋棄シタルトキハ免許ヲ受ケタル行政官廳ニ之ヲ届出ツヘシ
前項ノ届出ニハ登錄シタル權利者アルトキハ其ノ同意ヲ證スル書面ヲ添附スヘシ

第三十八條 土地ノ使用
第三十九條 前條ノ出願ヲ許可シタルトキハ行政官廳ハ所有者及占有者ニ之ヲ通知シ且公告スヘシ

第四十條 漁業權者ニ對シテ爲シタル漁業法第二十九條乃至第三十一條ノ許可ハ其ノ承繼人及其ノ漁業權ニ依リ漁業ヲ爲ス權利ヲ有スル者ノ爲メニモ效力ヲ有ス

第四十一條 漁業法第三十條ノ許可ヲ受ケムトスルトキハ土地ノ所在、地番、種目、面積及現況、所有者及占有者ノ氏名又ハ名稱及住所、使用ノ時期及期間ヲ記載シタル願書ニ圖面ヲ添ヘ行政官廳ニ之ヲ出願スヘシ

第四十二條 第三十八條及第四十一條ノ行政官廳ハ土地又ハ立木竹若ハ土石ノ所在地ヲ管轄スル地方長官トス但シ土地又ハ立木竹若ハ土石ノ所在地ト漁場トヲ管轄スル地方長官異ナルトキ又ハ漁場ヲ管轄スル地方長官

明確ナラサル漁業ノ爲ナルトキハ之ヲ農林大臣トス
 前項但書ノ場合ニ於テハ農林大臣ハ管轄地方長官ヲ指定スルコトヲ得
第四十三條 漁業法第三十一條ノ許可ヲ受ケムトスルトキハ土地又ハ支障
 木竹若ハ障礙物ノ所在地ヲ管轄スル警察官署ニ之ヲ出願スヘシ
第四十四條 漁業法第三十一條ノ規定ニ依リ他人ノ土地ニ立入り又ハ支障
 木竹ヲ伐採シ若ハ障礙物ヲ除去セムトスル者ハ當該官廳ノ許可證ヲ携帶
 スヘシ

第四章 蕃殖保護及漁業取締

第四十五條 漁業法第三十四條ニ依ル命令ハ官廳又ハ公署ニ於テ調査又ハ
 試驗ヲ爲ス場合ニ之ヲ適用セズ養殖、學術、研究其ノ他特別ノ理由ニ依
 リ行政官廳ノ許可ヲ受ケタル場合亦同シ
第四十六條 水産動物植物ヲ殺傷又ハ斃死セシムヘキ有毒物ヲ使用シテ水産
 動物植物ヲ採捕スルコトヲ得ス
第四十七條 漁業法第三十六條又ハ前條ノ規定ヲ犯シ採捕シタル水産動物
 植物ハ之ヲ所持又ハ販賣スルコトヲ得ス
第四十八條 遼河魚類ノ通路ヲ遮斷シテ漁業ヲ爲ストキハ地方長官ノ定ム
 ル所ニ依リ魚道ヲ開通スヘシ
第四十九條 行政官廳ハ漁業取締ノ爲定置漁業及特別漁業ニ付命令ヲ以テ
 保護區域ヲ設ケルコトヲ得
 保護區域ヲ設ケルトキハ其ノ漁業ノ妨害ト爲ルヘキ漁業ノ制限若ハ禁止
 ニ付規定ヲ設ケヘシ
第五十條 左ニ掲グル漁業ハ地方長官ノ許可ヲ受ケルニ非サレハ之ヲ爲ス
 コトヲ得ス
 一 藻手繰網漁業
 二 藻漕網漁業

〔山梨管〕

相手方ニ送付シ相當ノ期限ヲ指定シテ答辯書ヲ差出サシムヘシ
第五十九條 裁決ハ文書ヲ以テ之ヲ爲シ其ノ理由ヲ附スヘシ裁決ノ申請ヲ
 却下スルトキ亦同シ

第六章 罰則

第六十條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ三月以下ノ禁錮又ハ百圓以下ノ罰
 金ニ處ス
 一 第四十六條又ハ第四十七條ノ規定ヲ犯シタル者
 二 禁漁區内ニ於テ其ノ禁止シタル水産動物植物ヲ採捕シタル者
 前項ノ場合ニ於テハ犯人ノ所有シ又ハ所持スル漁獲物及漁具ハ之ヲ沒收
 ス但シ犯人ノ所有シタル前記物件ノ全部又ハ一部ヲ沒收スルコト能ハサ
 ルトキハ其ノ價額ヲ追徴ス
第六十一條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ五十圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處
 ス
 一 第四十八條又ハ第五十條第一項ノ規定ヲ犯シタル者
 二 禁漁區又ハ第九條ノ標識ヲ移轉シ、汚損シ又ハ毀壞シタル者
第六十二條 第五十一條ノ規定ヲ犯シタル者ハ科料ニ處ス

附則
第六十三條 本則ハ明治四十四年四月一日ヨリ之ヲ施行ス
第六十四條 本則施行前漁業ニ關シ農商務大臣又ハ地方長官ノ發シタル命
 令ノ規定ニシテ漁業法又ハ本則ノ規定ニ牴觸セサルモノハ漁業法及本則
 ニ依リ之ヲ發シタルモノト看做ス
第六十五條 本則施行前ノ漁業ニ關スル申請ニシテ未タ處分ヲ終ラサルモ
 ノニ關シテハ仍從前ノ例ニ依ル

附則 (大正十五年農林省令第十四號)
 本令ハ大正十五年七月一日ヨリ之ヲ施行ス

三 藻打網漁業

四 藻曳網漁業
 五 潛水器漁業
 六 空釣網漁業
 前項ノ漁業ノ地方名稱ハ地方長官之ヲ公示スヘシ
第五十一條 前條ノ漁業ヲ許可シタルトキハ鑑札ヲ下付スヘシ
第五十二條 地方長官禁漁區ヲ設ケタルトキハ適當ノ場所ニ其ノ標識ヲ建
 設スヘシ
第五十三條 漁場標識ヲ建設シタルトキハ其ノ漁場標識タルコトヲ明示ス
 ヘシ
第五十四條 臨檢、搜索及差押ニ關シテハ間接國稅犯則者處分法施行規則
 第二條乃至第五條、第八條及第十二條ノ規定ヲ準用ス

第五章 裁決

第五十五條 漁業法第五十六條第一項ノ裁決ヲ申請セムトスルトキハ漁業
 權ニ關シテハ漁業ノ免許ヲ與ヘタル行政官廳ニ、入漁權ニ關シテハ農林
 大臣ニ之ヲ爲スヘシ但シ關係者ニ免許ヲ與ヘタル行政官廳異ナルトキ又
 ハ漁業權者、入漁權者間ノ爭ニ關スルトキハ農林大臣ニ之ヲ爲スヘシ
第五十六條 裁決ノ申請書ニハ左ノ事項ヲ記載スヘシ
 一 申請者及相手方ノ氏名若ハ名稱及住所
 二 申請ノ目的及理由
 三 立證
 申請書ニハ證據書類ヲ添附スヘシ
第五十七條 申請書ニハ相手方ノ數ニ應シ前條書類ノ副本ヲ添附スヘシ
第五十八條 行政官廳ニ於テ裁決ノ申請書ヲ受理シタルトキハ其ノ副本ヲ

本令施行前從前ノ規定ニ依リ郡長又ハ島司ニ對シ爲シタル出願ハ本令ニ依
 リ之ヲ爲シタルモノト看做ス

● 漁業取締規則

明治三十六年一月 山梨縣令第二號

改正 大正四年八月縣令第三四號、一二年四月第二三號、一五年五月第三號、七月第九

三號、昭和二年九月第五三號、九年五月第一六號、一一年五月第二二號

第一條 漁業法及漁業法施行規則並本則ニ依ル出願、申請及届出ハ漁場所
 在地ノ町村役場若クハ市役所ヲ經由スヘシ
 農林大臣ニ出願申請又ハ届出ヲ爲ス場合ハ別ニ副本一通ヲ添付スヘシ漁
 業登錄令ニ依ル申請ニ付テハ前項ノ規程ヲ適用セズ
第二條 定置漁業ノ免許ヲ受ケムトスル者ハ漁場工事ノ設計書ヲ區劃漁業
 ノ免許ヲ受ケムトスル者ハ事業計畫書及經費收支豫算書ヲ願書ニ添付シ
 漁業開始期六十日前ニ出願スヘシ
 前項ノ出願ニシテ其ノ水面ガ官有ニ屬スルモノナルトキハ願書ニ左記事
 項ヲ併記シ漁場圖ノ外實測圖面(縮尺六百分ノ一)ヲ添付シ出願スベシ
 但シ漁業法施行規則第十三條第三號ノ漁業其ノ他漁業ノ爲工作物ヲ施設
 セザルモノ及慣行アル場所ニ於テ其ノ慣行ニ從ヒ漁業ヲ爲スモノハ此限
 リニアラズ
 一、使用水面ノ面積
 二、使用料
第三條 左ニ掲グル漁業ヲ爲サムトスル者ハ漁具ノ構造(鵜飼ニ在リテハ
 鵜ノ羽數引網刺網及寄セ網ニアリテハ漁具一尺ノ節數及漁具ノ大サ、延
 繩ニ在リテハ針ノ數目ニ在リテハ漁具ノ口徑)漁獲物ノ種類、名稱、漁
 業ノ時期及場所ヲ記載シ知事ノ許可ヲ受ケベシ

- 一、鵜飼漁業
- 一、引網漁業
- 一、刺網漁業
- 一、寄七網漁業
- 一、延繩漁業
- 一、罾漁業(口徑參拾釐以上ニシテ堰ヲ建設セザルモノ)
- 前項漁業ヲ許可シタルトキハ鑑札ヲ下附ス
- 第四條 前條ニ依リ許可ヲ受ケタル者漁業ニ従事スルトキハ必ズ鑑札ヲ携帶スベシ但シ鑑札書換又ハ再下附申請中ナルトキハ市町村長ノ證明書ヲ携帶スベシ
- 第五條 當該官吏ニ於テ指令書若クハ漁業鑑札ノ提示ヲ命ジタルトキハ之ヲ拒ムコトヲ得ズ
- 第六條 鑑札ヲ亡失又ハ毀損若クハ鑑札面記載事項ニ異動ヲ生ジタルトキハ事由ヲ具シ再下附又ハ書換ヲ知事ニ願出ヅベシ但シ亡失シタルトキハ外鑑札ヲ添付スベシ亡失シタル鑑札ヲ發見シタルトキハ其ノ鑑札ヲ添へ一週間以内ニ届出ヅベシ
- 第七條 鑑札ハ相續、讓渡、共有又ハ貸付ヲ爲スコトヲ得ズ
- 第八條 第三條ノ漁業ヲ廢止シタル時ハ十日以内ニ鑑札ヲ添付シ知事ニ届出ヅベシ但シ漁業者死亡又ハ行衛不明トナリタルトキハ戶籍法ノ届出義務者ヨリ届出ヅベシ
- 第九條 水産動物ノ蕃殖保護其ノ他公益上必要アリト認ムルトキハ第三條ノ漁業ノ許可ヲ制限シ若クハ停止シ又ハ取消ヲ命ズルコトアルベシ
- 第十條 過河魚類ノ通路ヲ遮斷シテ漁業ヲ爲ストキハ河川流幅ノ五分ノ一以上ノ魚道ヲ開通スベシ
- 第十一條 富士川及左記ノ箇所ニ於テハ魴類漁業ヲ禁ズ

〔山梨管〕

- 一、釜無川 左岸北巨摩郡並崎町全部 標木ヲ起點トシテ 右岸同郡神山村大字武田 標木ヲ起點トシテ
- 下流釜無川 菅吹川 三川 落合 左岸西八代郡市川大門町全部 標木 右岸中巨摩郡南湖村大字東南湖 標木
- 一、菅吹川 左岸東八代郡一宮町大字田中 標木ヲ起點トシテ 下流 左岸西八代郡市川大門町全部 標木ヲ起點トシテ 下流 左岸中巨摩郡南湖村大字今福字今福新田 標木迄
- 第十二條 前條禁止區域内ニ於テ罾敷設ノ期間ハ日没後ヨリ日ノ出前トス且ツ漁具敷設ノ爲水中ニ杭柵ヲ樹テ流形ヲ變更セシム可ラズ
- 第十三條 左ニ掲グル水産動物ハ下ニ定ムル期間内ニ於テ之ヲ捕獲シ又ハ其ノ捕獲シタル水産動物ヲ所持若クハ販賣スルコトヲ得ズ
- 一、鮎 一月一日ヨリ五月三十一日迄
- 一、鰻 十月十五日ヨリ十一月十五日迄
- 一、鰻 一月一日ヨリ五月三十一日迄
- 一、丙穴魚 十月一日ヨリ翌年二月末日迄
- 第十三條ノ二 左ニ掲グル水産動物ヲ捕獲シ又ハ其ノ捕獲シタルモノヲ所持若クハ販賣スルコトヲ得ズ
- 一、鯉、姬鱒、虹鱒及河鱒全長十七釐以下
- 一、丙穴魚及イワナ全長十釐以下
- 第十四條 左記ノ河川ニ於テ下ニ定ムル期間鵜飼漁業ヲ禁ズ
- 富士川
- 菅吹川、菅吹川、重川、日川合流點ヨリ下流 自一月一日 至六月十五日
- 釜無川、釜無川、塩川合流點ヨリ下流 自十月一日 至六月十五日
- 桂川、桂川、笹子川合流點ヨリ下流 自十一月三十日 至十一月三十日

〔山梨管〕

- 桂川北都留郡巖村標木ヨリ下流 自一月一日 至六月十五日
- 自十月一日 至十一月三十日
- 前項以外ノ河川及北都留郡廣里村駒橋東京電燈株式會社八ッ澤發電所水路取入口堰堤ノ下流百五十間ノ處ニアル標木ヨリ下流 左岸北都留郡大原村字死鳥尾 標木迄ノ桂川ニ於テハ鵜飼漁業ヲ禁ズ
- 第十四條ノ二 左記箇所ニ於テ引網、刺網、延繩漁業及採藻ヲ禁ズ
- 河口湖 南都留郡船津村河口村界産屋ヶ崎ヨリ河口村大石村界馬乗ヶ石ニ至ル見通線内
- 第十四條ノ三 左記箇所ニ於テ水産動物ノ捕獲ヲ禁ズ但シ荒川ニ於テ釣具ヲ以テ爲スハ此ノ限リニアラズ
- 荒川 西山梨郡能泉村 仙娥瀧標木ヨリ下流 西山梨郡千代田村 天神平標木迄
- 中巨摩郡宮本村 中巨摩郡吉澤村 村長迄
- 桂川 北都留郡廣里村駒橋東京電燈株式會社八ッ澤發電所水路取入口堰堤ノ上下流共各百五十間標木迄
- 河口湖 南都留郡大石村桑崎ヨリ同村扇崎同村長濱村界寺崎ヲ經テ長濱村長崎ニ至ル線内
- 西湖 南都留郡西湖村大字西湖獅子岩ノ鼻ヨリ長崎ニ至ル見通線内
- 山中湖 南都留郡中野村大字山中字堂之前六拾八番ノ貳地先道路ヨリ、同點ヨリ三國峠ヲ見通シタル百七拾間ノ點、同郡同村同大字字梁尻千四百六拾五番地先水路東端ヨリ三國峠ヲ見通シタル百七拾間ノ點ヲ經テ同字千四百六拾五番地先水路東端ニ至ル線内
- 南都留郡中野村大字平野字長池參千貳百參拾九番西南端ヨリ、同點ヨリ籠坂峠ヲ見通シタル百五拾間ノ點、同郡同村同大字同

- 字參千貳百貳拾參番東南端ヨリ大洞山頂上ヲ見通シタル百五十間ノ點ヲ經テ同字參千貳百貳拾參番東南端ニ至ル線内
- 南都留郡中野村大字平野字古屋千九百九拾七番東南端ヨリ小島ノ岬ヲ見通シタル線内
- 第十四條ノ四 左ニ掲グル漁具又ハ漁法ニ依リ水産動物ヲ採捕スルコトヲ得ズ
- 一 瀨干
- 一 瓶伏
- 一 引懸(覗水鏡ヲ併用スルモノ)
- 一 鵜飼漁法ニ立廻網ヲ併用スル漁法
- 一 水中ニ電流ヲ通シテ爲ス漁法
- 第十五條 漁業者ニ非ラザル者ハ左ニ掲グル漁具漁法ニ依ルノ外水産動物ヲ採捕スルコトヲ得ズ
- 一 釣
- 二 四ッ手網
- 三 又手網
- 四 投網
- 五 向手
- 六 沸手
- 七 罾(口徑三拾釐未滿ノモノ)
- 八 獵
- 九 手攫
- 第十六條 漁業法施行規則第四十九條ニ依リ保護區域ヲ設クルコト左ノ如シ
- 魴類漁業 築

水口二間未滿ハ漁場ノ上流三十間 下流三間
 水口二間以上三間未滿ハ漁場ノ上流五十間 下流五間
 水口三間以上五間未滿ハ漁場ノ上流七十間 下流七間
 水口五間以上ハ漁場ノ上流百間 下流十間

第十七條 前條ノ保護區域内ニ於テハ免許ニ依ル漁業者ノ就業中ハ其ノ目的トスル魚類ノ通路ヲ遮斷シ若クハ之ヲ漁獲スルコトヲ得ズ

第十八條 養殖又ハ學術研究其ノ他特別ノ事由ニ依リ本則ニ於テ制限禁止シタル水産動物ヲ捕獲若クハ制限禁止シタル漁具漁法ヲ以テ水産動物ノ捕獲ヲ爲サントスル者ハ左ノ事項ヲ記載シ知事ノ許可ヲ受クベシ

- 一 捕獲ノ目的
- 一 捕獲スベキ水産動物ノ種類及名稱
- 一 捕獲ノ場所
- 一 捕獲ノ時期
- 一 捕獲ノ方法(制限禁止シタル漁具漁法ヲ以テスルトキハ其ノ漁具漁法)

第十九條 免許ニ依ル漁業者ハ漁場標識ヲ建設スベシ
 前項標識ヲ建設シタルトキハ市町村長ニ届出檢査ヲ受クベシ

第二十條 漁場標識ニハ左ノ事項ヲ記載スベシ

- 一 漁業ノ種類及名稱
 - 一 漁場ノ區域
 - 一 漁業者ノ住所、氏名
- 標識ハ四寸角以上ノ木或ハ石ヲ用キ水面又ハ地上ヨリ高サ五尺以上タルベシ

第二十一條 許可ヲ受ケズシテ第三條ノ漁業ヲ爲シタル者又ハ第十一條、第十三條乃至第十四條ノ四ニ違反シタル者ハ五拾圓以下ノ罰金ニ處ス

〔山梨警〕

前項ノ場合ニ於テハ其ノ漁具及漁獲物ヲ沒收ス
 漁獲物現存セザルトキハ其ノ價格ヲ追徴ス

第二十二條 第四條、第五條、第七條、第十二條、第十五條、第十七條、第十九條ノ規定ニ違反シタル者ハ三十日未滿ノ拘留又ハ貳拾圓未滿ノ科料ニ處ス

第二十三條 使用人又ハ從業者ノ所爲ハ漁業者ノ所爲ト見做シ本則ニ定メタル罰則ハ之ヲ漁業者ニ適用ス

附則
 本則ハ公布ノ日ヨリ施行ス
 本則施行前第三條ノ刺網漁業延繩漁業ヲ爲シ施行後仍引續キ之ヲ爲サムトスル者ハ本則施行後二箇月以内ニ許可ノ出願スベシ
 本令ハ昭和十一年六月一日ヨリ之ヲ施行ス
 本令施行前ヨリ引續キ第三條ノ寄セ網漁業ヲ爲ス者ハ本令施行後二月以内ニ限り本則ニ依リ許可ヲ受ケザルモ仍其ノ漁業ヲ爲スコトヲ得
 前項ノ漁業者ガ前項ノ期間内ニ其ノ許可ヲ出願シタルトキハ許可ノ處分ヲ受クル迄ノ間亦前項ニ同ジ

第十一章 電氣、瓦斯

●電氣事業法

昭和六年四月二日 法律第六十一號

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル電氣事業法改正法律ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

電氣事業法

第一條 本法ニ於テ電氣事業ト稱スルハ左ニ掲ゲルモノヲ謂フ

- 一 一般ノ需用ニ應ジ電氣ヲ供給スル事業
- 二 一般運送ノ用ニ供スル鐵道又ハ軌道ノ動力ニ電氣ヲ使用スル事業
- 三 第一號又ハ前號ノ事業ニ電氣ヲ供給スル事業

第二條 本法ニ於テ電氣工作物ト稱スルハ電氣ノ供給又ハ使用ノ爲施設スル水路、貯水池、器具、機械、電線路其ノ他ノ工作物ニシテ電氣事業ノ用ニ供スルモノヲ謂フ

前項ニ於テ電線路ト稱スルハ電氣ノ傳送ニ用フル電氣導體及之ヲ支持シ又ハ保護スル工作物ヲ謂フ

第三條 電氣事業ヲ營マントスル者ハ左ノ書類ヲ具シ主務大臣ノ許可ヲ受クベシ

- 一 起業目論見書
- 二 工事設計書

〔山梨警〕

三 工事費概算書

四 事業上ノ收支概算書

電氣事業者前項ノ書類ニ掲ゲル事項中重要ナルモノヲ變更セントスルトキハ主務大臣ノ許可ヲ受クベシ

第四條 電氣事業者ハ主務大臣ノ指定スル期間内ニ工事施行ノ認可ヲ申請シ、工事ニ著手シ及其ノ事業ヲ開始スベシ
 主務大臣ハ正當ノ事由アリト認ムル場合ニ限り前項ノ期間ノ伸長ヲ許可スルコトヲ得

第五條 電氣事業者ハ命令ノ定ムル所ニ依リ行政官廳ノ認可ヲ受クルニ非ザレバ工事ヲ施行シ又ハ電氣工作物ヲ使用スルコトヲ得ズ

第六條 電氣事業者ハ行政官廳ノ許可ヲ受ケ他人ノ土地ニ立入り電氣工作物ノ施設ニ關スル調査若ハ測量ヲ爲シ又ハ工事ノ爲他人ノ土地ニ立入ルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ少クトモ五日前ニ市町村長ニ其ノ日時及場所ヲ通知シ市町村長ハ之ヲ告示シ又ハ其ノ旨ヲ土地ノ占有者ニ通知スベシ

電氣事業者ハ電氣工作物ノ修理又ハ巡視ノ爲必要アルトキハ其ノ工作物ヲ施設シタル他人ノ土地又ハ建造物ニ立入ルコトヲ得但シ日没ヨリ日出迄ノ間ニ於テハ危險急迫ノ場合ニ非ザレバ占有者ノ意ニ反シテ邸宅又ハ建造物ニ立入ルコトヲ得ズ

第七條 電氣事業者ハ必要アルトキハ電線路ノ施設又ハ保守ニ障害ヲ及ボスベキ植物ヲ伐除シ又ハ移植スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テハ電氣事業者ハ植物ノ所有者ト協議スベシ協議調ハズ又ハ協議ヲ爲スコト能ハザルトキハ行政官廳ノ許可ヲ受ケ之ヲ伐除シ又ハ移植スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ電氣事業者ハ豫メ其ノ旨ヲ植物ノ所有者ニ通知スベシ

危険急迫ノ場合ニ於テハ電氣事業者ハ前項ノ規定ニ拘ラズ直ニ植物ヲ伐除シ又ハ移植スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ遲滞ナク其ノ旨ヲ行政官廳ニ届出テ且植物ノ所有者ニ通知スベシ

第八條 電氣事業者ハ道路、橋梁、溝渠、河川、堤防其ノ他公共ノ用ニ供セラルル土地ノ地上又ハ地中ニ電線ヲ施設スル必要アルトキハ其ノ效用ヲ妨ゲザル限度ニ於テ其ノ管理者ノ許可ヲ受ケテ之ヲ使用スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テハ電氣事業者ハ管理者ノ定ムル所ニ依リ使用料ヲ納ムベシ
管理者正當ノ事由ナクシテ第一項ノ許可ヲ拒ミタルトキ又ハ管理者ノ定メタル使用料ノ額ヲ不相當ナリトスルトキハ主務大臣ハ電氣事業者ノ申請ニ依リ使用料ノ額ヲ決定スルコトヲ得
前三項ノ規定ハ道路法ニ依リ道路及其ノ附屬物並ニ道路法第七條ノ規定ニ依リ同法ノ規定ヲ準用スル道路及其ノ附屬物ト爲ルベキモノニ關シテハ之ヲ適用セズ

第九條 電氣事業者ハ必要アルトキハ現在ノ使用方法ヲ妨ゲザル限度ニ於テ他人ノ地上ノ空間若ハ地中ニ電線ヲ施設シ又ハ建造物ノ存在セザル他人ノ土地ニ電線ヲ支持物ヲ建設スルコトヲ得

電氣事業者前項ノ規定ニ依リ他人ノ土地ヲ使用セントスル場合ニ於テハ其ノ所有者及占有者ト協議スベシ協議調ハズ又ハ協議ヲ爲スコト能ハザルトキハ其ノ使用ノ範圍ヲ定メ豫メ地方長官ノ許可ヲ受ケテ其ノ工事ニ著手スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ少クとも五日以前ニ其ノ旨ヲ土地ノ所有者及占有者ニ通知スベシ

第十條 第六條、第七條及前條ノ場合ニ於テ現ニ生ジタル損失ハ電氣事業者之ヲ補償スベシ

〔山梨警〕

前項ノ補償金額ハ當事者間ノ協議ニ依リ協議調ハズ又ハ協議ヲ爲スコト能ハザルトキハ許可ヲ爲シタル行政官廳之ヲ裁定ニ裁定ニ不服アル者ハ其ノ通知ヲ受ケタル日ヨリ三月内ニ通常裁判所ニ出訴スルコトヲ得
行政官廳ハ必要アリト認ムルトキハ電氣事業者ヲシテ損失ノ補償ニ充ツベキ金額ヲ供託セシムルコトヲ得

第十一條 電線ヲ施設シタル土地ノ近接地又ハ第九條ノ規定ニ依リ電線路ヲ施設シタル土地ノ所有者又ハ占有者ハ土地ノ使用方法ヲ變更スル爲必要アルトキハ命令ノ定ムル所ニ依リ電氣事業者ニ對シ障害ノ豫防又ハ除却ニ必要ナル方法ヲ施スコトヲ請求スルコトヲ得

前項ノ工事ニ要スル費用ハ勅令ニ別段ノ定アル場合ヲ除クノ外電氣事業者ノ負擔トス但シ其ノ工事ヲ爲シタル後正當ノ事由ナクシテ豫定ノ變更ヲ爲サザルトキハ請求者ノ負擔トス

第十二條 電氣事業者ハ地中電氣工作物ヲ施設スル場合ニ於テ他人ニ屬スル地中電氣工作物ノ位置ヲ變更スル必要アルトキハ當該工作物ノ效用ヲ妨ゲザル限度ニ於テ其ノ位置ヲ變更シ又ハ其ノ工作物ノ所有者ヲシテ此ノ變更ヲ爲サシムルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テハ電氣事業者ハ工作物ノ所有者ト協議スベシ協議調ハズ又ハ協議ヲ爲スコト能ハザルトキハ命令ノ定ムル所ニ依リ主務大臣ノ許可ヲ受ケベシ

第十三條 電氣工作物相互間及電氣工作物ト其ノ他ノ工作物トノ間ニ於ケル障害防止ノ爲必要ナル施設ニ關スル事項ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第十四條 前二條ニ規定スル工事又ハ施設ニ關スル費用ノ負擔、損失ノ補償其ノ他ノ事項ハ命令ヲ以テ定ムルモノヲ除クノ外當事者間ノ協議ニ依リ協議調ハズ又ハ協議ヲ爲スコト能ハザルトキハ主務大臣之ヲ裁定ス
電氣工作物ト其ノ他ノ工作物トノ間ニ關スル裁定中負擔金額又ハ補償金額

額ニ付不服アル者ハ裁定ノ通知ヲ受ケタル日ヨリ三月内ニ通常裁判所ニ出訴スルコトヲ得

第十五條 電氣事業者ハ正當ノ事由アルニ非ザレバ電氣ノ供給ヲ拒ムコトヲ得ズ
電燈ノ光度、供給點ニ於テ保持スベキ電壓、周波數、電氣工作物其ノ他供給業務ニ關スル事項ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第十六條 電氣事業者ハ主務大臣ノ許可ヲ受ケルニ非ザレバ供給事業ノ全部又ハ一部ヲ休止シ又ハ廢止スルコトヲ得ズ
第一條第一號又ハ第三號ノ電氣事業會社ノ解散ノ決議又ハ社員ノ同意ハ主務大臣ノ認可ヲ受ケルニ非ザレバ其ノ效力ヲ生セズ

第十七條 電氣事業者電氣料金其ノ他供給條件ヲ設定シ又ハ變更セントスルトキハ命令ノ定ムル所ニ依リ主務大臣ノ認可ヲ受ケベシ
主務大臣ハ公益上必要アリト認ムルトキハ電氣事業者ニ對シ電氣料金其ノ他供給條件ニ關シ必要ナル命令ヲ爲スコトヲ得

第十八條 第一條第一號又ハ第三號ノ電氣事業會社ハ事業擴張ノ場合ニ於テ主務大臣ノ認可ヲ受ケ其ノ事業ニ屬スル電氣工作物施設ノ費用ニ充ツル爲株金全額拂込前ト雖モ其ノ資本ヲ増加スルコトヲ得

第十九條 第一條第一號又ハ第三號ノ電氣事業會社ハ主務大臣ノ認可ヲ受ケ其ノ事業ニ屬スル電氣工作物施設ノ費用ニ充ツル爲商法第二百條ノ規定ニ依リ制限ヲ超エテ社債ヲ募集スルコトヲ得但シ社債ノ總額ハ拂込ミタル株金額ノ二倍ヲ超ユルコトヲ得ズ

最終ノ貸借對照表ニ依リ會社ニ現存スル財産ガ拂込ミタル株金額ニ滿タザルトキハ前項ノ規定ヲ適用セズ
第一項ノ規定ニ依リ募集スル社債ニ付テハ工場抵當法ニ依リ會社ノ事業ニ屬スルモノヲ抵當ト爲スコトヲ要ス但シ特別ノ事情アル場合ニ於テ主

務大臣其ノ必要ナシト認メタルトキハ此ノ限ニ在ラズ

第二十條 電氣事業者ハ命令ノ定ムル所ニ依リ主任技術者ヲ選任シ技術ニ關スル事項ヲ擔任セシムベシ
主務大臣ハ主任技術者ガ其ノ職務ヲ怠リ又ハ其ノ職務ヲ行フニ當リ不當ナル行爲ヲ爲シタルトキハ其ノ解任ヲ命ズルコトヲ得

第二十一條 第一條第一號又ハ第三號ノ電氣事業會社ハ命令ノ定ムル所ニ依リ主務大臣ノ認可ヲ受ケルニ非ザレバ其ノ事業ヲ營ムコトヲ得ズ

第二十二條 電氣事業會社ニ關スル事項ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム
及財産ノ狀況ニ關シ検査ヲ爲シ又ハ報告ヲ爲サシムルコトヲ得

第二十三條 行政官廳ハ電氣事業者ニ對シ電氣工作物及其ノ工事並ニ業務シ改善、改善其ノ他監督上必要ナル事項ヲ命ズルコトヲ得
第二十四條 主務大臣ハ公益上必要アリト認ムル場合ニ於テハ電氣設備ノ效用ヲ増進シ又ハ電氣ノ需給ヲ調節スル爲電氣事業者ニ對シ電氣工作物ノ施設、變更若ハ共用、電氣ノ流用又ハ工事ニ關スル期間ノ伸縮ヲ命ズルコトヲ得

前項ノ命令ニ因リ必要ヲ生ジタル工事費用ノ負擔其ノ他ノ事項ハ關係電氣事業者ノ協議ニ依リ協議調ハズ又ハ協議ヲ爲スコト能ハザルトキハ主務大臣之ヲ裁定ス

第二十五條 電氣事業者ハ主務大臣ノ認可ヲ受ケルニ非ザレバ其ノ事業ノ全部又ハ一部ヲ讓渡スコトヲ得ズ
電氣事業者ガ電氣事業ニ屬スルモノノ全部又ハ一部ヲ以テ設定シタル工場財團ノ發行人電氣事業者ナルトキハ當然其ノ事業ヲ承繼ス

第二十六條 電氣事業會社ハ主務大臣ノ認可ヲ受ケルニ非ザレバ合併ヲ爲スコトヲ得ズ

第二十七條 左ノ場合ニ於テハ第三條ノ許可ハ當該範圍ニ付其ノ效力ヲ失フ

一 指定ノ期間内ニ工事施行ノ認可ヲ申請セズ、工事ニ著手セズ又ハ事業ヲ開始セザルトキ

二 工事施行ノ認可ナキトキ

三 供給事業ノ全部又ハ一部ニ付廢止ノ許可ヲ受ケタルトキ

四 電氣事業會社ガ解散シタルトキ

第二十八條 主務大臣ハ左ノ場合ニ於テ第三條ノ許可ノ全部若ハ一部ヲ取消シ又ハ會社ノ取締役其ノ他ノ役員ノ改任ヲ命ズルコトヲ得

一 電氣事業者ガ法令若ハ法令ニ基キテ爲ス處分又ハ許可若ハ認可ニ付シタル條件ニ違反シタルトキ

二 電氣事業者ガ其ノ供給區域内ノ一部分ニ供給ヲ開始シタル後久シキニ互リ其ノ殘餘部分ニ對シ電線路其ノ他供給上必要ナル設備ヲ爲サザルトキ

三 電氣事業者ガ公益ヲ害スル行爲ヲ爲シタルトキ

主務大臣ハ前項第一號ノ場合ニ電氣事業者ノ計算ニ於テ他ノ電氣事業者ヲシテ必要ナル施設又ハ事業ノ管理ヲ爲サシムルコトヲ得

第二十九條 國ハ公益上ノ必要ニ因リ第一條第一號又ハ第三號ノ事業ヲ買収スルコトヲ得

公共團體ハ公益上ノ必要ニ因リ主務大臣ノ許可ヲ受ケテ前項ノ事業ノ買収ヲ爲スコトヲ得

前二項ノ規定ニ依リ事業ノ一部ヲ買収セラルルニ因リテ殘存事業ノ全部又ハ一部ニ付事業ヲ繼續スルコト能ハザルトキハ電氣事業者ハ國又ハ公共團體ニ對シ殘存事業ノ全部又ハ一部ヲ買収ヲ請求スルコトヲ得

前三項ノ規定ニ依リ買収價格、買収範圍其ノ他買収ノ條件ハ當事者間ノ

協議ニ依リ協議調ハズ又ハ協議ヲ爲スコト能ハザルトキハ主務大臣之ヲ裁定ス

前項ノ裁定中買収價格ニ付不服アル者ハ裁定ノ通知ヲ受ケタル日ヨリ三月内ニ通常裁判所ニ出訴スルコトヲ得

第三十條 第一條ニ掲グル事業ヲ除クノ外電氣施設ヲ爲スモノニ關スル規定ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

前項ニ規定スルモノノ中重要ナル産業又ハ公共ノ利益ト爲ルベキ事業ノ爲電氣ヲ供給又ハ使用スル事業ニ關シテハ勅令ノ定ムル所ニ依リ本法ヲ準用ス

第三十一條 國ニ於テ電氣事業ヲ營メントスルトキハ當該官廳ハ主務大臣ト協議スベシ第三條第二項ノ事項ヲ變更セントスルトキ亦同シ

國ニ於テ電氣事業ニ關シテハ第三條乃至第五條、第十五條乃至第二十三條、第二十五條乃至前條及第三十五條乃至第三十八條ノ規定ヲ適用セズ

第三十二條 第二十四條第一項又ハ第二十八條第一項ノ規定ニ依リ命令又ハ處分其ノ他電氣事業ニ關スル重要事項ニ付主務大臣ノ諮問ニ應ズル爲電氣委員會ヲ置ク

電氣委員會ニ關スル規程ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第三十三條 電氣工作物ヲ損壞シ、之ニ物品ヲ接觸シ又ハ其ノ他ノ方法ヲ以テ電氣ノ供給又ハ使用ヲ妨害シタル者ハ五年以下ノ懲役又ハ三千圓以下ノ罰金ニ處ス

前項ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

第三十四條 電氣事業者ノ承諾ヲ得ズシテ濫ニ電氣工作物ノ施設ヲ變更シタル者ハ五百圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

第三十五條 本法若ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ依リ許可若ハ認可ヲ受ケ

(山梨管)

●電氣事業法施行令

昭和七年十一月二十一日 勅令第三百五十四號

朕電氣事業法施行令ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

電氣事業法施行令

第一條 電氣事業法第六條第一項及第七條ノ行政官廳ハ地方長官トシ府縣支廳及北海道支廳ノ管轄區域ニ在リテハ支廳長トス

第二條 電氣事業法第八條第三項ノ主務大臣ハ内務大臣及逓信大臣トス

第三條 電氣工作物ノ施設又ハ變更スル爲電氣事業法第十一條第一項ノ規定ニ依リ請求ヲ爲シタル場合ニ於テハ同條同項ノ工事ニ要スル費用ノ負擔ハ當事者間ノ協議ニ依リ協議調ハズ又ハ協議ヲ爲スコト能ハザルトキハ逓信大臣之ヲ裁定ス

第四條 電氣事業者ガ公共團體ナル場合ニ於テ逓信大臣電氣事業法第十七條第一項ノ規定ニ依リ電氣供給規程ノ設定又ハ變更ニ付處分ヲ爲サントスルトキハ内務大臣ニ協議スベシ逓信大臣同條第二項ノ規定ニ依リ命令ヲ爲サントスルトキ亦同シ

第五條 電氣事業法第二十三條第一項ノ行政官廳ハ逓信大臣及逓信局長トス

地方長官(東京府ニ在リテハ警視總監)ハ保安上必要アル場合ニ於テハ電氣事業法第二十三條第一項ニ規定スル權限ヲ行フコトヲ得但シ財産ノ狀況ニ關シテハ此ノ限ニ在ラズ

第六條 電氣事業法第二十九條ノ規定ニ依リ公共團體ガ電氣事業ノ買収ヲ爲ス場合ニ於テ逓信大臣同條ノ規定ニ依リ處分ヲ爲サントスルトキハ内務大臣ニ協議スベシ

第七條 電氣事業法第三十條第二項ノ規定ニ依リ電氣事業法ヲ準用スル事

附則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム(昭和七年十一月勅令第三百五十三號ヲ以テ同年十二月一日ヨリ施行)

本法ニ依リ新ニ許可又ハ認可ヲ受ケベキモノト爲リタル事項ニシテ本法施行ノ際現ニ存スルモノハ之ヲ本法ニ依リ許可又ハ認可ヲ受ケタルモノト看做ス

第三十八條 本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ依リ電氣事業者ニ適用スベキ罰則ハ電氣事業者法人ナルトキハ取締役其ノ他法人ノ業務ヲ執行スル役員ニ、未成年者又ハ禁治産者ナルトキハ其ノ法定代理人ニ之ヲ適用ス但シ營業ニ關シ成年者ト同一ノ能力ヲ有スル未成年者ニ付テハ此ノ限ニ在ラズ

第三十七條 電氣事業者ハ其ノ代理人、戶主、家族、雇人其ノ他ノ從業者ガ其ノ業務ニ關シ本法若ハ本法ニ基キテ發スル命令又ハ之ニ基キテ爲ス處分ニ違反シタルトキハ自己ノ指揮ニ出テザルノ故ヲ以テ其ノ處罰ヲ免ルルコトヲ得ズ

第二十四條 第一項ニ依リ命令ニ違反シタル者ハ二千圓以下ノ罰金ニ處ス

第三十六條 電氣事業者左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

一 第十五條第一項ノ規定ニ違反シタルトキ

二 正當ノ事由ナクシテ第二十三條ノ規定ニ依リ検査ヲ拒ミ、妨ゲ若ハ忌避シ又ハ報告ヲ爲サズ若ハ虛偽ノ報告ヲ爲シ其ノ他行政官廳ノ命シタル事項ヲ爲サザルトキ

第三十七條 電氣事業者ハ其ノ代理人、戶主、家族、雇人其ノ他ノ從業者ガ其ノ業務ニ關シ本法若ハ本法ニ基キテ發スル命令又ハ之ニ基キテ爲ス處分ニ違反シタルトキハ自己ノ指揮ニ出テザルノ故ヲ以テ其ノ處罰ヲ免ルルコトヲ得ズ

業ハ逡信大臣之ヲ認定ス
電氣事業法第三十條第二項ノ規定ニ依リ前項ノ認定ヲ受ケタル事業ニ準
用スルハ同法第二條、第五條乃至第十四條、第二十三條(電氣工作物及
其ノ工事ニ關スル事項ニ限ル)、第二十四條及第三十二條乃至第三十八條
トス

逡信大臣ニ於テ第一項ノ規定ニ依リ認定ヲ爲シタルトキハ事業者、事業
ノ種類及事業地ヲ官報ニ公告スベシ其ノ公告事項ニ變更ヲ生ジタルトキ
亦同シ

第八條 逡信大臣ハ前條第一項ノ規定ニ依リ認定カ計畫ノ變更ニ因リ其ノ
必要ナキニ至リタルトキ又ハ事業者ガ指定ノ期間内ニ電氣施設ノ認可ヲ
申請セズ若ハ久シキニ亙リ電氣施設ヲ爲サザルトキハ其ノ認定ヲ取消ス
コトヲ得

前項ノ規定ニ依リ認定ノ取消ニ關シテハ前條第三項ノ規定ヲ準用ス
第九條 第七條ノ規定ニ依リ認定ヲ受ケタルモノノ中國ニ於テ營業ム事業ニ
關シテハ同條第二項ノ規定ニ拘ラズ電氣事業法第五條、第二十三條及第
三十五條乃至第三十八條ノ規定ヲ準用セズ

附則

本令ハ昭和七年十二月一日ヨリ之ヲ施行ス
明治四十四年勅令第二百三十六號及第二百三十七號ハ之ヲ廢止ス
從前ノ規定ニ依リテ受ケタル電氣事業法準用事業ノ認定ハ之ヲ本令ニ依リ
テ受ケタルモノト看做ス

●電氣事業法施行規則(抄録)

昭和七年十一月二十一日
逡信省令第五十二號

〔山梨管〕

電氣事業法施行規則左ノ通改正ス
電氣事業法施行規則

目次

- 第一章 事業ノ創設及變更
- 第二章 工事
- 第一節 工事施行
- 第二節 電氣工作物使用
- 第三章 電氣工作物施設ニ關スル權利義務並ニ裁定
- 第四章 主任技術者
- 第五章 業務
- 第一節 供給業務
- 第二節 保安業務
- 第三節 電氣料金其ノ他供給條件
- 第四節 諸般ノ業務
- 第六章 検査
- 第七章 事業設備統制
- 第八章 事業ノ移轉及廢止
- 第九章 國ニ於テ營業ム電氣事業
- 第十章 雜則
- 第十一章 罰則
- 附則

電氣事業法施行規則

第一章 事業ノ創設及變更

第二十一條 電氣工作物ノ滅失又ハ損壞ニ因リ復舊工事ハ直ニ之ニ著手ス
ルコトヲ得

〔山梨管〕

發電設備又ハ變電設備ノ復舊工事ニ關シテハ第十八條第一項ノ事項ヲ變
更スルトキト雖モ緊急ノ必要アル場合ニ限り直ニ工事ニ著手スルコトヲ
得此ノ場合ニ於テハ其ノ事由ヲ具シ逡信大臣又ハ所轄
ヲ申請スベシ

前條ニ掲グル電氣工作物ノ復舊工事ニ著手シタルトキハ關係ノ書類圖面
ヲ具シ第十二條第一項ノ區別ニ依リ逡信大臣又ハ所轄
逡信局長ニ届出ヅベシ

第二十二條 左ノ場合ニ於テハ工事方法ヲ具シ所轄逡信局長ニ認可ヲ申請
スベシ此ノ場合ニ於テハ第十八條第一項及第十九條第一項ノ規定ヲ適用
セズ

一 電氣工作物ノ滅失若ハ損壞又ハ漏水其ノ他事故ノ場合ニ於テ電力ノ
不足ヲ補給スル爲三月内ヲ限リ他ヨリ受電セントスルトキ

二 前號又ハ自家用電氣工作物施設規則第十七條若ハ第五十三條ノ場合
ニ於テ他ヨリ受電セントスル者ニ對シ供給關係ヲ設定セントスルトキ
第二十三條 第十二條第一項、第十八條第一項又ハ第十九條第一項ノ規定
ニ依リ認可ヲ受ケタル工事ニ著手シタルトキハ逡信大臣又ハ所轄官
廳ニ届出ヅベシ

第二節 電氣工作物使用

第二十六條 火藥其ノ他爆發性ノ物質ヲ製造シ又ハ貯藏スル場所ニ施設シ
タル電氣工作物ヲ使用セントスルトキハ其ノ工事方法ヲ具シ所轄逡信局
長ニ認可ヲ申請スベシ

第二十七條 前二條ノ規定ニ依リ申請アリタル場合ニ於テ當該電氣工作物
検査ノ爲派遣セラレタル検査吏員ニ於テ危険ナシト認めタルトキハ直ニ
其ノ假使用ヲ認可スルコトアルベシ
前項ノ假使用認可ノ有効期間ハ六十日トス

第十八條第一項、第十九條第一項、第二十條、第二十一條第二項第三項
又ハ第二十二條ノ規定ニ依リ施設スル電氣工作物ニ付テハ當該官廳ハ已
ムヲ得ザル事由アリト認めタル場合ニ限り電氣事業者ノ申請ニ依リ其ノ
假使用ヲ認可スルコトアルベシ

第二十八條 第二十五條ノ規定ニ依リ認可ヲ受ケベキ電氣工作物ハ試驗ノ
爲必要アル場合ニ限り其ノ認可前之ヲ使用スルコトヲ得但シ特別高壓電
線路ニ關シテハ豫メ所轄逡信局長ノ認可ヲ受ケベシ

第三十條 電氣工作物施設ニ關スル權利義務並ニ裁定

第三十二條 電氣事業法第六條第一項ニ規定シタル市町村長ノ職務ハ市制
又ハ町村制ヲ施行セザル地ニ在リテハ市町村長ニ準ズベキ吏員之ヲ行フ
第三十三條 電氣事業法第六條第一項ノ規定ニ依リ土地立入ノ許可ヲ受ケ
ントスルトキハ左ノ事項ヲ記載シタル申請書ヲ提出スベシ

一 立入ノ目的

二 電氣事業及電氣工作物ノ種類

三 立入ルベキ土地ノ區域

四 立入ルベキ時期及期間

電氣事業法第六條第一項ノ規定ニ依リ市町村長ニ對スル電氣事業者ノ通
知ハ左ノ事項ヲ記載シタル書面ヲ以テ之ヲ爲スベシ

一 前項各號ノ事項

二 許可ヲ爲シタル行政官廳名及許可ノ年月日

第三十四條 電氣事業法第六條第一項ノ規定ニ依リ市町村長ノ告示スベキ
事項ハ左ニ掲グルモノトス

一 電氣事業者名

二 前條第二項各號ノ事項

告示ハ市町村役場ノ揭示場ニ揭示シ又ハ其ノ地ニ於テ發行スル新聞紙ニ

掲載シテ之ヲ爲スベシ

電氣事業法第六條第一項ノ規定ニ依ル土地ノ占有者ニ對スル市町村長ノ通知ハ第一項各號ノ事項ヲ記載シタル書面ヲ以テ之ヲ爲スベシ

第三十五條 電氣事業法第七條第二項ノ規定ニ依リ植物ノ伐除又ハ移植ノ許可ヲ受ケントスルトキハ左ノ事項ヲ記載シタル申請書ヲ提出スベシ

一 電氣事業ノ種類

二 關係電線ノ種類及電壓

三 障害ノ原因及程度、障害除却ノ方法及其ノ範圍並ニ其ノ實行ノ時期

四 植物ノ所在地

五 植物ノ所有者ノ氏名及住所

六 損失補償ノ見積金額及内譯

七 所有者ト協議調ハズ又ハ協議ヲ爲スコト能ハザル事由

前項ノ申請書ニハ植物ノ所在地及附近ノ概況ヲ記載シタル圖面ヲ添附スベシ

電氣事業法第七條第二項ノ規定ニ依ル所有者ニ對スル通知ハ左ノ事項ヲ記載シタル書面ヲ以テ之ヲ爲スベシ

一 第一項第一號乃至第四號ノ事項

二 許可ヲ爲シタル行政官職名及許可ノ年月日

第三十六條 電氣事業法第七條第三項ノ規定ニ依ル植物ノ伐除又ハ移植ノ届書ニハ左ノ事項ヲ記載スベシ

一 前條第一項第一號乃至第六號ノ事項

二 危険急迫ノ事實

電氣事業法第七條第三項ノ規定ニ依ル所有者ニ對スル通知ハ左ノ事項ヲ記載シタル書面ヲ以テ之ヲ爲スベシ

一 前條第一項第一號乃至第四號ノ事項

〔山梨管〕

電氣事業者ハ第一項ノ證票ノ雛形ヲ豫メ作業地所轄警察官署ニ届出ヅベシ

第四十條 電氣事業法第十條第二項ノ規定ニ依ル裁定ヲ受ケントスルトキハ左ノ事項ヲ記載シタル正副二通ノ申請書ヲ提出スベシ

一 申請人及相手方ノ氏名又ハ名稱及住所

二 申請ノ目的及理由

前項ノ申請書ヲ受理シタル行政官廳ハ副本ヲ相手方ニ送付シ其ノ指定スル期間内ニ答辯書ヲ差出サシムベシ

前項ノ期間内ニ答辯書ヲ差出サザルトキハ行政官廳ハ申請書ノミニ依リテ裁定ヲ爲スコトヲ得副本ヲ送付ヲ爲スコト能ハザルトキ亦同ジ

第四十一條 電氣事業法第十條第二項ノ規定ニ依リ裁定ヲ爲シタル行政官廳ハ裁定書ニ理由ヲ附シ之ヲ當事者雙方ニ送付スベシ

第四十二條 電氣事業法第十一條第一項ノ規定ニ依リ障害ノ豫防又ハ除却ノ請求ヲ爲サントスル者ハ左ノ事項ヲ記載シタル書面ヲ以テ之ヲ爲スベシ

一 請求ノ目的

二 變更スベキ土地使用方法ニ於ケル現存電線ノ工事著手ノ際及現在ニ於ケル使用ノ方法ヲ附記スベシ

三 土地使用方法變更ノ結果受クベキ障害ノ豫防又ハ除却ノ關係並ニ電氣工作物ノ種類ニ由

四 土地使用方法變更ノ時期

前項ノ請求書ニハ電線ノ位置ト使用方法ヲ變更スベキ土地トノ關係ヲ表示シタル圖面ヲ添附スベシ

第四十三條 前條ノ規定ニ依リ障害ノ豫防又ハ除却ノ請求アリタル場合ニ於テ其ノ請求ニ應ズベキトキハ相當期間内ニ其ノ旨ヲ請求者ニ通知スベシ

二 危険急迫ノ事實

第三十七條 電氣事業法第九條第二項ノ規定ニ依リ土地使用ニ關スル許可ヲ受ケントスルトキハ左ノ事項ヲ記載シタル申請書ヲ提出スベシ

一 電氣事業ノ種類

二 電線ノ種類、構造ノ大要及電壓

三 使用ノ範圍及土地ノ地目、地番

四 電線路施設ノ爲當該地點ノ選定ヲ必要トスル事由

五 土地所有者及占有者ノ氏名及住所

六 使用ノ期間

七 工事ノ著手時期及期間

八 土地ノ現在ノ使用方法

九 損失補償ノ見積金額及内譯

十 所有者若ハ占有者ト協議調ハズ又ハ協議ヲ爲スコト能ハザル事由

前項ノ申請書ニハ圖面、電線路ノ中心線、支持物ノ位置、家屋其ノ他ノ建造物、園障、庭園、池沼、田畑、林野等ノ狀況ヲ詳記シ縮尺ヲ添附スベシ

第三十八條 電氣事業法第九條第二項ノ規定ニ依ル土地所有者及占有者ニ對スル通知ハ許可書ノ際本ヲ添ヘ前條第一項第一號乃至第四號、第六號及第七號ノ事項ヲ記載シタル書面ヲ以テ之ヲ爲スベシ

第三十九條 電氣事業法第六條、第七條又ハ第九條ノ規定ニ依リ土地若ハ建造物ニ立入り、植物ヲ伐除シ若ハ移植シ又ハ電線路ヲ施設セントスル者ハ其ノ證票及行政官廳ノ許可ヲ要スル場合ニ於テハ其ノ許可書ノ際本ヲ携帶スベシ

前項ノ證票及許可書ノ際本ハ土地若ハ建造物又ハ植物ノ管理者ノ請求アリタルトキハ之ヲ呈示スベシ

〔山梨管〕

前項ノ場合ニ於テハ電氣事業法第十一條第二項但書ノ規定ニ依リ請求者ノ負擔スベキ費用ノ擔保トシテ工事費見積額ニ相當スル金額ヲ其ノ工事著手前ニ供託スベキコトヲ請求スルコトヲ得

前條ノ規定ニ依リ請求アリタル場合ニ於テ其ノ請求ニ應ゼザル理由アリトスルトキハ相當期間内ニ其ノ旨ヲ請求者ニ通知スベシ

第四十四條 電氣事業者電氣事業法第十一條第一項ノ規定ニ依リ請求セラレタル障害ノ豫防又ハ除却ノ工事ニ著手シタルトキ及之ヲ竣成シタルトキハ遲滞ナク其ノ旨ヲ請求者ニ通知スベシ

電氣事業法第十一條第一項ノ規定ニ依リ請求シタル者土地使用方法ノ變更ニ著手シタルトキ及之ヲ終了シタルトキハ遲滞ナク其ノ旨ヲ電氣事業者ニ通知スベシ

第四十五條 電氣事業法施行令第三條ノ規定ニ依ル裁定ニ關シテハ第四十條及第四十一條ノ規定ヲ準用ス

第四十六條 電氣事業法第十二條第二項ノ規定ニ依リ地中電氣工作物ノ位置變更ノ許可ヲ受ケントスルトキハ左ノ事項ヲ記載シタル申請書ヲ遞信大臣ニ提出スベシ

一 變更ヲ必要トスル事由

二 現存工作物ノ種類及構造

三 現存工作物ノ所有者名

四 施設セントスル工作物ノ種類及構造

五 第二號及前號ノ工作物ノ施設場所並ニ相互ノ位置

六 變更方法、變更ヲ爲スベキ者ノ別及所有者ヲシテ變更ヲ爲サシメン

トスル場合ニ於テハ其ノ事由

七 變更工事ノ著手時期及期間

八 變更工事費及損失補償ノ見積金額及内譯
 九 所有者ト協議調ハズ又ハ協議ヲ爲スコト能ハザル事由
 前項ノ申請書ニハ電氣工作物相互ノ位置及其ノ附近ニ於ケル他ノ地中工
 作物トノ關係ヲ詳記シタル圖面ヲ添付スベシ
 第四十七條 電氣事業法第十二條第二項ノ規定ニ依ル許可ヲ受ケテ他人ニ
 屬スル地中電氣工作物ノ位置ヲ變更シ又ハ所有者ヲシテ其ノ變更ヲ爲サ
 シメントストキハ其ノ旨ヲ工作物ノ所有者ニ通知スベシ
 前項ノ規定ニ依ル通知ハ許可書ノ添付前條第一項第一號、第二號
 及第四號乃至第七號ノ事項ヲ記載シタル書面ヲ以テ之ヲ爲スベシ
 第四十八條 電氣事業法第十四條第一項ノ規定ニ依ル裁定ニ關シテハ第四
 十條及第四十一條ノ規定ヲ準用ス
 第四十九條 第四十五條ノ規定ニ依ル申請書ヲ提出スル場合ニ於テハ所轄
 地方長官ニ、第四十六條又ハ前條ノ規定ニ依ル申請書ヲ提出スル場合ニ
 於テハ所轄通信局長ニ同時ニ其ノ副本ヲ提出スベシ

第四章 主任技術者

第五十四條 電氣事業者ハ主任技術者疾病、旅行其ノ他ノ事由ニ因リ一月
 以上ニ互リ其ノ職務ヲ執ルコト能ハザルトキハ其ノ代務者ヲ選任スベシ
 此ノ場合ニ於テハ第五十二條第一項ノ規定ヲ準用ス
 前項ノ場合ニ於テ主任技術者其ノ職務ヲ執ルニ至リタルトキハ遲滞ナク
 其ノ旨ヲ通信大臣ニ届出ズベシ
 第五十五條 本令又ハ電氣工作物規程ニ依リ行政官廳ニ提出スル書類圖面
 中技術ニ關スルモノハ主任技術者之ニ署名捺印スベシ但シ第五十一條第
 一項ノ規定ニ依ル主任技術者選任前ニ在リテハ其ノ設計ヲ擔當シタル技
 術者之ニ署名捺印スベシ

第五章 業務

〔山梨警〕

第六十二條 電氣事業者ハ白熱電球ヲ提供シテ電燈ヲ供給スル場合ニ於テ
 取附後ノ使用ニ因リ其ノ光度又ハ光束カ表示電壓ニ於テ標準光度又ハ標
 準光束ノ百分ノ八十以下ニ減少シ且需用者ノ請求アルトキハ新ナル電球
 ト取換ヲ爲スベシ
 電氣事業者ハ前項ノ規定ニ依ル取換ヲ爲ス爲適當ノ場所ニ電球ノ取換所
 ヲ設置スベシ
 第六十三條 電氣事業者ハ工事其ノ他已ムヲ得ザル事由ニ因リ送電ヲ中止
 スルトキハ急遽ノ場合ヲ除クノ外豫メ其ノ旨ヲ關係需用者ニ周知セシム
 ベシ
 第六十四條 電氣事業法第十六條第一項ノ規定ニ依リ供給事業ノ休止ノ許
 可ヲ受ケントストキハ左ノ事項ヲ記載シタル申請書ヲ通信大臣ニ提出
 スベシ

一 休止ノ事由
 二 休止スベキ事業ノ範圍
 三 休止ノ時期及期間
 電氣事業法第十六條第一項ノ規定ニ依ル供給事業ノ休止ノ許可ヲ受ケタ
 ルトキハ遲滞ナク其ノ旨ヲ關係需用者ニ周知セシムベシ
 第六十五條 前條ノ規定ニ依ル申請書ヲ提出スル場合ニ於テハ同時ニ其ノ
 副本ヲ所轄地方長官及通信局長ニ提出スベシ

第二節 保安業務

第六十六條 電路ハ之ヲ檢查シ安全ト認ムルニ非ザレバ之ニ送電スルコト
 ヲ得ズ
 第六十七條 發電所、受電地點及變電所ニハ相當ノ技術者ヲ置キ送電中之
 ヲ監視セシムベシ但シ通信大臣ノ認可ヲ受ケタル場合ハ此ノ限ニ在ラズ
 第六十八條 電氣事業者ハ保線保員ヲシテ電線路ヲ監視セシムベシ特別高

第一節 供給業務

第五十七條 電氣事業者電燈又ハ五キロワット以下ノ電力ノ供給ニ關シ已
 ムヲ得ザル事由ニ因リ需用者ニ對シ工事ニ關スル寄附其ノ他特別ノ負擔
 ヲ求メントストキハ其ノ事由ヲ具シ所轄通信局長ノ認可ヲ受クベシ
 第五十八條 電燈ノ光度ヲ表示スルニハ燭ヲ以テ單位トス
 一燭ハ氣壓七百六十ミリメートルノトキ一立方メートルニ付八リツトル
 ノ水蒸氣ヲ含有スル空氣中ニ於テ燃燒スル「ハーコート」十燭「ペンタン」
 燈ノ光度ノ十分ノ一トス
 電燈ノ光束ヲ表示スルニハルーメンヲ以テ單位トス
 一ルーメンハ一燭ノ均等點光源ノ單位立體角内ニ發スル光束トス
 第五十九條 電燈供給ニ使用スル白熱電球ハ左ノ各號ニ依ルモノナルコト
 ヲ要ス
 一 電球ニハ電壓及大サノワット數 又ハ電壓及公稱光度 真空電球ニ在
 均水平燭光、瓦斯入電球ニラ表示スベシ
 在リテハ公稱平均燭光ヲ表示スベシ
 二 電球ノ初光度 真空電球ニ在リテハ平均水平燭光、又ハ初光束ハ標準
 光度又ハ標準光束ニ對シ真空電球ニ在リテハ百分ノ十三、瓦斯入電球
 ニ在リテハ六十ワット以下ノモノハ百分ノ十八、百ワット以上ノモノ
 ハ百分ノ十五ヲ超ユル差異ナキコトヲ要ス
 標準光度及標準光束ハ別ニ之ヲ告示ス
 第六十條 電氣事業者ハ供給點ニ於テ保持スベキ一定電壓ニ百分ノ四ヲ超
 エル變動ヲ生セシメ又ハ技術上已ムヲ得ザル場合ヲ除クノ外電燈ノ光度
 ニ不定ヲ生セシメザルコトヲ要ス
 第六十一條 電氣事業者ハ交流電氣ヲ供給スル場合ニ於テハ技術上已ムヲ
 得ザル場合ヲ除クノ外其ノ周波數ヲ一定ニ保持スルコトヲ要ス

〔山梨警〕

電線路ニ在リテハ毎週少クトモ一回監視セシムルコトヲ要ス
 第六十九條 電氣事業者ハ電氣工作物ノ修理又ハ監視ヲ爲サシムル爲適當
 ノ場所ニ敷宿所ヲ設置シ常時技術員ヲ駐在セシムベシ
 第七十條 電氣事業者ハ出火、暴風其ノ他非常ノ場合ニ際シ危險アリト認
 ムルトキハ直ニ當該範圍ニ對スル送電ヲ遮斷スベシ
 第七十一條 電氣事業者ハ送電中ノ電線路ノ近傍ニ出火アルトキハ直ニ現
 場ニ技術員ヲ派遣シ危險豫防ノ措置ヲ爲サシメ其ノ旨ヲ出張ノ警察官ニ
 届出テシムベシ技術員ハ警察官ノ許可ヲ受ケルニ非ザレバ退場スルコト
 ヲ得ズ
 前項ノ場合ニ於テハ晝間ハ標旗夜間ハ標燈ヲ携帯セシムベシ
 前項ノ標旗及標燈ノ様式ハ別ニ之ヲ告示ス
 第七十二條 電氣工作物ノ故障及其ノ運轉使用ニ關スル事故ヲ生ジタル場
 合ニ於テ左ニ掲グルモノニ付テハ直ニ電信、電話其ノ他ノ方法ニ依リ通
 信大臣、所轄通信局長及所轄警察官署ニ届出ズベシ
 一 電氣工作物ノ損壞又ハ漏電其ノ他ノ電氣事故ニ因ル人畜ノ死傷又ハ
 一火災其ノ他ノ災害
 二 發電所、變電所、電線路等ノ故障ニ因ル六時間以上ニ互ル電氣供給
 ノ停止
 三 前各號ノ外重大ナル事故
 前項各號ニ掲グルモノ其ノ他電氣工作物ノ故障及其ノ運轉使用ニ關スル
 事故ニ關シテハ第六號様式ニ依リ一月分ヲ取據メ翌月十日限リ通信大臣
 及所轄通信局長ニ届出ズベシ

第七十三條 電氣事業者供給區域内ニ於ケル電氣料金其ノ他供給條件ヲ設
 定セントストキハ電氣供給規程ヲ定メ適用區域ヲ記載シタル書面ヲ具

第三節 電氣料金其ノ他供給條件

シ少クトモ實施期日三月前ニ逡信大臣ニ認可ヲ申請スベシ
前項ノ申請書ニハ左ノ書類圖面ヲ添附スベシ
一 電氣料金及附帶料金算出説明書

二 實施後五年間ニ於ケル收支豫算書 第七號様式ニ準ジ適用區域
三 適用區域平面圖 第二條第三
第七十四條 電氣供給規程ハ電燈、電力、電熱等ノ各部ニ分チ左ノ事項ヲ
記載スベシ

一 供給方法ノ種別
二 供給時間
三 電氣料金
四 器具、機械ノ負擔
五 工費ノ負擔
六 取附ノ箇數、容量、場所等ニ關シ制限ヲ設クルモノニ在リテハ其ノ
事項

七 其ノ他供給上ノ條件
第七十五條 電氣供給規程設定認可ノ有效期間ハ其ノ實施ノ日ヨリ五年ト
ス

前項ノ期間ハ電氣事業者ノ申請ニ依リ之ヲ更新スルコトヲ得
第七十六條 電氣供給規程中第七十四條第一號乃至第六號ノ事項又ハ其ノ
適用區域ヲ變更セントスルトキハ左ノ書類ヲ具シ少クトモ實施期日三月
前ニ逡信大臣ニ認可ヲ申請スベシ

一 變更事項ヲ記載シタル書面
二 變更理由書
前項ノ申請書ニハ左ノ書類圖面ヲ添附スベシ

〔山梨管〕

〔山梨管〕

〔山梨管〕

一 特別ノ事由ニ因リ供給區域内ニ於テ電氣供給規程ト異リタル電氣料
金ヲ設定セントスルモノナルトキハ其ノ理由ヲ記載シタル書面

二 電氣料金其ノ他供給條件ヲ記載シタル契約書ノ謄本
三 電氣料金算出説明書
第八十條 電氣事業者他ノ電氣事業者ニ電氣ヲ供給スル場合ニ於テ電氣料
金其ノ他供給條件ヲ設定セントスルトキハ逡信大臣ニ認可ヲ申請スベシ

前項ノ申請書ニハ前條第二號及第三號ノ書類ヲ添附スベシ
第一項ノ認可ニ關シテハ第七十五條ノ規定ヲ準用ス但シ第一項ノ供給關
係ガ特別ノ事由ニ因リ一定期間ヲ限ルモノナルトキハ此ノ限ニ在ラズ

第八十一條 前條ノ規定ニ依リ認可ヲ受ケタル電氣料金ヲ變更セントスル
トキハ前條第一項及第二項ノ規定ニ準ジ逡信大臣ニ認可ヲ申請スベシ前
條第三項ノ有效期間更新ノ申請ニ付亦同ジ

前條第三項ノ有效期間滿了ニ因リ電氣料金其ノ他供給條件ヲ設定セント
スル場合ニ於テ當事者間ニ協議調ハザルトキハ逡信大臣ニ其ノ裁定ヲ申
請スルコトヲ得

前項ノ裁定ニ關シテハ第四十條及第四十一條ノ規定ヲ準用ス
第八十二條 第八十條ノ規定ニ依リ認可ヲ受ケタル供給條件ヲ變更セント
スルトキハ其ノ契約書ノ謄本ヲ添ヘ逡信大臣ニ届出ヅベシ

第七十九條ノ規定ニ依リ認可ヲ受ケタル電氣料金ヲ廢止シタルトキハ逡
信大臣ニ其ノ旨ヲ逡信大臣ニ届出ヅベシ
第八十三條 本節ノ規定ニ依ル申請書又ハ届書ヲ提出スル場合ニ於テ第七
十三條又ハ第七十六條乃至第七十八條ノ規定ニ依ルモノニ付テハ所轄地
方長官及逡信局長ニ、第七十九條乃至前條ノ規定ニ依ルモノニ付テハ所
轄逡信局長ニ同時ニ其ノ副本ヲ提出スベシ

第四節 諸般ノ業務

一 電氣料金又ハ附帶料金ノ變更ノ場合ニ於テハ其ノ算出説明書

二 變更ガ適用區域ノ事業收支ニ及ボス影響ニ關スル計算書
三 實施期日書
四 適用區域ノ變更ノ場合ニ於テハ平面圖 第七十三條第二
項第三號ニ準ズ

電氣供給規程適用區域ノ變更ガ供給區域ノ擴張ニ伴フ場合ニ於テ第八條
ノ供給區域變更許可ノ申請書ニ其ノ旨ヲ記載シテ許可ヲ受ケタルトキハ
前二項ノ規定ヲ適用セズ

逡信大臣ハ電氣供給規程ノ著シキ變更ノ場合ニ於テ必要アリト認ムルト
キハ其ノ認可ニ新ニ前條第一項ノ期間ヲ附スルコトアルベシ
第七十七條 電氣供給規程中第七十四條第七號ノ事項ヲ變更セントスルト
キハ實施期日ヲ定メ二月前ニ變更理由ヲ具シ其ノ旨ヲ逡信大臣ニ届出ヅ
ベシ

前條第二項第三號ノ實施期日ヲ變更セントスルトキハ理由ヲ具シ其ノ旨
ヲ逡信大臣ニ届出ヅベシ
第七十八條 第七十五條ノ期間滿了ニ因リ電氣供給規程ヲ設定セントスル
トキハ少クトモ滿了ノ日ヨリ六月前ニ第七十三條ノ規定ニ依ル申請ヲ爲
スベシ

第七十五條第二項ノ規定ニ依リ有效期間更新ノ認可ヲ受ケントスルトキ
ハ少クトモ滿了ノ日ヨリ六月前ニ其ノ理由ヲ記載シタル申請書ヲ逡信大
臣ニ提出スベシ

前二項ノ規定ニ依ル申請書ニハ現行電氣供給規程實施後ニ於ケル收支實
績書ヲ添附スベシ
第七十九條 電氣事業者電氣供給規程ニ依ラザル電氣料金ヲ設定セントス
ルトキハ逡信大臣ニ認可ヲ申請スベシ之ヲ變更セントスルトキ亦同ジ

前項ノ申請書ニハ左ノ書類ヲ添附スベシ

〔山梨管〕

〔山梨管〕

第八十四條 電氣事業法第十八條ノ規定ニ依リ資本増加ノ認可ヲ受ケント
スルトキハ左ノ事項ヲ記載シタル申請書ヲ逡信大臣ニ提出スベシ

一 資本増加ノ必要トスル事由
二 増加スベキ資本ノ總額及第一回拂込ノ金額
三 資本増加ノ方法
前項ノ申請書ニハ左ノ書類ヲ添附スベシ

一 事業擴張ニ關スル説明書
二 資本増加ニ關スル株主總會ノ決議録ノ謄本
三 會社ノ資本及拂込ミタル株主總會ノ登記抄本
四 最終ノ貸借對照表

第八十五條 電氣事業法第十九條ノ規定ニ依リ社債募集ノ認可ヲ受ケント
スルトキハ左ノ事項ヲ記載シタル申請書ヲ逡信大臣ニ提出スベシ

一 社債募集ノ必要トスル事由
二 社債ノ總額及各社債ノ金額
三 社債ノ利率、償還期限其ノ他發行ノ條件
前項ノ申請書ニハ左ノ書類ヲ添附スベシ

一 社債ニ依リ施設セントスル電氣工作物ノ説明書
二 前條ノ施設ニ伴フ事業上ノ收支計算書 第二號様式ニ準 及工費計算書
第三號様式ニ準
三 社債募集ニ關スル株主總會ノ決議録ノ謄本
四 會社ノ資本及拂込ミタル株主總會ノ登記抄本
五 最終ノ貸借對照表

六 前ニ社債ヲ募集シタルトキハ其ノ償還ヲ了ヘザル總額ノ登記抄本
七 信託證書案日本語ニ依ラザルモノニ在
八 工場抵當法ニ依リ抵當ト爲スベキ物件ノ目錄

〔山梨管〕

九 前號ノ擔保物件ノ帳簿價格ヲ最終ノ財産目錄ノ科目別ニ表示シタル書面
第一項ノ場合ニ於テ電氣事業法第十九條第三項但書ノ規定ニ依リ擔保ヲ供セズシテ募集セントスルモノナルトキハ申請書ニ第一項各號ノ事項ノ外擔保ヲ供セザル特別ノ事由ヲ詳記シ第二項第一號乃至第六號ノ書類及社債募集ノ方法ニ關スル説明書ヲ添付スベシ

第八十六條 電氣事業法第十九條ノ規定ニ依リ社債ヲ發行シタルトキハ遲滞ナク其ノ旨ヲ逓信大臣ニ届出ズベシ
前項ノ場合ヲ除ク外電氣事業者公債若ハ社債ヲ發行シ又ハ長期借入金ヲ爲シタルトキハ其ノ事由、總額及利率、償還期限其ノ他發行又ハ借入ノ條件ヲ具シ遲滞ナク其ノ旨ヲ逓信大臣ニ届出ズベシ此ノ場合ニ於テ工場抵當法ニ依リ事業ニ屬スルモノヲ以テ工場財團ヲ設定シタルトキハ其ノ財團目錄ヲ添付スベシ

第八十七條 第八十五條ノ規定ニ依リ認可ヲ受ケタル後信託證書又ハ擔保物件ノ目錄ニ變更アリタルトキハ遲滞ナク其ノ旨ヲ逓信大臣ニ届出ズベシ前條ノ規定ニ依リ届出ヲ爲シタル後工場財團目錄ニ變更アリタルトキ亦同シ
第八十八條 電氣事業者第八十六條ノ規定ニ依リ届出ヲ爲シタル後公債、社債又ハ借入金ヲ償還シタルトキハ其ノ都度其ノ旨ヲ逓信大臣ニ届出ズベシ
第八十九條 電氣事業法第二十一條ノ規定ニ依リ他事業兼營ノ認可ヲ受ケントスルトキハ其ノ事業計畫並ニ其ノ事業ニ要スル資金ノ總額及出資ノ方法ヲ記載シタル申請書ニ其ノ收支概算書ヲ添へ之ヲ逓信大臣ニ提出スベシ

電氣供給事業ト同時ニ電氣鐵道事業ヲ營ム會社ハ電氣鐵道事業ノ附帶事

〔山梨管〕

八十九條乃至前條第五號ノ規定ニ依ル場合ニ於テハ所轄地方長官ニモ之ヲ提出スベシ

第六章 検査

第九十四條 第二十五條又ハ第二十六條ノ規定ニ依リ電氣工作物使用認可ノ申請アリタル場合ニ於テハ當該官廳ハ検査吏員ヲ派遣シ其ノ電氣工作物ヲ検査セシム但シ特ニ其ノ必要ナシト認めタルトキハ此ノ限ニ在ラズ
第九十五條 逓信大臣ハ左ノ場合ニ於テハ検査吏員ヲ派遣シ電氣工作物ヲ臨時検査セシム

- 一 天災事變其ノ他ノ事故ニ因リ電氣工作物ニ障害アリト認めタルトキ
- 二 電氣工作物カ他ノ工作物ニ障害ヲ及ボシタリト認めタルトキ
- 三 電氣工作物ノ變更ニ因ラズシテ工事設計書又ハ工事設計明細書中ノ事項變更ニ關スル許可又ハ認可ノ申請アリタル場合ニ於テ必要アリト認めタルトキ

第九十六條 逓信大臣又ハ逓信局長ハ必要アリト認めタルトキハ電氣事業者ヲシテ現ニ使用シ又ハ使用セントスル器具、機械其ノ他物品ノ見本ヲ差出サシメ其ノ試験ヲ爲スコトアルベシ
見本ノ運搬ニ要スル費用及試験ニ因テ生ズル損害ハ電氣事業者ノ負擔トス

第九十七條 逓信大臣ハ左ノ場合ニ於テハ電氣工作物ノ撤去若ハ使用ノ停止又ハ工事ノ中止ヲ命ズルコトアルベシ
一 電氣工作物又ハ其ノ工事カ他ニ障害ヲ及ボシ又ハ危険ナリト認めタルトキ

二 電氣工作物ヲ施設シタル後久シキニ互リ其ノ使用ヲ爲サザルトキ
第九十八條 地方長官(東京府ニ在リテハ警視總監)ハ危険急迫ノ場合ニ於テハ電氣事業者ニ對シ電氣工作物及其ノ工事ニ關シ保安上必要ナル措置ヲ命ズルコトアルベシ

業ニ限リ電氣事業法第二十一條ノ規定ニ依リ認可ヲ受ケズシテ之ヲ營ムコトヲ得此ノ場合ニ於テハ關係ノ書類ヲ具シ其ノ旨ヲ逓信大臣ニ届出ズベシ

第九十條 電氣事業者ハ毎事業年度經過後二月内ニ別ニ告示スル所ニ依リ電氣事業報告書ヲ調製シ之ヲ逓信大臣ニ提出スベシ

第九十一條 電氣事業者ハ營業報告書、貸借對照表、損益計算書及利益處分書ヲ前條ノ事業報告書ト同時ニ逓信大臣ニ提出スベシ
前項ノ規定ニ依リ提出スル書類ハ公共團體タル電氣事業者ニ在リテハ事業年度經過後四月内ニ之ヲ提出スルコトヲ得前條ノ事業報告書中會計ニ關スルモノニ付亦同シ

第九十二條 左ノ場合ニ於テハ電氣事業者ハ遲滞ナク其ノ旨ヲ逓信大臣ニ届出ズベシ
一 會社成立シタルトキ會社登記簿ノ謄本及定款ヲ添付スベシ
二 會社ノ取締役會社ヲ代表スベキ若ハ監査役ヲ選任シ若ハ解任シタルトキ又ハ代表社員ヲ定メ若ハ變更シタルトキ
三 會社ノ定款又ハ組合契約ヲ變更シタルトキ
四 商號、名稱若ハ主たる事務所ヲ變更シ又ハ主たる事務所以外ノ事務所若ハ營業所ヲ設置シ若ハ變更シタルトキ
五 株金ノ拂込アリタルトキ使途ノ大要ニ關スル説明書ヲ添付スベシ
六 電氣事業ヲ開始シタルトキ又ハ電氣鐵道事業ヲ休止シ若ハ廢止シタルトキ
七 第八十九條ノ規定ニ依リ認可ヲ受ケ又ハ届出ヲ爲シタル他事業ノ兼營ヲ廢止シタルトキ

第九十三條 本節ノ規定ニ依リ申請書、届書又ハ事業報告書其ノ他ノ書類ヲ提出スル場合ニ於テハ同時ニ其ノ副本ヲ所轄逓信局長ニ提出スベシ

〔山梨管〕

第九章 國ニ於テ營ム電氣事業

第一百五條 電氣供給事業經營ノ爲電氣事業法第三十一條第一項ノ規定ニ依リ協議ヲ爲サントスルトキハ當該官廳ハ左ノ書類圖面ヲ逓信大臣ニ提出スルコトヲ要ス

一 設計書 第二條第二號乃至第四號又ハ第四條第二號、第五條第一項、記載シ第一條第五號ニ準ズル書類、第六號及第八號ノ書類ヲ添付スルコトヲ要ス

二 圖面 第二條第三號及第四號又ハ第四條第二號、第五條第二項、第十條第五條第二項及第十七條(第一項第六號ヲ除ク)ノ圖面ニ準シ調製スルコトヲ要ス

第一百六條 電氣鐵道事業經營ノ爲電氣事業法第三十一條第一項ノ規定ニ依リ協議ヲ爲サントスルトキハ當該官廳ハ左ノ書類圖面ヲ逓信大臣ニ提出スルコトヲ要ス

一 設計書 第三條第二號及第三號、第六條第一項、第十四條第一項第三號及第十七條第一號並ニ第十六條ノ事項ヲ記載シ第一條第五號ニ準ズル書類及第六號ノ書類ヲ添付スルコトヲ要ス

二 圖面 第三條第三號、第六條第二項、第十六條第二項、第十七條ノ圖面ニ準シ調製スルコトヲ要ス
前項ノ場合ニ於テ鐵道構内ニ施設スル直流低壓ノ電氣工作物ニシテ金屬製地中管路トノ距離一キロメートル磁石觀測所トノ距離六キロメートルヲ超ユルモノニ關シテハ設計書中第十四條第一項第三號、第二項第一號及第十六條ノ事項並ニ第十六條第二項及第十七條ニ準シ調製スル圖面ヲ省略スルコトヲ得

第一百七條 第八條第一項ノ事項ヲ變更スル爲電氣事業法第三十一條第一項ノ規定ニ依リ協議ヲ爲サントスルトキハ當該官廳ハ關係ノ書類圖面ヲ

選信大臣ニ提出スルコトヲ要ス
前項ニ掲グル事項ヲ除クノ外前二條ノ設計書中主要ナル事項ヲ變更セシ
トスルトキハ當該官廳ハ關係ノ書類圖面ヲ具シ其ノ旨ヲ選信大臣ニ通知
スルコトヲ要ス

第一百八條 前三條ノ規定ニ依リ協議ヲ遂ゲ又ハ通知ヲ爲シテ施行シタル
工事落成シタルトキハ當該官廳ハ電氣工作物使用開始前其ノ旨ヲ選信大
臣ニ通知スルコトヲ要ス

第一百九條 國ニ於テ電氣事業ノ全部又ハ一部ヲ廢止シタルトキハ當
該官廳ハ遲滞ナク其ノ旨ヲ選信大臣ニ通知スルコトヲ要ス

第一百二十條 第三十二條乃至第四十八條、第九十九條、第一百條、
第一百零一條、第一百零二條乃至第一百零四條及第一百零一條並ニ明治四十四年九月選信
省令第二十九號ノ規定ハ國ニ於テ電氣事業ニ關シ之ヲ準用ス但シ第
百零一條第一項ノ規定ニ依リ具備スベキ同條同項第一號ノ書類圖面ハ第百
十七條第一項ノ書類圖面トス

第十章 雜則

第二百一十一條 特別高壓電線路ノ電線若ハ支持物ヲ損壞シ、之ニ物品ヲ懸
ケ若ハ擲チ又ハ其ノ電線路ニ接近シテ濫ニ建造物ヲ建設スル等電氣的危
險ヲ生ズベキ行爲ヲ爲スコトヲ得ズ

第二百一十二條 電氣事業者ハ第八號様式ニ依リ毎年十二月末日現在ニ於テ
ル從業者ノ職務別及兵役關係別數報告書四通ヲ調製シ翌年二月末日迄ニ
所轄選信局長ヲ經由シ之ヲ選信大臣ニ提出スベシ

第二百一十三條 發電ノ原動力トシテ水力ヲ使用スル電氣事業者ニシテ特ニ
選信大臣ノ指定シタルモノハ河川流量其ノ他ノ事項ニ關スル報告書ヲ調
製シ之ヲ選信大臣ニ提出スベシ

第十一章 罰則

〔山梨管〕

第二百二十四條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ百圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處
ス

- 一 本令ニ基キテ爲シタル處分ニ違反シタル者
- 二 第二百一十一條ノ規定ニ違反シタル者
- 三 第二百一十五條 本令ノ規定ニ依リ届出又ハ通知ヲ怠リタル者ハ科料ニ處ス
- 四 第二百一十六條 第三十九條第一項ノ規定ニ違反シ證書及許可書ノ謄本ヲ携
帶セズ又ハ同條第二項ノ規定ニ違反シ管理者ヨリ請求ヲ受ケタルニ拘ラ
ズ之ヲ呈示セザル者ハ科料ニ處ス

附則

第二百二十七條 本令ハ昭和七年十二月一日ヨリ之ヲ施行ス

第二百二十八條 左ノ選信省令ハ之ヲ廢止ス

- 一 明治四十年九月選信省令第五十五號特別高壓電線路取給規則
- 二 明治四十四年九月選信省令第三十二號電氣事業法施行規則第六十五條
ニ依ル電氣事故届出規程
- 三 明治四十四年九月選信省令第三十六號官廳施設電氣事業規則
- 四 大正四年九月選信省令第十三號電氣事業法施行規則第五十五條ニ依ル
電氣供給規程届出規則

第二百二十九條 本令ニ依リ新ニ認可ヲ受ケベキモノト爲リタル事項ニシテ
本令施行ノ際現ニ存スルモノハ之ヲ本令ニ依リ認可ヲ受ケタルモノト看
做ス

第二百三十條 本令施行前ニ於テ爲シタル許可又ハ認可ノ申請其ノ他ノ手續
ニシテ本令中之ニ相當シ又ハ之ニ代ルベキ規定アルモノハ本令ニ依リ之
ヲ爲シタルモノト看做ス但シ本令ノ規定ニ依リ必要ナル書類圖面ハ更ニ
之ヲ補充セシムルコトアルベシ

〔山梨管〕

〔山梨管〕

以前ニ開始スル事業年度ニ付テハ仍從前ノ様式ニ依リ之ヲ調製スベシ
(様式略ス)

●電氣事業法施行規則第七十一條
ノ規定ニ依リ携帯スル標旗及標
燈ノ様式

昭和七年十一月二十一日
選信省告示第二千二百二十一號

明治四十四年九月選信省告示第五十號ハ之ヲ廢止ス



標旗

注意

- 一 地色 白
- 二 縦 四十五センチメートル
- 三 横 六十七センチメートル
- 四 標章色 赤
- 五 標章ノ下ニ電氣事業者ノ
商號又ハ名稱ヲ墨書スヘ
シ

第三百三十一條 本令施行ノ際現ニ存スル電氣事業法第一條第三號ノ電氣事
業者ハ本令施行ノ日ヨリ六月内ニ起業目論見書、工事設計書及第一條第
八號ノ書面ヲ調製シ之ヲ選信大臣ニ提出スベシ

第三百三十二條 從前ノ規定ニ依リ本令施行ノ際現ニ主任技術者タル者ニシ
テ第五十條ニ規定シタル資格ニ該當セザルモノハ左ノ區別ニ依リ本令施
行後引續キ其ノ職ニ在ルコトヲ得

一 電氣技術ニ關シ相當ノ學術經驗ヲ有スト認定セラレタル者及第六級
ノ資格ヲ有スル者ニ在リテハ當該電氣事業ニ從事スル期間

二 前號以外ノ者ニ在リテハ本令施行ノ日ヨリ五年
本令施行ノ際現ニ他ノ電氣事業ニ兼務スル主任技術者ハ第五十三條ニ該
當セザル場合ト雖モ本令施行ノ日ヨリ五年ヲ限リ仍其ノ事業ニ兼務スル
コトヲ得

第三百三十三條 本令施行ノ際現ニ存スル電氣料金其ノ他供給條件ハ本令施
行ノ日ニ之ヲ實施シタルモノト看做ス

本令施行前届出ヲ受理シタル電氣料金其ノ他供給條件ハ本令施行後實施
スルモノト雖モ之ヲ本令ニ依リ認可ヲ受ケタルモノト看做ス

第一項ノ電氣料金其ノ他供給條件ガ電氣事業者他ノ電氣事業者ニ電氣ヲ
供給スル場合ニ於ケルモノニシテ當事者間ニ當該料金其ノ他供給條件改
訂期間ノ特約アル場合ニ關シテハ本令施行ノ際其ノ殘存スル期間ガ五年
ヲ超エザルモノニ限リ其ノ期間ヲ以テ第八十條第三項ノ有効期間ト看做
ス

第三百三十四條 電氣事業報告書中會計ニ關スルモノニ付テハ昭和八年十一
月三十日ヲ含ム事業年度迄ハ仍從前ノ様式ニ依リ之ヲ調製スルコトヲ
得

前項ニ掲グルモノヲ除クノ外電氣事業報告書ハ昭和七年十二月三十一日



- 注意
- 一 地色 白
 - 二 形状 丸形弓張提燈
 - 三 標章色 赤
 - 四 標章ノ下ニ電氣事業者ノ商號又ハ名稱ヲ墨書スヘシ

(参照)
明治四十四年九月二十八日逡信省告示第一〇五〇號ハ電氣事業法施行規則第六十一條及第六十二條ニ依リ使用スル標旗及標燈様式ノ件ナリ

●電氣事業法施行規則第九十條ノ規定ニ依ル電氣事業報告書様式及其ノ調製方法

昭和七年十一月二十一日
逡信省告示第二千二百二十二號

- 一 本報告書ノ用紙ハ縦二九七耗横二一〇耗ノモノヲ使用スルコト
- 二 本報告書ハ左綴帳簿ト爲スコト
- 三 本報告書ハ毎事業年度末現在及同年度中ノ事項ニ就キ之ヲ調製スルコト
- 四 本報告書ノ記載ハ横書トシアラビア數字ヲ使用スルコト
- 五 本報告書ニ記載スベキ計數中キロワット、キロワット時、キロヴォルト、アムペア、圓、厘ヲ單位トスルモノハ其ノ單位迄、軒、疋、疋ヲ單位トスルモノハ其ノ小數一位迄ヲ記載シ各其ノ未滿ハ四捨五入スルコト但

〔山梨警〕

- シ其ノ單位ニ滿タザルモノアル場合ニハ實數ヲ記載スルコト
 - 六 本報告書ノ記載事項ニシテ前年度ニ比シ著シキ増減アリタル場合ニハ當該表中ニ其ノ事由ヲ附記スルコト
 - 七 本報告書ハ別記様式ニ依リ之ヲ調製スルコト但シ様式中該當事項ナキ表及各表中該當事項ナキ欄ハ之ヲ省略シ各欄中記載事項ナキ場合ニハ「」印ヲ記載スルコト
- (様式省略)

●電氣委員會官制

昭和七年十一月二十一日
勅令第三百五十五號

- 朕電氣委員會官制ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム
- 電氣委員會官制
- 第一條 電氣委員會ハ逡信大臣ノ監督ニ屬シ其ノ諮問ニ應ジ左ニ掲グル事項ヲ調査審議ス
 - 一 電氣事業法第二十四條第一項又ハ第二十八條第一項ノ規定ニ依ル命令又ハ處分
 - 二 特定供給ノ許可ノ基準ニ關スル事項
 - 三 電氣料金認可ノ基準ニ關スル事項
 - 四 電氣事業統制ノ基礎ト爲ルベキ發電及送電豫定計畫ニ關スル事項
 - 五 電氣事業ニ關スル法令ニ依リ逡信大臣ノ裁定スベキ重要事項
 - 六 其ノ他電氣事業ニ關スル重要事項
 - 第二條 委員會ハ電氣事業ニ關スル重要事項ニ付逡信大臣ニ建議スルコトヲ得
 - 第三條 委員會ハ會長一人委員十五人以内ヲ以テ之ヲ組織ス

●電氣ニ關スル注意心得

大正二年六月二十七日
逡信省告示第五百三十五號

- 電柱及電線ニ關スル注意
- 一 電柱及電線ニハ成ルヘク接觸セサルヲ良トス殊ニ暴風雨、雪、雷鳴ノ際ニハ最モ注意スヘシ
 - 二 電柱、電線ノ近傍ニ出火アリテ電柱類燒ノ虞アリトモ安リニ刃物ヲ以テ電線ヲ切斷シ又ハ電柱ヲ倒ス等ノコトアルヘカラス此ノ道ニ心得ナクシテ之ヲ試ムルトキハ意外ノ危險ニ陥ルコトアリ注意スヘシ
 - 三 電柱腕木、電線又ハ之ニ接続セル物品ニ火花ヲ發シ又ハ異狀アルトキハ速ニ警察官又ハ電氣事業者ニ報告スヘシ但シ電氣鐵道ニ於テ電車通行ノ際火花ヲ發スルハ通常ナレハ之等ハ別段トス
 - 四 電線ノ切斷垂下セルモノアルモ安リニ之ニ觸ル可ラス萬一已ムヲ得スシテ切斷垂下線ヲ動かストキニハ乾キタル布ニテ厚ク手ヲ包ミ乾燥シ

注意 一尺

第四條 會長ハ逡信大臣ヲ以テ之ニ充ツ

- 委員ハ左ニ掲グル者ヲ以テ之ニ充ツ
 - 一 關係各處高等官 七人以内
 - 二 學識經驗アル者 八人以内
 - 委員ハ逡信大臣ノ奏請ニ依リ内閣ニ於テ之ヲ命ズ
 - 第二項第二號ニ掲グル委員ノ任期ハ三年トス
 - 第五條 會長ハ會務ヲ總理ス
 - 會長事故アルトキハ會長ノ指名シタル委員其ノ職務ヲ代理ス
 - 第六條 委員會ハ必要アリト認ムルトキハ逡信大臣ヲ經テ電氣事業ニ關シ學識經驗アル者其ノ他適當ト認ムル者ヨリ意見書ヲ徵シ又ハ其ノ出席ヲ求メテ意見ヲ聽クコトヲ得
 - 第七條 委員會ニ幹事ヲ置ク逡信大臣ノ奏請ニ依リ逡信部内高等官ノ中ヨリ内閣ニ於テ之ヲ命ズ
 - 幹事ハ會長ノ指揮ヲ承ケ庶務ヲ整理ス
 - 第八條 委員會ニ書記ヲ置ク逡信部内判任官ノ中ヨリ逡信大臣之ヲ命ズ
- 書記ハ會長及幹事ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ從事ス
- 附則
- 本令ハ昭和七年十二月一日ヨリ之ヲ施行ス

〔山梨警〕

タル長キ竹木ノ類ヲ以テ間接ニ之ニ觸ルヘシ其ノ間乾キタル靴若ハ下駄類ヲ穿ツヲ良トス若シ足又ハ草鞋ノ儘ニテ刃物或ハ金棒類ヲ以テ電線ニ觸ル、トキハ電擊ヲ受クルコトアルヘシ

室内用電力電燈線ニ關スル注意

室内用電線ハ電氣ノ漏洩ヲ防ク爲メ絲「ゴム」又ハ布ニテ包ミアルモ若シ缺損ノ箇所アルトキハ危險ノ虞アリ然ルニ往々電線ヲ戸障子間ノ如キ開閉ノ爲メ摩擦セラレ、所ニ挾ミ又ハ電燈球ヲ疏通ニ上下ニ動カシ之カ爲メ線ノ外包ヲ破損シ其ノ儘ニ放棄シ置クコトアリ此ノ如キハ不時ニ發火スル危險ノ虞アルモノナレハ室内用電線ハ決シテ損傷セサル様注意シ若シ損傷ノ箇所アラハ速ニ電氣事業者ニ報知シ修補セシムヘシ

六 電線ヲ瓦斯管、水道管其ノ他ノ金屬體ニ接セシメ又ハ釘ニ懸ケル等ハ其ノ外包ノ損傷ヲ來シ易ク電氣ノ漏洩ヲ惹キ起ス虞アルモノナレハ必ス之ヲ避クヘシ

七 電燈ノ點滅ハ電燈點滅器ニ依リテ之ヲ爲シ其ノ際成ルヘク電線電氣器具等ニ手ヲ觸ルヘカラス、電線其ノ他電氣器具ヲ濡ラストキハ電氣ノ漏洩ヲ導キ易ク危害ヲ招クノ虞アリ故ニ室内用電線電球其ノ他電氣器具ハ成ルヘク濡ラサル様注意シ且ツ決シテ濡手ニテ取扱フ可カラス電氣器具及室内電線等ヲ玩弄シ又ハ水氣アル手指ニテ扱ヒ或ハ跣足ノ儘土間ニ在リテ之ニ觸ル、等ハ電氣ニ感シ易ク危險ナレハ電氣需用者ハ篤ク使用人等ニ教ヘ常ニ注意スヘシ

八 室内電線其ノ他之ニ接続セル電氣器具ニ火花ヲ發シ或ハ其ノ他異狀アリト認メタルトキハ引込口開閉器ヲ遮斷スヘシ引込口開閉器ニハ麻繩ノ類ヲ付シ之ニヨリ容易ニ開閉器ヲ遮斷シ得ル様装置スヘシ 觸電者ニ對スル應急取扱法

〔山梨警〕

九 若シ電氣ノ爲ニ氣絶シタルモノアラハ直ニ被害者ヲ其ノ電線ヨリ取離スカ又ハ電氣ノ傳ハラサル様便宜ノ方法ヲ施スヘシ

十 電氣ノ傳ハラサル様ニナスニハ電氣事業者ヲシテ適當ナル方法ヲ採ラシムヘキハ勿論ナルモ第八ニ記載セル方法ニ依リ引込口開閉器ヲ遮斷スルカ或ハ乾キタル竹木ノ長キ柄ヲ有スル刃物ニテ電線ヲ斷テ截ルヘシ(注意ノ標示アル電線ヲ除ク)被害者ヲ電線ヨリ取離ス場合ハ勿論此ノ場合ニ於テモ素手ニテ爲ササル様注意シ必ス乾キタル竹木或ハ布片類ノ如キ電氣ノ傳ハリ難キモノヲ用キテ之ヲ行フヘシ

十一 人工呼吸ヲナスニハ被害者ノ頸及胸部ノ衣類ヲ弛メ且ツ其ノ上衣ヲ脱シテ之ヲ疊ミ肩ノ下ニ敷キ頸ヲ後方ニ垂レシメ左記ニ法ノ一ニ依ルヘシ、縱令蘇生ノ見込ナキ様見ユルトモ少クトモ醫師ノ來ル迄ハ之ヲ繼續スヘシ

甲法 手術者ハ假死者ノ頭ノ上方ニ於テ跪キ其ノ腕ヲ握リ第一圖ニ示ス如ク之ヲ頸ノ上方ニ充分引伸ハシ(斯グスルトキハ胸部擴大セラレ空氣ハ肺中ニ進入ス)斯クシテ三四秒ノ後(一、二、三ト數フル時間ノ後)第二圖ニ示ス如ク引伸ハシタル兩腕ヲ前方ニ曲ケ胸部ヲ強ク壓迫スヘシ(斯グスルトキハ肺中ノ空氣體外ニ排出サル)此ノ方法ハ一分時間十五六回ノ割合ヲ以テ之ヲ繰返スヘシ

乙法 手術者ハ第三圖ニ示ス如ク假死者ノ上ニ跨リ左右兩掌ヲ胸壁ノ下部ニ當テ(其ノ拇指ヲ鳩尾(ミゾオチ)ノ邊ニ置ク様當カフヘシ)肺中ノ空氣ヲ排出スル爲メ其ノ部分ヲ緊縮シツツ前方ニ向テ強ク壓迫ヲ加フヘシ此ノ時手術者ハ第四圖ニ示ス如ク自己ノ身體ノ重ミヲ利用スヘシ斯クシテ三四秒ノ後急ニ手ヲ離スヘシ此ノ方法モ亦一分時間十五六回ノ割合ヲ以テ之ヲ繰返スコトヲ要ス 人工呼吸法ヲ行フ間ニ他ノ一人ハ舌挾ミヲ用キテ(若シ舌挾ミノ用

〔山梨警〕

〔山梨警〕

- 意ナキ時ハ布片ノ類ニテ)氣絶シタル者ノ舌ヲ摘ミ空氣ヲ肺中ニ吸込マシムル際ハ之ヲ引出シテ空氣ノ肺ニ進入スルコトヲ容易ナラシメ又空氣ヲ肺ヨリ排出スル際ハ舌ヲ元ニ戻スヘシ斯クシテ之ヲ繰返シ行フコトハ人工呼吸法ニ最モ必要ナルコトニシテ決シテ之ヲ忽ニスヘカラス故ニ若シ氣絶シタル者カ堅ク口ヲ閉チテ舌ヲ摘ミ出スコト能ハサル時ハ棒、木片或ハ小刀ノ柄等ニテ強ク口ヲ開カシメタル上之ヲ行フヘキモノトス又假死者ニ水其ノ他ノ飲料ヲ飲マシメント試ムヘカラサルハ勿論苟且ニモ水ヲ吹掛ケル等ノコトヲナスヘカラス是流動物ハ呼吸器ヲ閉鎖セシムルノ虞アルカ故ナリ尙手助ケアラハ「ガーゼ」又ハ綿ニ「アムモニヤ」水ヲ含マセ之ヲ氣絶シタル者ノ鼻ノ附近ニ置キ其ノ呼吸機能ニ刺戟ヲ與フルヲ可トス
- 十三 電氣事業者ハ常ニ發電所、變電所、蓄電所、開閉所及工夫散宿所等ニ人工呼吸法ニ必要ナル舌挾ミ並ニ「アムモニヤ」水等ヲ備ヘ尙従業員ニ常時人工呼吸法ヲ習得セシメ置クヲ可トス
- 十四 本告示中電氣需用者ニ知悉セシムルノ必要アル事項ハ電氣事業者ニ於テ之カ周知ノ方法ヲ講スヘシ



第一圖

第二圖



〔山梨警〕

第三圖



第四圖



〔山梨警〕

● 架空高壓電線路ノ近傍ニ於テ金屬製煙突及之ニ類スル工作物ヲ建設若クハ移轉スル場合届出方ノ件

明治四十年十二月 警令第二一號

架空高壓電線路ノ近傍ニ於テ金屬製煙突若ハ之ニ類スル工作物ノ建設若ハ移轉スル場合ニ於テ其ノ工作場力傾斜轉倒ノ際該電線路ニ接觸スル虞アルモノハ豫メ其ノ建設者ヨリ所轄警察官署ニ届出ツヘシ
本令ニ違背シタル者ハ拘留又ハ科料ニ處ス但法人ノ場合ニハ其法人ニ科ス

● 電氣事業検査吏員證票ニ關スル件

昭和二年十二月十四日 逓信省告示第二千七百二十號

改正 昭和七年一月逓信省告示第二二三號
電氣事業法第二十三條並ニ電氣事業法施行規則第九十四條及第九十五條ノ規定ニ依リ派遣スル検査吏員ノ携帯スル證票左ノ通定メ昭和三年一月一日ヨリ之ヲ施行ス
大正三年六月逓信省告示第三百六十六號ハ昭和二年十二月三十一日限り之ヲ廢止ス

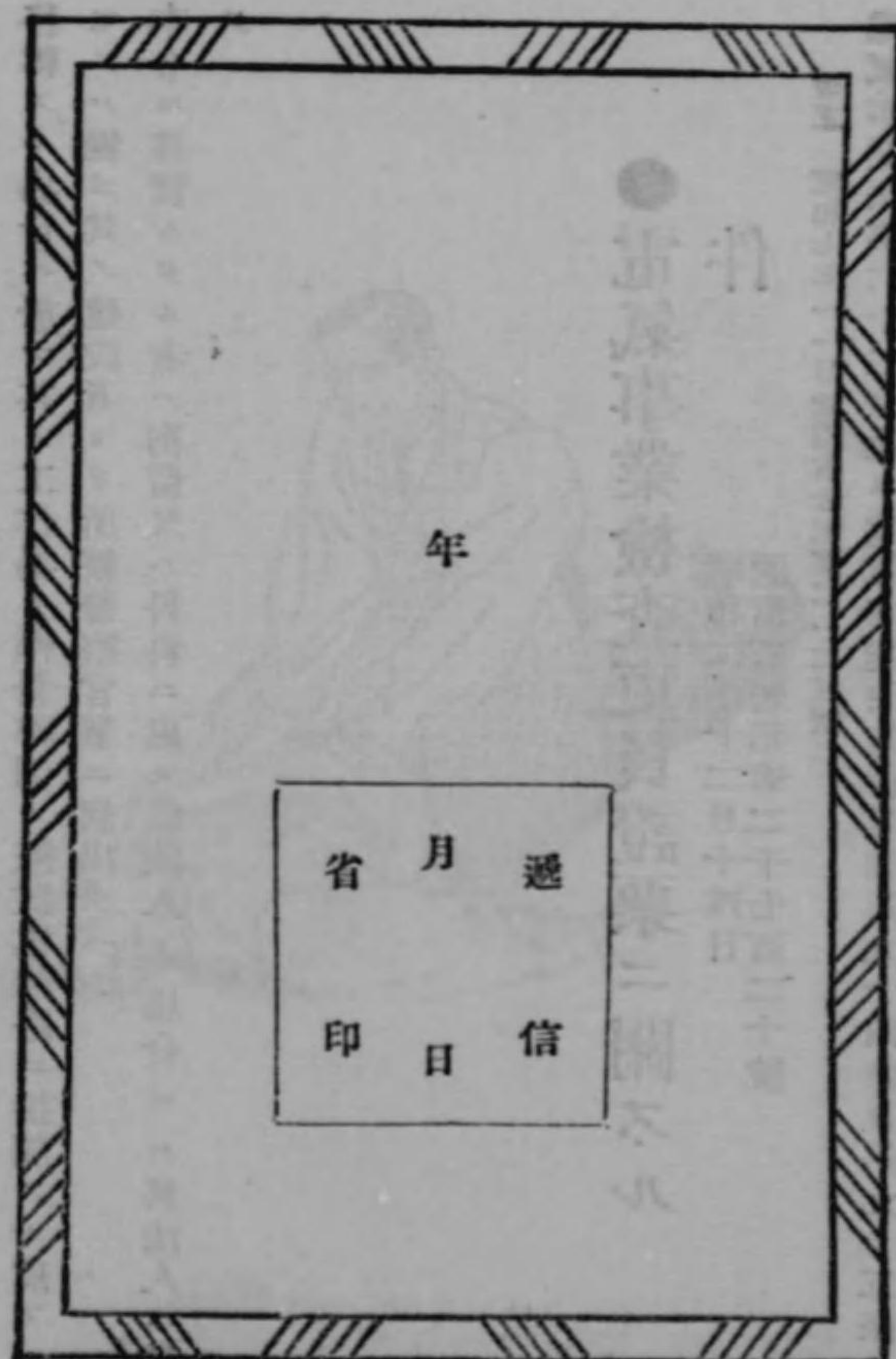
表面



縦九程 横六程

〔山梨警署〕

裏面



●電氣事業検査吏員證票取扱二關スル件

昭和二年十二月 公達第一〇四〇號

電氣局 逓信局

電氣事業検査吏員證票取扱規程左ノ通定メ昭和三年一月一日ヨリ之ヲ施行ス

大正三年六月公達第三百十三號電氣事業検査及監査吏員證票取扱規程ハ昭和二年十二月三十一日限り之ヲ廢止ス

電氣事業検査吏員證票取扱規程

- 第一條 電氣事業検査吏員證票ハ電氣局長之ヲ保管シ必要ニ應シテ逓信局ニ交付保管セシム
- 第二條 電氣局長又ハ逓信局長ハ電氣事業検査吏員ニ本證票ヲ交付スヘシ
- 第三條 検査吏員轉免等ノ場合ニ於テハ本證票ハ之ヲ交付シタル局長ニ返納スヘシ
- 第四條 電氣局及逓信局ハ帳簿ヲ設ケ検査吏員證票ノ番號、交付ノ年月日及官氏名等ヲ詳記シ常ニ其ノ所在ヲ明ニスヘシ
- 第五條 検査吏員證票ヲ紛失シ又ハ水火盜難等ニ罹リ亡失シタルトキハ直ニ當該局長ニ届出ツヘシ
- 第六條 逓信局長前項ノ届出ヲ受ケタルトキハ該證票ノ番號、交付年月日及官氏名等ヲ附記シ電氣局長ニ報告スヘシ
- 第七條 検査吏員證票ニシテ不用トナリタルモノハ便宜當該局ニ於テ之ヲ燒却スヘシ此ノ場合ニ於テハ逓信局長ハ前條第二項ニ準シ報告スヘシ

●電氣工作物規程(抄録)

第四編 保安 第十一章 電氣、瓦斯

〔山梨警署〕

昭和七年十一月二十一日 逓信省令第五十三號

改正 昭和一〇年七月逓信省令第二〇號

目次

- 第一編 本則
 - 第一章 總則
 - 第一節 通則
 - 第二節 機械及器具
 - 第三節 電線、電路及附屬設備
- 第二章 送電線路、配電線路及饋電線路
 - 第一節 通則
 - 第二節 低壓及高壓架空電線路
 - 第三節 特別高壓架空電線路
 - 第四節 地中電線路
 - 第五節 隧道其ノ他之ニ類スル場所ヲ通過スル電線路
 - 第六節 保安通信設備
- 第三章 電氣使用場所ニ於ケル工事
 - 第一節 屋外工事
 - 第二節 屋内工事
 - 第三節 隧道、坑道其ノ他之ニ類スル場所ノ工事
- 第四章 電氣鐵道
 - 第一節 通則
 - 第二節 電車線路及第三軌條
 - 第三節 歸線
 - 第四節 電車

第二編 細則

第一章 總則

- 第一節 機械及器具
- 第二節 電線、電路及附屬設備
- 第二章 送電線路、配電線路及饋電線路
- 第一節 通則
- 第二節 低壓及高壓架空電線路
- 第三節 特別高壓架空電線路
- 第四節 保安通信設備

第三章 電氣使用場所ニ於ケル工事

- 第一節 屋外工事
- 第二節 屋内工事
- 第四章 電氣鐵道
- 第一節 通則
- 第二節 電車線路及第三軌條
- 第三節 歸線

附則

電氣工作物規程

第一編 本則

第一章 總則

第一節 通則

第一條 電氣工作物ノ施設及電氣工作物ト其ノ他ノ工作物トノ間ニ於ケル障害ヲ防止スルニ必要ナル施設ハ別段ノ規定アル場合ヲ除クノ外本令ノ定ムル所ニ依ル

第二條 本令ニ於ケル用語ハ左ノ例ニ依ル

〔山梨縣〕

- 一 發電所トハ發電機、原動機其ノ他ノ機械器具ヲ設備シ電氣ヲ發生スル所ヲ謂フ
- 二 變電所トハ構外ヨリ送電セラルル電氣ヲ更ニ構外ニ送電又ハ配電スル爲構内ニ設備シタル變壓器、電動發電機、廻轉變流機其ノ他ノ機械器具ニ依リ變成スル所ヲ謂フ
- 三 開閉所トハ發電所、變電所、需用場所以外ノ場所ニ於テ送電又ハ配電ノ爲構内ニ設備シタル開閉器其ノ他ノ裝置ニ依リ電路ヲ開閉スル所ヲ謂フ
- 四 電線トハ強電流電氣傳送ニ用フル電氣導體ヲ謂フ
- 五 電線路トハ電線及之ヲ支持シ又ハ保護スル工作物ヲ謂フ
- 六 送電線路トハ發電所又ハ變電所相互間ヲ連絡スル電線路ヲ謂フ
- 七 配電線路トハ發電所、變電所又ハ送電線路ヨリ他ノ發電所又ハ變電所ヲ經過セシテ需用場所ニ至ル電線路ニシテ引込線以外ノモノヲ謂フ
- 八 引込線トハ配電線路ヨリ分岐シテ需要場所ノ引込口ニ至ル部分ノ電線ヲ謂フ
- 九 架空引込線トハ配電線路ノ支持物ヨリ他ノ支持物ヲ經過セシテ需用場所ノ取付點ニ至ル架空電線ヲ謂フ
- 十 饋電線路トハ發電所又ハ變電所ヨリ他ノ發電所又ハ變電所ヲ經過セシテ電車線又ハ第三軌條ニ至ル電線路ヲ謂フ
- 十一 電車線路トハ電車線及之ヲ支持スル工作物ヲ謂フ
- 十二 電車線トハ電車ニ其ノ動力タル電氣ヲ供給スルニ用フル架空接觸電線ヲ謂フ
- 十三 支持物トハ電線路ニ使用スル木柱、鐵柱、鐵塔及鐵筋「コングリ」ト「柱」ヲ謂フ

〔山梨縣〕

十四 弱電流電線トハ電信線、電話線、電氣信號線其ノ他弱電流電氣傳送ニ用フル電氣導體ヲ謂フ

十五 地中管路トハ地中ニ施設シタル電線路、弱電流電線及之ヲ保護スル管、瓦斯管、水道管、下水管、空氣管並ニ之ニ附屬スル地中面及接續函等ヲ謂フ

第三條 電壓ハ左ノ區別ニ依リ低壓、高壓及特別高壓ノ三種トス

- 一 低壓トハ直流ニ在リテハ六百ヴォルト、交流ニ在リテハ三百ヴォルトヲ超過セサルモノヲ謂フ
- 二 高壓トハ低壓ノ限度ヲ超過シ三千五百ヴォルトヲ超過セサルモノヲ謂フ
- 三 特別高壓トハ高壓ノ限度ヲ超過スルモノヲ謂フ

第四條 本令ニ明文ナキ施設ニ關シテハ其ノ設計ニ付逓信大臣ニ認可ヲ申請スヘシ

第七條 電氣事業者ハ三年間本令ノ規定ニ依リ記錄書類ヲ保存スルコトヲ要ス

第二節 機械及器具

第十二條 高壓架空電線路ニ接續スル配電變壓器ニシテ屋外ニ設置スルモノハ地表上四・五米以上ノ高サニ於テ支持物ニ堅牢ニ取付クルコトヲ要ス

第十五條 高壓又ハ特別高壓用開閉器、自動遮斷器、避雷器其ノ他之ニ類シ弧光ヲ發スル器具ト木製ノ壁、天井其ノ他ノ可燃質物トハ高壓用ノモノニ在リテハ一米以上、特別高壓用ノモノニ在リテハ二米以上離隔スルコトヲ要ス但シ耐火質物ヲ以テ兩者間ヲ離隔シタル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

第十六條 高壓又ハ特別高壓電氣ヲ以テ充電スル器具及電線ハ人ノ容易ニ

觸ルル虞ナキ様適當ニ裝置スルコトヲ要ス但シ取扱者ノ外出入シ得サル様設備シタル場所ニ裝置スル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第十七條 非包裝可熔片ハ定格電流ノ一・二五倍ノ電流ニ耐ヘ一定時間内ニ一定電流ニ依リ確實ニ熔斷スルモノナルコトヲ要ス(細第十條)非包裝可熔片ハ特殊ノモノヲ除クノ外硬キ金屬製ノ端片ヲ附著シタルモノヲ使用スルコトヲ要ス

第三節 電線、電路及附屬設備

第十八條 絕緣電線ニハ別段ノ規定アル場合ヲ除クノ外使用ノ目的ニ依リ第一種絕緣電線、第二種絕緣電線、第三種絕緣電線又ハ第四種絕緣電線ヲ使用スルコトヲ要ス(細則第十二條乃至第十六條)但シ逓信大臣ノ認可ヲ受ケタル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第十九條 可撓紐線ニハ使用ノ目的ニ依リ第一種可撓紐線、第二種可撓紐線、第三種可撓紐線第三種乙可撓紐線又ハ第四種可撓紐線ヲ使用スルコトヲ要ス(細第十七條乃至第二十二條)但シ逓信大臣ノ認可ヲ受ケタル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第二十一條 電路中必要ナル箇所ニハ別段ノ規定アル場合ヲ除クノ外其ノ各極ニ適當ナル開閉器ヲ裝置スルコトヲ要ス

第二十二條 機械器具及電線ヲ保護スル爲電路中必要ナル箇所ニ適當ナル自動遮斷器ヲ裝置スルコトヲ要ス

第二十六條 變壓器ニ依リ高壓電路ニ結合セラルル低壓電路ニハ其ノ變壓器ノ中性點ニ於テ第二種地線工事ヲ施スコトヲ要ス

第一項ノ地線工事ノ接地線ト大地トノ間ノ電氣抵抗ハ毎年一回以上之ヲ試驗シ其ノ成績ヲ記錄スルコトヲ要ス

第三十條 地線工事ハ左ノ三種トシ適當ニ施設スルコトヲ要ス

- 一 第一種地線工事 接地線ト大地トノ間ノ電氣抵抗ヲ十オーム以下ニ

保持スルモノ

二 第二種地線工事 接地線ト大地トノ間ノ電氣抵抗ヲ其ノオーム數ニ變壓器一次側ニ於ケル自動遮斷器ノ動作電流ハ其ノ定格電流ノ二倍ノアムヘア數ヲ乘シタル積力百五十以下ナル様保持スルモノ但シ接地線ト大地トノ間ノ電氣抵抗ハ五〇以下ナルコトヲ要セス

三 第三種地線工事 接地線ト大地トノ間ノ電氣抵抗ヲ百〇以下ニ保持スルモノ

第二章 送電線路、配電線路及饋電線路

第一節 通則

第三十一條 架空電線路ノ支持物ハ他ノ架空電線路又ハ架空弱電流電線路ニ屬スル電線ノ間ヲ貫通シテ之ヲ建設スルコトヲ得ス

第三十六條 架空電線路ノ支持物ニハ事業者名又ハ略稱、支持物番號及建設年月ヲ表示スルコトヲ要ス

第三十七條 架空電線路ノ他ノ架空電線路又ハ架空弱電流電線路ト交叉シ又ハ二・五米以内ノ距離ニ接近シテ施設セントスル場合又ハ地中電線路ヲ他ノ地中電線路若ハ地中管路ト交叉シ又ハ二米以内ノ距離ニ接近シテ施設セントスル場合ハ其ノ工事著手ノ前日迄ニ建設ノ場所及日時ヲ關係管理者ニ通知シ立會ヲ求ムヘシ其既ニ施設シタルモノヲ修理又ハ撤去セントスルトキ亦同シ但シ關係管理者ニ於テ豫定ノ日時ニ立會ヲ爲ササル

〔山梨縣〕

トキハ直ニ工事ヲ施行スル事ヲ得

第三十八條 市街地ノ道路ニハ二箇以上ノ架空電線路ヲ建設スルコトヲ得ス

第四十一條 架空電線路ト架空弱電流電線路單線式電話線路ト並行スル場合ハ誘導作用ニ因ル通信上ノ障害ヲ及ボササル様電線相互間ノ距離ヲ左ノ各號ニ依リ離隔スルコトヲ要ス

一 交流ノ低壓若ハ高壓電線又ハ直流複線式饋電線ニ在リテハ二米以上

二 直流單線式饋電線ニ在リテハ四米以上

第四十三條 架空電線ノ地表上ノ高サ及造管物トノ間隔ハ左ノ各號ニ依ルコトヲ要ス但シ危險ノ虞ナキ場合ハ所轄通信局長ノ認可ヲ受ケテ此ノ制限ニ依ラサルコトヲ得

一 道路ヲ橫斷スル場合ニ於テハ地表上六米以上

二 鐵道又ハ軌道ヲ橫斷スル場合ニ於テハ軌道面上六米以上

三 前二號以外ノ場合ニ於テハ地表上五米以上

四 造管物ノ側面ニ於テハ造管物ト電線トノ距離一・二米以上

五 造管物ノ上部ニ於テハ造管物ト電線トノ距離二米以上

〔山梨縣〕

第四十八條 架空電線路カ他ノ低壓又ハ高壓架空電線路ト交叉、接近又ハ並行スル場合ニ於テハ電線相互ノ離隔距離ヲ一米以上ト爲シ且電線相互ノ混觸ヨリ生スル危險ヲ防止スル爲適當ニ施設スルコトヲ要ス

第四十九條 架空電線ト架空弱電流電線トカ交叉シ又ハ接近スル場合ニ於テハ其ノ離隔距離ヲ一米以上ト爲スコトヲ要ス但シ弱電流電線ニ第四種絶緣電線ヲ使用シタルトキ又ハ其ノ管理者ノ承諾ヲ得タルトキハ之ヲ六十糎迄ニ短縮スルコトヲ得

第五十條 高壓架空電線ト架空弱電流電線トカ交叉、接近又ハ並行スル部分ニ於テハ高壓電線ノ上部ト爲スコトヲ要ス但シ工地上已ムヲ得サル場合ニ於テ弱電流電線トノ混觸ヨリ生スル危險ヲ防止スル爲適當ノ施設

第五十二條 高壓架空電線カ煙突、放送聴取無線電話用空中線其ノ他之ニ類スル工作物ト其ノ地表上ノ高サニ相當スル距離以内ニ接近スルトキハ接觸ニ因リ生スル危險ヲ防止スル爲左ノ各號ニ依リ施設スルコトヲ要ス

一 高壓電線ト工作物又ハ其ノ支線トハ一・二米以上、放送聴取無線電話用空中線トハ水平距離一・二米以上ヲ離隔スルコト

二 金屬製工作物又ハ工作物ノ支線ハ第三種地線工事ニ依リ接地スルコト

高壓架空電線路ニ用フル支線ニシテ高壓電線ト接觸ノ虞アルモノニハ其ノ上部ニ碍子ヲ挿入スルコトヲ要ス

第五十三條 市街地ニ於ケル高壓架空電線路施設スル鐵道ノ專用敷地内ニハ其ノ互長一杆以下毎ニ開閉器ヲ設置シ電路ヲ遮斷スルニ便ナラシムルコトヲ要ス但シ土地ノ狀況ニ依リ所轄通信局長ノ認可ヲ受ケテ此ノ制限ニ

〔山梨縣〕

依ラサルコトヲ得

前項ノ開閉器ヲ設置シタル場所ニハ之ニ接近シ且之ヲ取扱フニ便ナラシムル様適當ナル設備ヲ施設スルコトヲ要ス

第五十五條 市街地外ニ於テ低壓又ハ高壓架空電線ニ裸電線ヲ使用スルトキハ左ノ各號ノ制限ニ依リ施行スルコトヲ要ス

第五十六條 市街地ニ於テ高壓架空電線ニ裸電線ヲ使用スルトキハ左ノ各號ノ制限ニ依リ施設スルコトヲ要ス

第五十七條 市街地ニ於テハ土地ノ狀況又ハ特殊ノ事由ニ依リ通信大臣ノ認可ヲ受ケタル場合ヲ除クノ外低壓架空電線ニ裸電線ヲ使用スルコトヲ得ス但シ電氣鐵道ノ專用敷地内ニ施設スル低壓架空電線ニシテ前條第一項ノ規定ニ準シ施設スルモノハ此ノ限ニ在ラス

第三節 特別高壓架空電線路

第六十條 特別高壓架空電線路ハ市街地其ノ他人家ノ稠密ナル地ニ建設スルコトヲ得ス但シ特殊ノ設計ニ依ル場合ニ於テハ通信大臣ノ認可ヲ受ケテ此ノ制限ニ依ラサルコトヲ得

第六十三條 特別高壓架空電線ノ地表上ノ高サハ六米以上トス但シ特殊ノ場所ニ限リ通信大臣ノ認可ヲ受ケテ此ノ制限ニ依ラサルコトヲ得

第六十八條 特別高壓架空電線ト建造物、道路、鐵道、軌道、低壓若ハ高壓架空電線又ハ架空弱電流電線トカ水平距離ニ於テ其ノ特別高壓電線路ノ支持物地表上ノ高サニ相當スル距離乃至三米迄ニ接近スル部分ニ於テハ左ノ各號ニ依リ施設シ且適當ニ建設スルコトヲ要ス

第六十九條 二萬五千ヴォルト以下ノ特別高壓架空電線ト建造物、鐵道、軌道、低壓若ハ高壓架空電線又ハ架空弱電流電線トガ水平距離三米以内ニ接近スルトキ又ハ一萬五千ヴォルト以下ノ特別高壓架空電線ト道路トカ水平距離三米以内ニ接近スルトキハ前條第一項第一號及第三號ニ依リ

施設シ且危険ヲ生セシメサル様適當ニ施設スルコトヲ要ス
第一項ノ電壓ヲ超過スル特別高壓架空電線ト建造物、道路、鐵道、軌道、
低壓若ハ高壓架空電線又ハ架空弱電線トカ水平距離三米以内ニ接近スル
トキハ選信大臣ノ認可ヲ受ケタル特殊ノ設計ニ依ルコトヲ要ス

第七十四條 特別高壓架空電線ト植物トノ間隔ハ風雪其ノ他如何ナル場合
ニ於テモ左ノ距離ヲ保持スルコトヲ要ス
一 六萬ヴォルト以下ノモノハ二米以上
二 六萬ヴォルトヲ超過スルモノハ超過分一萬ヴォルト又ハ其ノ端數毎
ニ三十種ヲ加フ

第七十六條 特別高壓架空電線カ煙突其ノ他之ニ類スル工作物ト其ノ地表
上ノ高サニ相當スル水平距離以内ニ接近スルトキハ接觸ニ因リ生スル危
險ヲ防止スル爲左ノ各號ニ依リ施設スルコトヲ要ス
一 特別高壓架空電線ト工作物又ハ其ノ支線トハ常ニ左ノ間隔ヲ保存ス
ルコト
(イ) 六萬ヴォルト以下ノモノハ二米以上
(ロ) 六萬ヴォルトヲ超過スルモノハ超過分一萬ヴォルト又ハ其ノ端
數毎ニ三十種ヲ加フ

第七十九條 地中電線ヲ藏ムル暗渠、管又ハ管路ハ堅牢ニシテ車輛其ノ他
重キ物體ノ壓力ニ耐ヘ且瓦斯又ハ水ノ成ルヘク浸入セサル様築造スルコ
トヲ要ス
地中電線ヲ直接埋設式ニ依リ敷設スルトキハ車輛其ノ他重キ物體ノ壓力
ヲ受クル虞アル場所ニ於テハ土冠ヲ一・二米以上、其ノ他ノ場所ニ於テ
ハ土冠ヲ六十種以上ト爲シ石又ハ種ノ類ヲ以テ電線ノ上部及側面ヲ掩ヒ

〔山梨警〕

他動的損傷ヲ防止スルコトヲ要ス但シ低壓電線ヲ車輛其ノ他重キ物體ノ
壓力ヲ受クル虞ナキ場所ニ敷設スル場合ハ幅二十種以上ノ堅牢ナル石又
ハ木板ノ類ヲ以テ電線ノ上部ノミヲ掩ヒテ施設スルコトヲ得
第八十一條 地中電線路ハ漏洩電流又ハ誘導作用ニ因リ既設地中弱電流電
線ニ對シ通信上ノ障害ヲ及ボササル様離隔シ又ハ其ノ他ノ適當ナル防止
方法ヲ施スコトヲ要ス
第六節 保安通信設備
第九十一條 送電ノ連絡ヲ有スル發電所及變電所相互間ニハ保安通信用電
話ヲ施設スルコトヲ要ス
左ニ掲ケル箇所相互間ニ於テモ保安上必要ト認ムルトキハ保安通信用電
話ノ施設ヲ爲スヘシ
一 發電所、其ノ水路及水路工作物保安ノ爲必要ナル量水所
二 同一送電系統ニ屬スル發電所、變電所、蓄電所、開閉所及技術員駐
在所
特別高壓架空電線路ニ依リ送電スル場合ニ在リテハ携帶電話機ニ依リ通
話スル設備ヲ爲シ且電話線ヲ架空電線路ニ添架スル場合ハ電線路ノ互長
約四杆毎ニ携帶電話機接續箇所又ハ電話機設置箇所ヲ設ケルコトヲ要ス
第三章 電氣使用場所ニ於ケル工事
第一節 屋外工事
第一百條 低壓架空引込線ハ第三十二條、第四十八條及第五十一條ノ規定ニ
準ジ且左ノ各號ニ依リ施設スルコトヲ要ス
一 電線ニハ二・六耗ノ硬銅線又ハ之ト同等以上ノ強サ及太サヲ有スル
モノヲ使用スルコト但シ徑間二十米以下ノ場合ニ限り二耗ノ硬銅線
又ハ之ト同等以上ノ強サ及太サヲ有スルモノヲ使用スルコトヲ得
二 電線ニハ第四號(ロ)、第七號及第八號ノ場合ヲ除ク外使用電壓三

〔山梨警〕

百ヴォルト以下ナルトキハ第一種絕緣電線、三百ヴォルトヲ超過ス
ル直流低壓ニ在リテハ第二種絕緣電線ヲ使用スルコト
三 電線地表上ノ高サハ左ノ制限ニ依ルコト
(イ) 道路ヲ橫斷スル場合ハ地表上六米以上但シ市街地外ニ於テハ交
通ニ支障ナキ様施設シタルモノニ限リ地表上五米以上
(ロ) 鐵道、軌道ヲ橫斷スル場合ハ軌道面上六米以上
(ハ) (イ)(ロ)以外ノ場合ハ地表上五米以上但シ第四十三條第二項ニ
依ル電線ノ支持物ヨリ分岐スル場合ハ地表上四米以上
四 工事上已ムヲ得ザル場合ハ需用場所ノ取付點ニ於テ前號(イ)及(ハ)
ノ制限ヲ交通ニ支障ナキ限リ左ノ高サ迄ニ輕減スルコトヲ得但シ此
ノ場合ハ配電線路ニ取付ケル點ノ高サハ前項ノ制限ニ依ルコトヲ要
ス

使用電壓

取付點ノ高サ	電線ノ種類
交流百五十ヅ(中性點ヲ接地 オルト以下)シタル場合ハ 二百五十ヅ)又ハ直流三百 オルト以下)ヴォルト以下	第一種絕緣電線
(イ)以外ノモノ	第三種又ハ第四種 絕緣電線 第一種又ハ第二種 絕緣電線

五 電線ト造管物トノ間隔ハ左ノ制限ニ依ルコト
(イ) 造管物ノ側面ニ於テハ一・二米以上
(ロ) 造管物ノ上部ニ於テハ二米以上
工事上已ムヲ得サル場合ニシテ危險ノ虞ナク且人ノ容易ニ觸ルル
虞ナキ様施設スルトキハ電線ヲ直接引込ミタル造管物ニ付テハ
(イ)(ロ)ノ制限、其ノ他ノ造管物ニ付テハ(イ)ノ制限ニ依ラサル

六 電線ト架空弱電流電線トカ交叉シ又ハ接近スル場合ニ於テハ其ノ離
隔距離ヲ一米以上ト爲スコト但シ弱電流電線ニ第四種絕緣電線ヲ使
用シタルトキ、弱電流電線路管理者ノ承諾ヲ得タルトキ又ハ工事上
已ムヲ得サルトキハ之ヲ六十種迄ニ短縮スルコトヲ得
七 使用電壓交流百五十ヴォルト、直流三百ヴォルトヲ超過スル電線カ
架空弱電流電線ト交叉シ又ハ水平距離一米以内ニ於テ接近スル場合
ニ於テハ左ノ電線ヲ使用スルコト
(イ) 電線カ弱電流電線ノ上部ニアル場合ハ第三種若ハ第四種絕緣電
線又ハ五耗ノ硬銅線又ハ之ト同等以上ノ強サ及太サヲ有スルモノ
(ロ) 電線カ弱電流電線ノ下部ニアル場合ハ第三種若ハ第四種絕緣電
線
使用電壓交流二百五十ヴォルト以下ニシテ中性點ヲ接地シタル場合
ハ本號ノ制限ニ依ラサルコトヲ得
八 配電線路又ハ他ノ引込線ヨリ分岐シテ直ニ百五十ヴォルト以下ノ一
ノ屋外電燈ニ至ル電線ヲ金屬線ニ依ル吊架スル場合ハ第四種絕緣電
線ヲ使用シ且第四百條第一項第六號ニ準シ施設スルコト
連接引込線ハ屋内ヲ通過セス且引込線ヨリ分岐スル點ヨリ六十米ヲ超エ
ル地域ニ互リ施設スルコトヲ得ス
連接引込線ハ道路ヲ橫斷セス且第二百二條ノ規定ニ依リ施設スル場合ヲ除
ク外第一項ニ準シ之ヲ施設スルコトヲ要ス
高壓架空引込線ニハ四耗ノ第三種絕緣硬銅線若ハ五耗ノ第一種絕緣硬銅
線又ハ之ト同等以上ノ強サ、太サ及效力ヲ有スル電線ヲ使用シ且第三十
二條、第四十三條及第四十八條乃至第五十二條ノ規定ニ準シ施設スルコ
トヲ要ス但シ第四十三條第一項第四號及第五號制限ハ危險ノ虞ナク且工

事上已ムヲ得サル場合ニ限リ引込線ト之ヲ直接引込メル造替物ニ付之ヲ適用セス

第一百條 屋外電燈ノ引下線ニシテ地表上ノ高さ二・五米未満ノ部分ニハ電燈工事ニ依リ施設スル場合ヲ除クノ外第四種絶縁電線ヲ使用シ且人ノ觸ルル虞アル場所ニ施設スル場合ハ他動的損傷ヲ防止スル爲適當ニ施設スルコトヲ要ス

第一百二條 軒下其ノ他家屋ノ外面ニ沿ヒ引込線、連接引込線其ノ他ノ低壓電線ヲ施設スル場合又ハ他家屋ノ外面ニ低壓電線ヲ露出セスシテ施設スル場合ハ一・六耗ノ軟銅線又ハ之ト同等以上ノ強サ及太サヲ有スル電線ヲ使用シ之ヲ碍子引工事人ノ容易ニ觸ルル虞ナキ展開シタル場所及金屬管工事又ハ電燈工事ニ依リ且危險ノ虞ナキ様適當ニ施設スルコトヲ要ス

第一百三條 「ネオン」管燈其ノ他之ニ類スル放電管燈ハ左ノ各號ニ依リ且人ノ觸ルル虞ナキ場所ニ危險ノ虞ナキ様適當ニ施設スルコトヲ要ス(細第六十八條)

第一百四條 電壓百五十ヴォルト以下ノ屋外照明用架空電線路ハ第三十二條、第四十九條、第五十一條及左ノ各號ニ依リ且危險ノ虞ナキ様適當ニ施設(細第六十九條)スルコトヲ要ス

一 他ノ配電線路又ハ引込線ヲ分岐セサルコト

〔山梨警〕

二 他ノ架空電線路又ハ架空弱電流電線路トノ交叉數ヲ最小ナラシムルコト

三 市街地ノ道路上ニ施設スル場合ハ幅員二十米ヲ超過スル道路ニ施設セサルコト但シ道路ノ中央ニ電燈列ヲ架設スル場合ハ幅員十米ヲ超過スル道路ニ施設セサルコト

四 電線ニハ二・六耗ノ硬銅線又ハ之ト同等以上ノ強サ及太サヲ有スルモノヲ使用スルコト但シ電線ヲ金屬線ニテ吊架スル場合又ハ道路外ニシテ人ノ容易ニ立入ラサル場所ニ三十米以下ノ徑間ヲ以テ施設スル場合ハ二耗ノ硬銅線ヲ使用スルコトヲ得

五 電線ニハ左ニ掲グル絶縁電線ヲ使用スルコト
(イ) 金屬線ニテ吊架シタル電線
(ロ) 道路上ニ於テ地表上五米未満ノ高さニ施設シタル架空電線
(ハ) (イ)及(ロ)以外ノ場合ニ於ケル電線 第一種絶縁電線
(ニ) (イ)及(ロ)以外ノ場合ニ於ケル電線 第二種絶縁電線

六 電線地表上ノ高さハ五米以上ト爲スコト但シ道路ノ一側又ハ兩側ニ於テ道路ヲ横斷セス且交通ニ支障ナキ様施設シタルモノ及道路外ニシテ人ノ容易ニ立入ラサル場所ニ施設シタルモノニ限リ三米以上ト爲スコトヲ得

土地ノ狀況ニ依リ所轄通信局長ノ認可ヲ受ケテ前項ノ制限ニ依ラサルコトヲ得

第一百五條 弧光電燈用ノ架空電線ハ往復線ヲ同一支持物ニ並行シテ架設スルコトヲ要ス但シ他ニ障害ヲ及ボス虞ナキ場合ニ於テハ通信大臣ノ認可ヲ受ケテ此ノ制限ニ依ラサルコトヲ得

第一百六條 屋内ニ供給スル電壓ハ特殊ノ工事方法(細第七十條)ニ依ル場合又ハ特ニ通信大臣ノ認可ヲ受ケタル場合ヲ除クノ外直流ニ在リテハ五百

〔山梨警〕

ヴォルト、交流ニ在リテハ二百五十ヴォルト以下トス但シ乾燥シタル場所ニ限リ此ノ制限以上ノ低壓ニ依リ供給スルコトヲ得

白熱電燈及家庭用電氣器具、電氣扇、電熱器、小型電動機其ノ他之ニ類ニ供給スル電線ニ在リテハ電線ノ大地ニ對スル電壓ハ特殊ノ場合ヲ除クノ外百五十ヴォルト以下ト爲スコトヲ要ス

「ネオン」管燈其ノ他之ニ類スル放電管燈ヲ第三百三條ノ規定ニ準シ施設スル場合又ハ特殊ノ事由ニ依リ通信大臣ノ認可ヲ受ケタル場合ハ前項ノ制限ニ依ラサルコトヲ得

第七十條 屋内配電線電線及移動シテ使用スルニハ鍍裝電線、鉛被電線又ハ金屬管、金屬線繩若ハ木製線繩内ニ藏メタル電線ヲ使用スル場合ヲ除クノ外耐火耐水質ノ碍子ヲ用ヒ人ノ容易ニ觸レサル様施設スルコトヲ要ス

第八十條 屋内ニ施設スル低壓電線ニハ技術上已ムヲ得サルモノヲ除クノ外裸電線ヲ使用スルコトヲ得但シ特殊ノ設計ニ依リ所轄通信局長ノ認可ヲ受ケタル場合ハ此ノ制限ニ依ラサルコトヲ得

第九十條 低壓屋内配線ニハ一・六耗ノ軟銅線又ハ之ト同等以上ノ強サ及太サヲ有スル電線ヲ使用スルコトヲ要ス

第一百條 屋内ニ施設スル低壓用電線及鉛被電線ハ第四種絶縁電線ト同等以上ノ效力ヲ有スルモノナルコトヲ要ス

屋内ニ於テ他動的損傷ヲ受クル虞アル場所ニ施設スル電線ニハ鍍裝電線ヲ使用スル場合ヲ除クノ外適當ナル防護裝置ヲ施スコトヲ要ス

第三十條 屋内ニ施設スル電線ノ被覆ニ用フル金屬體及鉛被電線ノ鉛被ハ第三種絶縁工事ニ依リ接地スルコトヲ要ス

第三十二條 屋内ニ施設スル低壓電線ニハ引込口ニ近キ場所ニ開閉器及自動遮斷器ヲ各種ニ設置スルコトヲ要ス

第一百三條 前項ノ開閉器ハ容易ニ電線ヲ遮斷シ得ル様施設スルコトヲ要ス

第一百四條 屋内ニ施設スル低壓電線ハ左ノ各號ニ依リ分岐シ且分岐點ニ近キ箇所ニ於テ各分岐回路ニ開閉器及自動遮斷器ヲ設置スルコトヲ要ス但シ特殊ノ事由アルモノハ所轄通信局長ノ認可ヲ受ケテ此ノ制限ニ依ラサルコトヲ得

一 白熱電燈用電線ハ一キロワット以下毎ニ分岐スルコト但シ一回路ノ承口ノ總數十五箇ヲ超過セサル場合ニ限リ此ノ制限ヲ三キロワットト爲スコトヲ得

二 白熱電燈ト家庭用電氣器具トニ併セ供給スル電線ハ三キロワット以下毎ニ分岐スルコト但シ一回路ノ承口ノ總數十五箇ヲ超過スル場合ハ白熱電燈ノ總ワット數ヲ一キロワット以下ト爲スコト

三 家庭用電氣器具其ノ他ノ屋内電氣機械器具用電線ハ三キロワット以下毎ニ分岐スルコト但シ一回路ノ承口ノ總數三箇ヲ超過セサル場合ニ限リ此ノ制限ヲ五キロワットト爲スコトヲ得

四 一箇ノ容量五キロワットヲ超過スル家庭用電氣器具其ノ他ノ屋内電氣機械器具用電線ハ各機械器具毎ニ分岐スルコト

前項ノ場合ニ於テ二箇以上ノ分岐回路ノ總ワット數カ前項第一號乃至第三號ノ制限ヲ超過セサルトキハ之等各回路ニ共同ノ開閉器及自動遮斷器ヲ使用スルコトヲ得

第一百六條 屋内ニ於テ低壓電線カ造管材ヲ貫通スル部分ニ於テハ金屬管工事ニ依ル場合ヲ除クノ外之ヲ碍管内ニ藏ムルコトヲ要ス但シ乾燥シタル場所ニ限リ工事已ムヲ得サルトキハ「ゴム」管又ハ「ゴムテープ」ヲ以テ碍管ニ代用スルコトヲ得(細第七十七條)

第一百七條 露出工事ニ依ル低壓屋内配線ハ左ノ各號ニ依リ施設スルコトヲ要ス

- 一 電線ハ第二種絶縁電線又ハ之ト同等以上ノ効力ヲ有スルモノヲ使用スルコト但シ工事ニ已ムヲ得サル場合ニ於テ人ノ觸ルル虞アル場所ニ施設スル電線ハ第三種絶縁電線又ハ之ト同等以上ノ効力ヲ有スルモノヲ使用スルコト
- 二 電線相互間ハ三種以上ヲ離隔スルコト
- 三 電線ト造管材トハ六耗以上ヲ離隔スルコト
- 第二百二十二條 屋内ニ施設スル低壓電線ト弱電流電線、水管、瓦斯管其ノ他ノ金屬體トハ十五種以上ノ距離ヲ保持スルコトヲ要ス但シ第三種地線工事ニ依リ接地シタル金屬管工事若ハ金屬線工事又ハ鍍裝電線ヲ用フル電線工事ニ依リ施設スル場合ハ此ノ限ニ在ラス
- 前項但書ノ場合ニ於テハ金屬管、金屬線又ハ電線ハ弱電流電線又ハ瓦斯管ニ直接接觸セサル様施設スルコトヲ要ス
- 碍子工事ニ依ル電線カ弱電流電線、水管、瓦斯管其ノ他ノ金屬體ト工事上已ムヲ得ス十五種以内ニ於テ交叉シ又ハ接近スルトキハ相互間ニ堅固ニ取付ケタル絶縁性ノ隔壁ヲ設ケ又ハ電線ヲ充分ナル長サノ碍管内ニ藏ムルコトヲ要ス
- 第二百二十三條 電球線又ハ移動シテ使用スル低壓電線 移動シテ使用スル家内電線ノ類ヲ謂ニハ其ノ施設場所又ハ使用方法ニ從ヒ左ニ掲グル電線又ハ之ト同等以上ノ効力ヲ有スルモノヲ使用スルコトヲ要ス
 - 一 乾燥シタル場所ニ施設スル場合
 - (イ) 電球線ニハ第二種可撓紐線ヲ使用スルコト但シ長サ床面ニ達セサル電線ニシテ移動セサルモノニ在リテハ第一種可撓紐線、長サ床面ニ二米以下ニ達セサルモノ又ハ電球ヲ移動セサル場合ノモノニ在リテハ一耗以上ノ第四種絶縁軟銅線ヲ使用スルコトヲ得
 - (ロ) 移動シテ使用スル電線ニハ第二種可撓紐線ヲ使用スルコト但シ

〔山梨管〕

〔山梨管〕

- 四 電球承口ニハ無鍵承口ヲ使用スルコト
- 第二百二十七條 腐蝕性瓦斯若ハ溶液ノ發散スル場所(細第八十六條)ニ施設スル低壓電氣工作物ハ瓦斯若ハ溶液ノ爲侵サレサル様適當ノ塗料ヲ施シ又ハ他ノ適當ナル豫防方法ヲ施スコトヲ要ス
- 絶縁物ヲ害スル瓦斯又ハ溶液ノ發散スル場所ニ於テ低壓電線ヲ使用スルトキハ展開シタル場所ニ於テ操業者ノ外人ノ容易ニ觸ルル虞ナキ様施設スルコトヲ要ス
- 第二百二十八條 爆發又ハ燃燒シ易キ危險ノ物質ヲ發生、製造又ハ貯藏スル場所(細第八十七條)ニ施設スル低壓電氣工作物ハ左ノ各號ニ依リ且危險ノ虞ナキ様適當ニ施設(細第八十八條)スルコトヲ要ス
 - 一 配線ハ金屬線種工事、金屬管工事又ハ鍍裝電線ヲ用フル電線工事ニ依リ施設スルコト
 - 二 移動シテ使用スル電線ハ之ヲ可撓金屬管ニ藏メ又ハ之ニ強韌ナル外裝ヲ施ス場合ヲ除クノ外之ト同等以上ノ効力ヲ有スル特殊ノ電線ヲ使用スルコト
 - 三 自動遮斷器、開閉器、點滅器、紐線接續器、抵抗器其ノ他火花ヲ發シ又ハ溫度過昇ノ虞アル器具ハ之ヲ場内ニ施設セサルコト但シ堅牢ナル氣密函又ハ油中ニ藏ムル如キ方法ニ依リ保安裝置ヲ施シタルモノハ此ノ限ニ在ラス
- 四 電球承口ニハ無鍵承口ヲ使用スルコト
- 第二百二十九條 火藥ヲ製造スル建物内ニ施設スル電氣工作物ハ通信大臣ノ認可ヲ受ケタル特殊ノ設計ニ依ルコトヲ要ス
- 第三百十條 興行場劇場、映畫館其ノ他之ニ類スルニ施設スル低壓電氣工作物ハ危險ノ虞ナキ様適當ニ施設スルコトヲ要ス(細第八十九條)
- 第三百十一條 屋内ニ使用スル家庭用電氣器具ハ適當ノ構造ノモノトシ且

- 輕小ナル家庭用電氣器具ニ取付ケル場合ニ限り第四種可撓紐線ヲ使用スルコトヲ得
- 二 濕氣アル場所(細第八十三條)ニ施設スル場合
 - (イ) 電球線ニハ第三種乙可撓紐線ヲ使用スルコト但シ長サ床面ニ達セサル電球線ニシテ移動セサルモノニ在リテハ第三種甲可撓紐線、長サ床面ニ二米以下ニ達セサルモノ又ハ電球ヲ移動セサル場合ノモノニ在リテハ一耗以上ノ第四種絶縁軟銅線ヲ使用スルコトヲ得
 - (ロ) 移動シテ使用スル電線ニハ第三種乙可撓紐線ヲ使用スルコト
- 第二百二十四條 電球線及移動シテ使用スル低壓電線ノ接續ハ危險ノ虞ナキ様適當ニ施設スルコトヲ要ス(細第八十一條)
- 第二百二十五條 濕氣アル場所(細第八十三條) 魚屋、八百屋等ノ水ヲ取扱フ土ニ施設スル低壓電氣工作物ハ左ノ各號ニ依リ施設スルコトヲ要ス
 - 一 碍子引工事ニ依ルトキハ第四種絶縁電線ヲ使用シ電線相互間六種以上、電線ト造管材トノ間三種以上ヲ離隔スルコト
 - 二 開閉器、自動遮斷器、電球承口、紐線接續器其ノ他ノ器具ニハ適當ナル防濕裝置ヲ施スコト
- 第二百二十六條 塵埃アル場所(細第八十四條)ニ施設スル低壓電氣工作物ハ左ノ各號ニ依リ且危險ノ虞ナキ様適當ニ施設(細第八十五條)スルコトヲ要ス
 - 一 配線ハ碍子引工事、金屬管工事又ハ電線工事ニ依ルコト
 - 二 碍子引工事ニ依ルトキハ第三種絶縁電線ヲ使用シ電線相互間六種以上、電線ト造管材トノ間三種以上ヲ離隔スルコト
 - 三 開閉器、自動遮斷器、電線吊其ノ他ノ器具ニハ適當ナル防塵裝置ヲ施スコト

- 危險ノ虞ナキ様適當ニ施設スルコトヲ要ス(細第九十條)
- 第三百二十二條 屋内ニ施設スル低壓電線ノ絶縁抵抗ハ第一百十三條ノ分岐回路ニ付左ノ各號ニ適合セシムルコトヲ要ス
 - 一 白熱電燈ノミニ供給スル場合
 - 電線相互間及全電線ヲ一括シタルモノト大地トノ間ノ絶縁抵抗ハ電球及附屬物ヲ含ミ電球承口一箇ニ付二メガオーム以上ナルコト
 - 興行場ノ舞臺、奈落、音樂室及映寫室ニ施設シタル低壓電線ノ絶縁抵抗ハ前項各號ノ數値ノ二倍以上ナルコトヲ要ス
 - 前二項ノ絶縁抵抗ハ興行場ニ於テハ毎年二回以上、其ノ他ノ場所ニ於テハ毎年一回以上試験シ其ノ成績ヲ記録スルコトヲ要ス但シ興行場、病院又ハ濕氣若ハ塵埃ノ充チ易キ箇所ヲ除クノ外線間ノ試験ヲ省略スルコトヲ得
- 第三節 隧道、坑道其ノ他之ニ類スル場所ノ工事
 - 第三百三十四條 人ノ常ニ通行スル隧道内ノ低壓電氣工作物ハ左ノ各號ニ依リ施設スルコトヲ要ス
 - 一 金屬管工事又ハ電線工事ニ依リ施設スル場合ヲ除クノ外電線ニハ一・六耗ノ第二種絶縁軟銅線又ハ之ト同等以上ノ強サ、太サ及効力ヲ有スルモノヲ使用シ碍子引工事ニ依リ路面上ニ二・五米以上ノ高さニ施設スルコト
 - 二 電線ニハ隧道引込口ニ於テ開閉器ヲ裝置スルコト
- 第三百三十六條 石炭坑ニ於テ爆發ヲ生スル程度ニ瓦斯又ハ炭塵ノ發生スル虞アル場所ノ電氣工作物ハ第二百二十八條ノ第一號ノ規定ニ準シ危險ノ虞ナキ様適當ニ施設スルコトヲ要ス
- 第三百三十七條 金屬管工事ニ用フル金屬管及電線ノ被覆ニ用フル金屬體ハ之ヲ第三種地線工事ニ依リ接地スルコトヲ要ス

第三百三十八條 電線又ハ移動シテ使用スル低壓電線ニハ左ニ掲グルモノヲ使用スルコトヲ要ス

一 電線ニハ第三種乙可撓電線ヲ使用スルコト但シ長キ路面ニ達セザル電線ニシテ移動セザルモノニ在リテハ第三種甲可撓電線、長サ路面上二米以下ニ達セザルモノニ在リテハ一耗以上ノ第四種電線軟銅線ヲ使用スルコトヲ得

二 移動シテ使用スル電線ニハ第三種乙可撓電線ヲ使用スルコト但シ著シク外傷ヲ受クル虞アル場合ハ之ヲ可撓金屬管ニ藏メ又ハ之ニ強靱ナル外装ヲ施ス場合ヲ除クノ外之ト同等以上ノ效力ヲ有スル特殊ノ電線ヲ使用スルコト

第四節 臨時工事

第四百一十一條 第四百一十二條乃至第四百一十四條ノ規定ニ依リ施設シタル電氣工作物ハ施設後一月ヲ限り使用スルコトヲ得但シ第四百一十三條ノ規定ニ依ル工事ニシテ第二種絕緣電線ヲ使用スヘキ場合ニ第三種絕緣電線、第三種絕緣電線ヲ使用スヘキ場合ニ第四種絕緣電線ヲ使用スルコトキハ施設後四月ヲ限り使用スルコトヲ得

短時日ヲ限り使用スル目的ヲ以テ臨時ニ施設スル電氣工作物ニ關シテハ通信大臣ノ認可ヲ受ケテ本令ニ規定スル施設制限ヲ輕減スルコトヲ得

第四百一十二條 屋内ノ乾燥シタル展開場所ニ臨時施設スル使用電壓二百五十ヴォルト以下ノ電線ハ電線相互間及電線ト造管材トノ間ヲ離隔セシメテ之ヲ施設スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テハ電線ニハ第三種絕緣電線又ハ之ト同等以上ノ效力ヲ有スル電線ヲ使用シテ電線ヲ損傷スル虞ナク且電球ト造花、飾幕其ノ他燃焼シ易キ物ニ接觸セザル様施設スルコトヲ要ス

第四百一十三條 使用電壓百五十ヴォルト以下ノ電線ヲ軒下其ノ他家屋ノ外

〔山梨縣〕

〔山梨縣〕

第四百一十四條 樹木、裝飾塔、綠門其ノ他之ニ類スルモノニ使用電壓百五十ヴォルト以下ノ電線ヲ臨時施設スル場合ニ於テハ第四種絕緣電線ヲ使用シ電線相互間及電線ト之ヲ取付ケタルモノトノ間ヲ離隔セシメテ施設スルコトヲ得但シ樹木ノ如キ動搖ノ爲電線ヲ損傷スル虞アルモノニ取付ケタル場合ニ於テハ其ノ損傷ヲ防止スル爲適當ノ施設ヲ爲スコトヲ要ス

前項ノ電線ノ絕緣抵抗ハ第二百一十二條第二項ノ規定ニ適合セシムルコトヲ要ス

第四百一十五條 臨時工事ヲ施設シタルトキハ其ノ使用開始前ニ電線ノ絕緣抵抗ヲ測定シ其ノ成績ヲ記録スルコトヲ要ス

前項ノ記録書類ノ保存期間ハ第七條ノ規定ニ拘ラス之ヲ一年間トス

第四章 電氣鐵道

第一節 通則

第四百一十六條 電線ニ使用スル電壓ハ直流低壓トス但シ專用敷地内ニ施設スル電氣鐵道ノ電線ニ限リ直流高壓ヲ使用スルコトヲ得

特殊ノ設計ニ依ル場合ハ通信大臣ノ認可ヲ受ケテ前項ノ制限ニ依ラサルコトヲ得

第四百一十七條 直流單線式電氣鐵道用架空電線路力架空弱電流電線路單線式電線路ト並行スル場合ニ於テハ誘導作用ニ因ル通信上ノ障害ヲ及ボサザル様電線相互間ノ距離ヲ四米以上離隔スルコトヲ要ス但シ弱電流電線路ノ管理者ノ承諾ヲ得タルトキハ此ノ距離ヲ六十種迄ニ短縮スルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ施設スルモ猶既設架空弱電流電線路單線式電話ニ對シ障害ヲ及ボス虞アルトキハ更ニ之ヲ除却スヘキ様適當ニ施設スルコトヲ要ス

第二節 電車線路及第三軌條

第四百一十九條 道路ニ施設スル電車線ハ市街地ニ在リテハ一杆以下每市街

面ニ沿ヒ臨時施設スル場合ニ於テハ左記各號ニ依ルコトヲ要ス

一 電線ニハ一・六耗ノ軟銅線又ハ之ト同等以上ノ強サ及太サヲ有スルモノヲ使用シ得子引工事ニ依リ施設スル場合ハ電線相互間及電線ト造管材トノ間ヲ左ノ區別ニ依リ離隔スルコト

電線ノ種類

(イ) 第二種絕緣電線

(ロ) 第三種絕緣電線

第四種絕緣電線ヲ兩露ニ曝露セシメ且外物ノ爲損傷スル虞ナキ様適當ニ施設スル場合ハ電線相互間及電線ト造管材トノ間ヲ離隔セシメテ施設スルコトヲ得

二 工事已ムヲ得サル場合ヲ除クノ外電線ヲ造管材ノ側面又ハ下面ニ取付ケ且支持點間ノ距離ヲ一米以下ト爲スコト但シ二耗ノ硬銅線又ハ之ト同等以上ノ強サ及太サヲ有スルモノヲ使用シ且電線ト造管材トカ接觸ノ虞ナキ様充分離隔スル場合ニ限リ電線支持點間ノ距離ヲ一米以上ト爲スコトヲ得

三 開閉器、自動遮斷器其ノ他之ニ類スル器具ハ屋内ニ裝置シ又ハ適當ナル防濕裝置ヲ施スコト

四 家屋ノ外面ニ於ケル電氣使用ヲ目的トシテ施設スル電路ハ工事已ムヲ得サルモノヲ除クノ外一キロワット以下毎ニ分岐シ且分岐點ニ近キ箇所ニ於テ各分岐回路毎ニ各極ニ開閉器及自動遮斷器ヲ裝置スルコト

五 前號ノ開閉器及自動遮斷器ハ専用ノモノトシ屋内電路用ノモノト兼用セザルコト

六 電球承口其ノ他ノ承口ニハ陶器又ハ絕緣性耐火質物ヲ以テ製作シタル防水型ノモノヲ使用スルコト

地外ニ在リテハ適當ノ長サニ之ヲ區別シ且各區別部分ニ對シテ送電ヲ獨立ニ遮斷シ得ル施設ヲ爲スコトヲ要ス但シ市街地ニ在リテハ土地ノ狀況ニ依リ所轄通信局長ノ認可ヲ受ケテ此ノ制限ニ依ラサルコトヲ得

第四百一十一條 電車線路ノ支持物ニハ事業者名又ハ略稱、支持物番號及建設年月ヲ表示スルコトヲ要ス但シ電氣鐵道ノ專用敷地内ニ建設スルモノハ此ノ限ニ在ラス

第四百一十三條 高壓電車線ハ「カタナリ」式ニ依リテ架設シ其ノ垂吊子ノ間隔ヲ四・五米以下ニ保持スルコトヲ要ス但シ隧道内、橋梁ノ下部其ノ他之ニ類スル場所ニ施設スルモノハ此ノ限ニ在ラス

第四百一十四條 電車線ノ軌條面上ノ高サハ五米以上トス但シ隧道内橋梁ノ下部其ノ他之ニ類スル場所ニ施設スルモノハ工事已ムヲ得サル場合ニ限リ三・五米迄ニ短縮スルコトヲ得

第三節 歸線

第四百一十一條 歸線

第四百一十三條 歸線

架空單線式若ハ第三軌條式電氣鐵道ノ軌條又ハハ軌條其ノ軌條ニ接続スル電線ヲ謂フ以下之ニ同シ

間及軌條ノ外側三十種以内ニ敷設スル部分ヲ除クノ外總テ之ヲ大地ヨリ絕緣スルコトヲ要ス但シ土地ノ狀況ニ依リ通信大臣ノ認可ヲ受ケテ此ノ制限ニ依ラサルコトヲ得

第四百一十三條 歸線タル軌條ハ熔接接目板ノ熔ニ依ル場合ヲ除クノ外適當ナル「ボンド」ヲ以テ電氣的接続ヲ爲スコトヲ要ス

特殊ノ事由アル場合ハ通信大臣ノ認可ヲ受ケテ前項ノ規定ニ依ラサルコトヲ得

第四百一十七條 歸線ハ其ノ不絕緣部分及之ト大地トノ間ニ生スル最大電位ノ差ニ依リ踏切其ノ他公衆ノ通行スル場所ニ於テ人畜ニ危險ヲ及ボス虞アルトキハ之ヲ防止スル爲適當ナル施設(細第九十八條)ヲ爲スコトヲ要ス